蝴蝶网
hudie.com

the GazettE ムック シド ナイトメア Alice Nine SuG ViViD

平成9年12月5日第三郵便物認可平成22年11月1日発行第213号(毎月1回1日

SHOXX

11月号 Vol.213
2010 月刊 1250YEN

創刊20周年記念特別号

特別付録 3大特典!!!
特大ポスター5枚付き
the GazettE/ムック
シン(ViViD)/零乃·怜我(ViViD)
イヴ·Ko-ki(ViViD)
特別付録:ムックブック封

応募者全員サービス
ご希望のフォトカードをサービス

the GazettE

Special Front 18Pages Edition

the GazettE
ムック
シド
ナイトメア
Alice Nine
Plastic Tree
Kagrra,
Versailles
LM.C
SuG
ViViD
heidi.
ギルガメッシュ
ヴィドール
ドレミ團
THE KIDDIE

SHOXX Start 20th Anniversa

蝴蝶网 hudie.com

011年1月6日(木) 赤坂BLITZ

AYABIE OFFICIAL WEBSITE http://www.D-N-L.jp/

TOTAL INFORMATION：DNLco.,ltd. 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-3-8-604/E-MAIL：ayabie@D-N-L.jp

AYABIE

蝴蝶网
hudie.com

AYABIE tour'10～

2010年11月30日(火) 高田馬場AREA
2010年12月1日(水) 横浜F.A.D
2010年12月3日(金) 札幌KRAPS HALL
2010年12月5日(日) 仙台darwin
2010年12月22日(水) 金沢AZ
2010年12月24日(金) 名古屋E.L.I
2010年12月25日(土) 大阪AKASO
2010年12月27日(月) 博多DRUM
2010年12月29日(水) 高松DIME
2010年12月30日(木) 岡山IMAGE

単独巡業 狂瀾怒濤

7日(日)高田馬場クラブフェイズ
2日(金)神戸 太陽と虎
6日(火)福岡ドラムサン
8日(木)大阪ミューズ
1日(日)名古屋 ELL.FITS ALL
1日(月)浜松フォース
8日(月)札幌クラップスホール
9日(火)札幌クラップスホール
2日(金)仙台フック
4日(日)RED PIG(旧:新潟 CLUB JUNK BOX)
6日(火)金沢 AZ
9日(金)宇都宮 VJ-2
1日(日)柏パルーザ
3日(火・祝)浦和ナルシス

の全公演各種プレイガイドにて9月4日(土)～販売開始!
バンド予約はありません。開場 18:30/開演 19:00 前売り¥3,500- /当日¥4,000-(drink 代別)

瀾 怒 濤 千秋楽公演

10.12.03(金)
渋谷O-EAST
者全員に「己龍裏DVD 其ノ六」を無料配布
17:30/18:30【前売/当日】¥3,800/¥4,300
売日】2010年10月16日(土)～
コード:79720)●ﾁｹｯﾄぴあ(Pコード:114-308) ●e+(http://eplus.jp)

hudie.com

●ニューマキシシングル

【Aタイプ】 初回限定盤 ¥1,890 CD2曲+DVD1曲 DVD収録曲/①「屡流」PV+ ②屡流PVメイキング ●3タイプ購入特典用 応募用ハガキ
【Bタイプ】 初回限定盤 ¥1,890 CD2曲+DVD1曲 DVD収録曲/①「花魁譚」PV ②花魁譚PVメイキング ●3タイプ購入特典用 応募券B
【Cタイプ】 通常盤 ¥1,575 CD3曲入収録曲/①屡流 ②絶ヲ望ム ③死人花(ボーナストラック) ●3タイプ購入特典用 応募券C
★トレーディングカード2枚(全10種)
★トリプル購入応募者全員に八大都市単独巡業「狂華乱舞」のツアーパンフレット(サイン入り)プレゼント

●「屡流」対象インストアイベント日程

10月27日(水) SKULL ROSE → 10月29日(金) ライカエジソン大阪店 → 10月30日(土) ライカエジソン名古屋店 →
11月2日(火) 浜松 Ash-LD50 → 11月3日(水・祝) ライカエジソン東京店 → 11月7日(日) GURUGURU(マルチスペースエフ) →
11月11日(木) リトルハーツ → 11月13日(土) リスキードラッグストア → 11月17日(水)名古屋 HMV 栄店 →
11月20日(土) 自主盤倶楽部 → 11月25日(木) タワーレコード新宿店 → 11月27日(土) ジールリンク渋谷店 →
11月28日(日) ブランドエックス。

イベント出演日程

09月23日 高田馬場エリア ⇒ 09月25日 高田馬場エリア ⇒ 10月02日 渋谷ボックス ⇒
10月08日 梅田 AKASO ⇒ 10月09日 名古屋ボトムライン ⇒ 10月24日 服部緑地野外音楽堂

■ファンレターの宛先 〒274-0825 千葉県船橋市前原西4-1-14-303 株式会社 ビーフォレスト内B.P RECORDS 己龍 ○○○○宛
■公式マイスペース http://www.myspace.com/kiryumyspace/ ■バンド予約メールアドレス】live-info@kiryu-web.net
■ローディーの募集 18歳以上の男子(要普通免許) 詳しくはinfo@kiryu-web.netまでお問い合わせ下さい。

2010年12月22日メジャーデビュー決定！

ヘヴィーメタル／ハードロックを基礎とし、よりハードに、よりメロディアスに、よりシンフォニックに紡ぎだされるサウンド。
脈々と続く世界に誇る日本のヴィジュアル系ロックの伝統を受け継いだ、これぞ『王道』のサウンド！

プロデューサーにB' zやSIAM SHADE、Janne Da Arc、Plastic Treeなど多くのバンドの音楽制作に関わっている巨匠"明石昌夫"氏を迎え制作！

Debut Mini Album「Abyss」

初回限定盤は完全予約受注生産!! メンバー監修、このCDの為だけのオリジナルデザインT-Shirts付き!!
絶賛予約受付中!!! 予約締切は10月24日まで！完全予約受注生産の為、必ずご予約お願い致します。

| 初回限定盤 | 7曲入りミニアルバム＋オリジナルT-Shirts（SIZE / MEN'S S）¥4,500(tax incl.) KICS-91626 | 通常盤 | 7曲入りミニアルバム＋DVD（リード曲PV＋オフショット収録予定）¥2,500(tax incl.) KIZC

Information : KING RECORDS 03-3945-2111

【MEMBER】Vocal: 苑 Guitar: Anzi Bass: 燿 Drums: 悠 Keyboards: 彩雨

OFFICIAL WEBSITEがリニューアル！
さらにOFFICIAL FAN CLUBがスタート！！メンバーtwitterも絶賛つぶやき中！

インディーズでの活動を終えたばかりの摩天楼オペラから大切なお知らせです。２０１０年８月３１日より摩天楼オペラ公式WEBサイトがリニューアルされ、ついにOFFICIAL FAN CLUB『CLUB摩天楼』もスタートします！メンバーの彩雨と燿もツイッターを始めました。フォローなう！

twitter：彩雨 opera_ayame / 燿 opera_yo

公式サイト、OFFICIAL FAN CLUBの詳細は右記アドレスかQRコードで。PCでも携帯からでもアクセスできます。 http://www.matenrou-opera.jp/

Information : info@matenrou-opera.jp

蝴蝶网
hudie.com

ジャーデビューアルバム。

heidi. | 閃光メロウ

2010.10.6 Release

定盤A GNCL-1234 ¥3,675(税込)
「heidi.の"それは出来ないよ!!"
い〜じ編/埼玉のおもしろスポットを満喫編)」

初回限定盤B GNCL-1235 ¥3,675(税込)
特典DVD:「heidi.の"それは出来ないよ!!"
(うまい棒編/未公開映像編)」

通常盤 GNCL-1236 ¥3,150(税込)
ボーナストラック収録

heidi. LiveTour 2010 −閃光メロウ−

10.19(火) 千葉LOOK ※モバイルサイト会員限定
10.23(土) HEAVEN'S ROCKさいたま新都心VJ-3
10.24(日) 横浜BAYSIS
10.31(日) 仙台HOOK
11.3(水・祝) 札幌KRAPS HALL
11.7(日) 新潟CLUB JUNK BOX
11.12(金) 高崎club FLEEZ
11.13(土) 宇都宮LIVEHOUSE KENT
11.20(土) 福岡DRUM BE-1
11.26(金) 京都MUSE
11.27(土) 岡山表町LIVEHOUSE IMAGE
11.28(日) 浜松FORCE

ツアーファイナル「大阪の情と」
12.4(土) 梅田AKASO

ツアーファイナル「名古屋の熱と」
12.5(日) 名古屋Electric Lady Land

ツアーファイナル「東京の心」
12.10(金) LIQUIDROOM

蝴蝶网
hudie.com

2nd FULL ALBUM
2010.11.10(Wed)Release!!
「Rouge」
【初回限定盤】CD+DVD(「LEAD」MUSIC CLIP)／11曲入／BLCR-0001～0002
【通常盤】CD／13曲入／3,150(税込)／BLCR-0003
【発売元】LOOP ASH RECORDS 【販売元】Bellwood Records
初のBEST ALBUM
2010.12.1(Wed)Release
「BEST」
2006-2010
CD／11曲入／¥2,800(税込)／LPO-018
【発売元】LOOP ASH RECORDS
Aki
Tama
Nao
Zukki
LOOP ASH PRESENTS -OZ- AUTUMN ONEMAN
2010.10.31(Sun) 新潟BLACK PIG
(旧 JUNK BOX -mini-)
「A FACT OF LIFE」~Halloween party 2010~
開場17:00／開演17:30 前売¥3,150／当日¥3,600(D代別)
【チケット】発売中! LAWSON TICKET(Lコード:76242)/RISKY DRUG STORE/RISKY web (問)リスキー/TEL:025-243-0799
※11月発売、2nd FULL ALBUM「Rouge」先行発売!!
※LIVE終了後、会場にてアフターパーティーを行います。チケットお持ちの方全員、ご参加いただけます。
※アフターパーティーの終了時間が遅くなりますので、お時間に余裕をもってご参加ください。
LOOP ASH PRESENTS STANDING ONEMAN TOUR'10
12.08(Wed) 金沢VANVAN V4
12.10(Fri) 大阪CLAPPER
12.23(Thu) 新潟RIVERST
-TOUR FINAL-「A FACT OF LIFE」~Force Estate~
開場18:00／開演18:30 前売券¥3,675(D別)
2010.12.28(Tue) 渋谷O-WEST
■受付期間 2010.8.16(月) 19:00～2010.10.18(月) 23:00 ※規定枚数になり次第終了致します。
■受付について ・お申込みはディスクガレージ インターネットチケット販売サイト「GET TICKET」をご利用頂きます。
・初めてご利用の方は、「GET TICKET」への会員登録(無料)が必要です。・その他詳しくはお申込みページにてご確認下さい。
※ディスクガレージおよび「GET TICKET」ホームページからはお申込みできません。必ず上記申込ページURLよりアクセスして下さい。
■お申込後の住所変更・申込内容確認 (PC)http://www.getticket.jp/touroku/confirm.html (携帯)http://k.getticket.jp/cs/u01.php
コチラ!!
【受付に関するお問合せ先】ディスクガレージ/TEL:03-5436-9600
◆Total Information◆
〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-7 目栄ビル3F 有限会社LOOP ASH
-OZ-ホームページアドレス http://www.trritory-oz.com
蝴蝶网
hudie.com

hudie.com

ンマンLIVE「青空ROCKET」11月27日(土) 渋谷 WOMB

開場 17:00 / 開演 17:30　前売：2,800 円 (D代別)

各プレイガイドにてチケット発売中！

ーソンチケット 0570-084-003(L コード：77369)　チケットぴあ 0570-02-9999(P コード：113-605) イープラス http://eplus.jp　ライカエジソン東京店 03-3369-3708　(問)フリップサイド　03-3466-1100

イベント「犬小屋#4～ハロウィン特別編～」10月22日(金)高田馬場 AREA

: DOG inTheパラレルワールドオーケストラ / Blu-BiLLioN / "春セッション" / "準々セッション" / "ミズキセッション" / "メイセッション" / 他

開場 16:00 / 開演 16:30　前売：3,500 円 / 当日 4,000 円 (D代別)

各プレイガイドにてチケット発売中！

ローソンチケット 0570-084-003　チケットぴあ 0570-02-9999　イープラス　http://eplus.jp　(問)フリップサイド　03-3466-1100

詳細は OFFICIAL WEBSITE まで

OFFICIAL SITE
http://www.inu-para.com/

hedule

(木) 高田馬場 AREA
(金) OSAKA MUSE
(日) HOLIDAY NAGOYA
(水) 恵比寿 LIQUIDROOM

InstoreEvent

「青空晴レーション」購入対象
10月 8日(金) ブランドエックス

「POCKET★ROCKET」購入対象
10月 20日(水) ライカエジソン東京店
10月 20日(水) 自主盤倶楽部
10月 23日(土) ライカエジソン東京店
10月 31日(日) ブランドエックス

「青空晴レーション」「POCKET★ROCKET」W 購入対象
10月 24日(日) ライカエジソン大阪店
10月 24日(日) ライカエジソン名古屋店
11月 3 日(水・祝) Like an Edison.com ラフォーレ原宿

hudie.com
DOG inThePWO
パラレルワールドオーケス
2ヶ月連続リリース！
NOW ON SALE 4th Single
「青空睛レーション」
【初回盤】CD＋DVD RSCD-018/019 ¥1,890(tax in)
[CD] 01.青空ハレーション 02.コラン - 新約 : 聖典 - [DVD] 青空ハレーション Music Clip
【通常盤】CD のみ RSCD-020 ¥1,260(tax in)
[CD] 01.青空ハレーション 02.コラン - 新約 : 聖典 - 03.Wata 雲 Rex
発売元：Resistar Records
10月20日リリース 5th Sin
「POCKET★ROCKET」
【初回盤】CD＋DVD RSCD-021/022 ¥1,890(tax in)
[CD] 01. POCKET ROCKET 02. AlarM7096 [DVD] POCKET ROCKET Music Clip
【通常盤】CD のみ RSCD-023 ¥1,260(tax in)
[CD] 01. POCKET ROCKET 02. AlarM7096 03. StyleLover-Rubber:Style-
発売元：Resistar Record
『青空睛レーション』と『POCKET★ROCKET』を持ってワンマンライブに行こう！
ワンマンライブ「青空 ROCKET」のご入場時に『青空睛レーション（初回盤）』の CD を提示頂くと
「青空ハレーション」と「コラン - 新約：聖典 -」の Live Clip とコメント映像を収録した「青空 DISK」をプレゼント !!
さらに！
『POCKET★ROCKET（初回盤）』の CD を提示頂くと
「POCKET ROCKET」と「StyleLover-Rubber:Style-」の Live Clip とコメント映像を収録した「ROCKET DISK」をプレゼント !!

蝴蝶网
hudie.com

t SINGLE 2010.10.20 RELEASE

「Count Down」

【初回盤】(CD＋DVD) RSCD-024/025 ¥1,890 (tax in)
［CD］1. Count Down 2. Love Addict ［DVD］Count Down (Music Clip)

【通常盤】(CD) RSCD-026 ¥1,260 (tax in)
［CD］1. Count Down 2. Love Addict 3. Blue × Blue

【LIVE】

10月22日(金) 高田馬場 AREA
(問) フリップサイド 03-3466-1100

11月18日(木) 高田馬場 AREA
(問) 高田馬場 AREA 03-3361-1069

OFFICIAL SITE
http://blu-billion.jp/

RESISTAR RECORDS

蝴蝶网
hudie.com

Blu-BiLLioN

Vo：ミケ　Gt：龍耶　Gt：mag　Ba：珀　Key：teru　Dr：Seika

CONTENTS

088 **lynch.** リンチ
090 **Sadie** サディ
092 **DOG in The パラレルワールドオーケストラ** ドッグ・インザパラレルワールドオーケストラ
094 **アンド**
096 **TOON-FACTORY** トゥーン・ファクトリー
098 **凛** リン
100 **X JAPAN** エックスジャパン
104 **摩天楼オペラ** マテンロウオペラ
108 **ゾロ**
146 **Waive** ウェイヴ
148 **BORN** ボーン
150 **DuelJewel** デュエルジュエル
151 **Wizard** ウィザード
152 **spiv states** スピッブ ステイツ
153 **ν〔NEU〕** ニュー
154 **Lycaon** リカオン
155 **amber gris** アンバーグリス
102 **犬神サーカス団** イヌガミサーカスダン
106 **イロクイ。**
110 **おつかれサマー**
112 **JACK IN THE BOX 2010 SUMMER** ジャック・イン・ザ・ボックス

115 **SCUBER DIVE 2010** スキューバ・ダイブ
118 **SHOCK WAVEアポロ**
120 **SHOXX MODE**
厳選してお届けする最新情報!!
ケミカルピクチャーズ
ギャロ
Arc アーク
Jack Rose ジャックローズ
125 ぽっくんの早耳情報
128 エクスペクトラッシュ
リバティーン
Vallquar -ワルキューレ-
153 究極のコンピ『原点』
131 ぽっくんの主張
134 アーティストBOX
140 Mission in ぽっくん
144 プレコン WORLD
143 大島暁美のロックン-ロール日記

>> マークの説明 <<

●マークがついているアーティストは
携帯サイト「音楽せんか?」とリンクしています。

■アクセス方法

>>i-mode「メニューリスト」→「音楽/映画/芸能」→「音楽情報」→「音楽せんか?」
>>EZweb「トップメニュー」→「カテゴリーで探す」→「エンターテイメント」→「音楽」→「音楽せんか?」
>>vodafone「メニューリスト」→「芸能・映画・音楽」→「映画・音楽」→「音楽」→「音楽せんか?」

Editorial in chief/Kuniaki"B"Suzuki
Editors/Misako Shida,Junko Arasawa

Art Director/Noriaki Ishimatsu
(Keisyo Office)
Design Stuff/Yoichirou Fujii,
Maki Yoshikawa,Hitomi Ikeuchi(Bakery37.1),
Nakane(amulet label),
Yukako Takayama,Noriaki Ishimatsu,
Youki Maenohama,T.O.MAMMOTH graphics,
Kyoko Yasunaga(zoisite),
Asaka Yamamoto(glitter glow),
Yuji Kawajiri

VISUAL&HARD SHOCK MAGAZINE
Vol.214は2010年10月21日(木)発売
http://www.ongakusenkasha.co.jp

発行所/株式会社音楽専科社
104-8228東京都中央区銀座6-2-3Daiwa銀座アネックス5F
TEL/03-3574-0201(代表)
発行人/荒井敏行
編集人/鈴木邦昭
製版・印刷/株式会社プロスト/凸版印刷株式会社
発行日/2010年11月1日
特別定価/1250円 本体1190円

hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

SHOXX

SHOXX創刊20
記念特大号
2010
11月号
Nov Vol.2
Cover Model:the Gazett
Photo:Susumu Miyawaki(PROGR
Design:Noriaki Ishimatsu(Keisyo

014 **the GazettE** ガゼット
Part1:"The Red String of Fate"
Part2:最新アイテム『Red』を紐解く!!
パーソナルインタビュー

スペシャルブック イン ブック
ムック
『カルマ』の輪の中で──

036 **シド**
マオの真骨頂『cosmetic』リリース!!

040 **Plastic Tree** プラスティック トゥリー
月に照らされた3度目の武道館公演詳報

043 **ナイトメア**
貫禄の日本武道館公演レポート

046 **Kagrra,** カグラ
9月3日・渋谷duo速報

049 **Alice Nine** アリスナイン
㊗6周年記念LIVEレポート

052 **LM.C** エル・エム・シー
054 **SuG** サグ
057 **イガグリ千葉(仙台貨** イガグリチバ センダイカモツ
060 **heidi.** ハイジ
063 **ViViD** ヴィヴィット
067 **ギルガメッシュ**
070 **ヴィドール**
073 **ドレミ團** ドレミダン
077 **THE KIDDIE** キディー
080 **Versailles** ヴェルサイユ
082 **AYABIE** アヤビエ
084 **Mix Speaker's,In** ミックス・スピーカーズ・インク
086 **12012** イチニーゼロイチニ

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

抱きしめて
嘘をしっていたのに
溺れる心隠せない

ツアー「NAMELESS LIBERTY SIX BULLETS 」の前半戦である[01]と
後半戦の[02]の合間である9月22日にシングル『Red』をリリースするthe GazettE。
前作の『SHIVER』の流れを汲んだ疾走感溢れる作品ではあるが、
より湿度の高い楽曲に仕上がっている。
このカップリングを含めた最新アイテムである3つのチューンを
今回はパーソナルインタビューという形でメンバー個々にじっくり訊いた。

Photograpy:SUSUMU MIYAWAKI（PROGRESS M）
Hair Make-up:YORIKO MATSUDA,ASAMI YAMADA（PS COMPANY）
Interview:YUKI SUGIE

蝴蝶网
hudie.com

Latest Interview

ルキ

——ツアー［NAMELESS LIBERTY SIX BULLETS -01-］の最中、四国でウイルス性の声帯浮腫を発症してしまったとのことですが、その後のお加減はいかがですか？

「とりあえず、何とか。まぁ、咳は相変わらず出ちゃいますけど」

——ルキくんは、ツアーの皮切りとなった武道館のステージ上で「ここからラストに向かってボロボロになりながらも、突っ走って行きたいと思ってます」と言っていましたけれど…ある意味、あの言葉が現実になってしまいましたね。

「高知の前までは、ほんとずっと上り調子で来てたんですけど。その日の朝も全然普通だったのに、アンコールで突然ブッツリ行っちゃいました」

——今回のツアーは、合間や前後に制作活動もはさんでのスケジュールになっていますし、ルキくんが自覚しているよりも、身体には負担が掛かっていたのかもしれません。

「もともと俺、昔からポリープは持ってるんですよ。一応、それは別に悪いだけのもんっていうわけでもなくて、今のこの声質にも凄い関係してるんですね」

——確かにポリープ自体は良性で、ヴォーカリストにとっては、いわばペンだこのようなものですものね。

「そうそう。ポリープとここの声帯が合わさることで、今の声が出てるわけです。だから、このポリープを取っちゃうと、声質が変わっちゃうっていう。そういう意味では、前からリスクをずっと背負ってたとこはありました」

——なるほど。

「簡単に言うと、ポリープは声帯の表面に出来てるもんなんですね。今回の場合は、その奥の本来腫れちゃいけないとこが過労とウイルスのせいで腫れちゃった、っていうことみたいです。でも、発症してすぐ、薬を使って基本的な炎症自体は抑えられたし、腫れがある程度おさまってからは［NAMELESS ～ -01-］も後半は最後までやって来てたし、今もこうして次のシングルのプリプロもやってるんで、大丈夫っすよ（笑）」

——ルキくんはタフですね。もちろん、喉そのものも心配ではあったのですが、何より危惧していたのはメンタル面のことでしたから。あまり落ち込んではいなさそうで、少し安心しました。

「さすがに、なったその時には多少ヘコみましたよ（苦笑）。でも、ヘコんでてもな～っていうのもあったし、何よりファンの皆に謝んなきゃっていうのもあったから、まずはそっちの方が気になってましたね。特に、精神が病むとかそういうのは無かったです」

——それは不幸中の幸いでした。ちなみに、今後のスケジュールを踏まえた上での治療方針については、現在お医者様とどんなお話をされているのです？

「歌ってる以上は喉を使わないわけには行かないんで、完全な意味での根治っていうのは無いらしいんですよ。だから、後はうまいこと〝付きあってく〟しかないんっすよね。今は、その為に漢方飲んだり、鍼打ったりしながら、出来るだけ負担をかけ過ぎない方法っていうのを、日々模索してるとこです」

——そうした中、今回9月22日にはレーベル移籍後の第2弾シングルとなる『Red』が世に出ます。聴いてみた印象から察するに、これは『SHIVER』の延長線上に作られたもののようですね。

「うん、そうなんっすよ。何時もはシングル出すってなると、前とは真逆な方向に行くことが多いんですけど（笑）、今回は『SHIVER』で提示したとこからブレずに、さらにtheGazettEのイメージを〝こっちの方向〟で強めたかったんです」

——やはり、そういうことでしたか。

「まぁ、他にもやりたいことはいろいろあるんっすよ。でも、それはまた別の機会でもやれることだし、今は何より自分らが一番気に入ってるこの音楽のスタイルをもっと貫くべきだろう、っていう考えの方が強かったんです」

——と同時に、この表題曲「Red」には「SHIVER」とは明らかに違う要素も入っていますよね。

「あー、そこもやっぱり意識はしてました。「SHIVER」は正統派というか、けっこう綺麗に作ったから、「Red」はそれよりもうちょっと切なくてドロッとした雰囲気も入れたくて、その中でバンドのノリを出すっていうのがひとつのテーマでしたね」

——では、そんな「Red」の歌詞の内容については、これはどんな風に練って行ったものだったのでしょう。モチーフとなっているのは、俗に言う〝赤い糸〟なるもののようですが。

「なんか、皮肉なとこがあるんですよ。この詞の主人公は夢見がちな上に、運命とか迷信も信じちゃうような女の人で、目に見えないはずのものに縛られちゃってる、っていう」

——まさに、糸だけに。

「まぁ、別に糸じゃなくて指輪でも良かったんですけど（笑）。ただ、この赤い糸っていう言葉自体は意外と良く使われてる言葉だったりするんで、その使い古された感じが逆に良かったみたいな」

——つまり、ルキくん自身はいわゆる〝赤い糸〟というものについては、懐疑的なのですね？

「なんか、赤い糸ってそもそもどっから来た話なのかな？って思うし、何をどう信じるかって微妙じゃないですか。不思議な話だなとは思うけど、自分自身でそれを信じちゃうっていうのは、少なくとも今は無いですね。むしろ、そういうものを盲目的に信じちゃうっていうことの方に、奇妙さを感じちゃう。だって、仮にそんなこといきなり目の前で言われたらねぇ～。間違いなく、寒イボ立っちゃいそう（笑）」

——リアルに素で言われたら、そこは怖いかもしれません（笑）

「でしょ？」

——そう思うと、これって実に残酷な内容ですよね。主人公に対して、どこか憐憫の情さえ感じてしまいますよ。

「その憐れさっていうのは、確かに大きいかな。何かに対して気持ちが行き過ぎちゃった時に、人が泥沼みたいなループにハマっちゃうことはきっとよくあって、人事として考えれば「絶対こうはなりたくないな」って思いつつ、実はそういう場面にこそ、皆グッと来ちゃうはずなんですよね。しかも、その話がドロッとしてればしてるほど惹かれちゃうっていう。日本人って、そういうとこの湿度は高い民族だと思うし」

——それって、〝人の不幸は蜜の味〟という言葉に近い構図の話なんですかね。

「そういうことだと思います、俺は」

——それにしても、シングルのタイトル曲で、ルキくんがここまであからさまに恋愛模様を描いたというのが、受け手としては感慨深いです。

「いやでも、昔ほどそのへんは抵抗無いっていうか、今の気分的には深さのある生々しいラヴソングだったら、進んで書きたいくらい」

——あら。そういうことを言うと、ファンの方々の誤解を招く可能性が（笑）

「そんなのは勝手に誤解でもなんでも、してくれて結構です。あ、でもされて困る誤解っていうのもあるな。こういう恋愛系なんかはまだ良いんっすけど、俺が、ちょっと攻撃的な詞を書いた場合に、すぐ事務所やメーカーを攻撃してるとか思われるのは、ちょっと。場合によっちゃ、先輩にあたる某バンドを批判してるとか、一体どっからそういう話になるんだか（苦笑）」

——となりますと。今回のカップリング曲「VERMIN」の歌詞も、かなり攻撃的な内容ですよね。ここは少し、解説をしておいた方が宜しいのでは？

「これはねぇ、今までの「LEECH」、「HEADACHE MAN」と続いてきた一連の出来事を描いた詞です。個々に出て来る人物は違うんですけど、3人の問題となるヤツがいたってことですね（笑）。っても、そんなシリアスに攻撃してるわけじゃなくて、あくまでネタなんですよ。曲自体も軽めのテイストだしね」

——では、今回もう一曲のカップリングである「AN UNBEARABLE FACT」の詞については、いかがでしょう。

「こっちは純粋に、曲を聴いた時の印象から物語を作って行ったパターンでした。テーマ的には、家族の在り方が変化してった時に起こる、本当なら見たくなかった現実とか状況を描いた感じ」

——今回の3曲は、それぞれに違った役割を持ちながら、今後［NAMELESS ～ -02-］の中でも存在感を増して行くことになりそうですね。

「いろんな意味で、次のツアーも限界まで行きたいっすね。演出とかセットの面でも今までにないことをやって行きたいし、振替になる5本のライヴも含めて、今度はきっちり乗り切ります」

この詞の主人公は夢見がちで運命とか迷信も信じちゃうような女の子。

ルキという人は、我々が思っている以上に強靭な精神力を持っていたようである。本来的には深刻な出来事を、時に淡々と、時に笑いさえまじえながら話すその姿。そこに悲壮感の類いが滲むことは、一切無かった。今回のシングル『Red』を出した後には、［NAMELESS LIBERTY SIX BULLETS -02-］が控えている中、もはや彼の意識は"あの場所"を確実にロックオンしているのだろう。

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

Latest Interview

麗

——先月号のインタビュー時、麗くんは「今回は50曲以上の候補曲を用意しつつ、その日によって違うセットリストを組みながらやってるせいか、飽きないし、飽きさせないツアーになってる」と発言していましたよね。その後も、ツアー[NAMELESS LIBERTY SIX BULLETS -01-]では、日々良いライヴを積み重ねていけましたか？

「やっぱり、やってけばやってく程その中から見えてくるものっていうのはありました。まぁ、途中で何本か延期になっちゃった分に関しては残念でしたけど、今回のツアーはバンド全体にとっても、自分個人にとっても、かなりまた得るものが多かったです」

——その、得たものとは具体的に言うとどんなことだったのでしょう。

「俺に関して言えば、ギターまわりでの今後に向けた課題がいっぱい出て来た、っていうことですね。特に、今回アンプを何台か用意してやってるんで、それを切り替えながら、バランスの良い音を出してくのが難しいですよ」

——the GazettEの場合、曲によって個々に音像が違うのはもちろんですが、1曲の中でも幾つかの音を使い分けていることが多いですものね。それを全てコントロールするのは、なかなか至難の業かも知れません。

「今んとこ、主にバッキング系のフレーズと、エフェクト系のフレーズを弾く時の2系統を良く使ってて、そのうちバッキング系の方は現状かなり良いレスポンスの音が出せてるんですね。ただ、その分エフェクト系の方はバッキング系の方と比べると、クオリティ的に追っついてないなっていう感じがしてるんで、今後はそこの差を何とかしなきゃなって思ってるんです」

——相変わらず、麗くんは音に対するこだわりが求道的ですねぇ。

「結局、こっちをもっと良くしたい、だったらこっちも、っていうことの繰り返しなんですよ（苦笑）。キリがないっちゃキリは無いですけど、出来るだけライヴでも音源で出してる音に忠実にやって行きたいんです。しかも、いくらレコーディングで良い音を作っても、それをそのままライヴに持ってたって絶対通用しないですからね。そのへんも含めて、今回のツアーではPAのスタッフさんとも密に話をしてってたんで、今後はもっとそういう機会を増やしながら、[NAMELESS ～ -02-]までにもっと突き詰めて行きたいっすね」

——ちなみに、その[NAMELESS ～ -02-]が始まる直前には、あらたなシングル『Red』が発表になるわけですけれども、今回この音源の中で麗くんが目指していたのは、どんなことでしたか。

「よりthe GazettEの認知度を上げること、ですかね。多分、前回の『SHIVER』でもある程度のインパクトは世の中に与えられたと思うし、あのシングルは自分自身にとっても、デカい存在感のあるものだったんですよ。でも、実際それが何処まで伝わってるのかっていったら、まだわりと限られた世界の中の話のような気もしてるんで、今回はthe GazettEはこういうバンドなんだ!っていうことを、さらに強く伝えてくような攻めのシングルにしたかったんです」

——なるほど。それで、音の方もエッジ感を強調した切れ味の良い仕上がりになっているのですね。

「方向性として、「SHIVER」っていう曲は王道中の王道っていう感じだったと思うんですよ。その点、今回の「Red」はもっとクールな感じとか、あとは派手な感じ?その両方を入れて行きたいな、と思ってましたね」

——その目論みは、見事に成功したのではありませんか？

「だといいんですけど。クリアで良い音になったな、っていう手応えは俺も感じてます。ただ、これを「SHIVER」と比べて〝音が軽くなった〟って捉えられると、作ってる側としては哀しいんだよなぁ（苦笑）」

——いや、それはないですよ。軽いとか重いという次元ではなく、「SHIVER」と「[illegible]」は音の傾向やテイストが全く違いますもの。

「うん、[illegible]なんですよ。実は、この曲って最初[illegible]タイトルが「BLACK」だったんで[illegible]のイメージからいっても、激しい[illegible]ルだ[illegible]ヘンにそこまで重過ぎない音にしたかったんです」

——しかし、「Black」が後に「Red」というタイトルに代わったというのは、なかなか面白いエピソードです（笑）

「気付いたら、「Red」に変わってましたねぇ。一瞬、俺は黒のイメージで音作ったのになぁ、とは思いましたけど（笑）、まぁでもそこは別にイイかなと。自分が思うカッコ良い音を作りました、っていうことには変わりないです」

——分かりました。それから、2曲目の「VERMIN」については、この間奏の展開が独特ですね。

「あれはソロっていうソロではないですけど、オブリが入ってちょっと不気味な雰囲気になってます。その前後が特徴のあるリズムになってる曲なんで、ギター的にもトリッキーな要素があっちこっちに入ってるんですよ。間奏のああいう少しおどろおどろしいパートとの対比がある分、それぞれ引き立つかたちになったような気がします」

——この曲は、ライヴでも相当盛り上がりそうな予感がしませんか。

「ノリの良さが出てる曲ではあるんで、きっとそうなってくでしょうね。もっとも、プレイヤー側からの視点だとこの曲っていうのはそこまでノリでやれるわけでもなくて、意外とリズム的な面とかでシビアなとこも多いんですよ。ギターも、けっこう手数多いし。だから、ライヴではしっかり演奏する、っていうところに集中しちゃう可能性が高いです」

——さて。今回、シングルの3曲目には葵くんが作った「AN UNBEARABLE FACT」という楽曲も収録されています。こちらについては、麗くんはどんなスタンスで臨まれたのでしょう。

「この曲は、当初ちょっと悩みましたねぇ。どっからどう攻めてくかっていうところで、攻め方を絞り込むことが出来なかったんですよ。なんか、いろんな要素が入ってる曲だし、メタルなのか、ロックなのか、ジャズなのか、どの方面から行けば良いかが難しくって」

——結果としては、今シングル中において、ギターの音は最もヘヴィなスタイルになったようですね。

「確かに、音質的には一番ヘヴィですね。でも、その音で埋め尽くしてるっていう感じではないし、いわゆるヘヴィで勢いがあります、っていうタイプの曲とは全く違うんです。むしろ、全体的に漂ってる不思議な空気感みたいなものを、一番大事にして弾きました」

——ダイナミックでストレートなバンドサウンドだけでなく、こういうコアでディープな音も出せる点というのは、間違いなくthe GazettEの大きな強みだと思いますよ。

「こういう曲って悪く言えば難解、良く言えば個性的っていうことになると思うんですよ（笑）。でもだからこそ、他の曲には無い複雑でいろんな要素を、じっくり楽しんでもらえたら嬉しいです」

——それにしても、ですよ。今回の強力な3曲もエントリーされて行く今度の[NAMELESS ～ -02-]は、一体どんなツアーになって行くのでしょうね。

「新曲たちがどうなるかは、やってみないと分かんないっていうのが本音ですね。だけど、バンドとしてのまとまりっていう意味では、[NAMELESS ～ -01-]でも鍛えられたし、今度はそれを踏まえたうえでの仕上げ段階になってくんじゃないかと思います。っていうか、確実に仕上げてかなきゃいけないんですよ。そこ頑張っとかないと、「ドームもう始まっちゃうよ?!」って、なりかねないわけで（苦笑）」

——我々としては、皆さんを信頼しておりますよ。なにしろ、これまでも数々の修羅場をくぐり抜けてきたバンドですからね。the GazettEは。

「あとはもう、やるしかないっていうとこに尽きます。[NAMELESS ～ -02-]が始まる10月1日の段階で、ドームに向けての姿勢はとれてるようにならないと。そこまでが、ある意味当日のライヴとおんなじくらいに勝負ですよ」

——とはいえ、心身ともにあまり追い詰め過ぎないようにしてくださいね。

「あー、そこは自分でもちょっと気をつけようと思ってるんですよ。ちょっと前、疲れなのか精神的なものなのか、いきなり帯状疱疹が出ちゃったことがあったんで、今後はそういうことが無いようにしなきゃ、と思ってて。ドームでやれる!やった!!的な浮かれたところは一切無い分、ここからは全てに対して落ち着いて臨んで行くようにしたいです」

「Red」はもっとクールで派手な感じ。

凝り性という次元を越えて、麗の音に対するこだわりぶりは、もはや求道的であると言った方が良いだろう。
全ては、the GazettEを進化させて行く為。今回のシングル『Red』においても、彼はよりクオリティの高い音像、
そして表現力の豊かなプレイを追求し続けている。むろん、ライヴに臨むにあたってもその姿勢が揺らぐことは一切無い。
麗の志は、音に全て詰まっているのだ。

蝴蝶网 hudie.com

Latest Interview

葵

感情的な要素とか人間くさい部分を加えたら断然しっくりきた。

一見ラフに軽口を叩いているように見えたとしても、葵の言葉の中には率直な本音や、
真摯な姿勢が見え隠れしているケースも多々ありそうだ。独創性溢れるプレイで、
ギタリストとしての多大なる貢献をしているのはもちろんのこと、今回のシングル『Red』ではコアかつ
ディープな「AN UNBEARABLE FACT」の作曲もしている彼に、ここでは現在の胸中を訊いてみた。

――まず、今回は[NAMELESS LIBERTY SIX BULLETS -01-]について伺いたいと思います。葵くんにとって、このロングツアーの前半戦はどんな意味を持つものとなりましたか。

「いや、普通に良いツアーだったんじゃないかとは思います。っていうかね、今はもう完全にレコーディングのモードに切り替わっちゃったから、ホントのこと言うと、あんま詳しいこと覚えてないんっすよ（苦笑）」

――それだけ、作業に集中しているということなんですかね。ちなみに、スタジオに入ったのは何時からだったのです？

「昨日から」

――えっ。ツアーが終わって、3日後にはもうレコーディングだったとは！しかも、昨日からの作業でもうツアーのことが思い出せないって、凄いですねぇ。

「だって、昨日1日だけでもずーーーっとスタジオこもって、ひたすらシコシコとギター録りしてたんですもん。イヤでもモード、切り替わっちゃいますよ」

――今レコーディングしているのは、12月のシングルなんでしたっけ。

「そうですね、まだ今は暑いけど既に冬に出すもの作ってます」

――なるほど。それについてはまた後日伺うとして、今回ここでは今度9月に出るシングル『Red』に関してのお話を聞かせてください。この表題曲「Red」をルキくんから提示されたとき、葵くんは最初にどんな印象を受けましたか。

「前回の「SHIVER」は、いきなりトップスピードでガン！っと始まって、そのまま最後まで行くタイプの曲だったでしょ。「Red」も、デモの段階では限りなくそれに近い感じだったんだけど、俺は今回そこにもうちょっと表情をつけたいな、って思ってましたね。根本的にメロはカッコ良かったし、それを引き立てて く為にも、全体にメリハリをつけてった方が良いだろうなって」

――その読みは、まさにアタリでしたよ。「SHIVER」で打ち出した先鋭的な雰囲気は残しつつ、同時にまた違うアプローチのバンドサウンドも、ここに提示出来たのではないでしょうか。

「ちょっと感情的な要素とか、どっか人間くさい部分を音として加えたことで、俺は断然しっくり来ました。ちゃんと、「SHIVER」とは違う方向が出せて良かったですよ」

――ギター・アンサンブルの面からいくと、この「Red」では麗くんと葵くんのカラミが多めなのも特徴ですよね。

「あ、そうかもしれない。昔はけっこうよくやってたんっすけど、近年はカラミっていうより、ユニゾンで揃えてくことの方が多かったっすからね」

――そこから、「SHIVER」で少しカラミ要素が復活して来て、さらに今回の「Red」では、ツインギターならではの展開がふんだんに詰め込まれているではないですか。これは、ギターキッズならずとも重要な聴きどころだと思います。

「いやなんか、そんな風に言ってもらえると恐縮ですけど（笑）。でも、そんなこと言ったら12月のシングルなんてもっと凄いですよ？カラみ放題、カラみ過ぎで、絡まっちゃってんじゃねーか、っていうくらいのことになってます（笑）」

――おっ。それはそれで、今から非常に楽しみですね。

「まぁ、要はカラむも、ユニゾンするも、全ては曲に合ってるか、合ってないか、っていうことじゃないですか。その基準は、これからもきっと変わんないと思いますね」

――では、ここからはカップリングの楽曲ついても伺っていきたいと思います。まず、「VERMIN」については聴いていて妙に懐かしいニュアンスを感じました。どこか、昔のｔｈｅ ＧａｚｅｔｔＥの空気を思わせるところがあるというか。これは単なる気のせいでしょうか？

「どうっすかね？そう言われてみると、そんな気もしないことはないですけど」

――葵くんからすると、この曲の持ち味とはどんなものだと思います？

「やっぱ、ライヴで生きそうな曲っていうとこかな」

――分かります。この曲は聴いた瞬間、生でやった時のライヴ空間というものが、リアルに動画状態で頭の中に浮かびましたよ（笑）

「俺たちとしても、ここはライヴですぐに使える曲が欲しかったっていうのは、本音としてありました。なんだかんだ、分かりやすい曲って皆ノリやすくなるじゃないですか」

――理屈抜きに楽しめる曲、というのは実際とてもノリやすいですからね。

「そうじゃないタイプの曲だと、どうしてもライヴで育つまでに時間かかっちゃうじゃないですか。もちろん、ワンツアーかけて育ててくっていうやり方もアリっすけど、今回の場合はそれやってるうちに、もう東京ドーム本番ですよってなっちゃうわけでね（笑）。ここは、意図して即効性のある曲を入れました」

――さらに、今回のシングルには最後に葵くん作曲の「AN UNBEARABLE FACT」も入っていますよね。こちらに関しては、どんなコンセプトのもと作られたのでしょう。

「あれは、一言で言うと雰囲気もんです。ライヴの中[illegible]そろそろこういう場面が出て来ても[illegible]んじゃないかな、っていうところで作りました。結局、「奈落」が、思[illegible]以上にどんよりした方向に行っちゃったんでね（苦笑）。俺は、ライヴ[illegible]もう少し激しい方向に行くのかなと思って[illegible]たったら今度はこういうの[illegible]かなあ？って思ったんですよ」

――メンバーによっては、ゴスっぽさを[illegible]したという人もいたようですが、葵くん[illegible]を意識することはありました？

「[illegible]や、俺はあんま無かったです。もと[illegible]は、[illegible]の完成形よりはマッチョな質感だったんですけど、そこにルキのヴォーカルがのることによって、艶っぽさが出たっていうか。多分、そこがゴスっぽいって感じるんでしょう」

――なお、この曲についてはギターソロも斬新で面白いですね。

「そうっすか？特に狙いは無かったんで、あれはインスピレーションで何となく弾いてみただけです」

――クラシカルなフレーズで攻めてくるのかと思いきや、最後はアヴァンギャルドなテイストも出て来て、とても独創性を感じましたよ。

「って言っても、俺はそんな小難しいこと出来ないんでね。後半のタッピングなんて、あんなの思いつきです」

――またまた、ご謙遜を。

「大体、曲としてもこれ自体は別にカップリングだしねぇ。ちょっと遊んで、ま、良いかなって」

――葵くん。お世辞抜きで、この「AN UNBEARABLE FACT」は聴き応えのある曲に仕上がっていますよ？どうしてそんなに、いちいち〝捨て鉢〟モードなんですか？？

「いや、とりあえず不安な自分の気持ちを隠したいだけです（苦笑）」

――なーんだ。やっぱり、そういうことでしたか（笑）。大丈夫ですよ、もっと自信を持ってください！

「でもほら、「SHIVER」とか「Red」の流れを考えるとねぇ。ここんとこの表題曲と比べると、これってかなりコアでしょ？曲としては、絶対取っつきにくいだろうなぁ、って思うからさー」

――確かに、この曲にポップさやキャッチーさはありません。でも、その分スルメ的な味わい深さがあるではないですか。そこにこそ、この曲の存在価値があるのだと思いますけれどね。

「マジっすか。これ、ウチらがやるより、もっと世界感のあるバンドがやった方が、よっぽどハマるんじゃねーかな、って思ってたんですけど（笑）」

――だから、考え過ぎですって（笑）

「そっか。年取ってきたせいなんですかね、最近なんだか妙に心配性になっちゃって」

――気持ちを切り替えましょう。ここからは、今回の曲たちが今後のライヴで育って行く過程を、皆で楽しんで行きましょうよ。

「そうっすね。せっかく作った曲たちだし、これをワンツアーで消しちゃわない為にも、今後はライヴで皆で頑張っていきたいです。この3曲目も、ちゃんとした聴かせ方と見せ方によっては、きっとカッコ良い空間作れると思うし」

――[NAMELESS ～ -02-]は、やがてドームにも繋がって行くツアーですしね。ここは期待しておりますよ。

「[NAMELESS ～ -01-]の方は、基本的に楽しくて勢いがあって、っていうライヴに終始したツアーだったと思うんですよ。それはそれで良いんだけど、ここからは本編だけでも、ちょっとビシッと締めてくかたちでやって行きたいっすね。日々、一段一段きっちり階段を上がってくようなツアーにして来ます」

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

Latest Interview

れいた

――8月末に［NAMELESS LIBERTY SIX BULLETS -01-］が終わりましたけれども、ここまでの間にれいたくんはどんな手応えを感じていますか。

「今回のツアーでは、日記みたいなメモを書いてるって前回のインタヴューで言ったじゃないですか。あれが、日に日に書くこと少なくなって来てますね」

――それはつまり…

「それだけ、やるごとにツアーの内容が良くなってってるっていうことです。その日記には、気になったこととか、反省点だけを書き出してってるんで、書くことが減ってるのは良い傾向なんですよ」

――日記作戦、成功ですね（笑）

「うん。思ってた以上に、効果というか意味があったみたいです。ただ、最近は書く事が減り過ぎちゃって、逆に不安なんですよ。なんか俺、見逃してないかな？って（笑）。だから、ここからはさらにもっとチェックのレベルを上げてくのもアリか？って思ったりしてます」

――そんな［NAMELESS ～-01-］が終わった今、次の［NAMELESS ～-02-］が始まるまでの間、the GazettEは休む暇もなくレコーディングとプリプロを同時進行させているのだそうですね。

「ほんともう、フザけんなっていうスケジューリングでしょ？いやまぁ、全ては自分たちで最終的に決定してることなんですけどね（苦笑）」

――今、レコーディングをしているのは12月に出るシングル『PLEDGE』になるそうですが、一方で9月22日に出る『Red』はツアー前には既に録り終えていたといいます。れいたくんは、この曲を制作していく中で、プレイ的にどんな部分を特に押し出していったのですか。

「えっとね、今回押し出したのは〝押し出さないこと〟です」

――要は支える側に徹したわけですね。

「そうです、そうです。リズムパートの一部として曲に完全に馴染むことが最優先だったんで、ヘンに主張したりとか、音的に目立たせようとか、そういうことは殆ど考えてなかったんですよ」

――『SHIVER』の時には、音の隙間を縫うようなフレージングが光っていましたけれども、今回の場合はさらに緻密行動的なプレイになっている、ということなのかもしれません。

「最近は、そういうスタンスで音を出すのが自分的には気に入ってますね。そういうのって、ちょっと大人っぽくて良いかな、みたいな（笑）」

――とはいえ、だからといって音が全体の中で埋没しているわけではありませんよね？このサジ加減が絶妙です。

「やっぱり、聴いた時のノリの良さを出したいっていうのはありましたから ね。これを出した後には、［NAMELESS ～-02-］がまだ続いてくっていうのも分かってたんで、あんまり音を詰め込んで弾くのに精一杯、ってなっちゃうよりは、弾きながら自分が多少動けるくらいの余裕も欲しかったんです」

――ところで。この「Red」は、作詞者であるルキくんに伺ったところ、〝運命の赤い糸〟がモチーフとなっているそうです。ここでひとつ質問なのですが、れいたくんはそういうものって信じます？

「どうせ、ルキは「信じない」とか言ったんでしょ（笑）」

――良く分かりましたねぇ（笑）

「確かに、俺も「赤い糸って何なのか？」みたいな話になったら、それは良く分かんないんですよ。だけど、何かで繋がってるよねっていうことの象徴が、赤い糸なんだったらそれは分かるかなと」

――赤い糸とは、絆のようなものだと。

「そうそう。結局、そういう繋がりがなかったら、こうやってバンドだって何年も出来ませんからね。これだって、赤い糸っちゃ赤い糸ですよ（笑）」

――なるほど…！

「考えてみたら、それまではバンドを組んで、解散して、っていうことをさんざん繰り返して来てたわけです。それが、このバンドに限ってはもう8年でしょ？その前までは、最長でも9ヶ月しか続かなかったのに（苦笑）」

――うわー。れいたくんにとって、the GazettEは半ば奇跡のバンドとも言えそうですね。

「奇跡ねぇ、でもほんとにそうかも。今のメンバーと出会えたっていうのは、ひとつの運命みたいなもんだったんだろうな、って今思うと感じます。こんなことは、気持ち悪いんで面と向かっては絶対言わないけど（笑）」

――あはは（笑）

「だから、その色が赤いかどうかはまた別として（笑）、人と人の間に糸みたいな何かがある可能性は、充分あるんじゃないかと俺は思います」

――いやはや、素敵なお話をありがとうございます。それから、これ以降は今回のシングルに同時収録されているカップリング曲たちについても、伺って参りましょう。まず、2曲目の「VERMIN」。こちらは、聴いていて妙に懐かしい印象を受けたのですが。

「あぁ、言われてみるとそういう匂いはあるかな（笑）。でも、the GazettEとしてこういう曲が前にあったか？っていうと、意外と無かったような気もするんですよ」

――故に、この曲は大変興味深かったです。この時代に、こういう曲を、the GazettEが今やる意味と意義、というものを考えさせられましたよ。

「今回の場合は、単にカップリングの曲としてどうこうっていう以上に、今後ライヴでやってく弾を増やしたいっていうのもあったんで、そういう面から行くとこういう皆で盛り上がれそうな曲は凄く良いんじゃないかと思うんですよ。こういうものこそ、今CDで音源化しておくべきでしょう、っていうね」

――「VERMIN」を弾いて行く際に、重視したのはどんなことでしたか。

「さっきのライヴで盛り上がりそうな、っていう発言とはある意味ちょっと真逆になっちゃうんですけど、レコーディングの場に限っては、これは感情を入れずに敢えて無機的に弾いてたりするんですよ。っていうのが、こういうテンポ感の曲って、ちょっと気を抜くとつい走っちゃいがちなんです」

――曲としてのノリがあまりに良過ぎると、そういう悩みも出て来るのですね。

「だから、これをスタジオで弾いてた時の俺の顔は、相当な真顔だったと思いますよ。ライヴは…どうなるかなぁ。淡々と弾きたい気持ちもあるし、でもノリで行っちゃいそうな気もするし。多分俺、これをライヴでやるようになったら、最初のうちは確実に日記に「今日の「VERMIN」は走った」って書いてそう。今から予想出来るなぁ（笑）」

――その点、もう1曲の「AN UNBEARABLE FACT」は、一転してダークかつヘヴィなトーンでまとめられている1曲になっていますよね。こちらはこちらで、ライヴでどんな場面が描かれてゆくのか楽しみです。

「こっちの「AN UNBEARABLE FACT」は、だいぶマニアックですよね。なんかこう…雰囲気としては、一昔前にやってます的な空気感も微妙にあって（笑）、そこがやってては面白かったです」

――言いえて妙な喩えです（笑）。非常に的確だと思います。

「音が密室的なんですよね。仮に密室的な曲をやっても、今までのthe GazettEだったら、サビではガッと拡がる方向に行くことが多かったじゃないですか。この曲の場合は、サビでさらに曲の世界が狭まる感じがして、そこが今までにない展開で良いなと思いました」

――なお、この曲にはベースソロ的なくだりもありますよね。あれについては、どんな風に構成していったのですか？

「まずは、この曲の為にキャビとヘッドを買うところから始めましたね」

――それはまた、こだわりましたね。

「ここんとこ、毎回レコーディングする度に新しい楽器を買って来てたんですよ。ただ、これだけ買ってると大体のことに対応出来るくらいの数にはなって来たし、今回はベース本体じゃなくアンプ周りで対応した感じですね。あのベースの音だけになるとこでは、ハイファイ的な音を出したくて、それがわりとちゃんと出せたから良かったです」

――当然、あの部分は［NAMELESS ～-02-］において、見せ場のひとつになって来るのでしょうね。

「えっ。そんな、見せ場とか言われると緊張しちゃうじゃないですか（笑）。そこはさらっと行かせてもらいたいです。ソロとか俺、キライですもん。大体あれもソロっていうより、ギターソロの後に若干付け足してるくらいのもんだし」

――またまたご謙遜を。

「いやー、参ったな。目立ちたいけど、でも目立ちたくない。ベーシストって、そういうとこあるんです（笑）」

人と人の間に糸みたいな何かがある可能性は充分あるんじゃないかな。

ステージ上では、誰よりも雄々しくアグレッシヴなパフォーマンスをみせる印象が強い一方、
実のところれいたは常に理知的で客観的なスタンスを持ち続けている御仁でもある。
そのバランス感覚の良さ故に、the GazettEの中におけるジャイロ機能の多くは、彼が果たしているところが大きいと言えそうだ。
今回のシングル『Red』の中でも、れいたは実に重要な働きをしてくれている。

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

Latest Interview

戒

——結果的に、今回の［NAMELESS LIBERTY SIX BULLETS -01-］は波乱含みなものとなりましたが、戒くん個人の感覚としては、廻っていてどんな実感の得られるツアーだったのでしょうか。

「今回の場合は、とにかく12月の東京ドームっていうものを見据えたうえでのツアーなんで、始める前から今までとはまたちょっと気持ちの面で違ったんですよね。極端に言うと、the GazettEが始まる以前のことも含めて、今までの自分の音楽人生を丸ごと全てを賭けるような、そのくらいの気持ちを持ってやってるツアーなんですよ」

——使命感の強さを感じる言葉ですね。

「だって、音楽やってる人間からしたら、ドームって、やっぱり夢じゃないですか。もちろん、経験値的にはthe GazettEをやって来た中で得てきたものが圧倒的に大きいですけどね。でも、それ以外にも俺が音楽を通して得て来たことは多少なりあるわけで、それすらも全て出し切りたいっていう気持ちが強いんです。［NAMELESS ～ -01-］に関しては、今のところ実際にそれが出来てきてると思うし、同時に今回のツアーを通してあらたに経験出来たことも、確実にあったと思います」

——そうした中、［NAMELESS ～ -02-］を前にして、今回またあらたなシングル『Red』が発表となります。the GazettEがこの作品を今ここで出す意味について、戒くんはどのように解釈していますか。

「周りの環境が変わって、まず最初に出したのが前作『SHIVER』でしたよね。多分、あそこで新しくthe GazettEのことを知った人たちっていうのも、それなりにいたと思うんですよ」

——いたでしょうね、それなりどころか、相当いるのではないでしょうか。

「だから、考えたのはそこだったんです。その事実を踏まえると、ここで急に方向性を変えるとか、たとえばいきなりバラードを出すってなったりすると、the GazettEっていうのはこういうバンドだよ、っていう部分が分かりにくくなるんじゃないかなと。それで、今回はもう1曲バンドらしくって、ドライヴ感もあるような、俺らからしたらこれぞ今のthe GazettEそのもの、って言えるような『Red』をシングルに持ってきたわけです」

——抜かりのない展開ですね。

「俺らの願望としては、『SHIVER』で興味を持ってくれた人たちが、『Red』でさらに深くハマってくれたら良いな、っていうね（笑）」

——この表題曲「Red」について、先ほど戒くんはドライヴ感があると発言されました。そして、そのドライヴ感を強烈に醸し出しているのは、他ならぬドラム・パートですよね。

「ドライヴ感に関しては、そうでしょうね。イントロからAメロに入ってくところで、グイグイ引っ張るようなフィルを入れたのも、全てはその為です」

——では、音作りの点では今回どんな点にこだわりましたか。

「シンバルの入れ方かな。意外とシンバルの音って、鳴らし方や入れる場所によって、曲の表情や性格を左右するもんなんですね。凄い分かりやすい言い方をすると、「SHIVER」の時がシャン!っていう感じだったとすると、今回の「Red」はゴワーン!っていうイメージ」

——なるほど、それは分かりやすい。

「もうちょっと音楽的に説明すると、「SHIVER」と「Red」だと「Red」の方がチューニングが低いんで、そういう曲で「SHIVER」とおんなじようなシンバルを入れちゃうと、そこだけ妙に浮き立っちゃうんです。だから、今回はシンバルもシャープで抜けの良い音じゃなく、重心が低めで深い広がりのある音になるようにしたんです」

——その甲斐あって、ここには一体感の増したバンドサウンドが詰め込めたのではないですか？

「そうですね。今回はタイミング的に、前のレコーディングから約1ヶ月での録りだったっていうのも結果として良かったなと思います。「SHIVER」の時の経験が速効で活かせました」

——それから、これは余談的な話にはなるのですけれども、「Red」は詞が運命の赤い糸をモチーフとした内容になっていますよね。戒くんは、そういうものの存在を信じる方ですか？

「え。いや全然（笑）」

——作詞者であるルキくんもほぼ全否定していたのですが、戒くんにまで即答されるとは（苦笑）。このバンドに、ロマンティストはいないんですかねぇ。

「俺、運命っていうものはあると思ってるんですよ。なんか、これってそうなんじゃないかな？って感じることは、時々あるし。だけど、これが赤い糸ってなるとねぇ…。どうも現実味に欠ける気が。だって、最終的に添い遂げない限りは、そこに運命の糸は無かった、みたいなことになるわけでしょ？」

——そうなるんですかね、そこはワタシも良く分かりませんが（笑）

「ってことはですよ？普通に付きあってて結局は別れちゃいました、っていうケースの場合は、赤い糸なんて存在しないってことになっちゃうじゃないですか。俺は、そこの差って単なる結果論に過ぎないと思うんだよなぁ」

——まぁ、所詮は糸ですからね。ちょっとしたことで切れたり、こんがらがったり、また何かの拍子に結ばれたり、いろいろなことがあるのかもしれません。

「うーん。昔からある言葉だから、そこには何か特別な意味があったりするんですかねぇ。でも、とりあえず俺は良く分かんないです（笑）」

——承知いたしました。では、ここからは話題をカップリング曲の方に移して行きましょう。まず、「VERMIN」について。こちらは、どんなアプローチで叩いて行った楽曲でしたか。

「これはね、バンドでドラムやってる人だったら、一度は叩いたことがあるんじゃねーかっていう、ある種の王道パターンです（笑）。でも、the GazettEに入ってからだと、意外と終始こういう感じっていうのは無かったような気がする」

——だからこそ、の面白さがこの曲の中にはありますよね。

「あー、そうかもしれない。基本は四分打ちなんだけど、スピード感やパワー感を増す為に、裏でジャングルビートの同期を入れてて、それを生かすも殺すも俺次第みたいなとこがある曲だから、ノリがちょっと独特なんですよね。単なる四分打ちのノリでは無いんです」

——このリズムに煽られるかたちで、きっとライヴでも、皆さん凄い盛り上がりぶりをみせてくれることでしょうね。

「なんか、今からその光景が想像出来ちゃいますよね（笑）。俺自身も、この曲はやるの楽しみだなぁ。レコーディングでは、敢えてキッチリカッチリ叩いてこのノリを出してるんですけど、ライヴではイケイケで行こうかなと思ってます」

——そこから一転して、今回3曲目の「AN UNBEARABLE FACT」では、ひたすらダークかつヘヴィな音像を聴かせてくれてもいますよね。このギャップもまた、the GazettEの持つ醍醐味のひとつだと感じました。

「なんか、この曲ではまた自分の中の新しい引き出しを開けちゃった感がありますねぇ。それも、わりと強引に（笑）」

——途中、間奏でベースとからむシーンなども、聴いていて面白かったですよ。

「あれは、絡んでるようで絡んでないんだけど、絡んでないようで絡んでるっていう、なんとも言えない場面なんですよね。作曲者からの希望もあって、試行錯誤しつつ何とかあのかたちに持って行きました」

——こうして並べてみると、今回の3曲は次の［NAMELESS ～ -02-］の中で、それぞれにかなり重要なポイントを占めてくることになりそうですね。

「どうですかね。実際にライヴでやってくってなったら、レコーディングとは又違ったところで難しい部分も出て来るとは思いますけど、そこは「俺なら出来るっしょ！」っていうスタンスで、自分を信じて、ここは強気にやって行きたいと思います」

——大事です。その姿勢が、ひいては12月26日の東京ドーム公演にも繋がって行くはずですよ。

「自分にとって初の東京ドームっていうのは、後にも今回だけじゃないですか。そこでどんなライヴをしたいのかっていうことを逆算して考えながら、今回のツアーは廻ってこうと思ってます。それには、［NAMELESS ～ -02-］が始まる時点で、自分の中でのヴィジョンは固めとかないとヤバいっんすよね。まずは、10月1日までが俺にとってはひとつの山場かもしれないです」

“俺なら出来るっしょ！”っていうスタンスで自分を信じて強気にやって行きます。

自らの音楽人生、その全てを賭して今後に向かって行きたいと、戒はそう言い切った。
the GazettEのまさに動力源である以上、彼がバンドサウンドにおける生命線を司っているのは紛れもない事実だ。
今回のシングル『Red』の中でも、彼はドラマーとしての様々な技と知識と経験値を活用しながら、
それぞれの楽曲に息吹を与えている。全ての布石が結実する日は、きっと近い。

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

桜華乱舞

okaranbu

7日(水)　高田馬場AREA

ngeiL / 砂月 / Sel'm / DISH
ad / Iam. / Vallquar-ワルキューレ-

0 / START 17:00　　ADV ¥ 3,000 / DAY ¥ 3,500
ーソンチケット　Lコード(71504)

5日(木)　高田馬場AREA

W / Annie's Black / オトガデッド
UTOU GIRL FRIEND / Sel'm / 他

0 / START 17:00　　ADV ¥ 3,000 / DAY ¥ 3,500
ーソンチケット　Lコード(76265)

9日(月)　高田馬場AREA

nistrator / お遊戯わが魔々団×【PaRADEiS】
g / V-last. / リバティーン-Libertine- /
ASH / 他

0 / START 17:00　　ADV ¥ 3,000 / DAY ¥ 3,500
ーソンチケット　Lコード(76267)

NightingeiL

UnsraW

蝴蝶网
hudie.com

Sel'm

DISH

yazzmad

Iam.

Vallquar-ワルキューレ-

Annie's Black

オトガデッド

KYOKUTOU GIRL FRIEND

Administrator

お遊戯わが魔々団×【PaRADEiS】

BugLug

V-last.

リバティーン-Libertine-

LOST ASH

xxxrecords.jp/speeddisk/

SHOXX創刊20周年記念

オリジナル・フォトカード 応募者全員サービス!!

ご希望のフォトカードを1枚、
応募者全員にサービスしちゃいます
全部で17パターン。
応募券1枚でご希望のフォトカード
1枚あなたのお手元に!!

the GazettE

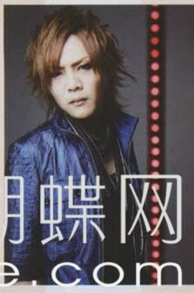
A-1:ルキ

A-2:麗

A-3:葵

A-4:れいた

A-5:戒



蝴蝶网 hudie.com

ムック

B-1:達瑯

B-2:ミヤ

B-3:YUKKE

B-4:SATOち

イガグリ千葉(仙台貨物)

C

THE KIDDIE

D-1:揺紗

D-2:佑聖

D-3:淳

D-4:そらお

D-5:ユウダイ

ギル×ラメ(ヴィドール)

E

heidi.

F

●応募に必要なもの

- 80円切手2枚(申し込み用の封筒に貼るものと返信用の封筒に貼るもの)
- 20円分の切手(手数料用)
- 定型封筒2枚
- 応募券(このページの左下にあり)

【応募方法】

①フォトカード(9cm×13cm)が入る大きさの定型封筒(定形外の大きな封筒での応募は無効になります。ご注意下さい)2通と、80円切手を2枚、手数料の20円分の切手を用意します。

②1通の封筒に80円切手を貼り、表にあなたの住所、氏名を記入。封筒の裏には希望のフォトカードのナンバー(例えばthe GazettEのルキであればA-1)のいずれか1つを大きく書いてください。この封筒は、編集部から応募者に写真をお送りする返信用封筒になります。

③②の返信用封筒とも手数料の20円分の切手をもう一通の封筒に入れ、あて先のヨコに応募券がはがれないようにしっかり貼って、右記の住所まで送ってください。

【あて先】

〒104-8228 東京都中央区銀座6-2-3 Daiwa銀座アネックス5F 株式会社 音科社 SHOXX編集部 秋のフォトコーナー●係(●の中には返信用封筒に書いた希真フォトカードナンバーを必ず書いてください。例えばthe GazettEのルキであればA-

【締め切り】

2010年10月21日(当日消印有効)

【発送】

2010年11月下旬からになります。12月15日になっても届かない場合はご連絡くだ
(03-3574-0205/月~金 11:00~18:00)。

【お願い】

- 希望のフォトカードナンバーが未記入の場合はこちらで選んだパターンを送らせていただ
- 応募券のコピーは不可です。コピーの場合は無効になります。
- 応募券1枚につき一通のご応募でお願いします。複数お申し込みのお客様はその数応募でお願いします。

SHOXX VOL.213
9月秋のフォト
応募券

リバティーン
Libertine
FLASH BACK
LAPIS LAZULI
LIBERTINE
2010.09.30
1st single「FLASH BACK」on sale
01. FLASH BACK 02. ラピスラズリ ¥1,260(tax in)
and
Libertine PRESENTS
「少女革命 - 其ノ壱 -」
In 池袋 Black Hole OPEN16:00 START16:30
★リバティーン入場者+CD購入者に特典あり
リバティーン
Libertine
http://www.libertine-web.com/
蝴蝶网
hudie.com

音楽せんか?

ARENA37℃ と SHOXX に掲載された記事と連動した企画が盛りだくさん! ここでしか観ることが出来ない撮影メイキン
ビーや、ここでしか手に入らない待ち受け画像、着ボイスなど、絶賛配信中!! 今すぐアクセス!!
音楽専科社公認公式携帯サイト http://mobile.ongakusenka.com/

蝴蝶网 hudie.com

イガグリ千葉（仙台貨物）

帰ってきた仙台貨物・千葉の衝撃撮影メイキング・ムービーを公
ゃいます！ 前回も凄かったのですが、負けじと今回も凄い!! 必

Mix Speaker's,Inc. / 凛

新作リリースの両バンドを大特集!! 試聴、待受、その他企画など
お楽しみに!!

■有村竜太朗（Plastic Tree） glitter pop No.8のパーソナル撮
模様を公開!! 待受けも配信!! ■THE KIDDIE 最新撮り下ろし
現場の様子をメイキング・ムービーにて配信!! ■heidi. 最新撮
キング・ムービーのほかに、待受けを配信!! ■ギル×ラメ（ヴィド
バンド内対談撮影メイキング・ムービーや、待受けを配信!! ■TC
FACTORY 9月1日高田馬場AREAワンマン密着ムービーを配信

『Vの流儀』

ヴィジュアル専門レギュラー音楽番組！待望の地上波登場！

10/5 オンエア開始！

テレビ東京（毎週火曜日深夜 2：30〜）

多数のヴィジュアルバンドが出演！！
ヴィジュアルシーンの今を切り取る番組！お楽しみに♪

蝴蝶网
hudie.com

SID

――前回のシングル『レイン』は、シド最大の武器である〃歌心〃に焦点をあてた作品となっていましたが、今回のシングル『cosmetic』は、またそれとは違った方向から、新たな境地に斬り込んで来た印象があります。

Shinji：単純に、作りたいものを作っただけなんですよね。系統的に言うと、ファンクとかそっちの方向の要素をシドでやりたかったんです。

――故に、この曲はとても華やかでダンサブルな音になっているのですね。Shinjiさんは、普段からそういった音楽は良く聴かれているのですか？

Shinji：あぁ、よく聴きます。最近の音楽っていうよりは、昔のものばっかりですけど、家で酒のツマミとして聴いてることが多いです（笑）

――そんな背景があった中、今回この表題曲「cosmetic」を作っていくにあたり、Shinjiさんが特に重視されたのはどんなことだったでしょうか。

Shinji：やっぱり、ちゃんとバンドとしての音で構成したい、っていうのはありました。ファンク的な音っていう前提はあるにしても、シドじゃないと出来ないかたちにはしたかったですし。こういうサウンドに歌がのるっていうスタイルは、意外と珍しくて面白いんじゃないかと思いますね。

――この溢れるような躍動感を醸し出している大きな一因としては、明希さんのベース・プレイの存在も大きそうですよね。明希さんとしては、この曲とはどのように向き合って行かれました？

明希：僕らの場合、この曲に限らずデモテープの段階で既に完成してることが多いんで、「cosmetic」に関してもそれを聴いたら、すぐにShinjiがやろうとしてることは分かったんですね。さらに、そこからプリプロに入っていった時にも、自分なりに練って行きつつ、Shinjiからもまた幾つかアドバイスをもらえたんで、イメージをつかむの自体はすんなり行きました。まぁ、簡単に言うとこの曲に対しては地味っていうよりは、けっこう派手なアプローチを活かしてるところが多いです。

――その派手さが、刺激的なスパイスと

明希：聴いて踊れたり、ビートを感じられたり、スピード感を感じられたりするような感覚、っていうのがこの曲の場合は大事でしたからね。

――そうなると、音色もこの曲ならではのものを作ったり？

明希：そうですね。普段の自分が出してる基本的な音は、もうちょっとゴリゴリして歪んでて、どんな曲でもそれを使ってナンボっていうところがあったんですけど、「cosmetic」にはこれにより合う音っていうのを作りました。芯の部分は残しつつ、もうちょっとオトナっぽい色を加えてったんです。

――その結果、派手なのにどこか渋さもあるという、とても存在感のある音になったのではありません？

明希：あぁ、そこは狙い通りです。ただ、ソレっぽいジャンルの曲をやってみました、っていうだけで終わっちゃうのはつまらないし、どれだけ自分たちらしさを出せるかっていうのは、こういう曲こそ重要になって来ますからね。今回の音は、ほんと自分でも気に入ってます。

――この「cosmetic」は、とにかくリズムパートが肝的な役割を占めていますけれども、ゆうやさんの場合はドラマーとして、どんな要素をここに組み込んで行ったのでしょう。

ゆうや：そうですねぇ…こういうタイプの音楽としてはテンポが軽快というか、かなり速めなので、16ビートならではの踊れるビート感を、その中でいかにちゃんと出してくかっていうのが、ひとつのポイントでした。

――いわゆるロックドラムの在り方とは違った、これまたほんのりとアダルティな空気感が漂う音になっていますよね。

ゆうや：そこはきっと、この音色によるところも大きいんじゃないかと思います。低音ドーン！っていうんじゃない、ハイピッチな音にしてるんです。

――音のピッチを上げたことで、より細かい部分が前に出て来たのでは？

ゆうや：この曲はロック的なアプローチをとってない分、メンバー同士で〃間を楽しむ〃ような音作りになってるんですよ。だから、その間を活かす為っていうところで、良く聴かないと聴こえないよ

蝴蝶网
hudie.com

夢でもいいさ エゴで歪む 君が見たい

ニューシングル『cosmetic』リリース!!

華麗にして享楽的な情景を描き出すのは、色鮮やかな音の数々と、艶やかな言葉たちだ。9月29日にシドが発表する待望のシングル『cosmetic』は、彼らの大人っぽい部分がここぞとばかりに表出した、まさに出色の出来。12月11日に控えている東京ドーム公演[YEAR END CLIMAX 2010 ～全てのシドへ～]に向けての、イグニッションキーがここで回されたとも言える。

Interview:YUKI SUGIE

てってるんじゃないですかね。

―なるほど。グルーヴといえば、この「cosmetic」においては、この軽快なギターのカッティングがそれを醸し出している点も多々ありませんか。

Shinji：ギターもこの曲の中では、ウワモノっていうよりリズムパートに限りなく近いですから。

―冗長なソロを美しく弾くギタリスト、というのも当然カッコ良いなと思うのですが、本来どうしても地道な作業になりがちなカッティングで、キラリと光るものを感じさせるギタリストというのも、実に魅力的です。

Shinji：カッティングは得意なんですよ（笑）

―これまでも、数々の楽曲でその技をみせてきた成果が、ここにはきっと存分に活かされたかたちなのでしょうね。

Shinji：あとね、これ根本的には一発録りで皆で録ってるんですよ。もちろん、ギターの場合は後からワウをかけた音を別に録ってたりもするんですけど、ベーシックの部分を楽器隊全員で一緒にやるっていうのは、こういう曲の場合かなり大切なんだなって、今回あらためて思いました。

―それにしても、ほぼ一発録りでこのクオリティとは凄いですね。各人、かなりテクニカルなことをされているではないですか。間奏の展開なども、最高にカッコ良いですし。

Shinji：いやー。実は今回、そこ大分〝押し〟かもしれないです（笑）

マオ：ほんと、彼らって凄い上手ですからね。なかなかのもんですよ。

ゆうや：あれ、いきなりちょっと上から目線で来た??（笑）

明希：あはは（笑）

Shinji：なんか、どっかの敏腕プロデューサーみたい（笑）

マオ：いやでも、マジで皆上手だな～って思ったんですよ。別に他と比べるわけじゃないですけど、つくづく良いバンドのヴォーカルやってんだなって。

―それは歌う側からすれば、とても幸せなことですものね。

マオ：うん、そう思います。

[…]て書くところから始められたわけですよね。その際、テーマはやはり音の雰囲気から絞り込んで行ったのでしょうか。

マオ：その流れ自体は何時もと変わらなかったんですけど、今回の場合は少し特殊な点もありました。っていうのが、この詞って文字数多めなんですよ」

―確かに、音に対して言葉がぎっしりと詰まった曲になっていますよね。

マオ：曲を間延びさせないようにする為には、こういうやり方が必要でした。メロディとリズムに対して、語感の面で違和感が無いかを歌いながら詞を書いていく、っていうことをやったんですよ。

―内容的に、センシュアルな要素が強くなっているのは、「cosmetic」の音像自体が、大人っぽい色気をはらんでいることと関係がありますか？

マオ：それはありました。曲の持ってる色気を、言葉の面でも表現した感じですね。普段から俺はライヴでも下ネタとかガンガン言ってるんっすけど、ああいうのはタダの小学生レベルなエロなんで（笑）、曲の中で詞を書く時くらいは、アーティストとしてのエロっていうのを目指しましたけど（笑）

―参考までに、そのボーダーラインって何処にあるものなんですかね??

マオ：あー。それは、知的かバカっぽいかの差じゃないですか。シドの作詞をしてるマオとしては、クールでカッコ良いところを感じさせたいなと。そういう意味で、あんまり生々し過ぎる言葉は使わないようにしました。俺、あんまりあからさまな書き方にはエロさって感じないんですよ。それより、どっか隠されてるとこがある方が、よりエロく感じるような気がしません？

―そこは、ある種のチラリズム効果なのだと思います。全てを明らかにはせず、受け手の妄想をかき立てる余地を残しておく、というのはまさに知的なエロの在り方と言えそうです。

マオ：そこはもう、昔からエロい詞を書く時にはずーっと追求してるとこです。

―間違いなく、「cosmetic」にはその成果が現れていると思いますよ。特に、冒頭での〈部屋中に絡みつく　経過音〉

という、あの1節には恐れ入りました。

マオ：あ。そこは皆から「いい」って言われますねぇ。

——音楽理論の中でいう経過音、という言葉が〝こういう意味〟にもなるとは…このセンスに脱帽ですよ。

マオ：経過音っていう言葉自体には、全くエッチな意味は無いっすからね。あれは自分でも、良い表現だなって書いてから思いました。

——その他にも、意味深かつ絶妙な表現が多々並ぶ詞がここにはありますけれども、曲タイトルに「cosmetic」という言葉を選んだ理由は、どんなところにあったのでしょう。

マオ：女性が着飾ってる姿というか、着飾られてる姿の象徴みたいなもんですね。この〝cosmetic〟っていう言葉は。

——着飾られている、ですか。

マオ：女性を男性が自分の色に染めようとしてる、その様って凄くエロいと思うんですよね。

——染めたり、染められたりの、その危うい関係性を〝cosmetic〟という言葉に託したわけですか。いやー、これまた知的センスが高くてらっしゃる。

マオ：まぁ、下心としてはこれで化粧品のCMタイアップ獲れたら良いな、っていうのもありましたけど（笑）

——えっ。その言葉の方が、よほど生々しいではないですか！（笑）

マオ：冗談です、冗談（笑）

——ちなみに、この詞にはマオさん個人の価値観も反映されています？要は〝染めたい〟方だったりするんですかね。

マオ：あぁ、染めたい方っすねぇ。この詞に関して言えば、染めるっていうよりもうちょっと踏み込んだとこで、育てるくらいの感覚もあるし。

——なにしろ、〈僕がルール〉と強引ですものねぇ。

マオ：そうそう（笑）。どっか、Sっぽい感覚も入っているというか。

——作曲者であるShinjiさんは、こういった歌詞がのって曲が戻って来たとき、どんな印象を持たれました？

Shinji：やっぱ、さっきの〝経過音〟とかいいっすよね（笑）。言葉遊び

ほど[illegible]イン好きだから〝スパークリング〟とか、そういう単語も意外とグッと来たん[illegible]の？（笑）

Shinji：あー、来たね（笑）。夏は[illegible]もスパークリングしてた方が気分[illegible]さぁ。

ゆうや：[illegible]の詞[illegible]て、「cosmetic」ってい[illegible]なイメージのタイトルなんだけど、内容的にはむしろ男の強さを感じる詞[illegible]すよね。そういうところも、素晴[illegible]ます。

明希：あと、歌詞って内容がいくら良くても、メロディと譜割りがちゃんと一致してないとダメじゃないですか。その点、マオの詞はそういうところまでちゃんと計算してあるんですよ。

——さすがですよね。しかし、それだけにこの曲は歌うにも相当の技術が要るのではないでしょうか。単に歌い上げる曲と違って、リズム感やら、細かい抑揚やら、至るところに気を配らないと成立しなさそうではないですか。

マオ：一旦、波に乗っちゃえばそこからはすぐなんですけどね。そこに行くまでが、確かにちょっと時間かかったかな。ただ、この曲はこのCDのかたちをひとつの完成形としてはいるんですけど、これを台本としながらライヴではまた違った歌い方もして行ける気がしてるんで、そういう点ではこれからに向けても歌ってくのが楽しみな曲でもあります。

——それから、今作には明希さんの書き下ろしで、異国情緒の漂う不思議な楽曲「すぐ傍で」も収録されていますよね。こちらは、どんな経緯で生まれたものだったのでしょうか。

明希：日本ではない、その異国っぽさがある曲を作りたかったんですよね。民族音楽っぽい匂いが欲しかったんです。

——雰囲気としては、若干トルコあたりの古典音楽に近い色合いも感じましたが、明希さんの中で具体的にイメージしていた国や場所はあったのですか？

明希：いや、具体的なものは何も無かったです。どっか遠い異国っていうだけの感覚で、もしかしたらそれはこの地上にも無いとこの可能性もあるかな？くらいの認識でしたね。

“cosmetic”という言葉は着飾られてる姿の象徴。

SID

うと思ってて、それもバックの音として考えるんではなく、メインのテーマになるようなフレーズをバイオリンの音で入れました。そこに、バンドの音が重なってくみたいな作りになってますね。

——とはいえ、ドラムに関して言えば、これはどちらかというとパーカッション的なアプローチが強くありません？

ゆうや：これは凄いいろいろ考えましたよー。この雰囲気を出すには、どうしたら良いかって。ワンコーラス目なんかも、ドラムは叩いてなくてカホーン（南米発祥の打楽器）をやってるんです。あと、コンガに関しては今回プロの奏者の方に叩いてもらってます。

——どうりで、エキゾチックな音になっているわけですね。

ゆうや：最初は、コンガも自分でやるつもりだったんですよ。まぁでも、パーカッションって難しいところもあるじゃないですか。それで、スタジオで「ねぇ、明希どうしたら良いと思う？」って訊いたら、その時には深い時間だったせいもあったのか、明希はもう寝ちゃってて（笑）、Shinjiくんが「こっちはやってもらった方がいいんじゃない」って言ってくれたんです。

Shinji：そう言えば、明希あの時にはもう寝ちゃってたね（笑）

明希：いやいや、それだけ皆を信頼してるってことなんですよ（笑）

——ここは、そういうことにしておきましょう（笑）。一方、バイオリンがメインテーマを担っている中、Shinjiさんがギタリストとしてこの曲の中に入れて行こうと思っていたのは、どんな要素でしたか。

Shinji：明希の作ってきたデモの完成度が高かったんで、僕はそこに添ってやった部分が多いですね。無駄な音は入れず、シンプルにやって行きました。

——故に、ここにはこれだけ風通しの良い空気感が生まれたのでしょうね。ベースの音にしても、こちらは少しセミアコのような質感を感じます。この音は、どんな風に出して行かれたのですか。

明希：使ってる楽器自体は、普通のプレベなんですよ。でも、〝樹〟の質感を感

に作ってます。

——マオさん、この「すぐ傍で」の詞世界はどのように構成して行かれました？

マオ：「cosmetic」とは違って、こっちの詞は音の世界観とは全く別の方向で書いてく、っていうやり方をしました。民族っぽくなってる音に対して、詞は逆に日常的な場面をはめてみたんです。

——その対比が興味深いです。

マオ：多分、聴き手によっていろんなストーリーを想像出来るような曲でもあると思うんで、そこはそれぞれ好き好きに楽しんで欲しいっすね。

——なお、このシングルにはもう1曲、カップリングとしてライヴテイクの「眩暈」（Live from［いちばん好きな場所2010］）も収録されていますが、ライヴといえば何といっても12月11日に控えている、東京ドーム公演［YEAR END CLIMAX 2010～全てのシドへ～］についても触れないわけに行きません。まだ先のこととはいえ、既にあの場所に立った時のことは、皆さんそれぞれイメージ出来ていますか？

ゆうや：まだ出来てはいないですけど、しようとはしてます（笑）

明希：間違いなく、バンドとしての底力が試される場所なんだろうなっていう覚悟はありますけどね。少なくとも、〝初めてやったにしちゃ良かったね〟っていう風には言われないようにしないと。

Shinji：精神的にも、技術的にも、体力的にも、ドームまでにもっと高めておきたいですよね。

マオ：うん、そうだね。夏のさいたまスーパーアリーナでも、ほんと良いライヴを出来たと思うんで、今度はそのさらに上を行きたいです。大事なのは、そこに立つことっていうじゃなくて、そこに立った時にどんだけカッコ良くいられるか、っていうことだから。あの場所に立って、ガッチリ決められた時に初めて自分たちは選ばれた存在になれるんじゃないかなって、そう思ってます。でも、そこに向けて頑張る為には、その前にちょっと休みが欲しいですよね（笑）

Shinji：あ、それ大事（笑）

マオ：秋休み、欲しいなぁ～（と言いな

蝴蝶网
hudie.com

●文教堂チェーンで「シド」バックナンバーフェアー実施中!!

蝴蝶网
hudie.com

Plastic Tree
「テント②」
2010年8月13日(金)日本武道館

13日の金曜日。月に照らされた三度目の武道館。

今年の夏も、彼らはこの場所に還って来た。
Plastic Treeにとって、実に3度目の日本武道館公演となった「テント②」は、13日の金曜日にして仏滅という不吉な日柄をよそに、
彼らならではの秀逸な世界を如実に感じさせる、濃密な空間とあいなったのだ。
天幕の下で巻き起こった、あれやこれや。
それを今回は、開演前に直撃したメンバー4人のコメント共にお送りしよう。

Photography:MASAKAZU KOBAYASHI（SHOXX） Interview:YUKI SUGIE

グレゴリオ暦において、2010年中に〝13日の金曜日〟が訪れるのは、たった1度。暦の巡りによっては、年に何回か訪れるケースも珍しくはないというのだが、今年はとにかく8月だけの出来事だったのである。

そんな、8月13日の金曜日。朝から新聞各紙の誌面上には、Plastic Treeの文字が躍っていた。実はこの前日、彼らは新宿ステーションスクエアにてゲリラライヴを行ない、数千人にものぼるギャラリーを集めた結果、その状態を危険と判断した警察からの要請で、予定曲を残したままその場を後にするという、騒ぎを起こしていたのだ。「正式に告知なんてしてなかったから、やる前は人なんて集まるのかなぁ?って思って。そしたら、意外と凄いことになっちゃって(笑)、びっくりしました。あと、なんか嬉しかったです」(有村竜太朗)

騒動から一夜明けたこの日は、彼らにとって3度目の日本武道館公演「テント②」の当日。本番に向けた準備が進んでいく中、竜太朗は楽屋裏で昨日の出来事についてこんな風に語ってくれた。と同時に、今日についてはこんなことも。

「面白いですよね。13日の金曜日だわ、仏滅だわ、おまけにお盆休みの真っ只中だわ(笑)。でも、今日は自分的には特別な意味がある1日になりそうです。今までが実際そうだったんですけど、〝ここ〟でやることで先の自分が決まってくっていうか。〝ここ〟は、自分にとっていろんなことを確認をする場所なんだと思います。もちろん、自分たちの〝これから〟っていうのも、ライヴで見せられたらなって」(竜太朗)

なるほど。そんな特別な1日だからこそ、この日に限ってはオープニングSEで日頃定番となっているマイブラの例の曲を使わず、この日のためにオリジナル曲「13th,Friday」をあつらえたというわけか。ちなみに、この「13th,Friday」はいわゆるシューゲイザー的な匂いが濃厚な楽曲で、現在は配信を通じて入手することが可能になっているそうだ。

さて。竜太朗が、この日を〝特別な意味がある1日〟と述べた一方で、リーダー・

前日から当日まで。

8月13日

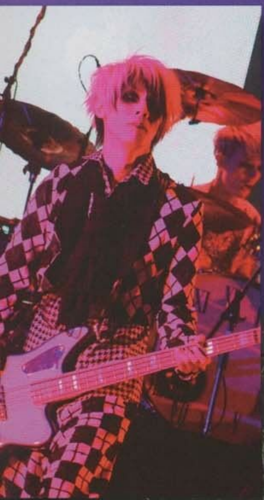
到着!

こちらがメンバー楽屋です!

8月12日

初のゲリラライヴを敢行@新宿ステーションスクエア

蝴蝶网
hudie.com



たと思うんですよ。その点、今回はもうちょっと通常のライヴに近いスタンスになって来ると思います。それと、曲の並びに関しては世界観的に近しいものを固めてるパートもあるんですよね。今回は『ムーンライト――――。』を出した直後でもあるし、秋には［月世界旅行～From the Earth to the Moon～］っていうツアーが控えてるのもあって、裏テーマ的に〝月〟とか〝夜〟っていうのを意識してるんです」（正）

確かに、この日のライヴにおいて1曲目に演奏されていた「水葬。」には、〈月明かりの下〉というフレーズが何回か出て来る。さらに、どこか宇宙を思わせる言葉が並んでいる「1999」に続いての、3曲目「梟」にも〈小さな月〉というフレーズが見受けられる。

以降、何だか懐かしい想いに浸れた「ロケット」や、最新シングル曲「ムーンライト――――。」などをちりばめた流れは実に巧妙なことしきり。特に、アキラがこのライヴのためにリアレンジを施したという「月世界」に関しては、プレイ面での秀逸さも光っており、ちょうど〝各メンバーが波に乗ってきた〟ことが分かるくだりだったと言っていい。

去年の武道館公演時には、正式加入直後ということもあって終始硬くなりがちだった佐藤ケンケンも、このあたりからはシャープさと大胆さを混在させたリズムワークをみせるようになり、頼もしさを感じさせていたほどだ。

「個人的にこれが2回目の武道館とはいえ、今回も当然プレッシャーはありますよ（苦笑）。でも、精一杯このPlastic Treeらしい世界を表現できるように頑張りたいです。あと、これは前回の経験を踏まえてなんですけど、今回はお客さんたちとも、もっとコミュニケーションを取れるライヴにしたいと思ってます」（ケンケン）

ケンケンのその熱い想いは、おそらく本編後半での「ダンスマカブラ」から「メランコリック」にかけての、アッパーな楽曲たちが並ぶ流れの中で、十二分に昇華できたのではないかと思う。けれど、Plastic Treeと

リハーサルは念入りに。

今日の衣裳はこちら!

こうなります!

昨日買ったシールを…

グッズの全貌はこちら!

Tシャツ[illegible]認し

まずは歯を磨いて…

タバコも吸って…

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

ヘ
コ
ン
リウム
ライト――。
浴室で
界」
スマカブラ
ナルキッド
t
ソコリック
カス
一暗転。
e I >
ソごっこ
et talk
e II >
ニ
行き

Plastic Tree

「テント②」

2010年8月13日(金)日本武道館

いうバンドの真髄を最も感じられたのは、さらにその後に本編ラストで「サーカス」と「――暗転。」が続けて演奏された場面なのではなかろうか。

「この4人でバンド組んで、やっと1年ですよ。そんな中、こうして武道館に立たせていただけるというのは大変光栄な話でね。支えていただいてるスタッフの皆様と、ファンの皆様に深く感謝しております。あとはもうギミックに頼らず、地に足を着けて、4人の姿勢と音をそのまんま伝えてくっていうところに尽きるんではないかな、と」(ナカヤマアキラ)

有言実行とは、このことか。開演前にアキラが言っていたその言葉は、ここでまさに現実のものとなった。シーンにバンドは数あれど、この唯一無二にして深遠なる世界を音で具現化できるのは、誰が何と言おうと彼らだけだ。

なお、この後アンコールではクラシカルホラームービーへのオマージュと、洒落っ気の詰まった特別映像の上映や、猫印+ジェイソン軍団(13日の金曜日つながりであろう)が登場しての「ピカソごっこ」など、いくつかのアトラクション的演出も用意はされてはいたものの、最後の最後には、より我々の感性を直撃するような展開が待ち受けていた。

『ライヴでやるの、初めての曲があるんですけど。一緒に届けてやって下さい。天国まで行け、「バンビ」!』

敢えての極上ギターポップに、万感の想いをのせたこの曲は、竜太朗にとっての大切なメモリアルソングだ。これを無事に演奏し終えた時、アキラが竜太朗のほうに歩み寄ってハイタッチを促した場面を目にして、つい胸が熱くなってしまったのは…何も筆者だけではあるまい。

そこからの「記憶行き」は、もはや鳴り響く音の渦と、伝わってくる歌詞、それらによって揺り動かされる感情の波に翻弄されるままで、ふと気が付けば「テント②」は終焉を迎えていた。

だが。たとえ、〈名残の月〉が白んだ空の彼方に消えてしまったのだとしても、月は何度でも満ち欠けを繰り返す。「月世界旅行 ~From the Earth to the Moon~」の始まる秋の夜長にこそ、月は煌々

スタート!

笑顔のオトコ

余裕のオトコ②

余裕のオトコ①

ジェイソン軍団とのリハはさらに念入りに。

そろそろお客さんも会場入り…

蝴蝶网
hudie.com

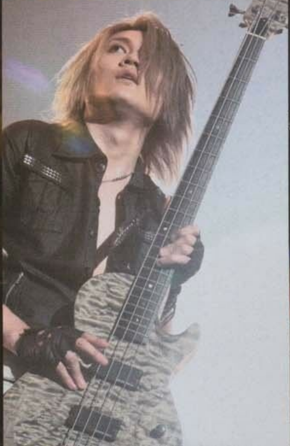
Live at 日本武道館 2010.8.

NIGHTMARE 10th ANNIVERSARY SPEC
ACT VOL.2『re:START of TELL[ALL]ISM
と題し、7月10日三郷市文化会館大ホールより
スタートしたナイトメアの2010年夏ツアーが、
8月25日日本武道館公演にてファイナルを迎えた
自身3度目となった今回の公演では、今までにも
増したライヴ・バンドとしての貫禄を大いに
見せつけてくれた彼等。
今回は、そんな日本武道館公演の
模様をお伝えいたします。

Photography:MASAKAZU KOBAYASHI(SHOXX)
Report:YUKA SUGIE

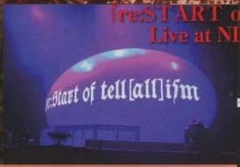
NIGHTMARE

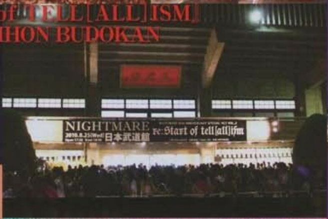
NIGHTMARE 10th ANNIVERSARY SPECIAL ACT VOL.2
『re:START of TELL〔ALL〕ISM』

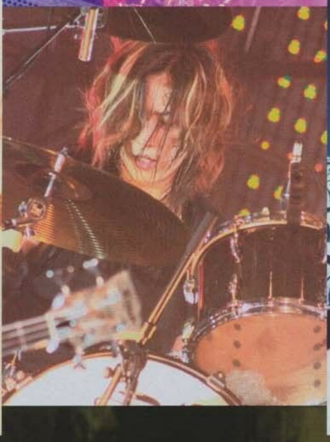


リスト】
ドラ
NTASIA
(少年テロリスト)
inal Baby
recur
QUERADE
ブギー
r
ら
ssage
uma
n you do it?
TY
YS BE SUSPICIOUS~
ャイアニズム罰
neo
TE
ャイアニズム死
ャイアニズム天
線上のトラジェディ
y me to the Zenith
e LAST SHOW
東乱心天国
e FOOL
ジャイアニズム惨
tar[K]night

NIGHTMARE 10th ANNIVERSARY SPECIAL ACT VOL.2
『re:START of TELL[ALL]ISM』
Live at NIHON BUDOKAN







世の中には確実に〝選ばれた者〟が存在するが、10年の歴史の中で3度も日本武道館に立てるのならば、ナイトメアもまた、〝選ばれた者〟であると言える。そしてその事実は、一過性の熱に左右されない存在理由を、彼らが示し続けた証でもあるだろう。

さて、1月のさいたまスーパーアリーナ公演を皮切りに、上半期は歴代「ジャイアニズム」シリーズを主軸にした激しく突き抜けるようなライヴを重ねてきた彼ら。だが、この日は異種の趣を呈していた。

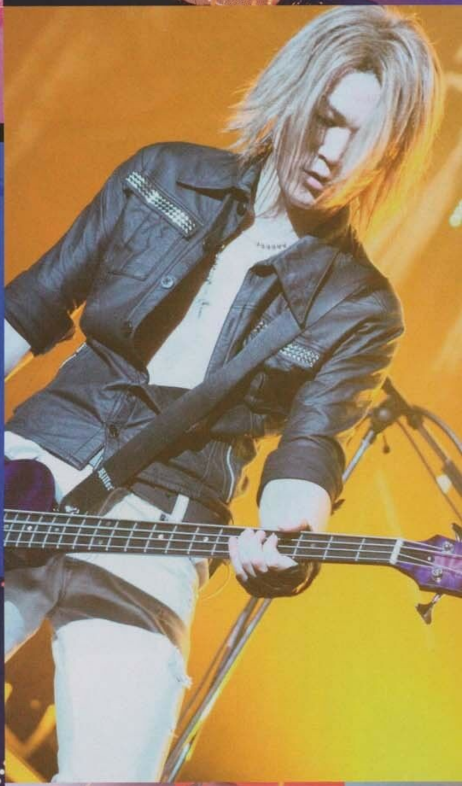
まず驚かされたのは、オープニング。SEが期待感を高める中、ステージ中央で、白い楕円形の風船のようなものが、徐々に大きさを増しているではないか。ひょっとして⁉ と思った瞬間、派手な特効と共に風船が割れ、中から姿を現したのはメンバー。まるで孵化のようにも見えたそれは、ツアータイトルに冠した〝re:START〟を、明快に表現したものだったわけだ。さらに、登場後、いつもならすぐに演奏へと移行するところを、YOMI&柩、咲人&Ni~yaの二手に分かれ、ステージ左右に伸びる花道へと悠然と進み、まさかの展開に沸く場内に着火。そんな中、素早くドラムセットに収まったRUKAのマイペースぶりも含め、一連のアプローチは実に斬新に映った。

その上で、「パンドラ」でどっしりと、じわじわと熱を高め、「a:FANTASIA」の鋭くソリッドな音像、メンバーの攻めなパフォーマンスが続けば、オーディエンスも盛り上がらないわけがない。また、歌詞に〝自称少年テロリスト〟という言葉を含めた「a:FANTASIA」から、間髪入れずに「自傷(少年テロリスト)」をたたみかけるあたり、実に心憎い仕掛けをするものだと、思わず感嘆。

中盤では、大きな会場で映えることがわかったバラード「Rover」、トーチが灯る中、劇的な展開で惹き込んだ「まほら」、メロウな「message」と、新旧の聴かせる曲で見せ場を作った。かと思え

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com



ソロ回しに〝この期に及んでまだ魅せるか!?〟とさえ思わされた「ジャイアニズム死」、昂ぶるオーディエンスの声も驚くほど響いた「ジャイアニズム天」と、ステージに立つ側も観る側も、両者最後まで気概を見せ続けた。

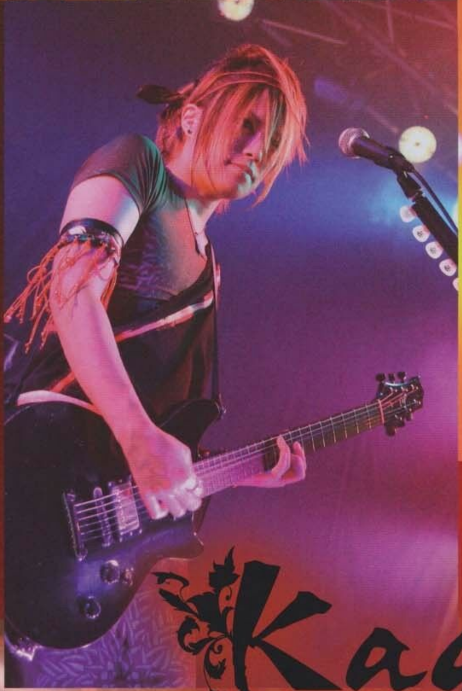
アンコールでは、新曲「D線上のトラジェディ」も披露。その疾走感とサビの高揚感、クラシックテイストも匂わせた咲人のギターソロは、また新たな可能性をもたらしそうだ。軽やかさと蒼さを湛えた「Fly me to the Zenith」は初期の曲だが、そこに当時から兼ね備えていた透明感やポップ感を見ることもできた。

ダブルアンコール、締め括ったのは、前回の武道館公演でオープニングを飾った「Star[K]night」。いつでもクライマックスを演出してきた曲で聴けたオーディエンスの大合唱が、過去への感謝と未来への約束のように聴こえたのは、筆者だけだろうか。

後で聞けば、この日のYOMIは、ノドの調子が芳しくなかったのだとか。確かに、曲によっては高音部で多少キッそうに感じたが、全24曲、終始フロントマンとしての役目を頼もしく果たしたそのプロ根性は、尊敬に値する。そんなYOMIを気遣ったのか否か、柩、咲人、Ni~yaがよく動いているのも印象的だった。最近のライヴでは、自分の立ち位置を基本にしていたように記憶しているが、花道を存分に使ったり、時に向き合って演奏したり…そうした躍動感が、華やかさとなってショウを彩っていたようにも思う。

そして。10周年を総括する動向も見えてきた。10月20日に、再録含め24曲！を収録したベスト盤「Historical ~ The highest NIGHTMARE ~」をリリース。「D線上のトラジェディ」は、そこに収録される。そのリリースに伴い、10月22日からは全国ツアーを開催。注目のファイナルステージは、12月25日の幕張メッセとなる。選ばれた彼らなら、きっと10年の輝きとさらなる刺激を体感させてほしい。

(問)<伊達漢>〒162-0831 東京都新宿区横寺町32TR神楽坂Bld.　TEL:03-3268-7213(受付時間・平日12:00~18:00)　dateotoko@nightmare-web.com



和の美意識にこだわり続けること、はや10年。日本的情緒と大和魂を重んじつつ、ロックバンドでありながら、どんな時でも一貫して雅な世界を提示して来たKagrra、は、このシーンの中でも実に希有な存在だと言える。

Kagrra、が歩んで来た道程は、ただ滑らかなだけのものではなく、時には紆余曲折や、いくつかの試練もあったように思うが、それでもその全てを乗り越えながら、彼らはここまで10年という目を彩るべく、今回行なわれたのが「行脚 百鬼夜行〜陰〜」だ。毎回のライヴに妖怪の名を冠したサブタイトルが付けられていたり（東京公演のサブタイトルは〝豆腐小僧の怪〟）、各地でそれにちなんだ妖怪ストラップがグッズとして販売されたりと、何かと遊び心を感じさせる趣向が凝らされていたのは、やはりメモリアル要素＋プレミアム要素の強いツアーであったからに違いない。

ちょうど、旅の折り返し地点あたりにトリスト的にも冒頭から懐かしい「鬼遊の唄」や「魔笛」が惜しげなくも並べられていて、集った観衆も普段のライヴとは少し違った展開に、最初はやや面を食らったような雰囲気を見せながらも、結局はとても楽しそうに湧いていた。

また、企画性の強いライヴならではという面においては、今回本編中盤に〝戯曲シリーズ〟が固められていたくだりも見どころのひとつだと言えた。「戯曲 通りゃんせ」、「戯曲 華一匁」、「戯曲 かご

Kagrra、

10th Anniversary

行脚 百鬼夜行〜陰〜」

2010.9.3 SHIBUYA duo MUSIC EXCHANGE

蝴蝶网
hudie.com

日本にしかない文化。日本にしかない感覚。日本にしかない音楽。結成以来、和の心を持ち続けて来たKagrra,は、それら全てのファクターを昇華したうえで、ここまで10年の歳月をかけて自らの理想とするバンド像というものを追求して来た。結成10周年の節目で行なわれた[行脚　百鬼夜行～陰～]を経て、彼らが向かう先。そこにはきっと、陽報が待ち受けているに違いない。

Photography:MASAKAZU KOBAYASHI
Report:YUKI SUGIE

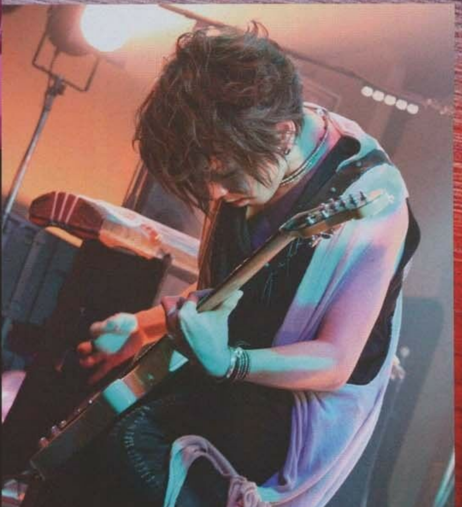
蝴蝶网
hudie.com

それとは反対に、最新シングル曲「白ゐ嘘」など、Kagrra,には洗練されたポップセンスを持つ楽曲も数多くあるが、いわば〃陰〃と〃陽〃とも言うべきその両極の要素を表現可能にしているのは、ほかならぬ5人が持つアーティストとしてのスキルと経験値で、今ライヴでも〃さすがは10年選手〃という貫録を、彼らは随所で感じさせてくれていた。

コンパクトなドラムセットの中にいながらも、スケール感と存在感のあるプレイを聴かせる白水。動きのあるフレージングを身上とし、さらりとテクニカルなことを決めてしまう女雅。きめ細やかな感性をもって、ギターと箏を自在に操る真。華のあるギタリストらしく、10年ずっと上手の領域を担ってきた楓弥。歌い手という以上に、演じ手、伝え手としての責務を果たしてきた一志。彼ら5人が揃って、初めて奏でられるKagrra,の音は、彼らにとってのレゾンデートルでもある。

ところで。今ライヴにおいては、アンコールにてちょっとした〃お遊び〃も用意されていたのだが、なんとここでの彼らは本編でも演奏していた「賽」を、パートチェンジにて再演奏。これも、大変レアな場面とあいなった（ポジションは日によってシャッフルされるそうだ）。

さらに、レア繋がりでいけば、今回のライヴではこの後「刹那る言葉」が、約7年ぶりに演奏されるというサプライズも。あまりに予測外でこれにはファンた



前提があったからであろう。

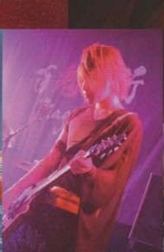
『今回のツアーは、裏テーマとしてメンバー全員の地元を廻って行くっていうのもあるんですけど、こうしてあっちこっちに行くと、やっぱりいろんなことを思い出しますね。こうして10年間、この5人でやって来られたということが、とても感慨深いです。たぶん、俺たちだけだったら、どっかで挫けてしまって途中でヤメてたかもしれません。10年経った今もこうしていられるのは、みんなのおかげだと思ってます。何度言っても足りないくらいなんですけど、ここでまた言わせてください。どうもありがとう』

5人が深々と礼をした後、ここで最後に場内へと放たれたのは「桜舞い散るあの丘で」。日本の象徴である桜の樹が、時を超えていつまでも人々に愛されていくように、Kagrra,とKagrra,の生み出す音楽が、これからもっと末長く愛されていくこと。それをこの機に、改めて心から願いたい。

【set list】

1.鬼遊の唄	9.戯曲 かごめ謡	17.愁
2.魔笛	10.雫	
3.憶談	11.真・百鬼夜行	
4.月に斑雲 紫陽花に雨	12.賽	<encore>
5.戯園	13.神風	18.賽（パートチェンジ）
6.鵺の哭く頃...	14.白ゐ嘘	19.刹那る言葉
7.戯曲 通りゃんせ	15.恋綴魂	20.奇祭
8.戯曲 華一匁	16.在りし日の微傷	21.桜舞い散るあの丘で

5人でやって来られた10年間。
みんなで作ってきた10年間。



蝴蝶网
hudie.com

オールカラー
400ページ
A4ワイド版
(228×297mm)
定価:7,000円
(税込/送料1冊につき600円)

2次受付、9月21日より開始!!

0年、結成10周年を迎えたKagrra,10周年YEARを彩る
agrra,FiLE』の発売が決定しました!!
00年9月号(Vol.91)での初登場より現在までに
OXXに掲載された全記事をファイル。
別企画として、SHOXX掲載のメンバーコラム
志『徒然日記』、女雅『女雅ッス!』)を一挙掲載。さらに、
]『SHOXX bis』『SHOCK WAVE』に掲載された記事も同時掲載。
ろん、新規撮り下ろし美麗フォトも掲載!!

【受付期間】
● 第2次:2010年9月21日~10月29日締切
(消印有効)※特典は付きません。
≪弊社通信販売のみの、期間限定販売
商品になります≫

【商品発送】
● 第2次受付分:2010年11月中旬より順次

み方法】
替でのお申し込み:お近くの郵便局に備え付けの郵便振替用紙に
を記入の上、定価に送料を加えた代金
定価7,000円+送料600円=7,600円)をお振込み下さい。

番号:00180-6-549493
音楽専科社
rra,FiLE」
名:あなたの住所(マンション/アパート名、部屋番号を正確に。
方は現住所の他に移転先の住所も記入して下さい)、氏名、電話番号を忘れずにご記入下さい。

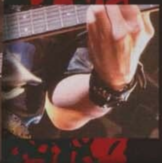
、携帯電話でのお申し込み:PC(パソコン)、携帯電話(一部対応できない機種もあります)からもお申し込みできます。
お近くのセブンイレブン・ローソン・ファミリーマート各店でできます。商品は宅配便にてご自宅に届きます。

申し込み>音楽専科社オフィシャルHP→http://www.ongakusenkasha.co.jp/
ドレス→http://www.ongakusenkasha.co.jp/shoxx/kagrra/index.html
らのお申し込み>専用アドレス→http://www.ongakusenkasha.co.jp/shoxx/kagrra/index_mob.html
R コードにアクセスの上、お申し込み下さい。

制作 / 発行:㈱音楽専科社
〒104-8228 東京都中央区銀座 6-2-3
Daiwa銀座アネックス 5F
TEL:03-3574-0201 FAX:03-3574-8548
http://www.ongakusenkasha.co.jp

振込取扱票

口座番号: 00180-6-549493
金額: 7600
加入者名: ㈱音楽専科社
通信欄: 「Kagrra, FiLE」 1部
支払人住所氏名: (郵便番号　) あなたの住所、氏名、電話番号 (電話番号　-　-)



Alice Nine

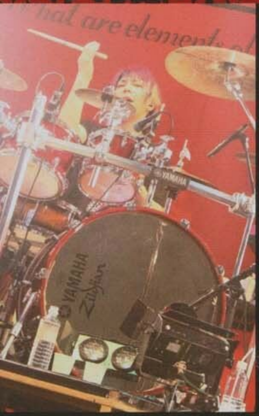
FLASH LIGHT from the past

Live at 品川ステラボール 2010.8.24

先日、幕張メッセで行なわれた夏フェス『JACK IN THE BOX』に出演したAlice Nine。ニューシングル「閃光」を演奏の際には、実に堂々たるステージングで多くの観客を魅了した。バンドとして急速に成長していく彼ら、それは、Live Tour10『FLASH LIGHT from the past』が大きく影響しているのかもしれない。ここでは、記念すべき日となった8月24日の公演の様子をレポートする。

Photography:MASAKAZU KOBAYASHI(SHOXX)
Report:ERI MIZUTANI

蝴蝶网
hudie.com

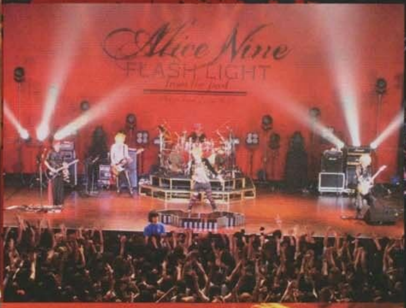


編集部から手渡された1枚のCD。再生してみると、他のバンドにはない、独特の音色と歌声が流れてきた。ジワジワと効いてくるこの感じ。何だろう、一言では言い表せないが、病み付きになりそうなバンドだと思ったことを今でもはっきりと覚えている。すぐさまオーディオから取り出し、表に書いてあったタイトルを見ると、そこには〝アリス九號.「名前は、未だ無ひ。」〟と記されていた。

あれから6年——。アリス九號.は、Alice Nineと表記を変え、日本武道館でのステージも決定したビッグバンドへと成長を遂げた。余談だが、近所の中学校に通う男子生徒が〝Alice Nine〟と書いてある通学カバンを持って歩いているのを見た。手書きなのだろう、デカデカと書かれたその文字を誇らしげに掲げ、笑顔で曲を口ずさみながら登校していく様子は実に微笑ましく、と同時に、身近なところからAlice Nineの知名度の高さを感じたのだった。この子、実際に5人が演奏している姿を見たら、感激で腰を抜かしてしまうのではないだろうか、そんなことを考えながら、Alice Nine Live Tour10『FLASH LIGHT from the past』の品川ステラボール公演に足を運んだ。

バンド結成6周年を祝う今日、外には多くの若者たちが行列をなしていた。チケットを握り締め、炎天下の中、開場するのを今か今かと待ち望んでいる。扉が開き、たくさんの人の波がフロアへと流れ込むと、しばらくして場内が真っ暗に。すると、誰かが声をかけたわけでもないのに、絶妙のタイミングで一斉に手拍子が始まった。観客の鳴らすその音に合わせメンバーが登場すると、まずは楽器陣によるセッションがスタート。Naoのドラムセットを弦楽器陣がぐるりと囲み、ロックバンドならではの勢いを、冒頭からたっぷりと見せ付けていく。そこから、将が加わり「ヴェルヴェット」へと切り替わると、艶のある歌声に楽器陣の音色がスリリングに絡みついていった。ヒロトのoi-oi-コールに合わせ、〝全員でとばしていくか!〟と煽れば、フロアのテンションも右肩上がりに。

そうともなれば、後は余計なことを考えずに飛ばしていくだけ。ニューシ



【セットリスト】1.ヴェルヴェット 2.Le Grand Bleu 3.www. 4.九龍-NINE HEADS RODEO SHOW- 5.ハイカラなる輪舞曲 6.百花繚乱 7.ROSARIO 8.タイムマシン 9.NUMBER SIX. 10.華【hae・na】 11.DEAD SCHOOL SCREAMING 12.RAINBOWS 13.RED CARPET GOING ON 14.ブループラネット EN1.H.A.N.A.B.I EN2.閃光 EN3.極彩極色極道歌〈G3〉 EN4.春夏秋冬 EN5.Waterfall EN6.the beautiful name

SHOW-」を演奏すると、〝品川、元気か！今日は、ハッピーバースデーA[illegible]Nineってことで、こんなにた[illegible]さんの人が集まってくれて嬉しいです〟と[illegible]挨[illegible]んだ。もちろん、この喜びは曲に表れることに。全身で曲を表現する虎[illegible]的だった「ハイカラなる輪舞曲」[illegible]息が見事に合った「ROSARIO」[illegible]どれもが今日という日には新鮮に映った。

しかし、これだけで満足するの[illegible]早い。何と、この後すぐに懐かし[illegible]ノ曲が演奏されたのだ。〝ここに集[illegible]ってくれた愛すべき皆さんに、この曲[illegible]ます〟そう言って始まったの[illegible]前[illegible]未だ無ひ。」収録曲の「タイムマ[illegible]」。不思議な空気感はそのままに、前よりもずっと厚みが増した音は、バンドの歴史を感じさせる。沙我とNao、虎とヒロト、将と観客、お互いが顔を見合わせながら演奏し、ともに歌う。そのときの表情は、当時と何も変わっていなかった。

〝楽しんでますか？（歓声を聞いて）いいね！思い起こせば、渋谷O-Crestでセッションバンドから本格バンドになって6年、俺たちが成長できているのもみんなのおかげです…〟辺りを見渡し、感慨深そうに昔を懐かしむ将。拍手と歓声がさらに高まる。〝アゲていこうぜ！〟その合図とともに後半戦へ。もちろん、盛り上がったのは言うまでもない。ラストの「ブループラネット」まで、幾度となく、激アツの場面が展開されていったのだった。

アンコールでは、メンバー全員がこの6年間について語りつつ、新曲の「閃光」を披露。既に演奏されていることもあり、観客のほとんどがノリをつかんでいるようだ。間違いなく、今までの楽曲の中で1番かっこいい。そして、「the beautiful name」でライヴを締めくくると、こんな発言が飛び出した。〝武道館までには何倍も強くなって帰ってくるんで、待っていて下さい！〟そこには何のためらいもなかった。6周年を迎えて見えたもの、それは武道館ライヴで花開くはずだ。

2011年1月6日、AliceNineは誰もが認めるロックバンドへと変貌を遂げるに違いない。

http://www.pscompany.co.jp/alicenine/

蝴蝶网 hudie.com

L.M.C

Go To The 5th CRAZY!!!!!

“5周年”へ向けての衝動…!?

なるセレブレーションは、もう始まっているようだ。今秋、LM.Cは来年に控えている慶事に向けて“Go to the 5th Anniversary”を発動させることとなった。まずは、10月27日に発表されるシングル『LET ME' CRAZY!!』と、11月17日の渋谷AX公演で、彼らはあらたに怪気炎をあげ始めるはずだ。LM.Cにとっての輝かしき日々は、ここからきっと加速していく。

Photography:SUSUMU MIYAWAKI
Interview:YUKI SUGIE

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网 hudie.com

今夏のLM.Cは前半に渋谷C.C.Lemonホールでのワンマン・ライヴ［We're Just WONDERHOLIC!!］を行なった後、基本的にはずっと制作活動に入っていたそうですね。

Aiji：夏どころか、5月にツアー終わってから制作自体は今に至るまでずっと続いてる感じですよ。レコーディング自体は、夏のC.C.Lemonホールが終わってからでしたけど、曲作りとか、プリプロとかはずっとしてたんで。

——その際には、やはり"アルバム『WONDERFUL WONDERHOLIC』以降のLM.C"というものを、どこかでは意識していたのですか？

maya：それが、『WONDERFUL WONDERHOLIC』の次に行こう、みたいなところは、今回あんまり持ってないんですよね。気持ち的な切り替えポイントっていう意味では、それこそあのアルバムを作ってる時点ですでにそこは通過してたっていうか。

——そういえば、mayaくんは以前のインタビューで『WONDERFUL〜』を作っている最中に、"自分の中で宇宙が爆発した瞬間が何度かあった"的なことを発言していましったけ。

maya：そうそう、あの時はなんか凄い不審がられましたけど（笑）。でも結局、あそこでスイッチ入って、そこからの勢いが今でもずっと続いてる感じなんですよ。次に出すシングルの『LET ME' CRAZY!!』も、確実にその流れの中にありますね。

——今回、いちはやくその『LET ME' CRAZY!!』を聴かせていただきましたけれども、印象としては音がよりクリアでヴィヴィッドになっているように感じられました。音数で攻めるというよりは、限られた音の存在感を強めてあるように聴こえるのですよね。

Aiji：あぁ、そうっすね。まぁ、これでも実際の音数はそれなりに多いんです（苦笑）。ただ、今回の場合はそのへんをmayaとも話し合って、かなり削っていった上でこのかたちになってるのは確かです。

maya：実は、今回この曲の他にもシングル候補として家で作ってた曲はあったんですよ。むしろ、そっちのほうが誰がどこから聴いてもドンズバで"LM.Cらしいでしょ"ってなる曲だったんですけど、なんかそれだと"面白くねぇーな"って思っちゃったんです。とりあえずいかにも"らしい"のは後で出したっていいわけだし、今このタイミングではこっちのほうが新しいことをやれそうで、そういう姿勢のほうが逆にLM.Cっぽい気がしたんです。

——そういうことでしたか。ちなみに、今回の表題曲『LET ME' CRAZY!!』は、『Loud_Mucker_Complex.』以来久々の、"頭文字をとるとLM.C"チューンになりますよね。

Aiji：あ。そこ、気付いちゃいましたか。

maya：だからねぇ、そういうとこにも顕れてるんですよ。この、今の気持ちっていうのが。なんか、感覚的に言うと『☆Rock the LM.C☆』を作ってた時とか、不思議とあの頃にどっか近いものもあったしなぁ。

——なるほど。では、その詳細についてはまた来月詳しく伺いたいと思います。何しろ、シングルの発売は10月ですのでね。核心に迫るのは、もう少し後にしておきましょう。

Aiji：いやー、引っ張りますねぇ（笑）。

——さて。それでは、ここからは少し今夏の思い出話でもしていただきましょうかね。制作続きだったとはいえ、7月末にはシンガポールでのイベントに参戦されていたではないですか。あちらは、どんな様子だったのでしょう。

Aiji：最高でした（笑）。ライヴも良かったんだけど、とにかくシンガポール自体が凄い良かったです。

maya：初めて行ったんですけど、あの街の雰囲気が今まで経験したことない感じで面白かったですね。

Aiji：分かる。アジアなんだけど、アジアっぽくない感じなんだよね。ホント全てが楽しくて、今年はあれがちょっと良い夏休みになったよな。

maya：うん、そうですねぇ。

Aiji：別に何をしたっていうわけでもなくて、オフもほとんどなかったし、ライヴやって、取材受けて…くらいの話だったんですけど、いちいち全てが楽しかったんですよ。

——ライヴ自体も、今回は少し特殊なシチュエーションで行なったのだそうで。

Aiji：今年向こうに出来たばっかりの、ユニバーサルスタジオ・シンガポールでやりました。半野外みたいな感じで、後ろには『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の雷が落ちてくる建物あるじゃないですか。あれがあって。

——あぁ、時計台がある市庁舎のことですね。

maya：そこの前にステージを作ったみたいになってて、だいたい2500人くらいの前でやった感じですね。

Aiji：リアクションも凄い良かったし、ホント楽しかったですよ。そのライヴがとにかく良かったから、シンガポールの子たちの生の声が聞きたくなっちゃって、それで俺Twitter始めたくらいですもん。

——なお、シンガポールではユニバーサルスタジオ以外にも、今春からベイエリアにカジノやらハードロックホテルやらが続々とオープンしましたよね。そちらに行く時間はなかったのですか？

maya：ちょっとだけ、メンバーたちと一緒にカジノには行きました。あれは初体験でしたね。

——念のため、伺っておこうと思うのですが、ギャンブル的には勝てました？

maya：全然。20万以上サクッと。途中で、ディーラーのお姉さんに"もうヤメたほうがいいんじゃない？"って言われたくらいです（笑）。

——それはヒドい（笑）。

maya：まぁ、旅先のことなんでね。スケジュール的に合間を見て行ったっていうのもあったから、あんまり時間もなかったし、最後は"よし、この残りを全部賭けよう"ってなって、そのまま潔く散りましたよ。あぁなると、もう気分的にはスッキリしますね。これで心置きなく帰れる、って思いました（笑）。

——Aijiくんは、その場には一緒にいなかったのですか？

Aiji：俺はカジノには一切行ってなくて、観光的にはライヴの前にマーライオンを観に行ったくらいっすね（笑）。

——とかく世界三大がっかり観光スポットに挙げられることも多いマーライオンですが（笑）、実際にご覧になっていかがでしたか。

Aiji：思ってたより迫力ありましたよ。だって、ちゃんと吐いてましたもん（笑）。あそこまで勢い良く立派に吐かれてたら、行った甲斐もあるってもんです。満足しました。

——そんな夏を経て、ここから秋に向けてのLM.Cは前述のシングル『LET ME' CRAZY!!』を出し、11月17日には渋谷AXでのライヴも控えています。さらに、来年のことまで視野に入れれば、4月2日の日比谷野音ワンマン［〜Go to the 5th Anniversary〜 LM.C LIVE 2011 YAON de FEVER FEVER!!］まですでに予定が発表されているわけで、何だかとても前のめりモードではありませんか（笑）。

Aiji：ちょっと、まだ夏なのに来年の春のことかよ！っていうのはあるんですけど（笑）、決まった以上は発表しておきたかったんですよ。

——それにしても、いよいよLM.Cが"Go to the 5th Anniversary"ですか。そこに向けての気運は、今からもう高まっていたりします？

Aiji：そこは正直、まだそんなでもないです（笑）。何しろ、ホントの意味での5th Anniversaryっていうことでいったら、まだ1年数ヶ月後のことですからね（笑）。

maya：あれ、先輩そんな感じなんですか？ 個人的には、すでにもう相当アガってますよ??

Aiji：マジで!? 早っ！（笑）

maya：要は文化祭とおんなじですよ。中1の段階で、中3の文化祭目指してこうぜ！みたいな（笑）。

Aiji：それさ、先走りすぎて途中で息切れすんじゃないの？

maya：えーと、その可能性も、なくはないです（笑）。でも、今まで自分の人生の中で、こんな風に何か目標に向かって何かするって全くなかったんで、ここからの"Go to the 5th Anniversary"は大事にしていきたいんですよ。

Aiji：5周年そのものを祝うっていう以上に、そこに向けての道のりを、ファンのみんなとテンション上げながら楽しんでいくっていう、なんかそんな日々にしていけたらいいよね。

SuG

Heavy Positive Rock

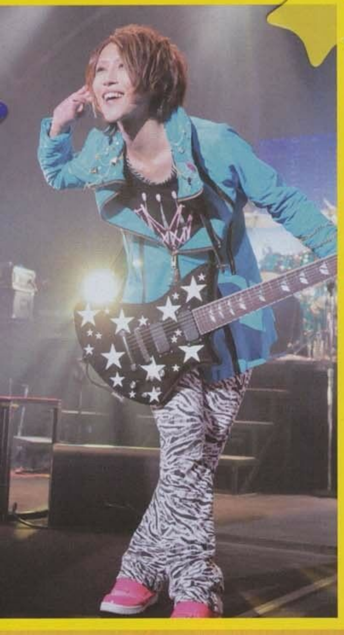
蝴蝶网
hudie.com

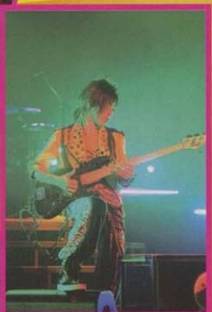
ive at 渋谷C.C.Lemon Hall 2010.8.29

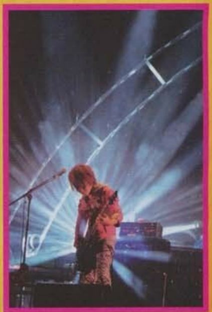
身初のホール・ライヴともなった『Sparkling Hot Shot☆～着火せよ!! 大胆エモーョン～』。初のホールでのワンマン・ライヴと言う事もあり、いつもとは勝手の違う間に、呑まれてしまうのでは…と多少なりと心配をしたわけだが…そこは我等がG！　そんな心配は一切無用の、笑顔が会場中に弾けまくった、まさにタイトルりの熱いステージを繰り広げてくれた。SuG、やはりただ者ではなかった！

ography:SAWAE HARA
view: YUKA SUGIE

Sparkling Hot Shot☆ ～着火せよ!! 大胆エモーション～



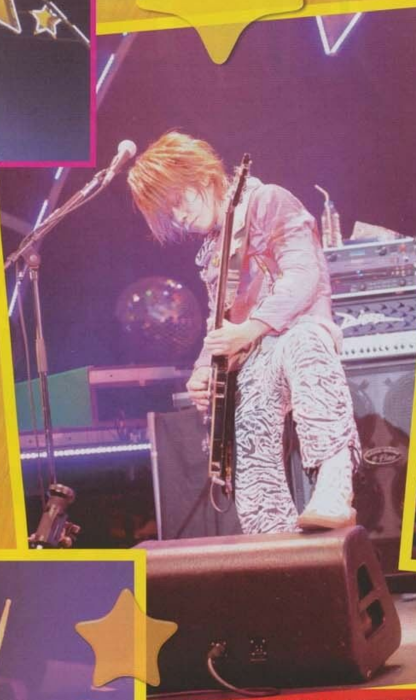




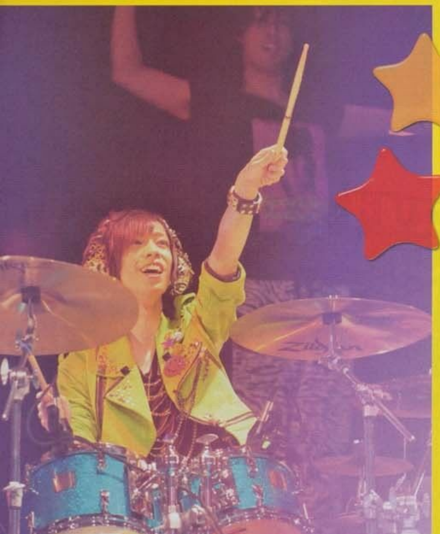
転んでもタダでは起きないどころか、予想もしなかったようなパンチで意表を突いてくるのがSuGというバンドだと、勝手に思っているわけだが。見事渋谷C.C.Lemonホールをソールドアウトさせ、なおかつ〝SuGらしい好き放題〟をやり遂げたわけだから、何だかんだ言って、感慨深くはある。下手から上手までドラムセットの奥をぐるっと半周するようにカラフルな階段を設置したステージ。「millions orchestra」をSEに、まずその階段に登場したのは、4人のダンサーだ。そこに楽器陣が登場、はて、武瑠は!?と思うと…一瞬暗転した後、ライトアップされた階段の最上部に、武瑠がまるでイリュージョンのように現われたではないか。のっけからテンションマックスな「小悪魔Sparkring」で〝盛り上がっていこうぜ、渋谷!〟そう叫ぶと、masato・yuji・Chiyuと共にステージ際ギリギリまで早速進攻。ステージ上部にはいつの間にか星型が連なる電飾も登場、ダンサーも盛り上げ役となって、ハデハデポップに圧倒してくる。続く「武士道-bushido-FREAKY」では、イントロで突如Chiyuが日本刀を振りかざし、yujiに斬りかかる!? というビックリパフォーマンスも飛び出せば、ヘヴィな音像に身を任せるフロアも、激しく波打っていく。その勢いのまま突入した「LOVE SCREAM PARTY」では、フロント4人がステージを右に左に駆け巡る大胆エモーションで、3曲目で着火しすぎじゃない!? なんてハラハラするほど。

〝今回のテーマは、【みんなを楽しませる】ことだから〟という武瑠の言葉通り、強引なまでにオーディエンスを巻き込んでいった「Vi-Vi-Vi」、5人のだるまさんが転んだ的な動きにどよめきが起こった「16bit HERO 2」と、掟破りな振る舞いで〝楽しい〟を増殖させていく。

そうかと思わせて、「夏音-kanon-」「薫」といったメロウなナンバーでは丁寧に叙情を紡いで見せるのだから、ホントに彼らは読み切れない。そのギャップは、ある意味卑怯だ、と思うほどだ。



蝴蝶网
hudie.com



【SET LIST】1. 小悪魔 Sparkling　2. 武士道 -bushido-FREAKY　3.LOVE SCREAM PARTY　4.Vi-Vi-Vi　5.16bit HERO　6. 輪廻せんちめんたるギャング　7. 夏音 -Kanon-　8. 薫　9.VAMP VAMP VAMP　10.P!NK masquerade.　11.L.E.D Ghosty　12.don' t stop da muzic　13.heavy+electro+dance+punk　14.CALL NUMBER　15.little lover boy　16.Block Party MonstAr　17.gr8 story　EN1.Five Starz ～五枚目俳優～　EN2.R.P.G. ～ Rockin' Playing Game　EN3. 俺式 Continue　EN4.39GalaxyZ

るプレーヤー）でDJになりきり、武瑠のヴォイスパーカッション、shinpeiのビートとコラボレーションするという新しいチャレンジも。SuGならではの発想は、やっぱり面白い。

「VAMP VAMP VAMP」「P!NK masquerade.」「L.E.D Ghosty」では武瑠とダンサーとのフォーメーションダンスも見せ場となったが、難易度の高いアニメーションダンスも交えての動きに、武瑠という天才肌の努力もチラリ。〝やりたいことをやる〟と言うと一見ラクなように思えるが、求められる技量やレベルがグンと高まるのが、実際のところ。だが、それを乗り越えるのが、彼らだ。ラウドでミクスチャーな新曲「don't stop da muzic」からは、まさに怒涛の連打。「CALL NUMBER」ではホールながらまさかのモッシュ、ぐるぐるターンに地面が揺れる、揺れる。その上で、〝普段笑えねーやつも笑ってるか!? 全員でいこうぜ!〟と武瑠が叫んでのラストは、「gr8 story」。ステージにも客席にも、最高の笑顔が咲いた。

アンコールでは、各自自作キャラになりきっての物販コマーシャル映像で笑激!? を与え、さらに「Five Starz～5枚目俳優～」でダメ押し。〝C.C.Lemonホールでこんな文化祭みたいなことができるなんて〟と武瑠が揶揄したが、5人が横1列に並んでのラップパフォーマンスもまた、限界的に卑怯だった。〝ヴィジュアル系だろうが、ロックだろうが、ポップだろうが、ダンスだろうが、精一杯楽しませて、みんなに力を分け与えられるのがバンドなんじゃないかなって思うから〟

武瑠は、そうも語った。活動フィールドがメジャーであれ、ステージが渋谷C.C.Lemonであれ、この先どれだけ大きな試練が待っていようと、彼らの破天荒は、誰にも止めようがないだろう。

11月には初のDVDシングル「無常事件幸福論」をリリースし、12月には東名阪スタンディングツアー〝Crazy"LIVE"coaster〟を行なう彼ら。次は一体どんなことになるのか そんな想いを巡らせることさえ、病みつきになりそうだ。

蝴蝶网 hudie.com

俺には、歌しかねぇがっだ

“俺には、やっぱす歌しかねぇがっだ”。昨年、11月5日に日本武道館で行われた『トゥアー2009 腐況の風~仙台貨物FOREVER~』にて、多くのファンに惜しまれながら、無期限の活動休止に入った仙台貨物。あれから約1年…。遂に、あの漢がステージへと戻ってくる!!!!! 沈黙を守っていたこの一年。そして、今後の展望を、本誌読者へ向けて語ってくれたイガグリ千葉。彼の熱い想いをこのインタビューから感じ取って貰いたい。そして、10月1日には、是非渋谷O-EASTへと足を運んで欲しい。

Come back CHIBA!!!!!!

イガグリ千葉

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

——昨年の倒産以来、千葉さんは一体どうされていたわけですか。

「千葉さんはね、まずは仙台貨物を復活させだい！って思っでだわげ。だがら、メンバーはバラバラぬなっですまっだけど、とりあえずどうしても復活すたくて、いろいろ頑張っでだのよ！　最初は家ぬ引きこもってだげど、コンビニでアルバイトすたり、飲食店でバイトしだり、仙台のCD屋さんでも働いだりとが。でもね、結局全部クビぬなっちゃっでよ」

——熱が入りすぎちゃいました？

「んだのんだの！　一生懸命やっでだんだげど、それが裏目ぬ出だっでいうがな。頑張りが空回りしちゃっだんだわ。接客の仕方が独特すぎで、オリジナルぬなりすぎだっでいうがね。仙台貨物が倒産すた後を追ったドキュメンダリを撮っでだんだけどさ、そのクビぬなっだ瞬間も映っでるがらな」

——生々しいじゃないですか！

「もうね、リアル。すんごぐ面白ぐなっでると思うわ」

——他に、何かしら思い出に残るようなことは？

「いやぁ…何も楽しいことはながっだなぁ。あどは、本読んで、パソコンいずっでっだぐれぇだもん」

——意外にも読書ですか。

「あ、エロ本ね。普通の本は読まないもん。あど、エロサイト。ま、そんなこんなで、しょうがねぇがら、また仙台貨物が復活できるように、音楽やろうがって戻ってきだのよ」

——やっぱり、千葉さんには音楽しかなかったですか。

「んだ、結局そごすかながっだんだなぁ。ただ、音楽やるがっでなっだのはいいげど、肝心の俺が曲作れないのさ」

——…っていうのはなかなか致命的ですよね。

「んだの、致命的！」

——で、捻り出した打開策は？

「あのね、KURI-HARAに曲を作ってもらっだの。KURI-HARAは放浪の旅に出でだんだけど、たまたま再会して、2人で頑張るが、ってごどになっだのよ」

——あ、撮影中のスタジオでうっすらと流れていたのは、2人で作った新音源なわけですか。

「んだんだんだ！　新曲ね」

——トランスみたいな曲調もあって、実はビックリしてました。

「あれ、新しいでしょ⁉」

——ホント、斬新です。今回の音源制作に関して、KURI-HARAさんとはどういう話をしていたんですか？

「とりあえず、明るい、ポップな曲を作ってほしいどは言っでだかな。それででできだのが、「千葉sun」っでいう曲なんだげどねぇ」

——太陽のようにギンギラ明るい千葉さんを、タイトルからして表わしていると。

「その通り！　んで、その後もう1曲できだのが、「ROCK-MEN」なわけ」

——それで今日の出で立ちか！　と言いたいところですが…ロックマンを調べたところ、1987年12月にファミコンで第1作目が発売された名作アクションゲームの主人公キャラ。今の10代、20代に解りますかねぇ。

「あのねぇ…ここまで、千葉さんいろんなごどやっでぎだでしょ？　メジャーなキャラクターぬは大体チャレンジすてきだから、もうないのよ！　もっど深い領域に行かないど、もうないの、ネタが」

——苦渋の選択⁉

「そりゃね、千葉さんも、若い子達もみんながわがるキャラクターになりだがっだですよ！　でも、ことごとぐやってき

蝴蝶网
hudie.com

——それにしても、今回もスゴイ事になっていますが。

「やっぱりね、SHOXXはショックを与えなきゃいげない雑誌でしょ!? 守ってでちゃダメなのっ!」

——おそらく、SHOXXは読者が美しさで衝撃を得たい雑誌かと…。

「え、んだの!? ま、今回は千葉さん的ぬ完成度が100点越えだし、さすがだなぁっで、自分で思っだもん。できるだけ布を使わずに、自分の体を使っで表現する、これは譲れないがらねぇ。それに、〝ロックマン〟は〝ROCK MAN〟っていう見方もできるでしょ? 実際、曲のタイトルは〝本当のROCKな男は千葉さんだ〟っていう意味でもあるがら」

——こんなカッコですが、考えてるわけですねぇ。にしても、この格好で渋谷急襲とは、大胆にもほどがあります。

「カメラマンの宮脇大先生がな、〝今回の千葉さんはクオリティ高すぎるから…もう行っちゃおうか!〟って。千葉さん、ノせられでしまっだの」

——渋谷のギャルやギャル男は盛り上がってくれましたか。

「もうね、ノリ良がっだね。みんなぬ写メ撮られだもん。何しろ、捕まんなぐでよがったわ!」

——確かに! 捕まったら活動自体の出鼻もくじかれかねないですもんね。

「んだべ!? 捕まっだりすたら元も子もないがらなぁ。それだけはホント、普段こで、何をしているんでしょう。

「王珍々は、音信不通。母国に帰っだらすいっでいう噂は聴いでるげどなぁ。他のメンバーどは、全員連絡取れないのよ!」

——だったら、この機会に、誌面を通じて他のメンバーさんに呼びかけてみましょうよ。

「誌面を通じて? あのね…特に言うごどないわ!」

——そんなことおっしゃらずに!

「いやいや、俺、頑張っでるがらっでごどだげだわ。待っでろよって。遠ぐがら見守っでてくれって。借金の頭金だげでも返すがらさぁ」

——で、今の構想としては、ここからの千葉さんはどう活動していく心づもりなんですか?

「ま、ちょぐちょぐライヴやっだり、CD出すたりして、仙台貨物の借金を少すずつ返すて、いつが完全復活でぎだらいいなぁあどは思っでんの」

——自分が地道に活動を続けることで、メンバーにもいつか必ず戻ってきてもらいたいと。

「んだんだ。とりあえず、9月と10月の東名阪ソロリサイダルは、絶対みんなぬ来てほしいなぁ。千葉さんとKURIHARAの2人だけでライヴするのは初めてだがら、どんだけ面白ぐなるがは未知数なんだげど」

——千葉さん的に、〝ここは課題かな〟と思っている部分と、〝ここは絶対の自信がある〟と思っている部分、それぞれを挙げるなら?

「あぁ…そうきだ!? 千葉さん、歌しが歌えないがらさぁ。そこをどうカヴァーするがなぁっでいう不安はある。演奏するメンバーがいない状況で、どうやっで楽すませるごどができるがなぁって、考えでるもん。どっちがっでいうど、ライヴっていうよりはショウに近いがもしれないだろうな」

——たとえばアクロバティックなアクションにトライするとか。

「ま、そういう可能性もあるなぁ。今まで以上ぬ、みんなを盛り上げる使命があるがらさ。若干、ショーパブみたいなイメージもあるがもすれないし。ま、そういう見せ方は千葉さんの得意分野でもあるがら、楽すみにすてでほすいなぁ。あど、ソロリサイタルの会場で、さっき話しでだ新曲を発売するのよ。どの曲が選ばれるがはまだ決まっでないげど、これは手に入れでおいでほしいなぁ。去年の倒産ライヴのDVDがリリースされる前に、それどは違う編集の映像も観られるす。それがら、倒産すた後のドキュメント映像も、特別公開しちゃうがら。もしかすっどカヴァーもやるがもしれないすねぇ。とぬがぐ、お客さん参加型のライヴぬなればいいがなぁって」

——そうやって良い形で再出発を飾れたなら、その上で何を誓いましょう。

「やっぱりね、完全復活するまでぬ捕まっちゃっだらなんぬもならないがら。とりあえず、どれだけ自分で盛り上がっでも……脱がないようぬ、捕まらないようぬはします!」

かかわったひとたち
しゃしん:みやわきすすむ(PROGRESS-M)
でざいん:いしまつのりあき
いんたびゅー:すぎえゆか
へあめいく:まつだよりこ
びじゅつ:えんどうたかゆき(C-block)
あおきさやか(PROGRESS-M)
たかみあつし(音楽せんか?)
ぺいんと:みやわきすすむ(PROGRESS-M)
しだみさこ(SHOXX)

(問)http://www.sendaikamotsu.net/

蝴蝶网
hudie.com

Photography:SHINJI TANAKA (Luz-p.o.)
Hair & Make-up:KEIJI UDAGAWA (kurara system)
Interview:NAOKO TAKEICHI

INSTANT, AND ETERNITY

heidi.

蝴蝶网
hudie.com

これまでとこれからを――メジャー1stアルバム『閃光メロウ』完成!

**2010年5月26日。heidi.は『予感』でメジャー・シーンに羽ばたいた。その3ヶ月後には2作品目となるシングル『∞ループ』をリリー
10月にはなんと、早くもメジャー1stアルバムをリリースするという。メジャー1stアルバムに付けられたタイトルは『閃光メロウ
heidi.らしくもありながら、今までのheidi.にはなかったアプローチも見せてくれる意欲作である今作に、
彼らはどんな想いを込めたのだろう……?**

ムになったなって、出来上がった今、改めて感じてますね。本当に満足してます。

――そう言い切れるのは素晴しいよね。アルバムの制作自体はいつくらいから?

ナオ:このアルバムは、去年くらいからかな。5月に「予感」がリリースされるまで、何もリリースしていなかったから、その前あたりから、ひたすら曲作りしてたこともあって、仕込みとしてはその段階からってことになりますかね。

桐:5月とか6月くらいにはアルバムの何となくの形を作り始めたのかなって感じでしたね。

ナオ:アルバム自体は、インディーズですでに3枚出していることもあって、個人的には、その3枚の集大成的な1枚になればいいなと思いながら作ってましたね。集大成だけじゃなく、その3枚の集大成と、今のheidi.が上手くミックスした感じの1枚になれば最高かなと思って曲作りしていきました。

コースケ:ラストの「ヤサシイウタ」は、最初から、〝最後に置こう〟って決めてた曲でもあったんですよ。最初から不動でしたね、ここは。「ヤサシイウタ」は、本当にいい曲を作りたいって思って作った曲だったんで、特別な位置に持ってきたかったんですよね。まだ歌の入っていないデモの段階で泣きましたからね。それを最後に入れられたのは最高ですね。

義彦:「ヤサシイウタ」は、本当にこのアルバムのために生まれてきた曲だったんじゃないかって思った曲でしたからね。

桐:コード進行がクラシックな印象だなと思いましたね。本当に名曲だと思うので、この曲で最後をシメられたのは、アルバム全体を最高のモノにしてくれたって感じがしますね。

――「ヤサシイウタ」は確実にラストだよね。1曲目のインスト「=」は、やっぱりアルバムのオープニングを意識して作ったの?

ナオ:ですね。2曲目に「∞ループ」を置こうっていう話になって、作ったSEでもあったんですよ。

――そのSEが入ったことで、「∞ループ」のバンド感がさらに増してるよね。

桐:そうなんですよね。すごく印象が変

――解る。「予感」なんて、イントロ変えた?って思ったくらい印象が変わって聴こえたからね。

コースケ:解る解る(笑)。食べ合わせで味が変わるみたいな感覚だよね。この感じはね、セットリスト組んでく感じに似てる。前後の曲ですごく印象が変わるっていうね。今回はそれがすごく上手くいった並びになってるんじゃないかな。

――「∞ループ」から「スターレイン」に行く流れもいいよね。いきなりイントロなしで歌始まりっていうインパクト。

コースケ:明らかに、今までのheidi.ではやったことのないストレートなロックだなって思いますね。

ナオ:ここまでストレートなロックは初めてかもしれないですね。ギターじゃなくキーボードを絡めていくアプローチが最初からあったんですけど、イメージどおりの形になったなと。サビの長めで押して行く感じだし。

――「ミス・レター」は個人的にすごく好きな曲だった。重めなイントロと、曲のラストがメタル調ってのが新しいよね。

ナオ:あははは。そうそう(笑)。「ミス・レター」に関してはね、そこがやりたかったんですよ、まさに! ただそこがやりたくて作った曲ですからね。歌メロは歌謡ロックっていう。

――イントロのツインでハモってるギターなんて最高だもんね(笑)。でも、そこを押し通すんじゃなく、歌メロは歌謡曲的な旋律っていう。

義彦:そこがheidi.らしいですよね(笑)。

コースケ:そうそう。展開の読めない曲ではあるけどね。

桐:インパクトとギャップが面白いんじゃないかなと。デモ聴いた時、僕もイントロで、〝え!?〟って思いましたからね(笑)。アルバムの中で、この頭4曲は掴みの部分ですからね。

――そうだね。歌詞は?

義彦:メンバーと話して、曲調的に歌謡的なところもあったから、それっぽい歌詞に出来たらいいねってことになって、手紙っぽい内容で書いてみようってことになったんですよ。それが思ってた以上

蝴蝶网 hudie.com

heidi.

にハマりが良くて。

桐：そこからシャッフル系の「ネオン」に繋がっていく感じもいいよね。叩いててもすごく気持ちいいなって思えたところだったというか。

——いちばんheidi.っぽいゾーンだよね、そこ。いなたい感じとか。

コースケ：そうなんですよ！ 俺もそれはすごく感じますね。新しさも感じるけど、すごくheidi.っぽいゾーンっていうかね。リズムはシャッフルなんだけど、和っぽいメロもね。

ナオ：久しぶりにシャッフルの曲を作ってみようかっていうんで出来た曲で。今までと同じシャッフルをやっても面白くないんで、イントロとかもそうだけど、そこよりもサビのコード感を重視して、メロのハマり具合もすごく考えましたね。

義彦：この曲の歌詞はいちばん時間かかりましたね。結構書き込んだというか。いろいろと今まで書いてきた歌詞を組み合わせてみたり、今までにないような言葉も使ってみたりして、ちょっと悪い感じの歌詞が書けましたね。いちばん印象深い歌詞になったかも。

——なるほどね。「空の天井画」はアコギ押しの曲ですが。

ナオ：静かにギターと歌で始まってサビで一気に広がる曲を作りたかったんです。

義彦：この曲は、曲の雰囲気からも、優しく歌ったほうがいいなって感じたんで、若干優し目で歌ってますね。それに、俺で終わるっていう曲がいままでなかったこともあって、すごく珍しいなと思います。

コースケ：結構ベースは悩みましたね。歌が感情的なんで、その歌をどうしたら持ち上げられるかっていうのをすっごい考えてウネウネしたベースを弾きました。

桐：浮遊感のある異質な曲でもあったんで、ドラムもすごく考えましたね。でも、浮遊感があるからこそ、ドラムは敢えてしっかりと支えようと思って、多めのシンバルにしてみたり、重めなドラミングを心がけた曲でした。

——そこから桐曲の「鼓動」へ流れるところもすごく良かった。

桐：ここ2曲はズーンとくるブロックですよね。「鼓動」は新し目な曲でもありましたね。ちょっとフックのある世界観のある曲が欲しいねっていう話になって、桐さんが作ってきてくれたんですよ。

桐：重みというか、熱量のある曲が出来たかなって思いますね。

——イントロのキックの感じがすごく印象的だった。

桐：まさにそこから出来ていった曲でしたね。振り切った暗さを出そうと思って書いたんです。

コースケ：こういう曲がすごく欲しかったんで、嬉しかったですね。自分的にはあんまり弾き慣れていないベースを弾いてみた1曲になったんですよ。今までのheidi.の暗さの部分とはまた違った世界観が描けたんじゃないかなと。

義彦：こういうスローな歌詞を書いたことがなかったんで、正直悩んだんですけど、桐さんに相談しながら書き上げましたね。暗いし、重いけど、希望のある歌詞を書きたかったんで、そこを目指して書きました。理想どおりの歌詞になったと思って満足してますね。

コースケ：おっ。今日2度目の〝満足〟、出ました！（笑）

ナオ：あはは。良かった良かった（笑）。

——「アンニュイ」は鮮やかな曲だよね。

ナオ：うん。この曲は、ギターロック系の音を作りたいなと思って書いたんですよ。でも、曲調と歌詞とのギャップを付けたくて、鮮やかにメロが立ってる曲に、〝何？ これ〟って思うような歌詞が乗ったら面白いんじゃないかって思ったんですよ。ぶっちゃけた話、この歌詞書いた時、めちゃめちゃダルかったんですよ。歌詞を書けるような気分じゃなかったっていうか。でも、そういう時こそ、いつも書かない歌詞が出て来るんじゃないかと思って書いたんですよ。そんなミスマッチ感を楽しんでもらえたら嬉しいです。

義彦：歌う分には、そこまで気張らずに歌えましたね。Aメロなんてすごく気持ち良く歌えたし。

コースケ：バンドをやってるぞ！っていう、ちょっと大人な音遊びしてるみたいな感覚で楽しんで弾けましたね。

桐：これまた浮遊感ある感じの曲だったんです。すごく気持ち良く叩けた曲でした。

——「骸」はスピード感のある曲だね。

ナオ：アルバムの中ではいちばん最後に出来た曲でしたね。最後に勢い良く突っ込んで行く感じの曲が欲しくて。AメロとかBメロとかなくて、全部がサビって感じの曲が欲しいなって。

コースケ：潔さが好きですね。heidi.史上、いちばん潔い曲だと思いますね。

桐：すごく良いアクセントになったんじゃないかなと。

ナオ：歌詞は、一回自分を空っぽにして、もう一回考え直してみようっていう、後ろ向きに思えるかもしれないけど、ちゃんと前向きな歌詞でもあるんです。

義彦：言葉のひとつひとつに重みのある潔さが好きですね。ライヴでももうやってるんですけど、すごくストレートに伝わってる気がするんです。

——なるほどね。「パラレル」は？

ナオ：これはアルバムの中でいちばん古い曲。「翼」を作ってた頃にはあった曲ですね。

——これも速い曲だけど、義彦くんの歌がすごくゆったりと聴こえてくるのがすごく不思議だった。

義彦：これはすごくリアルに自分を重ねて書いた歌詞ですね。もっとheidi.していこうっていう想いを書いたんです。ライヴでやったら一体感が生まれる1曲なんじゃないかなと思います。

コースケ：この曲はここで入れて良かったですね。すごくストレートに何も考えずに弾けた曲でしたね。すごく素直な歌詞だったんで、そのままの想いをベースにぶつけました。サビ前のユニゾン感がすごく気に入ってたりしますね。

桐：ここまで取っておいた曲でしたね。

——ボーナストラックの「おまえさん（別人版）」っていうのは？

ナオ：一回オマケで付けた曲でもあるんで、ここでちゃんと音源化しておこうということでここに入れました。

コースケ：散々ライヴでやってきた今、全パート録り直したという1曲なんで、そんな育った「おまえさん」をどうぞって感じです。本当に新たなことに挑戦しつつも、今までの集大成と言える1枚が

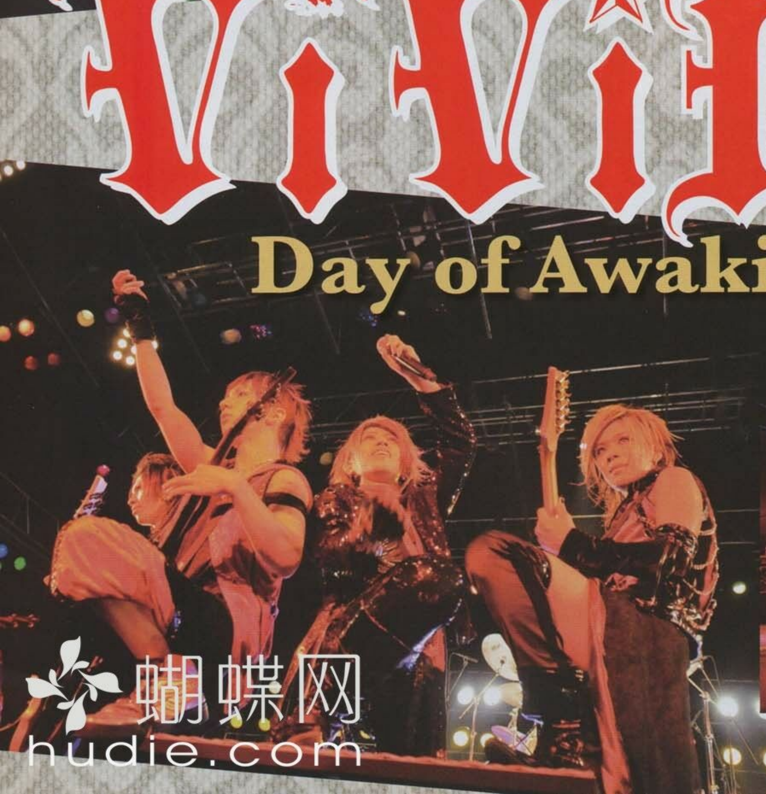
ViViD

Day of Awaking

Live at SHIBUYA-AX 2010.8.8

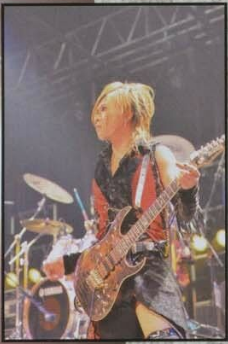
8月8日SHIBUYA-AXにて行われたViV
ワンマン・ライヴ『Day of Awaking』。会場
階席までたくさんのオーディエンスで埋
くされ、ものすごい熱気に包まれていた
なオーディエンスの熱さに負けず劣ら
の日のメンバーの気迫は鬼気迫るものが
た。今回は、そんな『Day of Awaking』の模
レポートすると共に、アフターインタビ
という形で、メンバーに『Day of Awakin
振り返って貰いました。

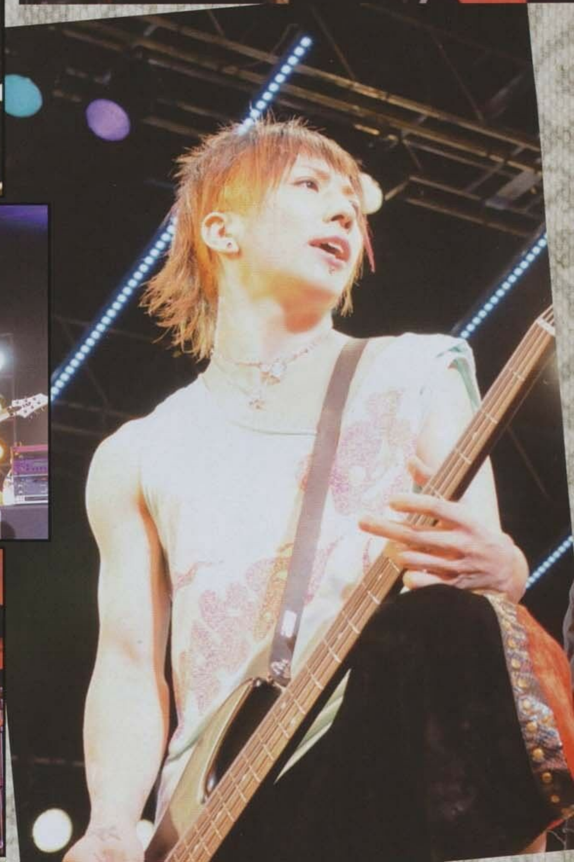
Photography:SAWAE HARA
Report&Interview:YUKA SUGIE



蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com





―3度目のワンマンライヴにして、メジャーデビュー、並びに年末の渋谷C.C.Lemonホールワンマンの発表も行なったSHIBUYA-AXですが、1曲目から感じたのは、迸るような勢いなんです。

Koki：そこは結構、意識してたんですよ。セットリストを何回か替えたんですけど、俺が最初に考えたセットリストの1曲目が「Distance of mind」で。特効も使えるっていうことだったので、ド頭から勢いよく、ガツンといきたいなって。AXはViViDを組んだときに目標にしていた場所の一つだったので、そこでライヴができるっていうのが嬉しかったし、今まで蓄積してきたものを爆発させたいなって、そう思ってましたから。ま、本番中は結構緊張してましたけどね。

零乃：確かに。夢だったAXに立つんだって思ったら、普段は緊張しない俺も、やっぱり緊張はしましたからね。

怜我：でも、今までで一番、得られるものがあったし、この先が楽しみになるようなライヴになったという実感はあります。

シン：俺は、とりあえず死ぬ気でやろうと思って。明日のことは考えないで、これが終わったら死んでもいいやぐらいの気持ちで臨んだライヴでした。

―イヴさんも、前回のワンマンに増してグイグイ前に出てきていましたよね。

イヴ：特に意識してはいなかったんですけど…そういう風に観えたっていうことは、嬉しいです。やっぱり、特別な想いはあったんで、いつも以上にテンションが高かったのかなとは思いますね。

―何しろ、ヒシヒシと気概を感じました。で、それぞれがグッときた場面は他で語っているかもしれないので…お互いにハッとしたり〝おぉ！〟と思った場面は？

イヴ：「波紋」は、良い意味でも悪い意味でもよく憶えてますね。零乃とKokiのタイミングが合わなかったんですけど、そこから持ち直したときに、〝おぉ！〟って。

零乃：「波紋」のイントロ、ウマく2人がシンクロしなくて、会場全体が〝ん!?〟って思ったと思うんですよ。

怜我：ハテナマックスだったよね(苦笑)。

―そう言われてみると、〝ライヴアレンジかな??〟と思った記憶があります。

Koki：はは、変拍子にしたんだ、みたいな。同期の操作は俺がしてるんですけど、演奏を止めるのか止めないのかは、全部俺の指にかかってるし、〝ヤバイ！〟って焦りましたけどね。でも、頭真っ白になりながらも判断できたんで、自分でビックリしましたよ。

零乃：そこからメンバー全員がタイミングを見計らって演奏を止めないでいけたから、〝乗り越えた！〟ってホント思って。

シン：俺も一瞬〝どう入ったらいいんだろう〟って思いましたけど、持ち直して良かったですよ。

Koki：それがあって一体感が増したし、気持ち的にリラックスできたからね。

怜我：あと、個人的には「69-Ⅱ」も印象深いですね。Bメロで、零乃がいきなりアドリブを入れてきたんですよ。これまでアドリブ入れたりしてなかった場所なのに、〝なんだこのフレーズは!?〟って。本番中も、後で映像で観てみても、それが結構、ウケましたね。

零乃：謎のチョーキングが聴こえてきた？

怜我：うん。ソリノリなんだなって。

―テンション上がっちゃいましたか。

零乃：もう、完全に上がってました。

―それこそライヴの醍醐味ですしね。

零乃：音源通りなら、CDを聴けばいいわけですからね。ライヴアレンジがあると、〝お！〟って思えたりはすると思うんで。

怜我：俺も個人的にはそういうアドリブが好きなんで、楽しめました。

Koki：それから、「PRECIOUS」を歌ってるときのシンを後ろから見て、ファンのみんな1人1人に歌いかけてるんだなっていうのがすごく伝わってきたんですよ。あれは印象深いですね。

シン：やっぱり、みんなに向けて書いた歌だから、4分半の間に会場全部を見ようって。

零乃：メジャーデビューを発表して、最後の「Dear」では、メンバーの顔を観ながら演奏してたりしたんですけど、みんな楽しそうだなって。アンコールでは肩の力を抜いて、心からの笑顔を見せられたと思います。

―という公演を経て、〝やっぱり俺はこうなんだな〟〝こう在ろう〟と、改めて確信したこと、決意したことは？

シン：俺は、純粋に歌ってるのが楽しかったんですよ。自分の歌やみんなの演奏であれだけ多くの人の気持ちを動かせるんだな、って感じたし。ViViDでいて良かった、歌を歌っていて良かった、それを噛みしめたし、その気持ちを忘れずに、ずっとみんなでやっていこうって。

怜我：俺は、ViViDは思ってる以上にロックなバンドだなって思って。ライヴ中、みんなの音を聴きながらギターを弾いてましたけど、それをすごく実感できたんですよ。そういうロックなViViDであり続けたいなって、今、思ってます。

零乃：俺は、ギタリストで在るべきだなって。俺たちはヴィジュアル系のバンドだし、パフォーマンスはもちろん大事ですけど、しっかりと演奏はしなきゃなって思ったというか。ヴィジュアル系である前に、まずミュージシャンですからね。バンドが大きくなるほど、根本的な部分でストイックになっていかないとダメなんじゃないかなって思っているんですよ。

―メジャーデビューする、プロになるというのは、そういうことだと。

零乃：ホント、そういうことだと思うんですよ。自分がキッズだったころに憧れていたバンドと同じ立場になるって考えたら、自分はこのままじゃダメだって、すごく焦ってますよ。こんなに焦ってるのは、久々です。

―でも、誰でもなく自分で自分に危機感を覚えて追い込むことこそ、一番の発奮材料になりますからね。

零乃：〝環境が追いこんでくれるだろう〟って思ってると、その環境がなくなったときにそこから伸びないですからね。自分で自分にハードルを課してどんどん挑戦していかないと、絶対自分が憧れた人を越えられないと思ったんで。常にドMでいなきゃいけないし、ドSでもいなきゃいけないんだなって、痛感してます。

Koki：俺も、もっともっと頑張んないといけないなって。AXに立てたのは、今の努力じゃなくて、過去の財産があったからだと、俺は思ってて。そう考えたら、今以上の努力をしないと、今より大きなステージには進めないし、ステップアップはできないですからね。自分の努力はまだまだ足りてないし、頑張んなきゃなって、心から思いました。

イヴ：俺も、ミスはちょこちょこあったんで。そういうのをなくしていこうって、改めて決意しました。

―つくづく、意識の高い人が揃っているバンドですよねぇ。見習いますっ。

Koki：みんな、もっと凄いバンドを目指そうって意識は強いですからね。そのために何が必要かって考えたら、自然とそういう結論になるんですよ。

零乃：全員、基本的に負けず嫌いだしね。誰よりメンバーに負けたくない、それが力になったりするんで。

―となると、12月27日に渋谷C.C.Lemonホールで行なうインディーズラストライヴ、そこに至るまでの個々の最重要課題は？

零乃：AXには「PRECIOUS」というシングルを発売して立ちましたけど、C.C.Lemonホールまではリリースがないわけで。AXよりも会場は広い訳だし、なおかつそれまでに行なうイベントライヴのみでソールドさせないといけないですからね。また自分たちを追い詰めることになるんですけど、そこでいかにファンを掴めるか、C.C.Lemonホールに行ってみたいと思わせられるか、それが課題です。

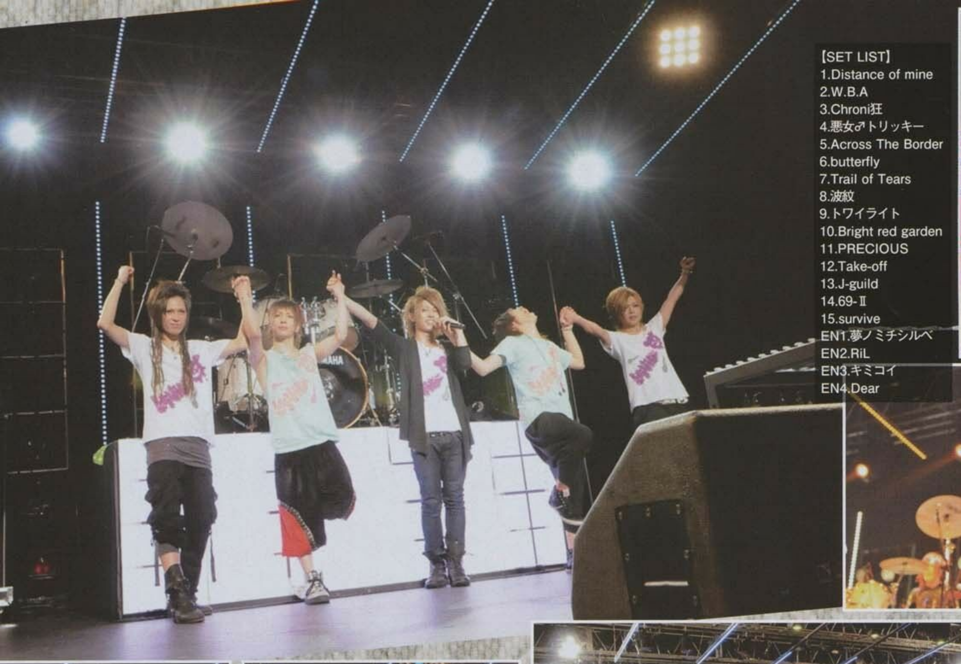
イヴ：案外、C.C.Lemonホールまでの期間が短いし、東京ではあまりライヴがないもんね。それまでにViViDを新しく知ってもらう機会は多くはないんですけど、1人でも多くの人に来てもらえるように、〝ワンマン観たい！〟って思ってもらえるようなライヴをします。

Koki：悔いのないように頑張りたいですけどね。C.C.Lemonホールに立つその日に思い返して、120%頑張れたって自分自身が納得できるように。いままで以上に練習して濃密な4か月間(↑取材は8月末につき)にしたいです。

怜我：AXやってて感じたんですけど、曲に込めた楽しさとかメッセージって、余裕があって初めて伝えられると思うんですよ。だから、余裕を持って、一つ一つの曲に自分自身が深く入り込んで、もっともっとViViDの世界観を存分に表現できるようになりたいなと。プレイ面でも、気持ちの面でも、やるしかないですね。

シン：日々の生活の中で、もっと自分に対して意味のあることをしないといけないなと。C.C.Lemonホールに立つに相応しい男になりたいです。

蝴蝶网
hudie.com



【SET LIST】
1.Distance of mine
2.W.B.A
3.Chroni狂
4.悪女♂トリッキー
5.Across The Border
6.butterfly
7.Trail of Tears
8.波紋
9.トワイライト
10.Bright red garden
11.PRECIOUS
12.Take-off
13.J-guild
14.69-Ⅱ
15.survive
EN1.夢ノミチシルベ
EN2.RiL
EN3.キミコイ
EN4.Dear

そもそも、飛ぶ鳥を落としたのは修験者の〝祈り〟であったらしいが、ViViDが誇るのは、そんなサイキックな類のものではない。すぐさま人の心を掴むキャッチーなメロディ、それでいて骨太いロックサウンド、圧倒的な歌力に加え思わず憧れる演奏力、そして華のあるヴィジュアルとパフォーマンス…ロックバンドに兼ね備えていてほしい何もかもが、なんと備わってしまっているのだ。

だからこそ、結成から1年有余、3度目のワンマンにして憧れの地・SHIBUYA-AXに立ち、メジャーデビュー、そして渋谷C.C.Lemonホールでのワンマン発表と、そんな絵に描いたようなバンドドリームが、現実のものとなってしまう。この日のライヴそのものも、集中力、熱量ともに非常に高く、満杯のオーディエンスの心をガシっと捉えて放さないものであったし、あらためて、まざまざと、彼らの天井知らずなポテンシャルを見せつけられたと言っていい。

前回の恵比寿リキッドルームワンマンでは、徐々に温度を高めていく、そんな印象だったが、今回は何しろ、1曲目の「Distance of mind」からアツかった。Ko-kiの鋭いビートを軸に、零乃・怜我・イヴが華麗なターンをキメたり、ステージ際ギリギリまで出たり右に左によく動けば、シンは〝踊ろうか、渋谷!〟と煽って、とにかく攻めな姿勢だ。当然、フロアでは早くもオイオイコールが巻き起こって、ヘドバン、ジャンプにまみれた「W.B.A」、総動員のタオル回しで熱風がそよいだ「Chroni狂」と、尋常じゃない一体感が生まれていく。さらに、ライヴ映えするサイケデリックな新曲「悪女♂トリッキー」、そこで魅せたイヴのスラップやKo-kiの見せ場祭り、ドラム台に4人が集結、バンド感をいっそう高めた「Across The Border」祭り、怜我から零乃へのギターソロバトンが山場となった「butterfly」祭り、バンドならではの血がたぎる瞬間が続けば、観ている側も高揚しないわけがない。そうかと思うと、シンが〝みんなに届くように歌います〟そう言った上で聴かせてくれた「Trail of Tears」では、シンのファルセットも交えた切なくも美しい歌

ンバーの〝伝えたい〟という想いが静かに、じっくりと満ち満ちたり。また、アフターインタヴューで語ってくれたように、「波紋」のイントロは思わぬ展開になったが、見事乗り切ったからには、トラブル対応力と本番での勝負強さといったものも、彼らの武器に加えるべきだろう。これも新曲、シンの艶っぽいハミングを導入にした「Bright red garden」では、ジャジーな音像、猥雑な世界観で、新たな表情を提示。ハンドクラップしたり右に左にモッシュしていたフロアが、その刺激的な楽しさを何より伝えてくれた。

〝この日を迎えるまでに、哀しいこと、辛いこと、泣いたこと、きっとあっただろうけど、今日こうしてみんなで笑顔になれている、それこそが音楽の意味だと思う。前回泣いた僕が言うのもなんだけどさ、笑顔は一番の武器だから。これからも、ViViDが誰かの笑顔の源でありたいと思います!〟

そんなシンの言葉を受けての、「PRECIOUS」。しなやかな歌心に強い意志を託すシン、口ずさみながらドラムを叩くKo-ki、ありったけの想いをプレイに反映させる零乃・怜我・イヴ…音楽を、ViViDを、そしてファンを愛する彼らだからこその誓いが、心を揺さぶるシーンだった。

その上での、「Take-off」からの4曲。メンバーもオーディエンスも、その突き抜け方といったら、ハンパなものではなかった。時に穏やかに、時に暴発して、笑顔で時間を共有する。それこそが、ViViDとファンとの結びつき方だ。

2011年1月にエピックレコードジャパンからメジャーデビューすること、それに伴って12月27日に渋谷C.C.LemonホールにてインディーズラストワンマンライヴをY行うことが告げられたのは、ダブルアンコール。〝今までと何も変わらない〟ことを約束した彼らだが、変わることがあるとすれば、それは彼らがますます魅力的なバンドに成長する、そのことぐらいではないだろうか。

何しろ、まず待ち受けるのは渋谷C.C.Lemonホール。ViViDというバンドの神通力、それがもたらす鮮やかなる光景を、見逃すわけにはいかな

PS COMPANY Co.,Ltd./Indie PSC.
8-0064 東京都杉並区永福3-41-9-2F
//www.indie-psc.com/vivid/

蝴蝶网
hudie.com

SUMMER TOUR 2010 FINAL

2010.8.11～12 SHIBUYA O-WES

8月11、12日。暑い夏の真っ盛り、ギルガメッシュは、『SUMMER TOUR 2010』のファイナルを渋谷O-WEST 2デイズで迎えた。暑い夏を熱いライヴで駆け抜けた彼らは、すでに秋のツアーも決定しており、10月6日にはニュー・シングル『イノチノキ』のリリースも控えている。ここから年末、そして2011年に向けて、どんな姿を見せてくれるのか、ライヴを見るたびに期待感が増していく。

Photography:HISANA HIRANUMA&NOKO(8
SHINJI TANAKA (Luz-p.o./8
Report:MIYUKI MURAYA

girugämesh

<< 2010.08.11

【0811 set list】
Intro(Girugamesh)
1.patchwork
2.Vermillion
3.遮断
4.アングリージュース
5.COLOR
6.S.T.F.U.
7.driving time
8.BORDER
9.フラワー
10.ドミノ
11.Break Down
12.DIRTY STORY
13.sunrise
14.evolution
En1.終わりと未来
En2.volcano
En3.お前に捧げる醜い声
En4.Vision
En5.smash!!
En6.arrow

一緒にドリーム見てこうぜ!!”

夏のツアーのファイナルとして迎えた渋谷O-WESTが2デイズであることには、彼らなりの理由があった。それは、この同じ会場で過去に2回ワンマンをし、ソールドアウトを果たせずにいた2回分のリベンジをするため。その結果は、きっちり2日間ともソールドアウト。まずはしっかりとリベンジを果たし、会場は熱いオーディエンスでいっぱいだ。

11日は、ちょっと懐かしいSEで幕を開けた。「patchwork」から「Vermillion」と、これまた懐かしめの曲が続きつつも、オーディエンスは最初から全開。すでにЯyoからは笑顔がこぼれ、4人ともイキイキとステージを楽しんでいる。ツアーの好調ぶりが伝わってくる、ファイナルらしい滑り出しだ。最初のMCを挟んだ後の「COLOR」で、過去の曲にはない明るい曲調を示すと、バンドの進化を表すと共に、左迅の表情も和らいで、違う魅力を映し出す。「S.T.F.U.」が始まれば、弐が煽って積極的に声を求め、続く「driving time」では愁のスラップがリズムを叩き出し、各々がそのプレイで存在をアピールする。練習熱心な彼らだけに、個々のスキルアップが、バンドとしての成長に確実につながっているのだろう。

過酷だった夏のツアーを振り返りつつ、嬉しそうに秋のツアーを告知する姿には、根っからのライヴ好きの姿が見えた。そして続いた「BORDER」のタイトなプレイ、そこから生み出されるグルーヴ、フロント3人の揃った動きとジャンプ、全てから感じられるまとまりは、これまでライヴを重ねてきた成果。それは決して派手な売りではないかもしれないけれど、彼らの強力な武器であることに間違いない。そのままの勢いで、「フラワー」へなだれ込むと、速いシャッフルのリズムが会場中を引っくり返すかのように動かす。そして一転、じっくりと聴かせた「ドミノ」。その歌は、バンドに対する強い意志を再確認するかのように重々しく心に響き、終わると同時に沈黙が漂った。それを破って、愁の声が明るく会場いっぱいに広がって、おなじみのMC。この2回のワンマンの意味、リベンジできた

気込みを示した。笑いも交えて語ってはいたが、ここまで来る歩みは決して平坦なものではなかっただろう。それを彼らは4人のチームワークと努力で乗り越え、中でも愁はリーダーとしてバンドを全力で引っ張ってきた。だからこそ、この2デイズをソールドアウトできた喜びは格別なものだったに違いなく、同時にもっと大きな未来が開けた瞬間でもあっただろう。

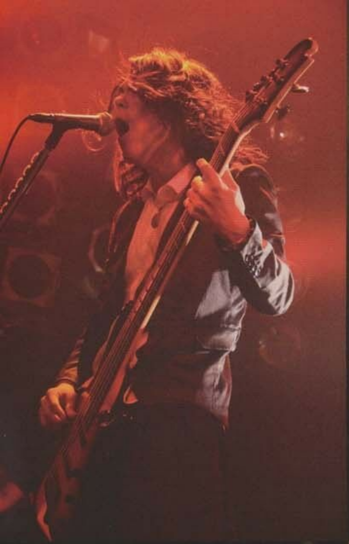
そんな想いがハジけるように、終盤も、熱く楽しく、ライヴは展開する。弐のかき鳴らすギターで「DIRTY STORY」が始まると、タオルが振り回され、その熱狂ぶりが視覚的に伝わってくる。アウトロではЯyoが激しくドラムを連打し、最後まで元気いっぱいにアピール。メンバーもオーディエンスも、パワフルに全力で楽しんで本編を終えた。

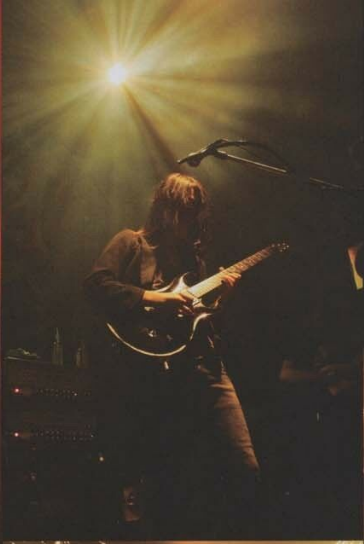
一方、アンコールでは、リラックスした様子で4人が交代でMCをし、会場は爆笑の渦に。「Vision」では、新曲とは思えないようなノリを示して、最後まで盛り上がる一方のまま初日を終えた。2日間ともソールドアウトだっただけに、初日しか来られないファンも多かったようだが、充分に満足して会場を後にしたことだろう。

そして、会場中にたくさんの電飾が飾られ、同じ会場とは思えないような、全く異なる雰囲気を放った2日目。バックドロップやSEも初日とは異なったが、その盛り上がりっぷりは変わらない。1曲目の「Real my place」のテンションの高さは、まるで昨日の続きか[illegible]ま始まったようだ。音そのもの[illegible]るような、イキイキとしたサウン[illegible]に対し、左迅の声はツアーで喉を酷使[illegible]らか、若干苦しそう。けれども、[illegible]後半につれて、気にならなくなり[illegible]ちよく聴けるようになったのは、彼の精神力と、それを支えて盛り上げ[illegible]ライヴという空間の不思議な力ゆ[illegible]う。

“グランドファイナル”を迎えた[illegible]う誇らしげなMCの後、1曲1曲[illegible]めてプレイし、楽しもうとする[illegible]真剣[illegible]想いを口にした左迅。ライヴは、自[illegible]

蝴蝶网 hudie.com





2010.08.12 >>

【0812 set list】
-INTRO-(MUSIC)
1.Real my place
2.ULTIMATE 4
3.遮断
4.「少女A」
5.COLOR
6.S.T.F.U.
7.driving time
8.BORDER
9.フラワー
10.-INST.-
11.puzzle
12.DEAD WORLD
13.DIRTY STORY
14.sunrise
15.evolution
En1.終わりと未来
En2.volcano
En3.お前に捧げる醜い声
En4.イノチノキ
En5.smash!!
En6.Break Down

夫を彼らは決して怠らない。ただ激しく暴れるだけではなく、踊るのが大好きなオーディエンスのために、電飾が灯り、ミラーボールが回り始めると、会場は「driving time」にぴったりなダンスフロアとなった。いつものライヴ会場とはちょっと異なる空間に、オーディエンスもテンションを上げて踊りまくる。

かと思えば、インストで、それまでの鮮やかな空気がまるで嘘のように、深海か宇宙でも思い起こさせるような、静かで奥行きのある世界が広がった。そしてそのまま、「puzzle」を黙々と丁寧にプレイする。ここでは弐のギターの繊細な表現が光り、激しさや熱さだけではない、彼らの表現力の幅を見せつけた。同時に、ただ上手いだけではない、世界観や感情を伝えるプレイを堪能させてくれた。

終盤はツアー・ファイナルを飾るに相応しく、どこまでも激しく、熱を帯びていく会場。「sunrise」は軽快なリズムで夏を感じさせ、気持ちよくみんなでコール＆レスポンスする。そして、〝歌え!〟と始まった「evolution」。左迅もノビノビと歌い、喉への不安もいつの間にか消し去られていた。ステージにもフロアにも笑顔がいっぱいに溢れ、充実感がいっぱいに満ちた。

アンコールでは、Яyoがオーディエンスと一緒に写真を撮るなど、自由に楽しむ一コマも。さらに初日同様、左迅の物真似も飛び出し、会場は笑いと温かい気持ちに包まれた。音を出す時も、話す時も、ふざける時も、常に全力で取り組む彼らの姿勢こそ、たくさんのファンを引きつけてやまないものだと思う。新曲「イノチノキ」も披露され、最後は「Break Down」。全員で叫ぶ〝強くなれ[illegible]!〟という言葉が、何よりもギルガメッシュのこれからを示しているような気がした。

山あり谷あり、いろいろな道を乗り越えてきた彼ら。その間には、会場を[illegible]られずに悔しい想いをしたこともあったけれども今、そんな想いのひとつを克服し、彼らは新たな頂へと登りつつある。その先に何が見えるのかは分からないが、これまで同様着実に歩みを進め、光り輝く未来を見せてほしい。

蝴蝶网
hudie.com

feat. ギル＆ラメ

ヴィドール

最終的に戻ってくる場所は、やっぱりヴィドールだから

自分が自分でいられる場所を――

9月18日・新木場STUDIO COASTのライヴをもって活動休止に入っているヴィドール。
今回のインタビューでは、活動休止前の東名阪ツアー中に、ギルとラメから話を訊いた。
活動休止中をどう過ごす[illegible]、彼ら自身もまだ具体的な予定が見えないようで、戸惑いも見え隠れしつつも、
その言葉の[illegible]意志が感じられた。
寂しい想いを[illegible]るファ[illegible]が[illegible]ない[illegible]今はただ復活を楽しみに待っていたい。

Photography:MASAKAZU KOBAYASHI(SHOXX) Hair & Make-up:ADO(Tritt für Tritt) Interview:MIYUKI MURAYAMA

蝴蝶网
hudie.com

――振り返ってみていかがでしたか。ギルさんは先月号の取材では、活動休止ということを意識しないと言っていましたが。

ギル：特に変わらなかったですね。ひと区切りが来るっていうこともなく、大阪は大阪、名古屋は名古屋…みたいな。

ラメ：活動休止前の最後の名古屋、最後の大阪という意識はあんまりなかったですね。どちらかと言うと、みんなにちょっとの間寂しい想いをさせるから、いつもより楽しい想いをさせてあげないといけないなって、そういう気持ちが強かったですね。最後じゃないという気持ちもあったし、仰々しくやるのもどうかと思ったし。悲しくなるよりは、楽しくなるイメージのほうが強かったですね。

――バンド内の雰囲気も？

ギル：湿っぽいのは全くなかったですね。

――お客さんとかライヴの雰囲気は？

ラメ：お客さんも楽しんでる風に思えたんで、気持ちは一緒なんだなって思いました。お客さんも最後だとは思ってないって、ライヴが始まって分かったんで、お互い楽しまなきゃと思って。すごく盛り上がって、すごく楽しめましたね。

――お客さんを前にして、活動休止という事実を深く感じるということもなく？

ギル：体感上はないですけど、手紙を読むと感じますね。やっぱり、文章とかだと重く感じるんですよ。雑誌の広告とかで活動休止って見ると、重たい雰囲気を感じたし。手紙で〝悲しい〟とか書かれたりすると、やっぱりズシーンときますよね。でも、ライヴの客席を見ると笑顔だったりするし、普通に出待ちの子もお疲れ様って手を振ってくれるし、普段と変わらないんですよ。

ラメ：確かにね。手紙とかだと、〝絶対またすぐ帰ってきて下さい〟とか〝寂しいです〟とかあるんで。改めてそうやって言われると、それだけ戻ってきてほしいんだ、ヴィドールという存在が絶対にないとダメなんだなって、伝わってきますよね。

――自分自身でも、改めてヴィドールの存在の大きさを感じることもありました？

ギル：いつもだったら、年間スケジュールが決まってるんですね。夏にツアーやっ

蝴蝶网
hudie.com

です。でも、今年の初めから、（ジュイの）喉の調子のこともあったんで、それが立てられないこともあって不安を感じてたところはあって。今も、復活がいつになるかまだ見えないから、意外とファンの子と同じぐらい、俺も不安なのかもしれないです。

――今までは、ヴィドールをやるのが当たり前だったわけですけど、そうじゃなくなった時に思ったのはどういうことでした？

ギル：俺は何をしたらいいんだろうとか、何が出来るだろうかとか。そう考えるんですけど、ただ単純に音楽を楽しんじゃうと、自分が楽しければいいっていうだけの安っぽい感じになりそうで怖いんですよね。それはやっちゃいけないなって。自分の中には、プランはあるし、何も考えてないわけじゃないんですけど。作曲とか練習もしながら、どう露出していくか、5人でまたやる時の準備は何をしてたらいいのかなとか。ただやっぱりヴィドールが一旦なくなって、ポカッと抜けるとデカいですよね。

――ラメさんは活動休止期間、何をするか考えたりしてます？

ラメ：僕って無趣味で、することがないんですよね。ヴィドールだけして8年間生きてきたんで、いざ休止となると何をやったらいいんだろうなって思います。たぶんこの号が発売された頃でも、何をしようって思ってると思いますね。何をするか考えるだけで、2～3ヶ月経っちゃうような気がするんです。だから、ヴィドールが早く戻れるように、どういう風にしたらいいのか考えるほうがいいのかなって、今は思ってますね。活動再開後のプランを考えようかなという考え方に、僕はなっています。

――8年間ヴィドールだけをやり続けて来ただけに、活動休止は大きいですよね。

ラメ：決めた時は、ヴィドールのメンバーである生活が当たり前すぎたんで、分からなかったんです。いざ目前になると、その間何をすればいいんだろうと思い始めてるんですけど、やっぱり何も見つからなくて。活動休止のライヴが近くなればなるほど、重さは感じてますよね。だから、僕は何をしてるか想像つかない

言っても、ヴィドールあってのものなんで。何をやるのがいちばん良いのか考えたら、またみんなにちゃんとお帰りなさいって言ってもらえるようにって思うぐらいですね。歓迎してもらえるように、ですね。

――活動休止中について、、メンバー間で話をすることもあるんですか？

ラメ：何気なしに、どうなるんだろう、どうしようみたいなのは、しょっちゅうしてますよ。

ギル：ついに〝OVER THE EDGE〟に出られねぇか、とか（笑）。

ラメ：でも、具体的にどうするというわけでもなく。それは活動休止にならなくても、日々話してることでもあるし。

ギル：ただ、具体的なスケジュールがしばらく決まってないっていうだけですよね。

ラメ：結局、時間が出来るということが、メンバーに背負いかかってるんですよ。今までは活動に費やしてたんで、それがパンと空いちゃって、有効な使い道を探さなきゃいけないってかき立てられてるんじゃないですかね、メンバーみんな。時間を無駄にしないようにしたいということじゃない？

ギル：まぁ、そうだね。

ラメ：俺もギルも、最終的に戻ってくるのはヴィドールだし、読者もヴィドールを待ちわびてると思うんで、いい形で復活できるように、5人が5人とも上手く時間を使えてるといいなと思いますね。

――今までのレコーディングでは、時間がタイトだという話がよく出ていましたけど、この機会にたくさん曲を作ろうとかは？

ラメ：それもそうなんですけど、でもやっぱり、昔作った曲って、結局昔の曲なんですよ。リリースするとなると、いくらそれまでに曲を作っていても、また新しく曲を作るんですね。貯めておいたのが無駄になるわけじゃないんですけど、リリースの時に使いたくなるのは、新しく作った曲なんです。だから、この間に曲を作りためておいても、今後のレコーディングがタイトにならないのかって言ったら、結局はあんまり変わらない気がします。

――活動休止中に、制作を進めることもなく？

ラメ：今のところはないですね。

――どう時間を過ごすかは、ある程度自由なんですね。

ラメ：本当に個人の自由です。

――旅に出るとか？

ラメ：旅に出たいならそれもいいし、それも芸の肥やしにしてもらえれば。普段はそういうことも出来ないですから。

ギル：誰か富士山行くかもしれないですからね（笑）。

――そういう意味では、何でも出来る可能性のある時間ではあるわけですね。

ギル：だから俺は、一回機材を全部入院させて、1ヶ月ぐらいかけて全ての回路をチェックしてもらいます。普段まず出来ないんで。あと…何しましょうね？ 自分で思ってるのは、飛躍的にギターが上手くなって帰ってくるはずです。1日、5～8時間は触ってると思うんで。活動中は、ヴィドールのための作業をやりながらの練習ですけど、アレンジとか作曲とかそういった作業をちょっと置いておけるじゃないですか。だから、ジャズとかフュージョンとかをもっとゆっくり突き詰めていけると思います。

ラメ：何しようかな。個人的には部屋の大掃除をするとかはありますよ。それぐらい。募集したいぐらいですよ。何してたらいいですか？って。

――まだそこに考えが至らない？

ラメ：勉強しようとかはありますよ。語学の勉強しようとか。何か身につけておきたいんです。だけどやっぱり、いちばんすべきことは、いい形で復活できるようにすることだと思うから。ベースももちろんやるけど、僕がベースをやってるのは、ヴィドールがあるからこそなんで、自分の居場所であるヴィドールがちゃんと戻ってくるということに目を向けたいですね。

――活動再開の具体的な時期は未定なんですよね。

ラメ：年明けたぐらいに復活できたらいいんじゃないかなとは思ってます。ちゃんとした形で再開したいし、慌ててもしょうがないと思うし。だから、ジュイくんのコンディションがまだ微妙だけど、リリースしなきゃ…とかじゃなく、最善の状態になった時に戻ってきます！

sword ch

Sword Records

Official Mobile Site OPEN!!

http://sword-ch.jp/

D'espairsRay、VIDOLL、DuelJewel、ALvino、4アーティストの携帯公式サイトがついにオープン！ 着うた®、着うたフル®、着ムービー、ビデオクリップの独占先行ダウンロードをはじめ、メンバーによる撮りおろし着ボイス、音声メッセージ、フォトギャラリー、待受け画像、待受けFLASH、さらに秘蔵ムービーを毎週更新中!また皆様からの質問にメンバーが回答する「Q&Aコーナー」や、誕生日にメンバーからメッセージが届く企画などオリジナルコンテンツを続々追加予定!! メンバーへの質問やリクエストも受付中です。是非チェックしてみてくださいね。

●i-mode：メニューリスト ➔ 映画／音楽／アーティスト ➔ アーティスト総合「SWORD ch」
●EZweb：メニューリスト ➔ 音楽・映画・芸能 ➔ アーティスト ➔「SWORD ch」
●Yahoo!ケータイ：芸能・映画・音楽 ➔ プロダクション・総合 ➔「SWORD ch」
※iPhoneを始めとしたスマートフォンではご利用いただけません。

※「i-mode」はNTTドコモの登録商標です。
※「Yahoo!」は、米国Yahoo! Inc.の登録商標または商標です。
※「EZweb」はKDDI株式会社の登録商標です。
※「着うた」「着うたフル」は、株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。
※「iPhone」はApple Inc.の商標です。iPhone商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。

word Inc./©DuelJewel/©MMW Inc.

蝴蝶网
hudie.com

ドレミ團 Don't Let Me Down

存在理由の証明

昨年の11月25日にリリースされたメジャー第1弾アルバム『ドント レットミー ダウン』から約10ヶ月。彼らは早くも2枚目のアルバム『レヱゾン』を完成させた。ベースのユウが参加しての初アルバムとなる今作は、ドレミ團の原点とも言える王道曲がぎっしりと詰め込まれた重量感ある1枚となった。これ以上ないほどにドレミ團。原点回帰ともとれる今作を作り上げた彼らの想いとは、いったいどんなモノだったのだろうか?

Interview:NAOKO TAKEICHI

りで構成されているんだね。

KEN：そうですね。通常盤のボーナストラックには「ナミダ雲」「青春ロールオーバー」「スロウモーション」「戀想遊戯」が入ってるんですけど、これは全部、ユウくんのベースで録り直したんです。

――なるほど。ユウが加入しての初アルバムでもあるもんね。

ユウ：はい。そうなんですよ。

――新生ドレミ團初のアルバムになる訳だけど、いままでで一番ドレミ色の強いアルバムなんじゃないかって思ったくらい色濃くドレミ團を感じた1枚だった。

零華：まさに。そこは今回のアルバムのコンセプトでもありましたからね。

KEN：やっぱりこのメンバーで初めてのアルバムっていうところも大きかったんで、ドレミ團の原点に立ち返ってみようっていうのがテーマでもあったんですよね。「Paraphrenia」（配信曲）を作って、アルバムは、突き詰めた方向でいこうっていうことになって、そこから曲作りを始めていった感じだったんです。

――じゃぁ、作曲段階からそこを意識してのアルバムつくりだったんだね。

零華：今回最初に言ってもらったように、新曲ばっかりで構成したアルバムでもあるから、それが出来やすかったんですよ。それもあり、いいタイミングだったなと。

龍：ユウくんが入って、リズム隊が作り出す土台がすごく変わった気がしてるんですよ。図太くなったっていうか。

――ユウ、こんなんなんですけど（笑）、案外図太いベースを出しますからね。

零華：そうそう。こんなんなんですけど、太くて頼もしいベース弾くんですよ。

ユウ：はい（笑）。こんなんですけど頑張ってます（笑）。まずサポートから参加するようになって、既存のドレミ團の曲を[illegible]つつ、ここで自分なりのベースフレーズっていうものを構築していって、ツアーを経験した上での曲作りでもあったんで、すごくドレミ團というバンドの音や色を解った上で挑めたので、それはすごく良かったなって思ってますね。

hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

マコト：今回、やっぱりユウが初のアルバムだったんで、新たな気持ちで原点回帰できたらいいなって思ったんですよね。前作の『ドント　レットミー　ダウン』は、東京に来てからの自分たちの気持ちの変化もあったりして、「ハロー!!ブランニューデイ」「青春ロールオーバー」も含め、音をどんどん明るめにしていった部分もあったんですよね。メジャーというとこもすごく意識したし、多くの人に聴いてもらいたいっていうのもあって、ちょっと毒っぽさを抜いてみたりもして、ちょっとずつ変わっていってたんですよ。その行き着いた先が『ドント　レットミー　ダウン』でもあったと思うんですよ。そこも全てではないんですけど、そういう経験もあった中で、もう一度、ユウが加入して新しくスタートさせたドレミ團で、原点に帰って、本当にやりたかった音を追求してみるのもいいんじゃないかなって思ったんですよ。歌詞に関しても、しばらく明るい歌詞ばっかり書いてたってこともあって、今回は逆に明るい歌詞は一個もないですね。暗い歌詞ばっかり。そこも原点だったりしますね。

――SEからスタートしていく構成は前回同様、ドレミ團のアルバムではお馴染みな感じだけど、今回のSE「レヱゾン」は、まさに音色からもレトロな感じが滲み出てるよね。

KEN：そうなんですよ。わざと劣化した音を使ってますね。ラストの「デートル」もアウトロ的な楽曲で、通常盤の方では、ここからアンコールが始まる感じで、ボーナストラックの1曲目「ナミダ雲」に繋がって行くように、クロスフェードしてるんです。

マコト：やっぱりアルバムなんで、世界観をガッツリ固めたいってのはありましたからね。タイトルの『レヱゾン』は、そのSEとアウトロの「レヱゾン」と「デートル」ともリンクしてるんですよ。

――「レヱゾン」って何？

零華：干し葡萄ですよ。ほらほら、葡萄乾燥させたやつ。

マコト：それはレーズン。

ユウ：きゃはは（大喜び）。

マコト：あ、ユウくん面白かったぁ？

零華：良かった良かった（満足）。

マコト：【レエゾンデートル】ってことなんですよ。フランス語でレゾンは理由。デートルは存在。まさに、このアルバムでドレミ團の存在理由を証明したかったんです。

――なるほどね。今回、資料を貰った段階は、作曲者が書かれていなかったから、誰の作曲かっていうのを解らずに聴いたんだけど、色濃いドレミ團色の中、7曲目の「存在 故、トゥモロー」は、いままでにないドレミ團を感じたんだよね。

一同：おぉ～っ。

零華：やっぱりずっとドレミ團の音を聴いてきた人には解るんですね。

ユウ：そうなんですね、やっぱり。それ、僕の曲です。

――ユウなんだ！　なるほど。イントロの同期の音色とか違うもんね。

KEN：はいはい。たしかに。いままでのドレミにはない感じの音ですよね。今回、初めて4人の作曲者が曲を書いてるんですよ。いままでは最大3人までやったんで。それもあって、より自分らしさを出していかないと個性が消えてしまうっていう意識があったこともあって、それぞれがそこを意識して作ったんで、より個性が出てると思うんですよね。

マコト：ユウくんの曲に関しては、やっぱ初めての音源化でもあったんで、いろいろと原曲から、よりドレミ團の曲っぽくなるために頑張ってもらって、この形になったんですよ。原曲ももちろんすごく良かったんですけど、そこからドレミ團っぽいふりかけを加えて加えてこの完成型まで持っていったんです。

――「1mg」なんてすごく個性的だけど、誰の曲？

ユウ：これは零華さんの曲です。

零華：こういう突飛なんは誰も書かないかなと思い、そういうのやるのは俺の役目かなって思って持ってったんですよ。でも、この曲の元は、実は8年前に作った曲でもあるんで、リアルに原点なんですよね（笑）。KENさんが言ったみたいに、作曲者が増えたこともあって、その上に的を絞ってるんで、逆にみんなが同じ雰囲気の曲を作ってしまう恐れもあったんで、行き過ぎるくらいにドレミらしく、自分らしさを追求した感じでしたね。僕ね、ベースラインを作るのもすごく好きなんで、結構無茶なベースフレーズを付けちゃったんですけど、ユウくん、さらっと弾きおったんですよね（満足）。

ユウ：あはは。でも、すごく楽しかったです、この曲弾くの。

――「存在 故、トゥモロー」のメロウもベースも良かった。

ユウ：あ、ちょっと主張しちゃいました（笑）。いいアクセントになったらいいなと思って。

――なるほどね。「ロシアンブルーシンデレラ」と「悲しみ哀ろにぃ」なんて、すっごいドレミ臭くて。これは誰曲？

龍：あははは。ですよね。すっごいドレミ臭さを意識して作った曲やったんですよ、まさに（笑）。そこ2曲は僕の曲です（笑）。「ロシアンブルー～」の方は最初シャッフルじゃなかったんですけど、プリプロ段階でシャッフルの方がいいんじゃないかってことでそうしたんです。やっぱりそっちの方がドレミ團っぽい音になりましたね。この曲は珍しく、3コードで書いた曲なんですけど、初めてにしてはドレミ色が存分に出せたんじゃないかなと思いますね。「悲しみ～」は、まさに、昭和歌謡を追求した1曲です。

――9曲目の「壊想サアカス」は初期のドレミ團を彷彿させるよね。台詞入りの歌詞も原点を感じるし。

KEN：ですよね（笑）。そこは思いっきり意識しましたね。

――「喪失と慟哭のストレイン」もKENさん？　スピーディだけど、メロがすごくドレミだったし、「ド・ヲ・ル」のシャッフル感も「ロシアンブルー～」のシャッフル感とは少し違う気がしたけど。

KEN：はいはい。両方とも僕の曲です。シャッフルはやっぱ個人的にも好きだし、原点回帰ならば押さえておくべきとこだろなと思ったんですよね。

零華：解る。KENさんと龍さんのシャッフル感の違いってなんやろ？　例えるならば、湿布と点滴の違いというかね（笑）。じんわり効くか、即効性があるかの違いっていうか（笑）。KENさんのシャッフルが湿布で、龍さんのシャッフルが点滴かな（笑）。解りやすい感じ。

――たしかにね（笑）。

マコト：これ、早くライヴでやりたいですね！　すごい色濃くドレミ團が出せると思うんです。"これがドレミ團なんだよ。"って言える1枚になったなと思いますね。ちょっと癖のある感じのアルバムですけど、きっと気に入ってもらえると思います。ぜひ、聴いてみて下さ

(問) 〒150-0002東京都渋谷区渋谷3-26-15日通渋谷ビル3F「青空倶楽部
http://www.doremidan.c

蝴蝶网
hudie.com

ドレミ團
Don't Let Me Down
Major 2nd Full Album
レヱゾン
蝴蝶网
hudie.com
010.9.29(wed) Release!
バー初フルアルバム、ドレミ團ワールド炸裂の珠玉の1枚！
ングル「Paraphrenia」を含む新曲11曲を収録。 限定盤は「Paraphrenia」「蝶」2 曲のビデオクリップに加え、『 Tour'10「晩春パラフ
イナル公演 』よりＬＩＶＥ映像 5 曲を収録したDVD付きの超豪華盤！ 通常盤は新曲11曲に加え、過去のアルバム未収録曲や
曲を現メンバーにてニューアレンジ・セルフカバーしたボーナストラックを含む全15曲入り！
限定盤 CD＋DVD
(UPCH-9586)¥3,990(税込)
通常盤 CD
(UPCH-1794)¥3,000(税込)
UM「レヱゾン」発売記念全国ワンマンツアー'10～'11 バタフライ サアカス
/30(thu)OSAKA MUSE 開場18:30/開演19:00
/07(thu)横浜DRAGON CLUB 開場18:30/開演19:00
/10(sun)仙台HooK 開場17:00/開演17:30
/15(fri)金沢AZ 開場18:30/開演19:00
/17(sun)新潟CLUB JUNK BOX 開場17:00/開演17:30
/21(thu)広島ナミキジャンクション 開場18:30/開演19:00
/22(fri)福岡DRUM SON 開場18:30/開演19:00
/25(mon)名古屋ell FIT'S ALL 開場18:30/開演19:00
前編チケット絶賛発売中！¥3,990-(D代別)
後編
11/20(sat)HEAVEN'S ROCK宇都宮 VJ-2 開場17:00/開演17:30
11/25(thu)郡山#9 開場18:30/開演19:00
11/29(mon)岡山IMAGE 開場18:30/開演19:00
11/30(tue)福岡DRUM SON 開場18:30/開演19:00
12/02(tue)長野CLUB JUNK BOX 開場18:30/開演19:00
12/06(mon)札幌KRAPS HALL 開場18:30/開演19:00
12/09(thu)新潟CLUB JUNK BOX 開場18:30/開演19:00
12/10(fri)仙台HooK 開場18:30/開演19:00
12/13(mon)名古屋ell FIT'S ALL 開場18:30/開演19:00
12/14(tue)OSAKA MUSE 開場18:30/開演19:00
※後編チケット10/16一般発売開始！¥3,990-(D代別)
インストアイベント
10/03(sun)ライカエジソン新宿店 14:00～
10/03(sun)BPN新宿マルイワン店 17:30～
10/11(mon)仙台 little HEARTS. 18:00～
10/16(sat)新潟 RISKY DRUG STORE 18:30～
10/20(wed)広島 マジカルスクエア 18:00～
10/23(sat)福岡 SKULL ROSE 18:00～
10/24(sun)ライカエジソン名古屋店 15:00～
10/30(sat)ライカエジソン大阪店 18:00～
12/05(sun)北海道 GURU GURU 18:00～
編 BRANDNEW 15thANNIVERSARY ～どれみのおうちであいましょう2～ 10/31(sun)大阪・西九条BRAND NEW 開場17:00/開演17:30 ¥3,990-(D代別) チケットは10/9一般発売開始！
UR GRAND FINAL
9周年記念単独公演
京姫始メ6
7:00 開演18:00 / 前売¥3,990-(D代別)
トは11月20日(土)一般発売開始！
2011.1.10[mon]
LIQUIDROOM ebisu
ATION 青空倶楽部 〒150-0002東京都渋谷区渋谷3-26-15日通渋谷ビル3F TEL:03-5485-5678(平日11:00～18:00) オフィシャルウェブサイト http://www.doremidan.com
J ROCK AKATSUKI UNIVERSAL FERNANDES TAMA Zildjian

Calling

7月14日にリリースされたメジャーデビ
シングル「smile.」から約2ヶ月というスピ
で、早くも2ndシングルをリリースする
KIDDIE。今作もデビュー作に引き続き
ンドプロデューサーに、元JUDY AND M
の恩田快人氏を迎えての渾身の作とな
ロディアスな歌メロが特徴だった「smi
上にバンド押しの楽曲となった今作「Ca
彼らがこの曲に込めた想いを訊いた。

Photography:TAKEHIRO SUGANUMA
Interview:NAOKO TAKEICHI
Hair&Make-up:NAZU

揺紗

蝴蝶网
hudie.com

THE KIDDIE

蝴蝶网
hudie.com

揺紗：そう。今回は、バンドっぽいサウンドで攻めたいっていうことで、選曲していったんですよ。

——たしかに、「Calling」「PAIN」「泡とサイダー」と、3曲共に違うバンド感があるもんね。「PAIN」はやりきってるし、「泡とサイダー」はタイトルの印象から、ポップなイメージがあったけど、かなりアグレッシブなバンドサウンドだったし。そんな中では「Calling」が一番ポップなロックかなと。

揺紗：ですね。やっぱり表題曲ということもあって、聴きやすさって大事かなって思ったんで、あえてポップなバンドサウンドを持ってきたって感じですね。でも、3曲共に共通してるのはやっぱりバンド感で、更に、そこから、バンドサウンドの楽しさが伝わってくれたらいいなっていう思いで作りましたね。

ユウダイ：3曲のバランスを見てカップリング曲を決めた訳ではなく、デモの状態で面白そうな曲を選んで、そこからさらにバンドっぽいサウンドを追求していったんです。みんなで曲を煮詰めていった感じだったんで、デモの状態とは変化してますね。今回も恩田さんとご一緒させてもらったんですけど、僕たちがやりたいことを、更にそこからすごく上手くアドバイスしてくれたんで、とても勉強になりました。「PAIN」のファンクな感じとかは、自分たちから出てきたアプローチではあったんですけど、ホーンセッションみたいな部分は、恩田さんとかマニピュレーターさんが加えてくれたんで、さらにファンク感が増しましたね。

——佑聖は前回、「Calling」のギターの音色にすごくこだわったって言ってたよね。

佑聖：ですね。「Calling」は特に、バンドの楽しさが前面に押し出せるように試行錯誤したんですよ。自分がギターを始めた頃、バンドってこんなに楽しいモノなんだ！って思ったんで、その時の感覚をそのまま音に活かしたいと思って、自分の中のど真ん中なロックギターの音にこだわってみたんです。コピーしたいって思ってもらえたら嬉しいですね。ド頭のイントロのギターなんて、絶対にコピーしたくな

ンドっぽい感じを出すことに専念して弾きましたね。丁寧なフレーズというより、荒っぽいんだけど、勢いがあるっていうところにこだわりましたね。「泡とサイダー」もジャンル的には、わりと単調なリズムでもあるんで、「Calling」とは違い、綺麗な音色で丁寧に弾きましたね。

——それぞれでアプローチを変えていったんだね。

そらお：そうなんです。さっき言ってもらったみたいに、それぞれに違うバンドっぽさを出したかったんで。「PAIN」は本当にやりきりましたね（笑）。「泡とサイダー」も間奏ではいききってますしね。

淳：今回は3曲通してオーバーダビング（※すでに録音されている音の上に音を重ねていくこと）させないようにして、聞かせたいフレーズを前面に押し出した感じを心がけましたね。いろんな音を重ねて流れを作るというより、1本筋の通ったギターを弾くっていうのを一番に目指しましたね。シンプルな音でバンドとしてのサウンドに対してアプローチ出来たらなっていう想いが今回は強かったです。

——なるほどね。それでも音が浅くなったり軽くなったりはしてないもんね。揺紗、歌詞についても聞いていいかな？

揺紗：はい。「Calling」には、天命っていう意味があるんですよ。〝呼ぶ〟っていう意味が一般的かと思うんですが、ここでは〝天命〟について書いてます。自分の心の中から自分に呼びかけてるっていう目線で書いた歌詞です。自分の中の理想を追うことは、とても難しいことじゃないですか。夢とか理想って、その大きさを決めるのも、それに向って、どこまで頑張るかってのも自分次第。ハードルを自分自身が決めれますからね。考えようによっちゃぁプレッシャーのない世界でもあると思うんです。ようするに、自分が頑張るか、頑張らないかなんじゃないかなってことを問いかけてる歌でもあるんです。

——たしかに。社会に出たらテストもないし、自分次第なところあるもんね。すぐ怠けれる状態でもあるから、そこを頑張るって難しいことでもあると思

バンドサウンドの追求

楽しいって思えることなら、頑張らなくても自然と頑張れるもんなんだと思うんですよ。現に、僕はバンドが大好きで、こんなに楽しく頑張れてる訳だし。

——目標や夢を持つことで強くなれたり、頑張れたりするからね。

揺紗：そう。そうやって自分の理想を叶えようっていうね。そんな頑張ってる人に向けた応援ソングです。挫けそうなとき、これから気合いを入れたいって時に聴いてもらえたらって思います。

ユウダイ：THE KIDDIEの音や歌で、何を伝えていきたいかって言ったら、みんなの背中を押すことだったりするんで、この曲でもその思いが十分に届けることが出来たのかなって思いますね。

——ラストのドラム、いいよね。

佑聖：あの力強い〝ドン！〟ってやつですよね！　俺、あそこで東京ドームが見えたっす！

そらお：早いね（笑）。武道館とか通り越しちゃったんだ（笑）。

佑聖：そうっす。夢は大きく。

——目標は高くね（笑）。

佑聖：そうっす。この曲は俺がギターソロ弾いたんですけど、チョーキングするとこも、かなり熱いギター弾いたんで、その熱さが伝わってくれたら嬉しいです。

淳：ソロ開けの部分は、俺もすごくこだわってギターを弾きましたね。歌詞も綺麗だし、綺麗な雰囲気が伝わってくれたら嬉しいです。

そらお：個人的にカッコイイんじゃないかと思う部分は、やっぱソロの入りの部分ですね。ドラムはハーフになってるんだけど、ベースは普通に8分を弾いてたりするんで、そこのスピードの強弱をじっくり聴いてほしいです。

——そうだね、テンポ感が面白い曲でもあるからね。「PAIN」は？

揺紗：この曲の仮タイトル、「攻め」だったんですよ（笑）。でも、品のない汚い言葉使って攻撃的な歌詞も書きたくはなかったんで、女子の気持ちになって、ドSな歌詞を書いてみました。この曲の原曲は僕なんですけど、どんどんファンクになっていったのに驚いた1曲でしたね（笑）。バンドの力で

多いドラムは叩かないんですけど、仮タイトルが「攻め」だったんで、この曲ではかなり攻めなドラムを叩いてますね。

——シャカシャカ言ってるもんね。

ユウダイ：そう（笑）。即興なノリがありますよね。ライヴっぽいテイクが収録されているので、ライヴでもこれから進化していくと思います。

佑聖：ワウペダルを駆使した1曲でしたね。半年前にワウペダルを買ったはいいが、なかなか登場する機会がなかったんで、ずっと使いたかったから、この曲が来たときは、喜んじゃいました！　けど、使い慣れてなかったんで、レコーディングでは、揺紗くんに手で操作してもらいました（笑）。

淳：リズム隊のノリにピッタリとハマるギターを意識して弾きましたね。難しかったんですけど、個人的にこういう曲調は大好きなんで、いい感じのギターを弾けたんじゃないかなと思います。

そらお：イントロとギターソロのバックで弾いてるベースを聴いてほしいですね！　音ひとつひとつを出すにもすごく苦労して出したっていう指引きの1曲なんで、じっくり聴き取ってほしいです。

——ラストの「泡とサイダー」は？

揺紗：これはメジャー7のコードのじゅわぁ～んとした音を軸に作った曲です。そこからサイダーを思い浮かべて、歌詞を広げていったんです。サイダーの中に果物が浮いてる感じで、記憶が浮かんでいるような感覚を歌詞にしていったんです。掴めそうで掴めない記憶っていうか。タイトル、実は、〝泡とサイダー〟と〝アウトサイダー〟がかかっていて、初恋の無知故の罪と、自分を責めてしまう感覚を絡めてみたんです。恋というモノさえ解っていない時代の初々しさが出ていると思います。曲調的には、いつもシングルでは、新しいことをしている表題曲と、ライヴ栄えしそうなクレイジーで派手な2曲目と、雰囲気モノな3曲目っていうのを意識しているので、まさに、この曲は、3曲目の役割りを存分に果たしてくれてるんじゃないかと思いますね。みんなそれぞれの記憶を重ねて聴いてもらえたら嬉しいです。

(問) 〒162-0831東京都新宿区横寺町32 TR神楽坂Bld
☎03-3268-8804（平日 12～18時）　http://kiddie.jp/

蝴蝶网 hudie.com

ld Tour 2010

lethod of Inheritance" GRAND FINAL

— CHATEAU DE VERSAILLES —

2010.9.4 SHIBUYA C.C.Lemonホール

蝴蝶网
hudie.com

Versailles Philharmonic Quintet

日にスタートしたワールド・ツアー"Method of Inheritance"が、
・渋谷C.C.Lemonホールのステージにてついに完結した。
の持つパワーを底上げし、メジャー1stアルバム『JUBILEE』を
固な姿にするものとなった今回のツアーだったが、
ド・ファイナルのステージでは新たなメンバーを迎え入れることも発表された。
llesにとって、ひとつの節目ともなった夜の模様を速報レポート。

Photography:SAORI TSUJI　Report:RINGO AOMORI

松明の焚かれた厳かなステージ。〝We are Versailles!!〟と力の限りメンバーを呼ぶオーディエンス。階段を降り、それぞれの立ち位置へと静かに歩み出た〝4人〟。開演予定時刻を25分ほど過ぎた頃、全てが揃ったところで放たれたのは、アルバム『JUBILEE』の1曲目を飾る「God Palace」だった。それはまさに、『JUBILEE』を引っ提げて世界中を廻ってきた、長い長いツアーのグランド・ファイナルに相応しい幕開けだった。

今回のワールド・ツアー〝Method of Ingeritance〟がスタートしたのは、『JUBILEE』がリリースされてから約1ヶ月後、2月28日のことだった。アルバム・リリース時の取材で、〝ツアーで『JUBILEE』を育てたい〟と語っていたメンバーだったが、ツアー初日の横浜公演では、ようやく歩き始めたところだな…というのが正直な感想だった。実際、この夜はアルバム曲が多数演奏される中にあって「God Palace」はまだ披露されるに至らず、それがまた、『JUBILEE』としての世界が完璧なかたちとなりきっていなかった象徴だったように思うのだ。

しかし、それからファイナルに至るまでの約半年間。国内ツアー後のJCBホールでは、大がかりなセットと演出に色づけされた壮大な世界観を提示。南米ツアーでよりタフネスを備えたか、その直後のファンクラブ限定ライヴでは、確実にボトムアップしたバンドの姿を見せ

レイが『JUBILEE』を表情豊かなものに変えていた。半年に及ぶ過酷なスケジュールは、これほどまでにバンドと作品を変貌させるのかと驚かされた。それだけに、この夜のライヴが今までにないものになることは期待できたわけだが、1曲目に「God Palace」が配されていたことで彼らの並々ならぬ気概を感じ、その期待は早くも確信へと変わったのだ。

ファイアーボールが上がり、火花が散る、ホールならではのド派手なオープニング。それでも、KAMIJOが拳でオーディエンスを鼓舞し、HIZAKIが舞うようにギターを掻き鳴らし、TERUが揚々とした表情で指を躍らせ、YUKIが時に歌い時に煽りながらも安定したリズムを叩き出す……そんな彼らのステージは、もはや〝ホール〟を感じさせない貫禄も見せていて、1年半以上前に同会場で行なわれたライヴとは全く異なる印象を受ける。

中盤では、客席への一礼に始まったTERUのインスト曲「Reminiscence」から、HIZAKIとリズム隊によるセッション・ナンバー「Desert apple」も披露。妖しさと渋さの混在したHIZAKIらしいメロディを聴かせる曲であり、激しい展開を見せるリズムもまた、ヴェルサイユならではのもの。ライヴで初めて聴く新曲のため、今後の作品化を期待していたい。

その後は、「The Umbrella of Glass」

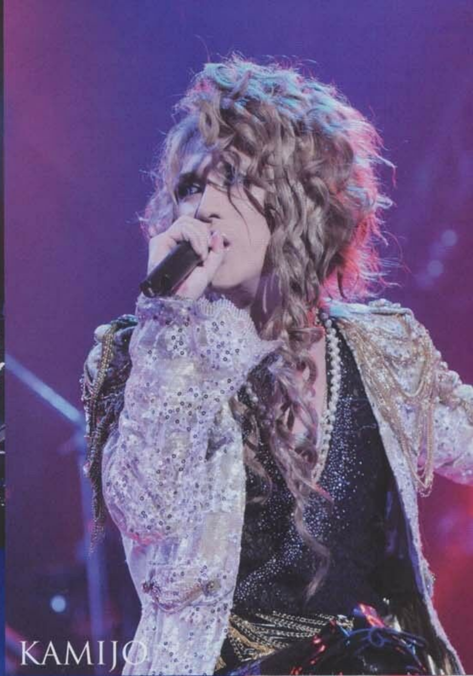
てきたヘヴィ・チューンの連打とくれば、オーディエンスも盛り上がらないはずはない。〝興奮してきたか? もっと感じ合おうぜ!〟KAMIJOが色気たっぷりに煽ると、オーディエンスも激しく身体で反応。ステージが、まさに薔薇色に染められた「Aristocrat's Symphony」まで一気に駆け抜けると、〝醒めない夢の歌を〟と「Sympathia」でしばしのクールダウン。会場を舞うハートのカードの揺らめく中でしっとりとした空間を作り上げた。

そして…この日の一つのクライマックスは、本編最後に用意されていた。

『この半年間、ワールド・ツアーをサポートしてくれたMASAHIを、6人目のメンバーとして、本日正式に迎え入れます。新生ヴェルサイユをこれからもどうぞよろしくお願い致します』

温かな拍手と歓声がMASASHIを包む中、披露されたのは10月27日リリースのシングル曲「DESTINY-The Lovers-」だった。大切な人や日々への想いを歌う優しい歌詞、ギター陣の速弾きの掛け合い、絶妙に転調するメロディ……ヴェルサイユの新たな歩みを飾るに相応しい曲を届けてくれた。と同時に。アンコールで「Serenade」を演奏した後、天に向けてKAMIJOが投げキス、〝彼〟への想いも垣間見せた。

『JUBILEE』という一つの世界を昇華させたこの夜。〝眩い世界〟へと続く



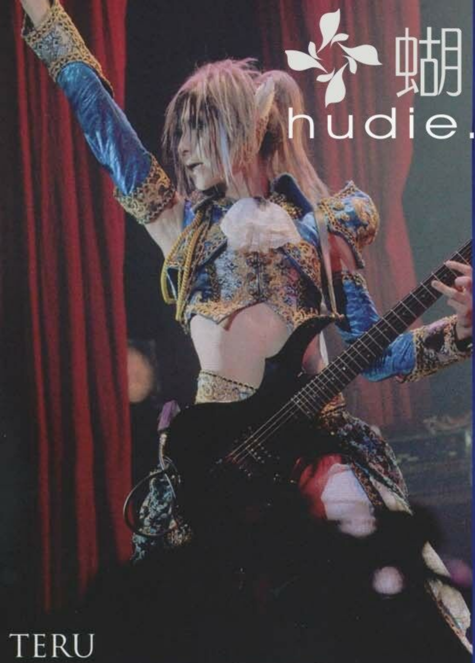
KAMIJO

【set list】
SE
1.God Palace
2.ASCENDEAD MASTER
3.Rosen Schwert
4.zombie
5.Amorphous
6.PRINCE
7.Reminiscence
8.Desert apple(新曲)
9.The Umbrella of Glass
10.Catharsis
11.愛と哀しみのノクターン
12.月下香
13.BEAST OF DESIRE
14.Aristocrat's Symphony
15.Sympathia
16.DESTINY-The Lovers-
<encore I>
17.The Red Carpet Day
<encore II>
18.Serenade
19.The Revenant Choir

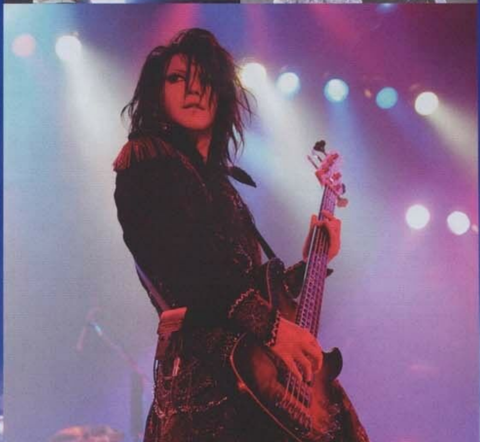
HIZAKI

蝴蝶网
hudie.com

半年に及ぶワールド・ツアー、ついに完結の地へ

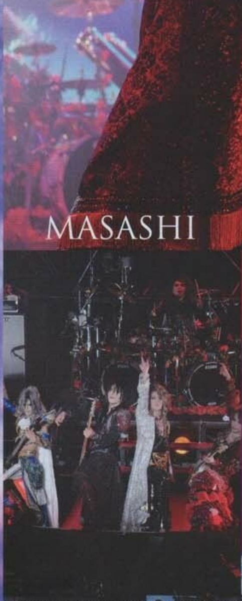


TERU



MASASHI

YUKI



蝴蝶网 hudie.com

「彩冷えるは、ずっと葵くんがバンドの管理をしてきてくれていたバンドでもあったから、葵くんが心配で。精神的にも体力的にも凄く負担がかかっていたからね。それに、現状5人でやれる精一杯を出し切っていたこともあって、5人で出来る限界を感じ始めていたところでもあったんですよ。そんなときに貰った話だったんで必然性を感じましたね」

これは、2009年5月27日にデビューが決まった彼らをインタビューした時にタケヒトが言っていた言葉だ。

彼らは2004年に彩冷えるを結成し、2005年にサポートドラマーとして参加していたケンゾを正式メンバーに加え、年間100本近いライヴをし、動員も確実に増やしていった。誰もがそのタイミングで、メジャーへの進出を期待していたが、2006年の夏、リーダーであり、メインコンポーザーであった涼平が脱退し、バンドは解散の危機へと追い込まれた。しかし、彼らは足を止めることなく、夢人を新たにメンバーとして迎え入れ、彼をメインコンポーザーに置き、走り続けたのだ。そして2009年5月27日。彼らは「会いたくて」で待望のメジャーデビューを果たすこととなった。

本当に仲の良い5人だった。どんな苦境にもめげず、5人が力を合わせて乗り越えてきたのだ。しかも、タケヒトの言葉からも解るように、お互いがお互いを気遣い、インタビュー時も、自然とボケと突っ込みの図式が出来上がるような、とにかくアットホームな空間だった。それなのに、突然の脱退報告。衝撃というしかなかった。しかし、彼らはこの決断を下すまでに相当な時間と体力を消耗していたのだ。

「いろいろと心配をおかけしてしまって本当にすみません。ファンの子たちにもちゃんと向き合って話せる場所もなく、本当に申し訳なく思ってます。僕たちは、メジャーシーンに進むにあたって、それまで自分たちでやってきた事務所業務に限界を感じて、事務所に所属することになったんですが、新しい環境に身を置きつつも、インディーズ時代にお世話になっていたテックやスタッフに、引き続き恩返しの意味も込めて、それまでどおりお

でいると思っていたんですが、今年の2月くらいにいろんなことがずさんになっていたことが解ったんです。関係者だけじゃなく、ファンの子たちにも、会報もちゃんと届いていなかったりっていうような面でも迷惑をかけてしまっていて、メンバー全員で話し合いをして、その環境から抜け出そうということになったんです」（タケヒト）

レコード会社との契約が満期になるまで、責任を持って彩冷えるとして活動していくことを選んだ5人。しかし、葵が、新たな環境でお世話になった関係者にも恩があるとし、そこを辞めることをためらいはじめたのだという。このことを、4人は責めてはいない。むしろ、私自身、人一倍恩情の厚い葵らしい考え方でもあると思った。4人にとっても、葵にとっても、彩冷えるは本当にかけがえの無い存在なのだ。お互い、選んだ道は違えど、そこを守ろうとした気持ちに変わりはない。5人はそれから何度も話し合ったというが、その話合いの中でも、いつものように笑顔が溢れ、そこには、いままでと変わらない5人の姿があったという。

なんとも切ない話である。本人達の意志ではなく、身を置いた環境のせいで、ここまで大きくバランスが崩れてしまうことになるとは……。残念でならない。もちろん、誰よりも、本人達が一番悔しい思いをしているに違いない。

「何度も話し合った結果、僕たちは事務所を辞めることを決意し、葵くんは残るという道を選び、ソロ活動を平行してやっていくことになったんですが、そこもいろいろと連絡不行き届きなところがあり、ソロの話もちゃんと僕たちに伝わっていない状態でのスタートになってしまったりもしたんです。その後もいろいろと話し合い、結果、そのずさんさに、また5人で向き合ってみようかっていう話にもなったんですが、その時はもう僕たちが事務所も辞めていたので、それが叶う状況にならなかったんです」（タケヒト）

本当に少しずつの歯車のズレが、後戻り出来ない状況を作っていってしまったのだ。彩冷えるとして5人で動けない状態に追い込まれた彼らは、それでも彩冷えるを守ろうと、それぞれ

AYABIE

気持ちを一つに

決心

2009年5月27日。彩冷えるは「会いたくて」で念願のメジャーデビューを果たした。新しいフィールドに飛び立つために、新しい環境に身を置いた5人。背伸びすること無く、一段一段、そして、一歩ずつ、足を止めること無く確実に前に進んできた彼ら。5人は、どんな辛いことも、どんな無理なことも、5人で全部跳ね返し、同じ温度で、同じ歩幅で、同じ方向を向いて歩いてきたのだ。2010年8月7日。そんな彼らからの突然の報告———。それは、“夢人・タケヒト・インテツ・ケンゾの脱退”という衝撃的なモノだった。

Interview:NAOKO TAKEICHI

うなっちゃったんだろう?って悲しく想う毎日でしたね。とにかく、1日も早く彩冷えるとしてライヴがしたい。そればっかりを考えてました。けど、いろいろな問題が重なり、動けない状態が続いていた中で、彩冷えるとしてオファーを貰っていたイベントに、夢人くんとケンゾくんで作ったユニット“KY”で出演したりしていたんです。4人で何かをやってしまうと、4人と葵くんっていう1対4で、彩冷えるがバラバラになっちゃっているみたいに見えちゃうと思ったし、そう思われるのが嫌だったんです。彩冷えるって本当に仲が良かったし、そんなアットホームな空気感を、ファンのみんなも絶対に愛してくれていたと思うので。それもあって、僕とタケヒトは裏方にまわって、KYのスタッフとして、いろいろとお手伝いをしていたんです。ステージの袖から、彩冷えるのために全力で頑張る二人の姿を見ていて感動したし、応援してくれているファンの人たちを見ていたら、早く彩冷えるとしてステージに戻らなくちゃって思ったし、ここまで客観的に彩冷えるを見れる機会は今までなかったんで、いろいろと考えることが出来たんです」（インテツ）

彼らはそんな経験を経て、4人でAYABIEとして活動していくことを決めた。

「葵くんと一緒に出来なくなったこともあり、ヴォーカルを新たに探そうとしたんですが、なんだかそういう気持ちにもなれなくて。この4人でAYABIEを続けていこうって決めたんです」（タケヒト）

彼らは今、再始動のために全力をかけているという。

「まず、10月22日にワンマンライヴを渋谷のO-EASTでやろうと思ってます。まずは、待っててくれている人たちに、何が出来るかっていったら、やっぱりAYABIEの音を届けることだと思うから———。今、すごいやる気に満ちてるんですよ、僕。すごくいっぱい曲も出来てるし、とにかく前向きで。みんなに心配かけた分、こんなにもごちゃごちゃになってしまった分、信用を取り戻していかなくちゃっていう気持ちもありますからね。それって、言葉とかじゃなくて、やっぱ

したい。ワンマンが終わったら、年末にはツアーも決っています。少しの間、足を止めてしまうみたいな形になってしまったんで、挽回しないと。10月22日にはもっと詳しいことが話せるし、見せられると思うんですが…。とにかく、今言えることは、それなりの覚悟をして、今、ここに居るっていうことです。生半可な気持ちじゃないっていうことだけは確かなので。その僕たちの想いをぜひ、直に感じに来てほしいですね」（夢人）

「俺、嘘は付きたくないんですよね。いろいろと生臭い話っていっぱいあったりするけど、でも、この結果が今は全てだって思ってるから。ここまでして、なんでAYABIEっていうバンド名を続けるのか?って言われたりもするけど、今はこの4人で音楽やることしか考えてなくて。この4人で音楽やるのに、全員彩冷えるのメンバーなのに、逆にわざわざバンド名を変える必要ないんじゃないかってとこで。それに、彩冷えるが嫌になって辞める訳じゃないし、むしろ、みんなそこで繋がって頑張ってきた訳だし。新しい環境に行って、インディーズの頃にやりたくてやってたことが出来なくなったりしたことも確かだし、音的にも、そこを思いっきり追求していけたらいいんじゃないかなって、今は思ってる。みんなが好きだった彩冷えるをね。とことん追求していけたらいいなって。大丈夫。ちゃんと建て直していくつもりだし。期待してほしいですね」（ケンゾ）

今年中にはアルバムをリリースする予定だという彼ら。そのタイトルは『バージンスノーカラー -2nd season-』に決まっているという。

『バージンスノーカラー』とは、夢人が加入する前、前ギタリストの涼平が脱退した後、新たなスタートを切るために新曲ばかりで作った、まさに再スタートアルバムだ。彼らは今、このタイトルと共に、心機一転、新たなAYABIEを誕生させようとしているのだ。

葵もまた、歌を続けると言う。

それぞれが別の道を歩むことになったが、仲違いという訳ではなく、お互いを尊重した上での新しいスタートであることを知ってほしい。今、そんな彼

夢人

タケヒト

インテツ

ケンゾ

蝴蝶网
hudie.com

Midnight Queen

Mix Speaker's,Inc.

ブラック・ファンタジーへの招待状

7月3日の日比谷野外音楽堂でのワンマンライヴを大成功させたMix Speaker's,Inc.から新譜が届けられる。シングルのリリースは、日比谷野外音楽堂の会場限定でリリースされた「シンデレラ」ぶり。6人ヴォーカル第2弾となった「シンデレラ」は、"夢のテーマパーク"にしっかりと華を添えたが、どうやら今回のニューシングル「Midnight Queen」も、次なるテーマを提示するモノらしい。さて、次なるテーマとは？

Interview:NAOKO TAKEICHI

——7月3日に行なわれた、日比谷野外音楽堂ライヴの会場限定でリリースされたSg「シンデレラ」は、〝夢のテーマパーク〟のテーマソングでもあった訳だけど、今回は？

AYA：今回は10月3日から始まるツアー『Midnight Pumpkin』で、ハロウィンフェアをやるにあたって、そこのテーマ曲的なシングルを作ろうってことになったんですよ。それで、ハロウィンを意識して書いた曲が表題曲の「Midnight Queen」っていう訳です。

——なるほど。だからイントロがちょっとオドロオドロしいんだね。

AYA：そうそう。ちょっとホラーな感じね。今までにも、こういう感じの曲はなかった訳ではないけど、以前と違うのは、シンセをあんまり使わずに、バンドの音を前面に押し出した感じでこういう曲をやれるようになったのは進歩なんじゃないかなって思いますね。ANIMAL ZOMBIESあたりから、そういうところでの進歩を感じるというか、やりたいことが自分たちでちゃんと形に出来るようになってきたと。

——なるほどね。間奏のギターソロももちろんのこと、Sさんの流れるタム使いの素晴しかったこと。

S：おっ！

seek：褒められた！

S：ちょっとそこ、語ってもいいですか!? 今回、この曲を作るにあたって、AYAくんのイメージがすごく濃くあって、既にデモの段階からほぼ完成型の状態に作り込んであったので、間奏のドラムに関しては、ギターに合わせる形でフレーズをこだわって作ってみた部分なので、そう言ってもらえると嬉しいですね。

——曲調的には、90年代のヴィジュアルシーンで流行った感じというか。

keiji：うん、ですね。すごくヴィジュアル色を感じたこともあって、自分なりにそこも追求したギターを弾いてみたって感じでしたね。

seek：イントロのオドロオドロしい部分は同期だから誰も弾いてないけど、そこもトータルで1曲の雰囲気が構成されているからね、そこも重要で。

——サビでは一気にそのオドロオドロしさも消える感じで、ミックスらしさ

MIKI：ハロウィンっぽい感じをイメージしながら歌詞書いたんだけど、AYAくんから、カ[illegible]っていうワードはあまりにも限[illegible]過ぎるから使わないでほしいって言われたこともあって、なんとなくハロウィンが匂う感じにしたんだよね。

——そもそも、ハロウィン[illegible]語あるの？

MIKI：ないんじゃな[illegible]かな？「シンデレラ」みたいな[illegible]したお話ではないと思う[illegible]単なる祭りだと思うからね。

AYA：なんか、MIKIくんって、もともとから、ハロウィン色を持ってる人でしょ（笑）。雰囲気にしても歌詞にしても。だから、無理矢理カボチャっていうキーワードは入れなくてもそれらしくなるんじゃないかって思ったんですよね。「シンデレラ」の歌詞はYUKIくんが書いたんだけど、この歌詞は、MIKIくんが書く「シンデレラ」の歌詞とも受け取れて。またそこもいいなって思うんですよ。

——なるほどなるほど、そういうとらえ方をしても面白いよね。

YUKI：そう。僕は、この曲、ちょっと昔っぽいし、でも新しいしっていう感じが気に入ってるんですよ。歌も比較的すんなり歌えた感じやったし。けど、ハロウィンってこともあって、いつもよりもちょっと粘りっこい歌い方をしてみたつもりなんですよ。ほんの気持ちなんですけどね。

——カップリングの「Lie Lie Lie」は誰の曲？

AYA：こっちはseekの曲っすね。

——seekにしては奇をてらってない感じの1曲だよね。もっといつもは癖のある感じだと思うけど。

seek：そういう意味で言うたら、最初、カップリング候補曲としてYUKIくんとMIKIくんが選んでた曲の方が癖はあったかもしれへんけど、選曲会の結果、keiji・Sが選んでたこっちの曲でいくことになったんですよ。

YUKI：もう1曲の方はシャッフル系で、あんまりウチらにはなかった曲やったんですけどね。

keiji：絶対こっちの方が良かっ

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

の方で行くことになったんですよ（笑）。

seek：こっちは特にハロウィンを意識した訳ではなく、自由に作った曲やったんですけどね。勢いあるマイナー調の曲があってもいいかなと思って作った曲でした。ギターロック系の疾走感あるロックをイメージしましたね。この曲いいからやろうよっていうよりは、今の時期にピッタリあってるからやろうよっていう選び方してるんで、今回はこの表題曲にこの時期ってことで、この曲が選ばれたって感じっすね。でも、ウチらって、全員音楽のルーツが違ってたりするんで、あくまでもミックスらしい曲っていうのをちゃんと客観的に作れてたり、選べていたりするんじゃないかなと思うんですよね。この曲好きやから、この曲やろうぜ！っていうことではないっていうか。

AYA：そういう話になると6人バラバラやからね（笑）。まとまることが絶対にないから。Mix Speaker's,Inc.というフィルターを通して、何が必要かっていう選び方をしてる感じ。

――なるほどね。歌詞は？

YUKI：この曲の歌詞は僕が書いてるんですけど、曲調がマイナー系っていうこともあって、ちょっといつになく、内面の陰な部分を表に出した歌詞を書いてみたんです。いつもは前向きで、背中を押すような歌詞がワタクシの場合多いのですが、ワタクシも、そんな明るいばっかの人間じゃないんだよ、頑張れって言われて頑張れるような人ではないんだよっていうことを、初めて素直に書いてみたんです。ヴィジュアルシーンとかを好きで居てくれるバンギャちゃんたちも、いろいろと思っていることを、深く胸の中にしまい込んでしまう子が多いと思うんですよ。バンドマンも同じだと思うんですよね。明るいだけのヤツなんておるんかな？って思いますからね。すごく真面目で、すごく深く考えるヤツばっかりやと思うから。

MIKI：この歌詞を初めて読んだとき、普段のYUKIだなって感じたんですよね。すごく深いし、濃い歌詞だと思います。でも、またこの歌詞を

ことにしてはこういう歌詞を書かないと思うんだよね。本当は自分のことなんだけど、人のこととして書く感じになると思う。なんかね、そんなふうに、いろんなことを思いながらこの歌詞を歌うのも、面白いなって。

――そうだね。ツインヴォーカルならではの面白さでもあるよね。

MIKI：そう。自分じゃ絶対に書かない歌詞を歌えるからね。

S：演奏面に関しては、そんな歌詞の素直さが真っ直ぐに伝わるように叩きましたね。すごくシンプルでストレートな表現というか。

keiji：曲はマイナー系で暗めなんですけど、疾走感がすごくあった曲なので、感情的でストレートなギターを弾きたいなと思い、エモーショナルに演奏しましたね。

――ライヴ栄えしそうだよね。ライヴと言えば、10月からのツアーではこの曲たちが中心になって構成されていく感じになるの？

AYA：そう。今回は衣裳は変わらずだったりするけど、Sさんがカボチャになったり、seekがコウモリになったり、俺が魔法使いになってたりするっていうハロウィン期間でないと見れないメイクとライヴになるので、そのあたりも楽しみにしといてほしいですね。

――Sさん、カボチャになるの？

S：そう（笑）。楽しみにしててほしいですね。1年に一回きりのイベントなんで、一緒に騒げたら嬉しいです。

seek：今年はそんなにワンマンやってないんでね、2010年を締めくくるワンマンツアーということでも、いろいろと楽しんでもらえる要素を盛りだくさんにして挑もうかなと思っているんでね。

――ブラック・ファンタジーな世界をね。

MIKI：Mix Speaker's,Inc.の世界というか、館にみんなを招待するっていう感じに出来たらいいなって。

AYA：一番最初にワンマンやった時にみたいに、ライヴハウスごと、Mix Speaker's,Inc.の館に出来るような、そんなワンマンが出来たらいいなと思ってますね。

（問）http://www.mixspeakersinc.com/

12012

0 SUMMER TOUR SEVEN -Footsteps to steal up on- 完遂!!

蝴蝶网
hudie.com

7月24日からスタートした全13ヶ所を廻った全国ツアー"SEVEN-Footsteps to steal up on-"が、8月28日・渋谷WOMB公演をもって終了した。熱い魂が込められた新作『SEVEN』を引っ提げての今回のツアーは、様々な状況や環境を経たことで、彼ら自身のステージ・スタイルが変化したものにもなったようだ。12月には東名阪ワンマン・ツアーも決定し、毎年恒例の"イチニーの日"には六本木ラフォーレミュージアムでのワンマンも敢行。秋から冬にかけて怒濤のスケジュールで駆け抜ける5人に、今夏を改めて振り返ってもらった。

Photography:Rie S.@MAXPHOTO(8.27@WOMB)
Interview:TAKAYUKI MURAKAMI

僕らとファンのボルテージが完全に一致した

――"2010 SUMMER TOUR SEVEN -Footsteps to steal up on-"に出る前は、どんなことを思っていました？

宮脇：『SEVEN』というアルバムは、それまでのライヴで超えられなかったところに行きたいという気持ちを込めて作った作品だったので、それをライヴでやった時に、どういうものになるかを楽しみにしながら、ツアーが始まるのを待っていました。出始めは、最悪でしたけどね、いろんなことがあって。僕の中では、ツアー前にアフリカに行って、ひと回り大きくなってツアーを乗りきるつもりだったんです。でももう、帰って来てからいろんなことがあって。ツアーもキャンセルしてくれ…というくらいの心境でした…出始めは。

――それは、大佑さんの件があったからでしょうか？

宮脇：そうです。そのことについて話す気はないですけど…苦しい時期を通り抜けて、自分の心模様は確実に変わりましたね。"当たり前のことなんて、何もないんだな"と思って。それにヴォーカリストというのは、ただ歌えばいいというものではなくて。いちばん伝えないといけないパートだなと改めて思ったんです。今までは、言いたいことがあっても言わないことが多かったんですよ。言いたくても、上手く言えなかったりしたし。でも今回は、自分がヴォーカリストとして、お客さんにいろいろなことを伝えないといけないし、ウチのメンバーがどんなことを思っているかも知ってほしいというのがあって。今回は、そういう気持ちで毎回ライヴに臨みました。

――宮脇さんの意思は、ライヴを観て十分に感じられました。みなさん、ツアーに出てからはいかがでした？

須賀：今回のツアーは、超フラットにやりたい…というのがありました。意気込まないというか（笑）。今までの経験から、気負うとダメだなと思って。もう、ステージ上も裏も、全部一緒にしたいなと思って。今までも自然体でステージに立つことは意識していましたけど、"ここまで気を抜いたらアカンやろう"というラインが自分の中にあったんです。それを、今回は超えました（笑）。そうしたらすごく楽しかったし、また新しいところに行けた手応えも感じています。

酒井：俺は、こんなに違うのか…と改めて思いましたね。結果的には、"初日に来てくれた人、ゴメン"というくらい変わったんです。

川内：バンドがやってることは最初から変わらないんですけど、初日は、お客さんにしてみれば初めて聴く曲ばかりだったので。ノリ方が分からないし、聴く体制に入ってしまったみたいで、光景的には結構淋しかったんです。でもファイナルでは、もうみんなが身体で表現してくれて。ホントに、ツアーは大事ですよね。

酒井：ツアーを通して曲が育った感じもあったし、"やっぱりツアーはすごいな"と思いました。あとは、今まではツアー先でもマジメだったというか、ライヴが終わってホテルに帰ってからも曲順を替えたり、ミーティングをしたりしていたんです。でも今回は事前にセットリストも固めて、準備万端な感じで行ったので、ライヴ後はみんなで飯を食いにいったり、呑みにいったりして。"あぁ、初めてツアーを満喫してるな"と思って（笑）。本当に楽しい1ヶ月でした。

川内：今回のツアーでは、バンド結成7年にして、初めて塩谷くんと2人でご飯に行きました（笑）。ツアーの最初の頃に、みんなで飯を食いに行って。そこで塩谷くんと喋ってる時に、"そういえば、2人で飯行ったことないな"という話をして。"じゃあ、このツアー中に1回は行こう"という目標を立てて（笑）、仙台で2人でご飯を食べに行ったんです。

塩谷：かなり、ツアーの終盤だな（笑）。

川内：そう（笑）。仙台で、あまり会話もないまま、2人で商店街を歩いて行って（笑）。でも、店に入ってからは、すごく話が弾んだんです（笑）。

塩谷：メッチャ盛り上がりましたからね、最終的には（笑）。

酒井：俺、2人がベロンベロンになってる状態で呼び出されて（笑）。"来るんじゃなかった…"と思いました（笑）。2軒目のバーで合流したんですけど、濃い酒ばかり飲んでるし、"すごいな、この人ら"と思って（笑）。あと、須賀さんがステージで倒れました（笑）。

須賀：新潟で倒れたんです（笑）。ダブル・アンコールの時に、すごく気分が悪くなってて。ステージから降りる時に倒れてしまって。気づいたら、ローディーに抱えられてて、"はい、須賀さん帰りますよ"って（笑）。朦朧としてるから、"帰る"の意味が分からなくて。"もうチェックアウトの時間なのかな？"とか思いながら連れていかれたという（笑）。

塩谷：フラットになりすぎるな（笑）。僕は、ファンの子のパワーを実感したツアーでした。初日は一方通行みたいな感じでしたけど、ライヴを重ねるごとに、お客さんと一緒に作っていく形になっていったんです。お客さんがライヴを盛り上げようという気持ちになってくれていることを強く感じて。お客さんの愛をすごく感じるツアーでしたね。個人的には、名古屋と岡山、北海道のライヴが特に楽しかったです。ステージからハケる時に、みんなの笑顔が見えて。"ああ、すごくいいライヴだったな"と思って、気持ちよくお酒が呑めました（笑）。

宮脇：みんなはツアーを楽しんだみたいですけど、僕はずっと一人でいたので淋しかったです（笑）。声を保つために、寝ないといけなかったので。でも、その甲斐あって、今回のツアーは全ヶ所良かったんです。その喜びがあるから、ストイックになれました。

――充実したツアーだったことは、ファイナルの渋谷WOMB2デイズのライヴを観て感じました。

宮脇：ファイナルの初日は、強く印象に残っています。今回はツアー中、ずっとブログやツイッターで自分の内面をさらけ出していたんです。良くないと思えば良くないと書くし、淋しかったら淋しいと書いてて。ツアー中の自分の心情や、ファイナルを迎える心境が、ファンの子にもリアルに伝わったと思うんですね。それもあって、初日はもうステージに出ていった瞬間に、"成功やな"と思いました。僕らとファンのボルテージが、完全に一致していることが感じられて。"キタな"と。その感覚に間違いはなくて、素晴らしいライヴになりました。

須賀：自分の中では、ファイナルだからという特別な想いはなくて、ツアー中と同じ気持ちでステージに立ちました。お客さんが楽しんでくれていることが、はっきりと感じられて。それがいちばん嬉しかったですね。ライヴの時に一線を越えて、踏みこんでくる人が増えたな…というのがあって。それは、自分たちが守りの姿勢に入っていては起きないことだなと気づいたんです。今回のツアーでは、それが一つ形になった気がして。バンドとファンが、より強い信頼関係を築けたことを感じています。

塩谷：僕も今回のツアーを通して、お客さんとの信頼関係を強く感じました。もう、一人一人を掴まえて、"大好きだよ"と言いたい気持ちです（笑）。本当に、みんな可愛いヤツらなので。

酒井：ファイナルの2デイズは、いいライヴをしました。その一言に尽きますね。最高のライヴを見せられたんじゃないかなと思います。すごく自信があったんですよ。俺は、ツアーの最初の頃にやった岡山のライヴが、すごく良くて。そこからはもう、毎回自信を持ってステージに立ってて。

川内：ツアーを経て、楽曲やプレイが身体に染み込んでいるのは分かっていたので、ファイナルは何も考えずに、身体が動くままに任せようと思って臨みました。終わってみると、半分くらいは覚えてなくて。それくらい、頭が真っ白な状態で叩いていたんです。あとは、ツアーの1本目と本当に光景が違うなと思って。みんなに対する感謝の気持ちを噛みしめながら叩きました。でも、半分記憶がないんですけど（笑）。

――実際、お客さんの熱さにも圧倒されました。今年の秋から冬にかけても、いろいろなパターンで精力的にライヴを行なうみたいですね。

宮脇：ワンマンもいいけど、[illegible]に出たいな…というのがある[illegible]す。他のバンドと一緒にライヴをす[illegible]刺激を受けるし、勉強にもなるので。秋に何本か対バン・ライヴをやって、12月には東名阪のワンマン・ツアーも決まっ[illegible]イヴをたくさんしたいんですよ。『SEVEN』というアルバムは、今回の夏のツアーだけで終わらせるのではなくて[illegible]しで考えているので。『SEVEN』の[illegible]は、ライヴでやればやるほど良くなるだろうし。ライヴのたびに進化した姿を見せられると思うので、何度でも[illegible]を味わいに来てください。

蝴蝶网
hudie.com

――遅ればせながらではありますが、今夏の名古屋ダイアモンドホール公演［A GLEAM IN NITE］の成功、本当におめでとうございました。

玲央：ありがとうございます。まぁ、僕らからすると、あのライヴはかなり大きな挑戦だったんですけれども、結果的には動員的な面でも、内容的な面でも、ちゃんと成功させることが出来ました。

葉月：今までだったら、意気込んで臨めば臨むほど、空回ったりすることが多かったのに（笑）、今回に限っては何か魔力みたいなものでも作用してたんじゃないか？っていうくらい、楽しくて最高なライヴが出来たんですよ。

悠介：思ってたよりは緊張しなかったし、思ってた以上に良いライヴになった、っていうのは確かにありますね。

晁直：ツアーのファイナルっていうんでもなく、単発のライヴっていうこともあって、それなりにプレッシャーはあったんですけどね。その中でも、あれだけのライヴが出来たんなら、良かったんじゃないかなと思います。

――ちなみに、そのステージ上では今後に向けた指針表明もなされたのだとか。葉月くんは、どんな言葉でみなさんにメッセージを伝えたのですか。

葉月：サラッと事実を報告しただけですよ。どんなだったかな？　確か、〝シングルが出ます。ワンマン・ツアーをやります、トータル33本です。そして、そのツアーがｌｙｎｃｈ．にとってのラストインディーズ・ツアーになります。みんな、来てね〟って、そんな感じ（笑）。

玲央：あれは発表とか表明っていうんでもなく、普通に〝報告〟でしたね（笑）。

――その際の、ファンの方々のリアクションはどんな様子でした？

葉月：やっぱ、それを言った瞬間はワーッとなってました。ただ、きっとみんなのほうも思うことはいろいろあったと思うんですよ。だから、一応最後にハケる時にもう一言だけ、〝俺たちは何も変わんないんで〟っていう、メジャー進出する時には誰もが言うであろうセリフも、ちょっと付け加えたんですよ。

玲央：確かに、90％以上のバンドがそういうこと言ってますよね（笑）。言ったら空気が微妙になっちゃって。まさに、〝あー、それは誰でも言うよね。すでに聞き飽きてます〟的な感じで（苦笑）。

――ｌｙｎｃｈ．のお客さんたちは、シビアでクールですねぇ。

葉月：あの瞬間は、さすがに〝うわっ、ヤバい！〟って思いました（苦笑）。だから、さらにもう一言〝レコード会社、困らせてやります！〟って言ったら、改めてワーッとなったんですよ。いやー、凄いギリギリのとこでした（笑）。

――要するに、ファンの方々はとても心配なのでしょうね。ｌｙｎｃｈ．のような硬派で媚びないバンドが、メジャーという渾沌とした世界を、どんな風に渡っていくのだろう？という面で。

玲央：でも、そこに関しては僕らのことを信じてもらいたいなって思います。そもそも、プロかプロじゃないかっていう観点で言えば、僕らはメジャーどうこうっていう話とは関係ないところで、すでにプロとしてやって来てるわけですしね。今回の場合は、そこに協力して下さる人たちが新たに加わります、っていうだけの話なんですよ。

――つまり、大勢に影響はないと。

玲央：影響っていう意味でいけば、良い影響は必ずあるでしょうね。僕らにとっては、何より純度の高い作品を作って、それをみんなに届けることが最優先なわけで、マネージメント面も全てを自分たちだけで回して来ている現状からすれば、もろもろの負担が減ることになれば、もっと音楽に専念できますから。

――なるほど。とはいえ、現実問題としてメジャーの世界には難しい点もあるはずですよ。過去の様々な例を鑑みると、時には意に染まないことを迫られるケースが出て来る可能性も、ないわけではないですよね？

玲央：そこに対しても、自信を持って、ないと言い切れます。今回のお話は、ｌｙｎｃｈ．の本質と歴史を理解してくれた上で、〝一緒にやっていきましょう〟ということになったものなので、そういう一方的に何かをさせられるとか、みんなが心配しているようなことはないですし、そんな懸念があるんだったら、最初

lynch.

hudie.com

いますね。手伝ってくれる人が増えて、今よりやりやすくなるんだったらいいか、くらいの感覚しかないです。

悠介：僕も、特に何もないです（笑）。

葉月：そのくらいの、普通な感じだよね。ホントに。

玲央：lynch.には、何て言ってもここまでの5年半で築いてきたバンドとしての揺るぎない基盤がありますからね。これがある限り、僕らはどこに行っても大丈夫です。

――かくして、lynch.は今回ラストインディーズ作品となる、シングル『JUDGEMENT』を発表することになりました。どうやら、ここにもlynch.の意思が詰まっているようですね。

葉月：…って思うでしょ？　確かに、歌詞の面ではそういう要素も入ってるんですけど、曲を作ってる時点では純粋にカッコ良い曲を作ろう！っていうことしか、特に考えてなかったんですよね。

玲央：実は、今回のシングルも、この後に続くツアーも、メジャーの話が決まる前から僕らの中では進行してたんで、流れ的には後から〝ラストインディーズ〟っていう冠がついたことになるんです。

――音像、そして曲調の面からいくと、この表題曲「JUDGEMENT」はlynch.の王道な部分を、ぐっと凝縮して提示してあるという印象が強いです。

悠介：原曲も、これは凄いシンプルだったんですよ。とにかくストレートでカッコ良い曲だったんで、僕もただひたすらカッコ良いギターを弾こう、っていうくらいのことしか考えてませんでした。

晁直：僕に至っては、その考える時間もなかったくらいですよ（苦笑）。

――えっ!?

葉月：わりと毎度のことなんですけど、また土壇場で曲が変わったんです（笑）。しかも、今までの比じゃなかったもんね、時間的な猶予っていうのが。

晁直：曲が出来たのが、ドラム録りの2日前ですよ（笑）。ダイアモンドホールのライヴでもやってるんですけど、あのカタチからもまた変わりましたからねぇ。

――その中で、この完成形に持って行けるとは驚きです。というか、さすが！

Which way do you JUDGE?

これを聴き、何を想うか――シングル『JUDGEMENT』リリース

**審判の日々は、きっと彼らをより強靭で孤高なるバンドへと変えてゆくことだろう。
先般、遂にメジャーフィールドへの進出を決めたlynch.が、9月22日にラストインディーズ・シングルとして出すのは、
その名も『JUDGEMENT』。これに併せるかたちで、彼らは33本にも渡るツアー[THE JUDGEMENT DAYS]もすでに開始してい
lynch.の行く手に、幸多からんことを!**

Interview:YUKI SUGIE

算や打算は全く入ってないんですよね。素直に今lynch.としてやりたいこと、次のツアーを踏まえた上での曲、っていうものをカタチにしただけというか。lynch.の核が、まんま剥き出しで詰まってる曲になりました。

――異論はございません。

玲央：そういう意味ではですね、僕ら自身が〝これぞlynch.〟って納得して出すものだからこそ、僕はこの曲でみんなに審判を下してもらっていい、って思ってるんです。

――その旨は、この歌詞の内容にも滲んでいますものね。

葉月：この詞は、あのダイアモンドホールの直後に書いたんですよ。ブログなりtwitterなり取材なり、いろんなとこで発言する機会自体はあるけど、やっぱり何よりこれを聴いてもらうのがいちば[illegible]いですよね。俺も、みんなにはこれを聴いて審判してもらいたいです。

玲央：その結果、lynch.のことを選んでくれた人たちに対しては、僕らはこれからも最大限の誠意を音楽というかたちで、返していくつもりです。

――その姿勢は、当然今度のツアー[THE JUDGEMENT DAYS]で[illegible]かれて行くことになるわけですよね。

葉月：もちろん。これからのlynch.っていうものを、各地で見せつけ[illegible]来ますよ。3ヶ月をかけてのl[illegible]nch史上最長のツアーだし、これだけや[illegible]てったら、バンドとしてはまた一段と[illegible]えられるんじゃないですかね。

晁直：この規模のツアーは前からやってみたかったんで、今から楽しみですね。ちゃんと終わらせられたら、これほど達成感を得られるものもないと思うんで。

悠介：そのためには、体調管理にも気を配りたいです。あんまりカラダ強いほうじゃないんで、頑張ります（笑）。

玲央：これだけ長いとツライ時があるのもそれは承知で、半ば出家するも同然みたいなとこはありますよね（笑）。でもその分、いろんなとこでみんなが喜ぶ顔を見て来たいし、今後に向けてバンドとして研ける部分は全て研いで来ようと思ってます。

hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

Sadie

クライモア

NEXTへの断片

ライヴバンドの実力を見せ付けるべく、30箇所32公演というロングツアーに挑戦するSadie。そんな中、ニューシングルを3タイトル連続でリリースすることが決まった。NEXTを求めて突き進む彼らが提示してきたものとは、一体――。まずは、9月29日にリリースされる第1弾作品「クライモア」について、メンバー全員に話を訊いた。NEXTの断片、ここにあり。

Interview:ERI MIZUTANI

――本題に入る前に。〝Sadieが、映画『BECK』に参加している〟との情報を小耳に挟んだのですが。

亜季：ご縁がありまして、〝音楽〟というところで参加させていただきました。どういう形で参加しているかは、是非、映画を観て確かめて下さい。

――わかりました。さて、3タイトル連続リリースは、Sadieにとって初の試みですね。第1弾となる「クライモア」では、どのようなことを表現しようと？

真緒：〝ライヴ〟です。2作目・3作目に関しては、タイアップが付いているので、割と規制があったんですよね。けれども、1作目は完全なオリジナルとなるので、だったら、今、自分たちが必要なことを掲げて作品を作ってみようじゃないかと。それで、これから始まるロングツアーに向け、〝ライヴ〟というコンセプトを打ち出したんです。

真緒：表題曲の「クライモア」は、俺と美月で作ったんですけど、以前からこういうのを作りたいと話していて。俺はメロを持っていくから、美月には好きなリフを持ってきてくれと頼んだんですよ。

――サビだけ切り取ってみるとすごく明るい曲。けれども、冒頭のパワフルな部分があることによって、ただのポップな曲では終わらないというか。

美月：そこはすごく考えたところなんです。あとは、1回聴いて覚えられる曲にしようっていうのは最初からありました。

真緒：詞に関しては、世の中の憤りというものがテーマで、それを打ち砕く心を描いているんです。色んな人の感情や考えが1つの曲の中に入っているんじゃないかな。最も伝えたかったのは、自分というものを開花させて吐き出せということだったので。自分の心境をリアルに出せたと思います。

りは、ライヴハウスでのライヴの様子がイメージできたし。個人的には、この曲をポップな曲とは捉えていないので、その辺は自然とレコーディングに臨めましたね。何かに注意するよりも、ライヴでのノリを意識してやればいいと思ったんです。ここでこういう掛け声を言わせたいとか、お客さんをノセられるリズムというのを心掛けながら叩いていきました。

亜季：俺は、5色の色が見え隠れするものでないと、タイトルチューンとして相応しくないと思っているんです。けれど、この曲は、自分の色を出せば成立する曲なので、ある意味やりやすかったです。あとは、〝亜季くんっぽいベースだね〟と言われないよう注意はしましたけど。

——普通は、そう言われるほうが嬉しくないですか？

亜季：俺、手の内を読まれるのが嫌なんです。だったら、〝こういうこともできるんだ〟と思われたほうが嬉しい。

——いつも同じところにとどまっていたくないということですね。剣さんは？

剣：この曲、Bメロだけ聴くと、ものすごくポップに聴こえるかもしれない。でも僕は、ポップに聴こえないようなアレンジというところに気を使いました。この手の楽曲って、アレンジ1つでかなり変わってくると思うんですよ。そこで考えたのは、他から評価をいただいている部分だったり、自分たちが見据えているものだったりを考慮して色付けしていくということでした。以前に比べ、この手のアプローチがスムーズにできるようになったと思います。

——また、美月さんに至っては、カラスの活動がうまく作用しているのではないかと。少なからず重なる部分があるからこそ、こうしてSadieに還元できているのだなと思いました。

美月：カラスでは、すごく良い経験をさせてもらっているし、学んだものは絶対に吸収して帰ろうという気持ちで臨んでいるんです。参加したことによって、Ｓａｄｉｅでもこういうことをやって大丈夫かなと思いながら形にしているところはあるので、そう感じてもらえたのなら嬉しいですね。

真緒：とにもかくにも、ここでは、5つの魂を感じていただけたらなと思います。

——続いての「BARST ZERO」は、久しぶりの高速チューン。

すけど、この曲って、「クライモア」とはまた違うライヴ感なんですよね。

真緒：それだけに、歌録りでは高性能マイクを使うのではなく、ライヴハウスにあるようなマイクで歌っていったんです。

——少しザラッとした感じが曲の雰囲気に合っています。こちらは、美月さんが原曲を持ってきたそうですね。

美月：「ドレス」を出す前からあった曲なんですけど、このタイミングで出そうということになり。ライヴの流れを考えたとき、必要な曲かなと。それにしても、とにかく早い（笑）。

真緒：テンポなんぼだっけ？

剣：230の8かな。

——それだけに、縦のラインがきっちりしてないと、汚く聴こえる恐れもあり。

剣：遅い曲というのは、ニュアンスを付けやすいんですけど、こういう早い曲はちょっとでもずれると、後々、響いてきますからね。

美月：ブワーとなっているところは別として、縦ノリのところは、決まれば最高なんじゃないかなと。何ていうか、跳ばしたかったというか。

——跳ばす？

亜季：Ｓａｄｉｅって、ヘドバンのできる曲は多いんですけど、オーディエンスが一体となって跳べる曲というのが少なくて。

——あぁ、言われてみるとそうですね。

美月：もちろん、頭を振るセクションもあるんですけど、どちらかと言うと、こだわっていたのは縦のノリ。それなので、「クライモア」同様、聴いたらライヴが浮かぶと思います。僕自身、盛り上がる様子は大体想像できているんで。

景：だからこそ、勢いだけは欠けてはならないっていうのはありましたね。

美月：ただ、実際にライヴでやったらしんどいんでしょうけど。

——ますます早くなるでしょうし。

美月：あとは、景さん次第です。僕らはそこに従うだけなんで（笑）。

景：まぁ、同期なり何なりあるんで、大丈夫だと思います（笑）。

——ラストの「little prayer」も美月曲だそうですが。

美月：作ったときは、1つ先の歌モノというのを想定して作っていったんです。前に「Regret」って曲を出したんですけど、それよりもっと成長した感じの曲

き、どういう反応が返ってくるか不安でもある、とおっしゃっていましたね。

美月：はい、NEXTを提示しただけに。あのときは、新しい要素に挑戦した曲を出していいのだろうかと、若干怖い部分もあったんですけど、今ではライヴでの定番曲となって。だからこそ、色んな曲を出してもいいのだと思えたし、やりたいことは素直に挑戦していこうって思えたんです。その結果として、「little prayer」が出来たんだと思います。

——この曲、鍵盤の音色が良いアクセントとなっていますが、もしや、弾いているのは、亜季さん？

ていったんです。そうやって鍵盤が多く入っているので、ベースの音はシンプルにしてみたんですよ。何パターンか録ってはみたんですけど、存在感がありつつも、みんなの邪魔をしない音を選んでみました。楽曲自体がNEXTなので、自分のプレイ面でもNEXTなところを提示していきたいと考えましたね。

——またしても引き出しが増えましたね。

剣：これは本当にバランスの良い曲だと思います。〝すげぇな、Ｓａｄｉｅ！〟って言ってもらえる曲にしたかったんですけど、結果的に、そうなったんじゃないかな。

かりと聴いてもらいたいと思いますね。

真緒：メッセージ性がある曲なので、これを聴いて、心のどこかで優しい気持ちになってもらえたら嬉しいです。強くなるのに一番大切なこと、それは優しさだと思うので。

——これらの曲が、これから始まるロングツアーどう化けていくか、非常に興味深いです。

真緒：今回はゲストを迎えながらのツアーになるので、津々浦々、気合い入れて廻りたいなと。あとは、オーディエンスとの存在力を今まで以上に高め合えたらいいなと思います。

蝴蝶网 hudie.com

DOG inThe パラレルワールドオーケストラ

シングル2ヶ月連続第2弾、『POCKET★ROCKET』登場!!

9月に発売した『青空晴レーション』に続き、10月20日には『POCKET★ROCKET』と、2ヶ月連続でシングルをリリースするDOG inTheパラレル[illegible]ールドオー[illegible]ストラ。11月27日には、今年の活動の集大成となるワンマン・ライヴを、渋谷WOMBにて敢行。さらに12月から[illegible]201[illegible]に向[illegible]活動[illegible]スタートする[illegible]の前にぜひ、今年のDOG inTheパラレルワールドオーケストラの進化した姿を、2枚のシングルとワ[illegible]ライ[illegible]通じ[illegible]わってください。

Interview:TOMONORI NAGASAWA

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

ROCKET」が完成!? でも2曲目に収録した「AlarM7096」のほうがポップ&メロディックだから、A面曲っぽいなと感じたんですよね。

春：あっ、意外でした!? 自分たちとしては、自信作が完成した手応えを感じています。ファンの人たちの場合、『青空晴レーション』や『ワンダー×ワンダー』など、シングルで形にしてきた一連のスタイルが好きな人たちも多いけど、別のスタイルをすごく好きでいてくれる人たちだっている。元々ヴィジュアル系って、〝何でもあり〟のジャンルだったはずなのに、いつしか流行りのスタイルが生まれ、そこに沿うか沿わないかで評価されたり、変な垣根が生まれちゃってるじゃないですか。でもウチらは、そんなの一切関係なく、いろんな人たちに素直に楽しんでもらいたい。だから、〝ジャンルなんて垣根は関係ない!〟…ウチの準々さんがそうおっしゃってました。

準々：……あっ、はい（笑）。

——ジャンルなんかクソ喰らえ! 固定観念なんかブッ飛ばせ!!って意識だ。

準々：……まっ……そうですね。

春：彼は、そんな攻撃的な性格ではないです。準々の心を代弁するなら、〝僕らは、いろんな人たちに聴いてもらえる音楽をやりたい〟ってだけなんですよ。

準々：でも言われたように、〝「AlarM7096」がシングルの1曲目でもおかしくない〟という感覚は、僕も分かるんですよ。むしろ、普通のバンドさんだったら、そう並べると思うんです。でもDOG inThe パラレルワールドオーケストラ（以下DOG）にとってのこれからのスタンダードは、「POCKET ROCKET」のような曲。これが、DOGがこのシーンに対して提示する、〝ニュースタンダード〟なんです。

——じゃあ「POCKET ROCKET」は、今後DOGが提示するニュースタンダードの先駆けの楽曲となるわけだ。

準々：そうです…と言うか、DOGにとっては、これが常識なんですよ。だからみなさんも、これに驚くことなく、それを新しい常識と捉えてください。

春：でも、それを普段から言ってくれればいいんだけど、インタビューの場で急に言い出すから、ウチらが〝えっ!?〟って驚くんですよ。普段から準々は、自分の気持ちをメンバーにも明かさない、謎の存在。それを本人は〝カッコいい〟と思ってるから、それでいいんですけどね（笑）。

メイ：この「POCKET ROCKET」には、今のDOGのライヴが持っている〝ほとばしる熱気〟や〝火花散ってる感じ〟が、程よく詰まっています。それを頭に持ってくるところが、いかにもDOGらしいじゃないですか。しかも荒々しさを持ちながら、ポップに開けるサビなんかは、グッとくる感動があるとも思うし。

——かなり変化球の効いた楽曲ですけど、しっかり聴き手のハートを捉えていくように、最終的には、ズバッと心を射抜く歌になっていますからね。

春：頭の部分だけを聴いたら、〝えっ、DOGどうしちゃったの!?〟と驚きつつ。そこからさらに、思いきり殺人的に変化していく魔球のような曲なんだけど。でも、最後はしっかりストライクを取っていくからね。

——歌詞には、ポジティヴな想いがたくさん詰め込まれています。

春：「青空ハレーション」では〝空〟を、「POCKET ROCKET」では〝宙(そら)〟をテーマにしていて、共通項はありながらも、「POCKET ROCKET」は、ライヴ感のある内容にしたかったので、敢えて攻撃的な言葉や、相手を誘い込むような表現を心がけて書きました。ただやっぱり、この歌の根底にあるのは〝楽しんでいこうよ〟というポジティヴな気持ちなんです。生きてく上で、それこそいちばん大事なテーマだと僕は思っていますから。

——ヴィジュアル界に新しい常識を提示した姿勢、そこがカッコいいよね。

ミズキ：自分たちでは全く意識してないというか、当たり前の常識としてやっていることを、周りの人たちは〝変わってる〟と言うんです。

メイ：個性の違う4人が、一つの方向を [illegible] が、魔球たる所以なんだと思います。

春：曲の中では、ヴォーカルを加工しながらの遊びも入れたり、かなりヒネリを効かせた、ど真ん中を狙う剛速球になったので、ぜひストライクゾーンを広めに持って受け止めてください。

DOGのDOGらしさを、自分たちでも分かってきた

——続く「AlarM7096」は、ドストレートにミットのど真ん中へ投げ入れた剛速球ナンバーです。

春：「AlarM7096」には、今の自分がいつも感じている想いを、そのまま、分かりやすく言葉にしていきました。

——ここには、ファンたちへの想いを素直に書き記していますよね。

春：ファンの子たちはもちろん、DOGを支えてくれてる人たち全員に対する想いを書きました。自分らにとって今やDOGは、人生の全てになっている。そのDOGが生きていけるのも、僕らを支えてくれる人たちの愛を強く感じられているからこそ。そういう人たちへの想いを、「AlarM7096」はもちろん、今回と先月にリリースしたシングルの1~2曲目には、感謝の想いとして詰め込んでいます。

——楽曲自体も、つかみを持った王道メロディック・ナンバーになりました。

準々：僕は、王道か、ものすごく変なのか、その両極端な曲が好きなんですよ。普段のDOGは、ヒネくれてることをやってると言うか、僕にしてみれば当たり前のことなんだけど、それを周りの人たちは、〝変〟と言う。そういう色モノ的な見られ方をされるのがすごくイヤだからこそ、〝一般的に言われる王道な曲だって、僕らは作れるし。君らの小さな物差しで、僕の器量を計るな!〟という気持ちから、敢えてこういう曲を持ってきました。

——だけど〝変〟ってことは、それだけオリジナリティが高いということだよね。

準々：他にはないオリジナリティを持った音楽をやってるんだから、他と比べたら〝変わって見える〟のは当たり前じゃないですか。だからこそ新鮮な存在として見えてくるわけで。むしろ僕の場合、[illegible] だから、DOGの音楽が他より変わっているのは当たり前だし、それがこのバンドでは普通のこと。そこで〝変〟という小さな物差しで、ウチらを計らないでほしいです。

メイ：「POCKET ROCKET」も、「AlarM7096」も、聴いた瞬間に情景が目に浮かぶような、とても分かりやすい詞の世界を持った曲。これからのDOGにとって、すごく大切な曲になりそうな予感が、とてもしています。

——そして、通常盤の3曲目には、昨年7月のライヴで無料配布した楽曲を、「Style Lover-Rubber:Style-」という形で収録しました。

春：前作に、昔のナンバー『コラン-新約：聖典-』を入れたので。今回も、一部の人の手にしか渡ってない音源を、正式音源化しようということから、この曲を選びました。

メイ：ライヴでも演奏している曲だから、ようやく音源として手に出来る人も増えて、良かったなと思っています。

——こちらは活動初期の楽曲らしく、ネガティヴな想いを書いています。

春：この歌詞に書いてあるのは、僕の本質な部分と言いますか。ネガティヴだったり頽廃的だったりという、孤独に嘆く一人ぼっちの僕が叫んでいる言葉を、そのまま書き記してあります。この当時の僕は、自分自身の感情を発散するために詞を書いていたから、内側へ向かった内容になっているんです。だけど今は、ファンの子たちを筆頭に、大切に思える人たちが増えてきた。そういう人たちに伝えたい想いが強いからこそ、今は自然と外に向いた詞になっているんです。

——11月27日には、渋谷WOMBでワンマン・ライヴも決定しています。

春：この日、『青空晴レーション』『POCKET★ROCKET』それぞれのCDを会場へ持ってきた方には、「青空DISK」「ROCKET DISK」をプレゼントします。しかもこの日は、今年の活動の集大成的な内容になります。ぜひ、一緒に暴れ倒してください!

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

アンドに加入されたんです?

キリ：KAJIは、PECOの地元の知り合いなんですよ。

PECO：高校生のとき、一緒にコピーバンドやっていたこともあるんです(笑)。それからは別々の道を歩んでいたんですけど、最近、偶然にも連絡を取ったら、東京に出ていることが判明して。なので、サポートでいいからドラムやってくれない?とお願いして。それが始まりでした。

KAJI：って言われて、すぐさまリサーチしました。アンドってどんなバンドなんだろうって(笑)。で、アンドの持つ魅力に惹かれてサポートをやることになったんですけど、ベースと噛み合うかなぁって。最初はそれが心配でした。

けん：ベースとドラムってすごく大事な関係なので、互いに聞いておかなきゃいけないことがたくさんあるんですよね。そこで、どういう音楽を聞くのかというところから話していったんですけど、気も合うし、相当やりやすかったですね。

——他のメンバーの第一印象は、どんな感じで?

KAJI：郁磨くんは、初めて会ったときすごく怖くて。写真の印象もあったんでしょうけど、この人は絶対に喋ってくれないって思っていました。けど…(横でアイスを頬張る郁磨を見て)、普段はとても穏やかな人なので良かったなと。

郁磨：怖くないし。っていうか、最初から受け入れてくれよ(笑)。

KAJI：あと、キリさんもイカツイ人なのかなって思いましたね。背が大きいと聞いていたので。これはマズい!と思ったんですけど、実際に会ってみたら、のほほんとした人で。その瞬間、ホッとしたのを覚えています。

キリ：反対に、俺は、すごくデカくてワイルドなドラマーが来るって聞いていたので、ヤバイって思ってました(笑)。

KAJI：PECOは昔から知っているんですけど、久しぶりに会ってもイメージが変わっていなくて。そこが安心しましたね。東京に染まってなくて良かったなって。

PECO：俺、染まってないのか……。

【過ぎ行く夏の残像】

——夏の思い出というと、やはりツアーですかね?

郁磨：もはや、どこからが夏だったのかわかりませんっていうぐらい、ずっとライヴをしていた気がするんですけど(笑)。でも、この夏のツアーを通して、かなり勉強ができたと思います。結果、自分にしかできないものはこれだ!というものが掴めましたし。

けん：見せ方1つにしろ、ライヴの空気感を作るのを改めて考え直しましたね。ただ単にベースを弾いていれば良いライヴができるのかと言ったら違うと思うし。どういう表情で弾いているかとか、細かいところ1つ1つにこだわっていかないといけないんだなと思いました。今は、曲を活かすための見せ方というのを日々考えているところではありますね。

PECO：夏は色々ありすぎて。ツアーもそうですし、レコーディングも。ツアーに関しては、収穫の多いものとなりました。それにより、理想がどんどんすごいことになってきているんです。きっと、これから先に繋がるものになりますよ。

——KAJIさんは、このツアーでは、サポートでの参加だったんですよね?

KAJI：はい。俺は、全てが未体験だったということもあり、目まぐるしい毎日でした。大丈夫かなって思ったりもしたんですけど、今は達成感でいっぱいです。

キリ：ツアーをやって実感したのは、ちゃんとお客さんが待っていてくれたということ。どこの箇所でも待っていてくれる人がいる、それはすごく救われたところでもあります。あとは、この記事が出る頃に新曲がリリースされるんですけど、どう受け止めてもらえるのかが気になりますね。

【特効前夜】

——今、話に出ましたが、新作がついにリリースされます。先程「アネモネ」のPVを拝見したんですけど、みんなの違う一面を見ることができた気がしますよ。

キリ：今までにないアンド、というのがテーマでもありましたから。曲調が穏やかなだけに、壮大な感じの映像になったなと思います。

すごくデカくてワイルドなドラマーが来ると聞いてたのでヤバイって思いました(笑)。

新メンバー・KAJIが加わり、5人体制へと変化したアンド。この夏は、ツアーにレコーディングにと大忙しだったそうだ。そこで、本誌は、新体制となった彼らを直撃!キーワードインタヴューを敢行してきた。良い感じに変化を遂げたアンド、5人だからこそできること、それはこれから始まる六大都市単独公演巡業任務「炎上 地獄轟」で見せてくれることだろう。

Interview:ERI MIZUTANI
Photography:TAKAAKI HENMI

り込むこともなく、どうでしたか　あの

エレガントな感じ!

一同：エレガントって(笑)。

KAJI：そうですか、大人っぽい表情が出ていたのなら嬉しいです。

PECO：ただ、楽器を持たずに切ない表情って作るのって難しくて。だから、チェックのときに急に恥ずかしくなってきちゃいましたね(笑)。これからは、自分でもウットリするぐらいの表情をどんどん見せていきたいと思います。

けん：僕は、動くのを意識するよりも、感情的に弾くことを心掛けたんですよ。なので、映像からもそういったところが伝わればいいなと。

——歌唱面では、ブレスのところとか、細かい部分にも切なさが滲み出ていて。

郁磨：今回は、間の表情も意識していったんです。カメラ一面に見せるということもあり、ライヴで見せるものとはまた違うものになったと思います。また、「bluff」では、「アネモネ」とはかなり違う映像になっているので、こちらも楽しみにしていて下さい。

キリ：こちらでも、新しいアンドが出ていますので。

【『任務』計画会議】

——さて、現在のミッションが終わる前に聞くのも何ですが、今後やってみたい任務はあります?

けん：ゲームの講習会をやりたいです。メンバーも生徒となって、僕の講習を聞くっていう。

PECO：どうなの、それ。

——任務の規模が小さい!

けん：できたらいいな~って(笑)。

PECO：俺は、作り込んだライヴをやりたいです。ライヴハウスを丸ごと飲み込んだような、テーマパーク的な感じのライヴをしてみたい!そこで、ライヴだけじゃない楽しい空間を提供できたらなと思います。

KAJI：それいいね。でも、それよりもやってみたいのは、モノマネ王座決定戦ですね。

PECO：それ、自分が自信あるだけだろ。

KAJI：自称、レパートリーの多い男ですから!まぁ、そこは、これから小出

キリ：微妙っすね(笑)。俺は1日にどれだけライヴができるか試してみたい。

郁磨：そっちの方が嫌だ……。

キリ：東京23区、全部廻るとかどう?東京がアンド一色に染まるんだよ。

けん：うわぁ~、大変だわ。

キリ：不可能ではない!これをやってこそ、本当の狂犬と言えるんだ!

——ですって(笑)。

郁磨：が、頑張ります。俺、海でライヴやりたいなぁ。解放感ありそうじゃないですか。えっ、夏も終わりですか。そうですか…、じゃ、来年頑張ります(笑)。

【「炎上 地獄轟」に向けて】

——では最後に、ミッション7・六大都市単独公演巡業任務「炎上 地獄轟」に向けての意気込みを。

KAJI：まだ漠然としているんですけど、やりたいことが多すぎて。とにかく、ドラマーとして印象付けたいなと。縁の下の力持ち的な存在ですが、ドラムってこんなにかっこいい楽器なんだっていうのを感じてもらえるようなライヴにしたいですね。

けん：「bluff」と「アネモネ」が加わることで見せ方も変わってくると思うんです。それを踏まえ、今までのアンドとは違うライヴを作り出したいなと。色々とこだわってやっていきたいなと考えています。

PECO：空気で飲み込むようなライヴができたら最高だなと。今までやってきたアンドはそのままに、予測不可能なところをこの5人で見せていきたいですね。

キリ：ファイナルはEASTなんですけど、イベントでは何回も立たせてもらっているこの舞台をどう変えていけるかが課題ですね。扉を開けた瞬間から、これってEASTなの!?と思ってもらえるほどの景色を作りたいと思っています。何があるかは、来てからのお楽しみで。

郁磨：1つの夢でもあったEASTワンマン。それができるというのは嬉しくもあり。ただ、この夢は、メンバーがいて、エージェントのみんながいて、初めて叶うもの。だから、その夢の形をみんなで完成させていきたいなと。「炎上 地獄轟」、頑張りますので、ぜひ観に来て下さい。

蝴蝶网
hudie.com

TOON-FACTORY

Innocent Heart.

Live at 高田馬場AREA 2010.9.1

2010年9月1日。仙台・名古屋・大阪を廻ったワンマン・ツアーのファイナルを、高田馬場AREAで行なったTOON-FACTORY。彼らにとって高田馬場AREAとは、産声を上げた思い出の地。2008年5月31日、無料ワンマンという形で、彼らはここからスタートを切ったのだ。それは、まだ、現メンバーの夢叶とゆーぃちが加入する前のこと。初ワンマンから約2年。彼らは目を見張る程の成長を見せてくれたのだった。

Photography:MASAKAZU KOBAYASH(SHOXX)
Report:NAOKO TAKEICHI

私が彼らのライヴを初めて見たのは、ドラムのゆーぃちを正式メンバーとして迎え入れ、現メンバーになって、わずか3ヶ月で切った、5月31日の渋谷BOXでのワンマン公演だった。そのライヴは、150人もの動員があったのだが、厳しいことを言うようだが、正直、まだ、上手い・下手を語る段階ではなく、ただただ本人達がバンドをやっていることを楽しみ、オーディエンスも、その空間を楽しんでいるという次元のモノだった。

あれから約1年半。彼らのライヴを細かくチェックしている編集担当者から、ここ最近、彼らのライヴが見違える程に良くなってきているという事前情報を聞いていたこともあり、かなり期待値高めの状態でAREAに向かった。

開演1時間前。楽屋口からそっと中に入ると、早めに準備を済ませたひかるに会った。

〝あ。お疲れさまです!〟と無邪気にはしゃぐひかるに、〝いろんな人から、ひかるがすごく良くなったって聞いてるから、今日はかなり期待して来たから、外したら罰金ね〟と伝えると、急に緊張した面持ちになった。

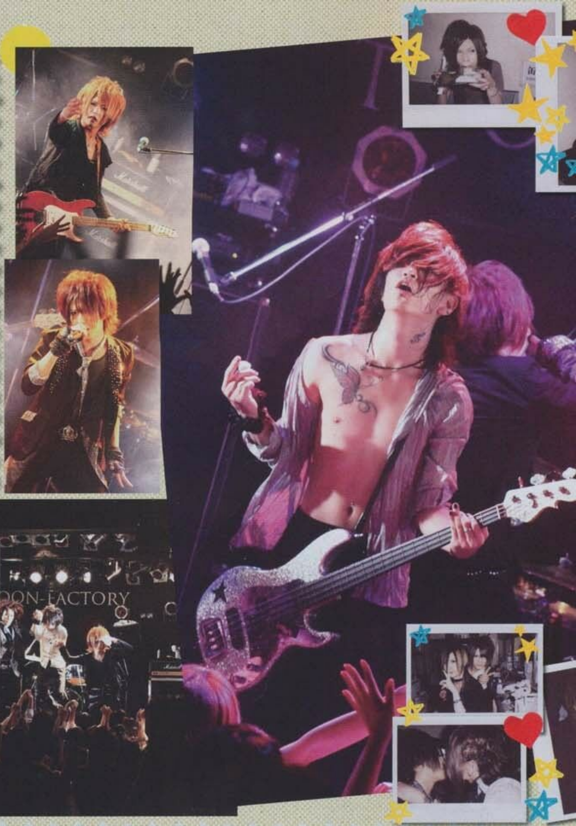
〝罰金、いくらですか?〟と真顔で訊ねるひかる……。いやいや、そこじゃないでしょ(苦笑)。相変わらず天然男子である。期待を裏切るごとに100円と伝えると、〝案外安いな。それなら払えるかも(笑)。嘘です嘘です! 期待を裏切らないように頑張ります!〟と鏡の前でウォーミングアップを始めたのだった。レガとゆーぃちはグッズにサイン中。夢叶はメイク中。雫は着替え中。しかし、4人とも前回同様にそこまでの緊張はない様だ。が、しかし、雫はものもらいと結膜炎が悪化したとのことで、真っ赤な目をしょぼしょぼさせていた。

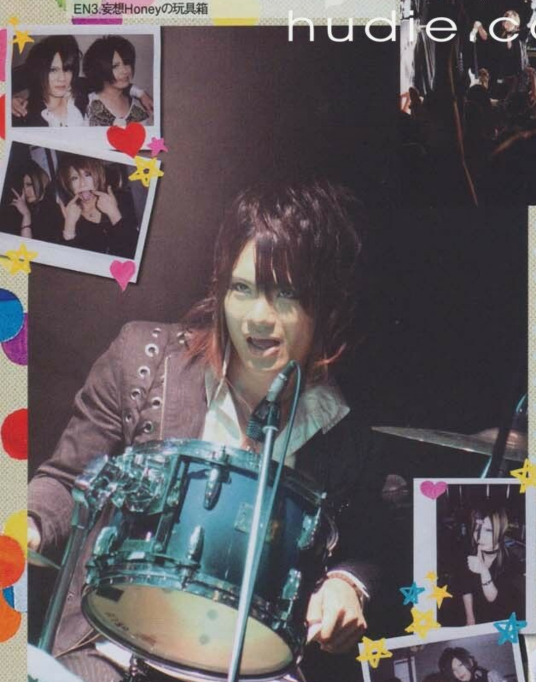
〝絶不調なんすよ! でもね、結膜炎なんかに負けませんよ、俺は!〟(雫)と、頼もしい限り。各地での反省点を活かしたライヴにしたいと口にしていた5人。どうやら今宵は期待出来そうである。

そんな矢先…。開演30分前になると、〝いつもの〟が始まった。レガの緊張による腹痛である(笑)。心配事や緊張が襲ってくると、すぐにお腹が痛くなるという子供のような癖を持つレガ。掌に3つ人の文字を

【セットリスト】1.イノセント　2.Heart　3.夢空☆Wings　4.Dessert　5.サヨナラ、バイバイ　6.キミを探して　7.憂鬱と雨　8.Squall　9.Sarcas story　10.Winding Road　11.Dive to Heave　2.激 ット　13.DEVIL'S INVITATION　14.Swee Dispain　15.Last Scene　EN1.StaRT　EN2.アオゾラ ディ　EN3.妄想Honeyの玩具箱

蝴蝶网
hudie.com





ち着かない様子な彼らのソワソワ状態を、スタッフの〝開演時間オンタイムで行きます！〟の声が引き締めた。

19時ジャスト。ライヴの幕は開いた。

ゆーぃち、レガ、雫、夢叶、そしてひかるが勢い良くステージに姿を現し、1曲目の「イノセント」を届けた。激しめなイントロが一気にフロアの熱を上げていく。間奏ではフロント4人が激しくヘドバンし、更にフロアの温度を上げて行く。3曲目に届けられたのは、BOXXでのライヴの1曲目を飾った「夢空☆Wings」。前回聴いた時は、屈託の無い音ではあったが、少し不安定さがあったこの曲も、広がるサビの景色も美しく描かれ、中盤のレガのベースアプローチもゆーぃちのカウントも、その後に続く雫の透明なアルペジオへと美しく流れていった。ライヴ全体の景色を変えたのは夢叶の弾く、レトロなギターフレーズが特徴的な「サヨナラ、バイバイ。」。ミラーボールがゆっくりとまわる中、真っ赤な証明に染まるステージから、彼らは艶っぽい音をフロアに流し込んだ。ここからはしばしディープゾーン。明るくキャッチーなイメージのあるTOON-FACTORYが、今年の3月にリリースしたミニアルバム『innocent』から見せたディープな一面を持った楽曲たちが、ライヴに重厚感を与えていたように思った。

この日、中でもズバ抜けて良かったのも、『innocent』に収録されている「DEVIL'S INVITATION」だった。それぞれの音、演奏、ひかるの歌、ステージング、全てにおいて完璧といって良いほどのライヴパフォーマンスであったこと。まさに、ここまでの様々な経験や、このツアーで得た成果であると感じた。

ライヴを通して点数を付けるとするならば、もちろん、まだまだ満点を出せはしないが、それは、彼らに今以上の期待を寄せているからこそ。しかし。事前に聞いていた、〝ひかるがすごく良くなった〟という情報も、ひかるは裏切ることなく、しっかりとバンドを引っ張っていけている力を見せてくれたのだ。

現時点での精一杯を見せてくれた彼らのライヴに、拍手を贈ろう。

(問) 〒160-0023 東京都新宿区西新宿8-5-2 フィヨーレ西新宿102
http://www.toonfactory.jp/

蝴蝶网
hudie.com

凛

-the end of corruption world-

進化し続ける5つの有機物。更なる高みを目指す

蝴蝶网
hudie.com

5月23日のなんばHatchでの初ライヴ以来、着実に活動を重ねてきている凛。今回のインタビューでは、5人にその濃密な活動を振り返ってもらっ
11月10日には、2ndマキシ『Metamorphose』の発売も決定、次なる展開に向けて、新たな一歩を踏み出していく。
その後も、韓国でのライヴも含め、年末まで既にスケジュールは決定済み。その中でどんな成長を遂げていくのか。ますますその存在から目が離せそう

Interview:MIYUKI MURAYAMA

ちましたが　振り返っていかがですか

RIKU：僕はKISAKIさんとファンタスマゴリアで共に活動させてもらっていたんですけど、過去を引きずる訳ではなく凛ならではの個性をもっと出していかないとだめだなって痛感しています。

KANATA：僕は名前もかえて心機一転、新鮮味溢れる感じで始まったんですけど、凛に合う自分の方向が見えてきて、これからが楽しみです。

MIZUKI：初体験のことが多かったので、KISAKIさんのアドバイスとか注文に応えられるように必死にやってきて、これからどの方向に向かっていくかが見えてきたと思います。

REIYA：僕は180度キャラを変えるっていうテーマでやってきて、自分の立ち位置が明確に見えた感じですね。

――KISAKIさんは久しぶりのバンド活動をやってみてどうでした？

KISAKI：やっぱりブランクは感じたし、手探り感はあったんですよね。でもすぐ馴染んでいける感じはしたし、メンバーも期待に応えて頑張ってくれてるし、お客さんの反応も良かったたし。自信に繋がりましたね。

――実際にバンド活動を始めて、予想外なこともあったんじゃないです？

KISAKI：メンバーがどこまで僕の求めてる理想像を理解してくれてるのかなと心配してたんですけど、予想以上の事を返して来てくれるので今のところは特になく、やりたい放題やれてます。

――KISAKIさんが思い描いてた凛が実現できてると。

KISAKI：結成時は僕の中で、凛はファンタスマゴリアの延長線上のものでしかなかったんですね（苦笑）。でも、メンバーがすごく僕のことを理解してくれてるんで、より深く自分の求めてるものが追求出来てると思います。

――皆さんは、KISAKIさんの求めてるものがより見えてきたりしてます？

RIKU：ライヴを重ねるに連れて、よりわかってきてる感はあります。

REIYA：僕は結成当初から言葉で伝えられてるので。自分のスタイルとは全然違うんですけど、それを思い切りやっ

か感じてす

KANATA：KISAKIさんが作る音楽は僕の好きな音楽と近いと分かっていたんで、自分が好きなように作ってもKISAKIさんに気に入ってもらえると信じて作ってますね。

MIZUKI：予想外と言えば、全て予想外なんですけど、この数ヶ月間でKISAKIさんが僕に求めてくれているものを少しずつ理解して、今やっと自分で消化しつつあるかなと。これからそれを進化させていこうと思っている段階です。

――KISAKIさんから見て、他のメンバーさんはどんな風に映ってますか。

KISAKI：まだまだもっともっといけると思ってます。特にMIZUKIは、ヴィジュアル的にもパフォーマンス的にも、ブっとんだ存在になって欲しくて。今思い出すと初撮影の当日にヘアメイクさんに髪を剃られたMIZUKIがちょっと寂しそうだったな（笑）。

全員：（爆笑）

KISAKI：それからも、こういうヴィジュアルで、それに比例したパフォーマンスはこうがいいんじゃないかって映像資料を渡したりして。やっぱりパフォーマンス的にはMIZUKIがキーになってると思うんですよね。ライヴのキャラクター的なところを更に期待してるんで。

――これまででライヴは何本ぐらいやってきたんですか。

RIKU：15本ぐらいですね。

――その中で手応えを感じた瞬間はありました？

RIKU：僕は、2本目の大阪でのライヴがきっかけで、こういう感じのヴォーカリストでいかなくちゃいけないっていうのがわかりました。ライヴ終わってから、KISAKIさんにめちゃめちゃ怒られてわかったことですね。

――ライヴ後に怒られたりします？

REIYA：僕はすごい多いですよ。やっぱりリズム隊なので。僕が引っ張っていくべきところを、ベースに引っ張ってもらうことも多くて。

――ギタリストとして、ツインのコンビはよくなってきましたか。

KISAKI：決めてること全くやってなかったけどな。

一同：（笑）

KANATA：MIZUKIがフル無視してました。

KISAKI：いきなりなんばハッチに立たされて、一番回りが見えてなかったんじゃないかな。まぁ仕方ないよね。

MIZUKI：はい。最近は回りが見えてくるようになりました。初ライヴのときは本当に頭真っ白でした（苦笑）。

――やっぱりライヴは実際やってみないとわからないことも多いんでしょうね。

KANATA：KISAKIさんが予想以上に激しい動きをするんで驚いてます。僕も楽器を回したり派手に動くんで、よく激突しています（笑）

KISAKI：そのほうがいいと思うんですよね。ステージ上でしのぎ合えてるのはすごいいいと思うし、皆遠慮する必要なんてないし。僕がリーダーですけど、ステージ上でそんなこと関係ないからね。

――活動が始まって、メンバー間の結束力が増したところもありますか。

KISAKI：ステージ以外で結束力を感じたことないな（笑）。ある？

REIYA：ないですけど、ライヴでそれが生まれるのは、逆にすごいなって思いますね。

――普段はどんな雰囲気なんですか。

KISAKI：俺は、犬ぐらいにしか思ってないけど（笑）。

――（苦笑）それはともかく、5人で一緒にやろうって集まったのとはまた違う集まり方をしてますしね。

KISAKI：不思議ですよね。仲は良いけど、5人で真剣に話すのなんて、取材のときぐらいですよ。かと言って、ビジネスって割り切ってやってるほど冷めた関係でもないし。特殊だな。

一同：（笑）

KISAKI：でも、実際3ヶ月でいろいろあって、短いけどいろんな壁を乗り越えてきたんですよね。東京初ライヴのときに俺が入院して、インストアイベントを欠席しちゃったり、リハーサルが出来ないままライヴやったり。大切なのは、

でKISAKIニューバンドっていうことで話題が先行してたけど、やっと凛として固まってきて、お客さんにも伝わってきたと思います。

――今後の展開としては？

KISAKI：ちょっとライヴは減らしていこうと思ってたんですけど、1212やSadieとの2マンとか、いろんなお話をいただいたりして、年末までは怒涛のスケジュールになりそうですね。

――2ndマキシ「Metamorphose」のリリースも控えてますね。

KISAKI：曲数もまだそんなにないんで、こういう曲も必要かなって意見をもらって作りました。ライヴで足りないテイストを補う音源なのかなと思いますね「Metamorphose」は6月ぐらいからライヴでやってるんですけど、反応もよかったんでシングルに持ってきたんですね。カップリング曲の「Walking in the rain」は、こういうリズムでこういうノリの曲がほしいってRIKUに言われて作った曲です。なかなか苦労しましたね。

RIKU：KISAKIさんにないイメージを引き出してもらった感じです。インパクトのあるパフォーマンスものを出せる自信があるので。

KISAKI：「Sterilization」ももうライヴでやってて、MIZUKIとRIKUが二人で歌ってるんですけど、MIZUKIのキャラクターを考えて作った曲です。彼はギタリストだけに留まってほしくなくて、エンターテインメントとしてもっと色々やらかしてくれそうなので。結構無機質な感じで、打ち込みのデジタルな感じを入れつつ、ノリやすくて、リズムがとりやすくて、更にヘヴィな感じのイメージで作ったらこうなりました。

――3曲で幅の広いところが出てますね。

RIKU：何でも出来ると思うし、凛がやったらどんな曲でも凛になるって、本当にそういう気持ちでやってますよね。

――今後の展開が楽しみです。

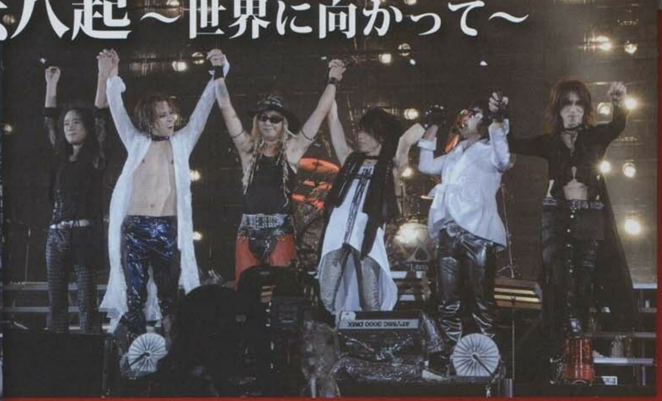
RIKU：韓国でのライヴも決まってますし、攻めの姿勢でガンガン行こうと思います。

蝴蝶网
hudie.com

X JAPAN

X JAPAN WORLD TOUR Live in YOKOHAMA

超強行突破 七転八起～世界に向かって～

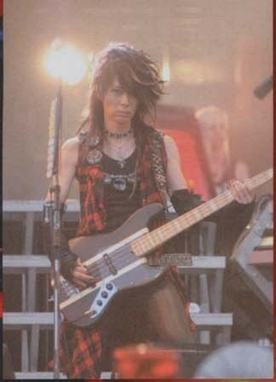


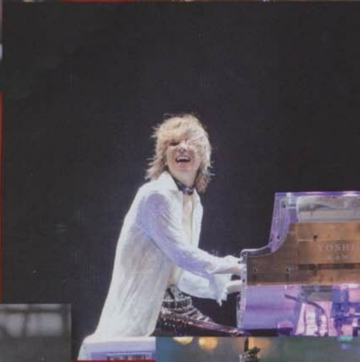
2010年8月15日 真夏の夜
限りない世界への新たな挑戦!!

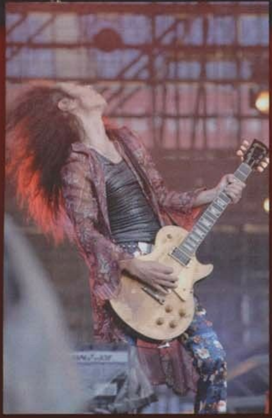
2008年に東京ドームで3日間行われた再結成ライヴ以降、いくつもの困難を乗り越えながら、悲願であった本格的海外進出に向けて着実に歩みを進めているX JAPAN。今年8月8日には、世界最大級の大型野外フェス「ロラパルーザ」のメイン・ステージを飾った彼らが、月14、15日に凱旋公演を日産スタジアムで行った。タイトルは、「超強行突破　七転八起　～世界に向かって～」。世界に向けての決意があふれるいかにもX JAPANらしいネーミングである。

Report : AKEMI OHSHIMA

蝴蝶网
hudie.com







数々の壁を乗り越えて進んできた彼らの軌跡を知っている人も知らない人も、実際のステージを見た時には、その感動的な空気に圧倒される。X JAPAN初の野外ライヴとなる日産スタジアム公演でも、いくつも観客の心を揺さぶる感動的なシーンを見ることができた。

◆　◆

開演予定時間を15分ほど過ぎた頃、観客の期待をあおるメンバー紹介SEが流れ、Toshi、PATA、HEATH、SUGIZO、そして、YOSHIKIが、悠然とステージに姿をあらわした。SEが途切れた瞬間に巨大な炎が立ちのぼり、音源未発表の新曲「JADE」の演奏が始まった。最初からエネルギッシュにプレイする5人を、客席を埋め尽くした6万人のファンが喜びの大歓声で迎える。曲終わりで、Toshiが「会いたかったぜ、ニッポン!」と、シャウト。会場の名前や地名ではなく、あえて「ニッポン!」と叫んだのは、彼らの世界を見据えた決意の表れなのだろう。2曲目に大ヒット曲「Rusty Nail」をプレイした後、インダストリアルなイントロが響く。HIDEが作詞(Toshiと共作)作曲した「DRAIN」の演奏が始まると、Toshiが「HIDE!」と叫び、大型プロジェクターにHIDEの映像が大写しになる。

短いインターバルがあった後、YOSHIKI以外のメンバーが椅子に座って「Forever Love」アコースティック・バージョンを演奏する「カルテットX JAPAN without YOSHIKI」。12弦ギターを持って熱唱するToshiのよく伸びる高音が、SUGIZOのヴァイオリンと絡み合うようにして、空にこだまする。4人の演奏が終わると「ラルゴ」のSEが流れる中、赤い薔薇を持ったYOSHIKIが登場。花道を歩きながら薔薇を客席に投げていたかと思うと、突然、アリーナ席に降りてファンの手にタッチしながら走る。ステージに戻ってピアノで「Tears」を弾き始めると、客席から自然と湧き上がる大合唱。中盤から弦楽器隊も加わり、メンバーと観客とで大きな感動の輪を紡いでいく。続いて、ストリングスのSEから印象的なアルペジオのイントロが流れ、「紅だーっ!」という声と共に無数の銀ロールがアリーナ席の上を舞う。ドラムをたたくYOSHIKIの横に立って、歌うToshi。こ

俺たちの新曲いくぜ!」とToshiが紹介したのは、「Born To Be Free」。復活後3曲目となる新曲で、イントロの切り裂くようなギターが印象的なヘヴィな曲だが、中盤のピアノと歌だけの部分は美しい多重構造の曲。エンディングでYOSHIKIがドラムを連打した後、弦楽器隊バトル・コーナーへ突入する。ワウを使う早弾きのPATA、アームを使う早弾きのSUGIZO、エモーショナルなベースのHEATHと、3者3様のプレイで回していく。ラストは、PATAとSUGIZOで、HIDE作曲の「Love Replica」のツイン・ギターで締め括った。続いて、アリーナ後方のセカンド・ステージでYOSHIKIのドラム・ソロ。飛び交うレーザー光線、花火、スモーク、回転するドラム台とド派手なセットの中、歯を食いしばりながら渾身のソロを見せるYOSHIKI。何度もドラムセットの中に倒れこみそうになるが、12分に及ぶソロを終えた後には白い歯を見せてピースサイン。自分で赤いコートを着ると、側のピアノに向かって「I.V.」を弾き始める。途中でYOSHIKIにマイクを撮られてしまったToshiが、仕方なくドラムをたたくお茶目なシーンなどありながら、本編ラストの曲は会場中の観客を巻き込んで、終了した。

アンコールには、メジャー・デビュー時のベーシストTAIJIがステージに登場。彼がX JAPAN(脱退時の名称は、X)のステージに立つのは、実に18年ぶりのことだ。Toshiがあらためてメンバーの名前を一人一人呼び、最後に天を指さし「7人のXでいくぜ!」と叫んで始まったのは「X」。YOSHIKIは「We are!」をシャウトしまくり、観客も思い切りXジャンプを楽しんでいる。2度目のアンコールは、「ENDLESS RAIN」。もちろん、夜空を紅色に染め上げるような全員の大合唱である。X JAPANのライヴには欠かすことのできない代表曲を最後に演奏して、日産スタジアムのステージは終了した。演奏が終わった後、青い薔薇を客席に投げていたYOSHIKIは、最後の5本をそっと上手のモニターの上に置いた。そこは、もちろん、HIDEの立ち位置だったところ。きっと、あらためて「6人のX」での海外進出を、天国のHIDEと誓い合っていたに違いない。

蝴蝶网
hudie.com

Interview : MIYUKI MURAYAMA

”今“をストレートに映し込んだアルバム『ビバ！アメリカ』

犬神サーカス団

PVは、5割増しにカッコよく可愛くなってます（笑）

10月20日に、犬神サーカス団が約4年ぶりのフル・アルバム『ビバ！アメリカ』をリリースする。結成16年目であり、強烈な個性を確立している一方、常に好奇心旺盛でチャレンジ精神も持ち合わせている彼らだけに、今作にも犬神サーカス団らしさと新鮮さの両方がたっぷりと盛り込まれている。さらに15曲＋DVDというボリュームで、聴き応えは十分。何か新しい刺激に飢えている人、ぜひともこの極上のエンタテインメントに触れてみては？

――『ビバ！アメリカ』は、4年ぶりのフル・アルバムですが、何かコンセプト的なものを立てたりしましたか。

犬神明（以下、明）：特にそういうのは立ててはないんですけど、作ってる間に内容はいつもの犬神サーカス団になってしまうと言うかね（苦笑）。

――確かに犬神らしさは満載ですが、その中でも今回は特にこうしてみよう、というようなところはありました？

明：曲が出揃ってきた時に、こじんまりしてる気がして。だから、ただわめくだけ、みたいな「犬死に」とか「腐敗」とか、ちょっとパンク的な、メッセージありきの曲を作ってみましたね。

――「腐敗」のヴォーカルを、機械的に処理してるところが新鮮でした。

犬神凶子（以下、凶子）：そう言えば、こういうのもあんまりやってなかったなって。『御霊前』で、ちょっとそういうとこがあったんで、それ以来なんですよ。

――それは久々ですね。声という面では、コーラスの入ってる曲が多いですが。

明：そこは、今までのアルバムと違うと

犬神ジン（以下、ジン）：レコーディング中にやりながら、そういう風になったんです。

凶子：やったのは情次兄さんだけどね。

犬神情次2号（以下、情次）：あ〜職人です（笑）。あ〜っていうのは、僕が全部やってるんです。こういうのもやりたいねっていう話は、明兄さんからあったりしたんで、僕の曲を録ってる時にやってみたら面白くて。

ジン：それで他の曲でもやってみようと。

――新しいチャレンジですね。

明：これから売りになっていくでしょうね。魅惑のあ〜バンド（笑）。

――他にも、今回だからとか、敢えてやってみたことってあります？

明：最後を「幽霊奇譚」にして、綺麗に終わってないところがいいですね。最後はバラードで終わることが多いんですけど、ちょっとトンチンカンっぽい曲で終わってます。

ジン：その前がバラードの「死者の唄」で、壮大に終わっちゃってるんで。

――敢えてその後に持ってきたと。

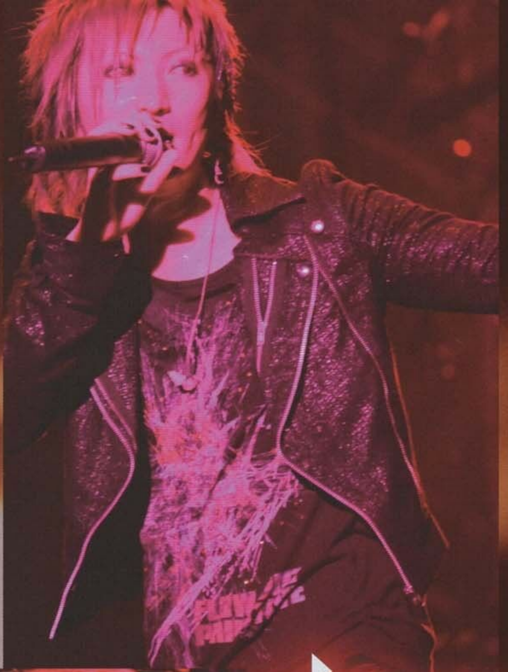
パ」みたいなもんですよね（笑）。大団円っぽさはあるかなって。
一同：（笑）
凶子：これは『セタカムイ』の時にボツになった、いわゆる〝古賀〟メロの曲で。これはやっちゃいけないんじゃないかっていうことでボツになったんですけど、あたし的には絶対あたしの歌でやるとハマると思って。本当に演歌が上手いタイプだと寒くなるかもしれないですけど、ちょっとニセモノ感満載な感じで出来たので、それがよかったですね。
――凶子さんの声にすごく合ってますね。
情次：あと、今回の作品は、テンポの速い曲が多いですね。
明：今までアルバムを作ると、犬神サーカス団なら何をやってもいいって、いろんなバリエーションの曲を作ってたんですけど、ふとね、曲調としてベーシックになるものがあったらいいなと思って。それで、速い曲をたくさん作りました。
情次：『DEAD END KIDS』を作った時から、テンポは速くしないとって思っていて。速い曲はもうちょっと速くしたいみたいな気持ちは、今年頭ぐらいからありましたね。
――速めになってきてるんですね。
明：この間、ライヴで昔の曲をやったんですけど、遅くて遅くて。このスピードを体験しちゃうと、間がもたないと言うか。
情次：スピードって慣れなんですね。
ジン：レコーディングの時に必死に弾いてたものが、ライヴを5回ぐらいやると、笑顔で弾けるぐらいになっていくんですよ。去年のベスト盤を作った時に思ったんですけど、普通にやっていくとそのテンポに慣れて物足りなくなっちゃうんで、じゃあ始めから速いとどうなるんだ!?っていう考えがあったんだと思いますね。
――「CRAZY CAT LADY」は、特にスピード感を感じましたね。
明：キーも高いしね。
凶子：過去最高にキーの高いアルバムになっちゃいましたね。でも、そういうテンポだから、地声で力強くやったほうがいいじゃないですか。それで今回のレコーディングは久々に声が一回出なくなりましたね。それぐらい力が入ってたんでしょうね。キーが高くてテンポが速いとニュ

強く歌う、みたいな。
ジン：強く歌う、より強く歌う、もっと強く歌う、みたいな。
凶子：そういうの（苦笑）。得意のしゃくりとか出来ないので。でも、「幼女人形」は、そういう風に歌うつもりじゃなかったんだけど、綺麗な、アニソン歌手みたいな人になっちゃいましたね。もっと汚してもよかったんですけど、よかったよね、あれでね。
――「生霊」もテンポは速いですけど、世界観とかサビのメロディアスなところとかは犬神っぽいですね。
情次：いい曲ですよね。この曲、大好きです。
明：まさかサビにこの歌詞が乗るとはね。
情次：ニヤニヤが止まらないです（笑）。歌ができて、ジン兄と二人でブースで聴いて、爆笑したもんね。
ジン：（お前を殺して）〝犬の餌にする〟って、メチャメチャな歌詞だって（笑）。
明：この歌詞さえなければ…ってよく言われますけど、それを体現できましたね。
情次：その極みと言うかね。
ジン：この曲はタイアップが取れまして、映画の挿入歌になってます。
――一体どんな映画ですか!?
情次：こんな歌詞の映画なんです。
一同：（笑）
ジン：『ヘルドライバー』っていう映画です。
凶子：ゾンビって言うか、何かに取り憑かれた人たちがいろいろ殺すシーンがあるんですけど、それがバッチリ合っていて。
ジン：使われているシーンの映像に曲を当てたものを送ってもらったんですけど、その詞のとおりで。そら、これだわって思いました。
情次：PVのようです。
――なるほど（苦笑）。ただ、ここまで話してきた曲の内容を考えると、アルバム・タイトル曲がちょっと意外じゃありません?
明：インパクトで決めました（笑）。
ジン：全部曲が出揃ってからタイトルを決めたんですけど、どれかの曲のタイトルにしようって最初は考えるじゃないですか。それで並べてみて、「ビバ!アメリカ」しかないんじゃないかって。

ないですか。その中で、「ビバ!アメリカ」がいちばん面白いなと（笑）。レコーディング終盤のちょっと疲れたテンションっていうのもあって、もう笑いが止まらなくなってしまって。
凶子：一応、みんなで一回落ち着こう、持って帰ろうっていうのを、2~3回繰り返したんですよね。でもやっぱり、「ビバ!アメリカ」だなって。
情次：『セタカムイ』はアメリカに行くので和風の感じのものを作りましょうって言って作って、アメリカから帰ってから『DEAD END KIDS』っていう英語のタイトルの曲を出して、次に『ビバ!アメリカ』で、たった1回アメリカでライヴをさせていただいただけのことで、この16年目を乗り切っちゃう感じが面白くなっちゃったんです。そのバカさ加減が。だから、それでアメリカで1年終わろうかと。
明：とは言っても、本当にアメリカンナイズされたメロディだったり、歌詞の内容の曲ではないんで、我々らしさは伝わるんじゃないかなと思います。
――確かに。DVDに収録される「DEAD END KIDS」のPVですが、Gacktの…ーeのKIBAさんが監督されたそうですね。どんな映像になってるんですか?
情次：実際にバンドをやってる方が撮って下さったので、メンバー一人ひとりをいかにカッコよく可愛く、みたいなところのこだわりが強くて、一人ひとりを立たせて撮っていただいて、すごくバンドっぽいPVになりました。
凶子：兄さんたちが何倍増しなんだろうっていうぐらいカッコいいです。
ジン：5割は確実に増してます。
――それは楽しみです。発売後には全国ツアーも決まっていますね。
明：今回も、どうねらうか考えてます。その曲に合った演出を考えなきゃいけないじゃないですか。「ビバ!アメリカ」だったらこんなことが出来るかなとか。怒られるかな、ここまでやったら怒られるかなとか。怒られるぐらいのことをやんないと心に残んないからね。いい方向に持っていきたいですね。
情次：それはまぁ、すごいことになりますよ（笑）。

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com



摩天楼オペラ

MATENROU OPERA -1214- 2010.8.30 SHIBUYA AX

日、渋谷C.C.Lemonホールのステージ上で、メジャー進出を発表していた摩天楼オペラが、インディーズの活動を締め括るワンマン・ライヴを、8月30
谷AXにて敢行した。彼らのこれまでの歴史が刻まれたライヴ・タイトルを始めとして、摩天楼オペラというバンドを随所で感じさせてくれた、熱狂
夜となった。いよいよ12月22日には、メジャー・デビュー作『Abyss』をリリースする!!

Photograph:TAKAAKI HENMI
Report:KYOSUKE TSUCHIYA

蝴蝶网
hudie.com

CCLemonホール公演の場で、メジャー・デビューを発表した摩天楼オペラ。この日はインディーズ時代の最後となる記念すべきステージである。【MATENROU OPERA -1214-】と冠されたタイトルも様々な憶測を呼ぶものだったが、ライヴ本編の最後になって、これは2007年5月4日の初ライヴから1214日目を意味していることが明らかにされた。

そして締めくくりに「COCOON」を演奏する前に、〝上だけを目指して駆け抜けてきました〟と苑（Vo）はこの約3年半の間を振り返った。ある時期からはヴェルサイユのKAMIJOに見出され、彼のプロデュースの下で活動してきたことは周知の事実だろう。初ワンマンを東京・赤坂ブリッツという大きな会場で行なったり、国内転戦より先にヨーロッパ・ツアーを経験するなど、バンドを取り巻く一般的な環境を考えてみれば、その歩みは派手な印象もある。

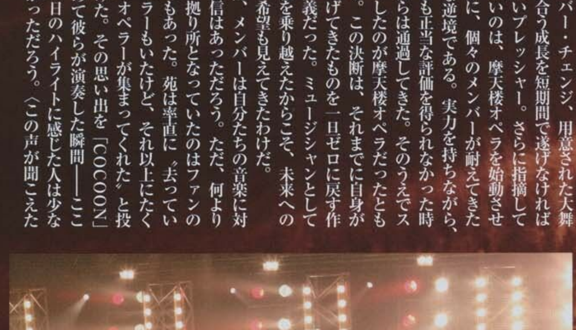
しかし、周りからの見え方とは違い、彼らが進んできた航路は決して順風満帆ではなかったはずなのだ。初期に経験したメンバー・チェンジ、用意された大舞台に見合う成長を短期間で遂げなければならないプレッシャー。さらに指摘しておきたいのは、摩天楼オペラを始動させる以前に、個々のメンバーが耐えてきた様々な逆境である。実力を持ちながら、必ずしも正当な評価を得られなかった時代を彼らは通過してきた。そのうえでスタートしたのが摩天楼オペラだったとも言える。この決断は、それまでに自身が築き上げてきたものを一旦ゼロに戻す作業と同義だった。ミュージシャンとしての葛藤を乗り越えたからこそ、未来への明るい希望も見えてきたわけだ。

当然、メンバーは自分たちの音楽に対する自信はあっただろう。ただ、何よりも心の拠り所となっていたのはファンの存在でもあった。苑は率直に〝去っていくオペラーもいたけど、それ以上にたくさんのオペラーが集まってくれた〟と投げ掛けた。その思い出を「COCOON」に込めて彼らが演奏した瞬間——ここをこの日のハイライトに感じた人は少なくなかっただろう。〈この声が聞こえた一人きりの歌を〉。ファンに対する真摯なメッセージを綴った歌詞を眺めれば想像できるように、オーディエンスと共に歌うために作られた楽曲であり、目の前で繰り広げられる大合唱に真なる姿が現れる。まさにライヴで完成するマテリアルと呼ぶに相応しい。

結果的にここで得られる一体感に向けたパフォーマンスが、序盤から繰り広げられていたことにも気付く。オープニングに配されたのが「忘却セルロイド」だったのも意味深い。現在の編成になっての初音源だったシングル『瑠璃色で描く虹』（2008年3月）に収録されていた楽曲でもあるが、ハードなサウンドと叙情的なメロディを浸透させていく中で〝もっと暴れていこうぜ！〟〝もっと前に！〟と観客を煽り、メンバーはステージを右へ左へとアクティヴに動く。もちろん、これまでにも前半からたたみ掛けるようなライヴがなかったわけではない。ただ、実は無意識的なものだったのかもしれないが、この日のセットリストを考える際に従来とは異なる感覚が作用していたのは間違いないだろう。

夜」を並べて聴かせる構成も（Gt）は〝バラードは摩天楼オペラの魅力〟と語っていたが、熱狂的な空間を作り上げた後で、すぐさま静の世界へと誘える力を備えたこと自体が、バンドとしての成長でもある。実際に思い通りのドラマを描けたことへの満足感が、メンバーの表情からも垣間見えた。直後のドラム・ソロやフリー・ジャムにも言えるが、彼らがやりたいことが着実に伝わっている手応えがそこにはあるのだろう。現実に〝いいライヴ〟をやっている印象は、終始変わることはなかった。

アンコールではメジャー・デビュー作のタイトルが【Abyss】になることが発表され、新曲「INDEPENDENT」の先行披露もあった。そして、これまでサポートをしてくれていたマネジメントのスタッフ等に感謝の言葉を送った後、初志貫徹であるのと同時に新たな決意で〝俺たちの始まりの曲〟と紹介された「alkaloid showcase」でライヴを締め括った5人。終わりは始まりでもある。高らかに掲げられた拳は次なる世界を目指す。



1214日目の決意——
インディーズラスト・ライヴ!!

【set list】
1.忘却セルロイド
2.Twilight Parade
3.ANOMIE
4.EVE
5.Sexual Entrapment
6.Plastic Cell
7.sara
8.眠れる夜
～Dr.solo～MATENROU FREE JAM～
9.悲哀とメランコリー
10.R
11.電脳パラノイア
12.Murder Scope
13.ダチュラ
14.Eternal Symphony
15.COCOON
<encore Ⅰ>
16.INDEPENDENT
17.honey drop
<encore Ⅱ>
18.alkaloid showcase

Irokui

もし君と僕が一人の人間だったとしたら!?
最新ミニアルバム『確率的です。でも、法則です。』リリース!!

蝴蝶网
hudie.com

――制作はいつ頃から?

ゆーり：5月ぐらいですかね。今回の作品は、〝オーケストラ〟っていう、ざっくりとしたコンセプトを立ててから作っていったんですけど、ひとつ上のアルバムを作れたらなという思いから、バリエーションの豊かさとクオリティの追求を目指しました。

――オーケストラというコンセプトから、ここまで幅広い楽曲が生まれるとは。

リツ：オーケストラっていうコンセプトがあったからこそなんですよ。自分としては、広い会場をイメージして曲を作っていったんです。壮大な感じというか、こじんまりとしていないところを表わしたくて。

しゅうた：あと、聴いてすぐに、オーケストラだ!という風に感じてもらいたかったんですよね。なので、個人的には、曲を作る前から、ストリングスアレンジを入れたいっていうのはありました。

――1曲目の「ヘッドフォーンオーケストラ」はなつきさんの曲だけど、その2つがうまいこと混ざり合っているよね。

なつき：さっきリッちゃんが言ったように、この曲は広い会場をイメージして作りました。これをライヴで1曲目に持ってきたら良い雰囲気が出せるんじゃないかなって。そんな思いで出来た曲です。

――オープニングは淡々と始まるのに、サビでは一転してパッと明るくなるところが面白いなと。

ゆーり：なので、歌詞では、最初の部分では心の叫びとも取れる閉鎖的なところを描いているんです。と思えば、サビでは開放的になるところを出していて。

リツ：リズムは、重たいんだけど破壊的なところもあって。なので、ベースは指弾きなんですけど、汚さを出そうと思い、フレットをバチバチ叩いて弾いていきました。そこで、〝人間らしさ〟っていうのが出せたかなと。

はづき：すごく世界観がある曲なので、ギターも面白い入れ方が出来ました。あと、ここで!?というところでギターソロが入ってくるので、そこも注意して聴いてみて下さい。

――「確率的です。でも、法則です。」は?

リツ：これは、壮大な曲を作りたいっていう思いから出来た曲なんです。イントロが始まった瞬間に地平線が見えてくるような、それぐらいスケール感のある曲ですね。今までは壮大さを意識して曲を作ったことがなかっただけに、新しい挑戦と言える曲になりました。

――みんなとしては、そういった挑戦をどう受け止めた?

なつき：曲の雰囲気から新しいことをしたいんだなということが伝わってきたので、色々と気を付けながらドラムは叩いていきました。こういう曲って、意識していないと、まっ平らな感じになってしまうんですよ。

しゅうた：これは本当に、リッちゃんらしい曲だなって思いますね。ここでは、ツインギターの絡みの面白さっていうのを重要視して弾いていったので、今回の作品の中で最もギターの役割が出ていると思います。だからこそ、ヘッドフォンで聴いた方が良いかな。ステレオ感がわかるもので楽しんでもらえたらなと。

――面白いといえば、このタイトルも、かなり斬新。

ゆーり：極めて数値的なものを表わす〝確立〟と、決まりきったものである〝法則〟、この2つは全くの別物なんですけど、前向きだったり、後ろ向きだったり、人生の中で当たり前なものに対して重ねて描いてみたんですよね。誰かに対するラブレター的な意味合いで聴いてもらえたらなと思います。そこは、PVともリンクしているので、ぜひ、見て、聴いてほしいですね。

――「ウェザーリポート的な」は、正統派のバラードだね。

ゆーり：バラードっていったら、しゅうちゃんだよね。

しゅうた：ミニアルバムを作るって決まったときから、しっとり聴かせる曲がほしかったんです。なので、過去のバラードを超えるものを作りたいなって。

ゆーり：また新しいものがきたなって思いましたね。けど、新しさ故、ヴォーカリスト的には難しいんですけど（笑）。

なつき：そんなこと言ったら俺も。今まで、ロールになんて手出そうと思ったことないし（笑）。でも、結果的に、入れて良かったなって思います。

リツ：バラードって、どの音を使うかによって曲のイメージが変わってきてしまうと思うんです。なので、ベースは、フレットレスベースのような音をイメージして、丸さを出していきました。そのおかげで、エモーショナルなベースが弾けたと思います。

――温かさといえば、ギターも。

はづき：俺は、目立つというよりも、大人しく弾くことを心掛けました。あとは、入れ方のニュアンスに気を付けつつ。

しゅうた：僕、この曲で初めて、最後まで指弾きしているんですよ。そこで温かさを出したかったんですよね。

なつき：ところで、はっくん、どこ弾いたの?

ゆーり：弾いたところあった?

はづき：あのねぇ～～（笑）。

――これもラブレターを感じさせる曲だよね。愛の言葉をお天気に例えているところが素敵。

ゆーり：これが1番最初に書けたのかな。色んなイメージを持ってもらえるようにしたかったので、タイトルを「～的な」ってしてみて。

しゅうた：歪みが入っていない分、今までとは違った雰囲気のバラードに聴こえると思います。

――また、「セイハロー」では、ガラッと雰囲気を変えてきて。

はづき：明るいですよね。これが出来たのは最後だったんですけど、出来上がるまで、本当に浮かばなくて。いつも、パソコンに向かって曲作りしているんですけど、あまりにも出来ないから電源切ってギターを持ってジャカジャカ弾いていたら、ふと浮かんできたんですよ（笑）。

しゅうた：イロクイ。お得意のポップサウンドなんだけど、新しいことやっているなって。Dメロもそうだけど、セクションバランスが最高です。

ゆーり：そう思うと、ラフな感覚で作ってきてくれたのが良かったんじゃないかなって思いますね。あと、歌詞に関してなんですけど、僕、〝頑張れ〟って言われるのがすごく嫌で。なので、僕なりの言葉で置き換えてみました。応援ソングとして聴いてもらえれば良いかな。

――「ジー戦場」はバンドとしての見せ場がふんだんに盛り込まれていて。

ゆーり：デモを聴いたとき、これは戦場だなって思ったので、言葉の不協和音な

誰かに対するラブレター的な意味合いで聴いて欲しい

フルアルバム『おわらないせかいのうたいかた』から、約半年。待望のミニアルバムがついに解禁！5人の個性がたっぷりと詰まった「確率的です。でも、法則です。」は、9月22日リリース。イロクイ。だからこそ表現できる世界観、あなたはどう受け取るだろうか。今回のインタヴューでは、その中身に触れるべく、メンバーに楽曲の解説をしてもら

Interview:ERI MIZUTANI

蝴蝶网
hudie.com

書かないんですけど　たまにはやってみようかなって。オーケストラっていうテーマとはちょっと離れたところにいる曲かもしれないけど、バンドコンセプトには〝何でもやる〟っていうぴったりかなって思ったので入れてみました。

なつき：こういった曲は、俺の得意分野なんで、好き勝手やっていきました。ここではワンタムしか使っていないんですけど、かなり派手になったと思います。

――これはきっと、最近イロクイ。を知った人は新鮮に感じられるかもしれない。そして、ラストを飾るのは、「弱虫毛虫のオーケストラ」。

しゅうた：実はこれ、10年前に書いた曲なんです（笑）。今回、オーケストラっていうテーマだっただけに、絶対に使いたいと思って。

――当時と変えたところって多くある？

しゅうた：それが、ほとんど変わってないんです。メロディは変えましたけど、コードの響きやセクションの作りは当時のままで。

――それは驚き。でも、だからこそ、これだけピュアな音に仕上ったのかもね。

ゆーり：実はですね、僕も、この歌詞を10年前に書いていたんですよ。

――まさかの便乗（笑）。ここでは、弱さを自然と出していて。

ゆーり：僕、弱いことってかっこわるくないって思うんです。一見、変なタイトルかもしれないけど、人間らしいかなって。あと、この歌詞は、ミニアルバムが行き着くところを描いているんですよ。

――なるほど。そして、作品が出た後にはツアーが決定しております。

ゆーり：10月には対バン形式のツアーがあるんですけど、僕の地元の秋田が入っているのが嬉しいです。

はづき：何か、自分の地元行くのって嬉しいよね。

リツ：そうそう！

ゆーり：このツアーも大事なんですけど、もっと大事なのは、11月から始まる単独公演ツアー「ノーベンバー・オーケストラ」で。オーケストラという名に相応しい演出と演奏が出来たらいいなと考えているので、楽しみにしておいて下さい。

蝴蝶网
hudie.com

ZORO

OUR 2010 club "MAD HOUSE" FINAL

2010.8.7 SHIBUYA WOMB

クラブ・ツアー"MAD HOUSE"が、8月7日・渋谷WOMBでファイナルを迎えた。クラブミュージックの要素をふんだんに取り入れているゾロのサとあいまった煌びやかな会場は、彼らの魅力を存分に引き出したステージとなっていた。12月29日には初のホール公演も渋谷C.C.Lemonホールに! 真夏の一夜の模様を、彼らのコメントと合わせてお届けする。

Photography:TAKEHIRO SUGANUMA Report:YUKA SUGIE

世界的なDJたちからも評価が高いというハコ、それが渋谷WOMBなのだとか。ヴィジュアル系という個性がせめぎ合う世界の中でも、常にアヴァンギャルドに際立つゾロの在り方を示すには、申し分ない場所なわけだ。

真っ白な床や壁が、非現実感に拍車をかけるステージ。登場するやいなや、たつひが密かにディスコダンス⁉でテンションを高めれば、フロアも敏感に反応。この日はVJも効果的にショウを盛り上げたが、ライヴハウスとは違う何かを、メンバーもオーディエンスも、双方が求め、存分に楽しんでいたように思う。

クラブミュージックの要素を大胆に、躊躇なく採り入れている彼らだが、幕開けの「FIGHTER FIGHTER」は、何しろパンチがあった。イントロから龍寺が"踊れ!"とけしかけ、ハンドクラップを促せば、早くも熱量高い一体感が生まれているではないか。

音源では「GOLD CARD」と「FIGHTER FIGHTER」を間髪入れずに続けて聴かせたが、この日は「FIGHTER FIGHTER」と「DYNAMITE FLAVOR」の曲間を、さりげなくリミックス盤のようにつなげていたのも、面白いなと思わされたところ。そのことで、熱が途切れずに上昇し続けていくわけだ。

「COSMO「S」フューチャー」では、龍寺、タイゾ、たつひが裕哉のいるドラム台のほうを向いてバンド感を高めたかと思えば、フロアも右に左にモッシュ。"見せてくれよ!"という龍寺の声が、ますます火に油を注いでいく。『今日は最高の楽しさを共有しましょう。じゃあ、自分の効き腕を上げて。みんなの声も楽器です!』

そんな龍寺の言葉に続いたのは、「warp」。オイオイコール&コブシがフロアを埋め尽くして、アッさが止まらない。ファンクなノリが心地よい「ダンスーン」、そして「ナッツ・Night・スター」では龍寺がロボットダンス⁉のような動きを見せたり、一時も目を離せないのだ。

叙情的で刹那的な「閃光」、タイゾす裕哉のビートが牽引した「肺音楽-Highmusic-」など、ガッツリと、しっかりとバンドそのものの表現力と本質を見せつけたのは、中盤。デジタルに依存するのではなく、あくまで彼らが主体となって巧みに操っている、それがあからさまに露呈した場面だ。とにかく、一筋縄ではいかないのである。

『後ろの映像、カッコよくない⁉ クラブだから何かしら演出したくてさ。この会場、ゾロに合うでしょ⁉』

大きな手応えを感じている様子の龍寺が、"この会場、もっとMADにしていきましょうっ。上下に揺れて、手拍子して、自由に音に狂ってください!"と続け、放たれたのは新曲「HOUSE・OF・MADPEAK」。このツアーを想定して制作されたナンバーだが、これまでのデジタリックなアプローチを振り返っても、ここまでコアに、重低音で攻めるナンバーはなかったのではないだろうか。龍寺の歌声も、もはやありきたりな概念の歌声としてではなく、ひとつの音色として楽器やデジタルサウンドと混ざって、未体験の衝撃波がフロアをすっかり呑み込んでしまった。

その上で、"ホンキ見せないと怒っちゃいますよ"と龍寺が挑発した本編最終ブロック。激音轟く中でフロアの自己解放率が尋常じゃなかった「NANA」、オーディエンスの大合唱が巻き起こった「KITSUNE」と、会場がどこであれ、やっぱりゾロはゾロらしく、みんなを巻き込んでいくその手腕に、舌を巻かざるを得なかった。

アンコールの最後、「CUBE」では、フロアが前後左右に激しく波打つ中、極限まで昂ぶった龍寺が思わずダイヴ。リフレインする"I can fly"というフレーズに誘われるようにクラウドサーファーが続出するそこは、まさにMAD HOUSEそのものであった。

12月29日には、ゾロが結成当初から目標にしていたという渋谷C.C.Lemonホールのステージに、いよいよ立つ。初のホール・ワンマンであれ、お行儀よくなんかしていられないのが彼らではな

アヴァンギャルドでハードでポップなclub "MAD HOUSE" へようこそ!!

【set list】

1.FIGHTER FIGHTER
2.DYNAMITE FLAVOR
3.COSMO「S」フューチャー
4.warp
5.ダンスーン
6.ナッツ・Night・スター
7.閃光
8.レイテンシー・スノウ
9.肺音楽-Highmusic-
10.HOUSE・OF・MADPEAK
11.NANA
12.パノラマHOP
13.GAGA
14.KITSUNE

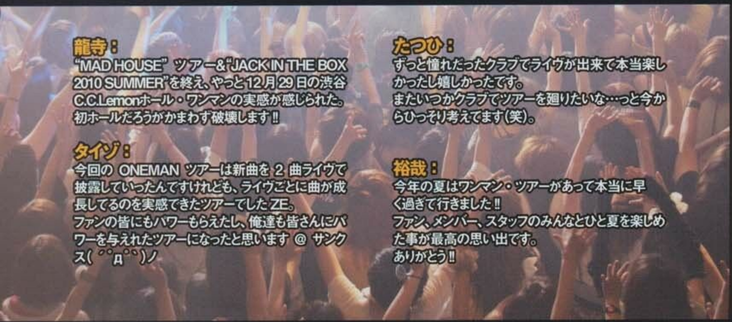
<encore>

15.ミツケダスアサ
16.GOLD CARD
17.アサシン
18.CUBE

蝴蝶网
hudie.com

タイゾ

龍寺



龍寺：
"MAD HOUSE" ツアー&"JACK IN THE BOX 2010 SUMMER"を終え、やっと12月29日の渋谷C.C.Lemonホール・ワンマンの実感が感じられた。初ホールだろうがかまわず破壊します!!

タイゾ：
今回の ONEMAN ツアーは新曲を 2 曲ライヴで披露していったんですけれども、ライヴごとに曲が成長してるのを実感できたツアーでしたZE。
ファンの皆にもパワーもらえたし、俺達も皆さんにパワーを与えれたツアーになったと思います@サンクス(´゚д゚`)ノ

たつひ：
ずっと憧れだったクラブでライヴが出来て本当楽しかったし嬉しかったてす。
またいつかクラブでツアーを廻りたいな…っと今からひっそり考えてます(笑)。

裕哉：
今年の夏はワンマン・ツアーがあって本当に早く過ぎて行きました!!
ファン、メンバー、スタッフのみんなとひと夏を楽しめた事が最高の思い出です。
ありがとう!!

裕哉

たつひ

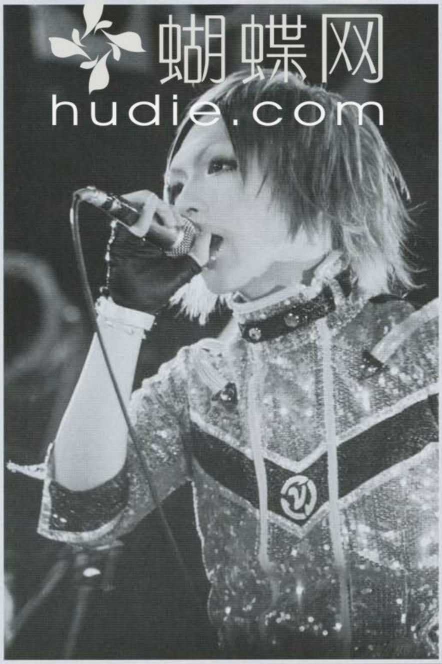
おつかれサマー2010

Live at 高田馬場AREA 2010.8.31

老舗ライヴハウス・高田馬場エリアの夏の恒例行事『OTSUKARE SUMER』。
今年のラインナップは、Administrator、アンド、ν[NEU]、HEROといった若手注目株の4バンドに加え、
何と、スペシャルゲストとして、ナイトメアが登場!
夏の疲れをぶっ飛ばすほどの盛り上がりを見せた、スペシャルな一夜をお届けします!

Photography:MASAKAZU KOBAYASHI（SHOXX）
Report:ERI MIZUTANI

ν〔NEU〕


蝴蝶网
hudie.com

1.in my secret...
2.GoSick
3. ピンクマーブル
4.LIMIT
5. スプラッシュ！

Administrator

1.Ace
2.Heart is...
3. 喚情レイテンシー
4.subliminal
5.SELFISH CLOVER

アンド

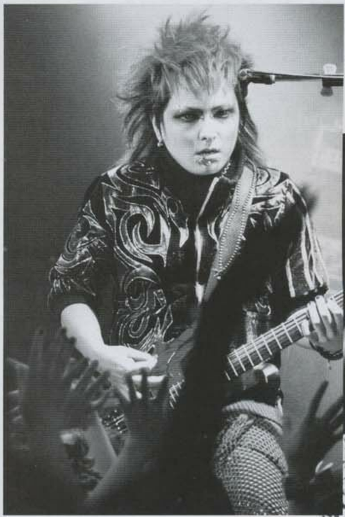
CODE「B」
bluff
アネモネ
恋スル@BOY
宣戦布告

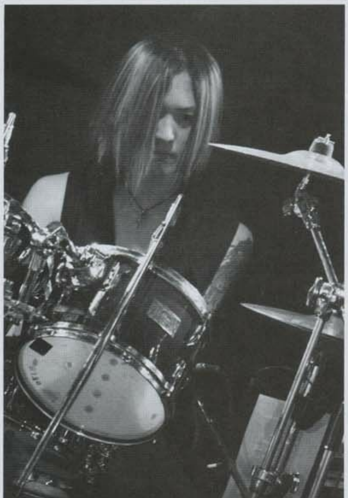
HERO

1.Paradox
2.Oh My Darlin'
3.Days
4.Not Found
5.Oh My God!!
6. 超過激愛歌

蝴蝶网
hudie.com

ナイトメア





1.a:FANTASIA　2.Mr.trash music　3.ジャ
ニズム究　4.ジャイアニズム死　5.東京傷年
性ブギー　7.極東乱心天国　8.ジャイアニズム

た人が続出した今年の『おつかれサマー』。そんな人の為にも、当日の様子を余すことなくお伝えしていこう。

トップバッターを飾ったのはＡｄｍｉｎｉｓｔｒａｔｏｒ。新進気鋭の４ピースバンドである。しっかりとした音楽性に定評があり、この日も安定した演奏力を見せてくれた。力強いドラミングに合わせ、心地よいメロディが観客の心を鷲掴みにした「heart is…」から、みんなで手を上げ盛り上がった「SELFISH CLOVER」まで、これからの伸びを感じさせるステージングを展開してくれた。

お次は、ν［ＮＥＵ］。カラフルな楽曲を演奏させたらシーン随一と言える彼ら。〝エリア、声を聞かせてくれ！〟という勢いのある煽りでスタートした「in my secret…」では、スクラッチと爆音の混ざりが最高に気持ちよく、メタリックな衣裳を身にまとった、みつの歌声に観客はノリノリ。あっという間にトランス状態と化したフロアに「ピンクマーブル」と「LIMIT」で、さらなる色を付けると〝また会いましょう！〟と元気よくステージを後にした。

ＨＥＲＯのステージは、音楽性もさることながら、尽の巧みな話術に感心させられた。いきなりの新曲「Paradox」で幕を開けただけに、メンバーのテンションはいつもよりも高め。ちなみに、この新曲、かなり良い！　ゴリゴリのバックに爽やかなサビ、ＨＥＲＯの特性を活かした楽曲に仕上っている。そして、お待ちかねのＭＣはというと、〝特技は急性胃腸炎です〟と、先日、胃腸炎に苦しまされたことを自己紹介がてら報告した尽。このライヴが終わったら即入院だそうだが、それでも全力で歌い切ったヴォーカル根性に拍手を贈りたい。

先日、メンバーの脱退もあり、４人での登場かと思われていたアンド。ところが、何と、新ドラマー・ＫＡＪＩを迎えてステージに現れたではないか。夏のツアーでサポートを務めたというＫＡＪＩ。そんな彼のドラミングを拝見するのは初めてだったが、アンドの持つ力強さと繊細さを上手く表現していた。さて、当日は別場所でのライヴを終え、休む間もな

を感じた。新曲「bluff」と「アネモネ」が披露されたこともあり、お得感たっぷりの内容となっていた。

いよいよ、真打登場！　それにしても、ナイトメアがエリアのステージに立つのは何年ぶりになるのだろうか。すぐには思い出せないほど、昔ということになる。

そもそも、大きな会場でのライヴが当たり前となった彼らが、なぜに、ステージとフロアの距離がわずかなほどしかないライヴハウスでのイベントに出演することになったのか。その理由は、２つある。まず１つ目は、〝バンド結成時の頃からエリアでのライヴを頻繁に行っていたから〟。そしてもう1つは、〝10周年を記念して初心に帰りたいという思いから〟なのである。とは言え、それを実行に移すのは至難の技。しかし、それをさらっとやってしまうのだから、ナイトメアは本当にかっこいいバンドだ。そういったところが、多くの人から支持されるのだなと改めて思った。

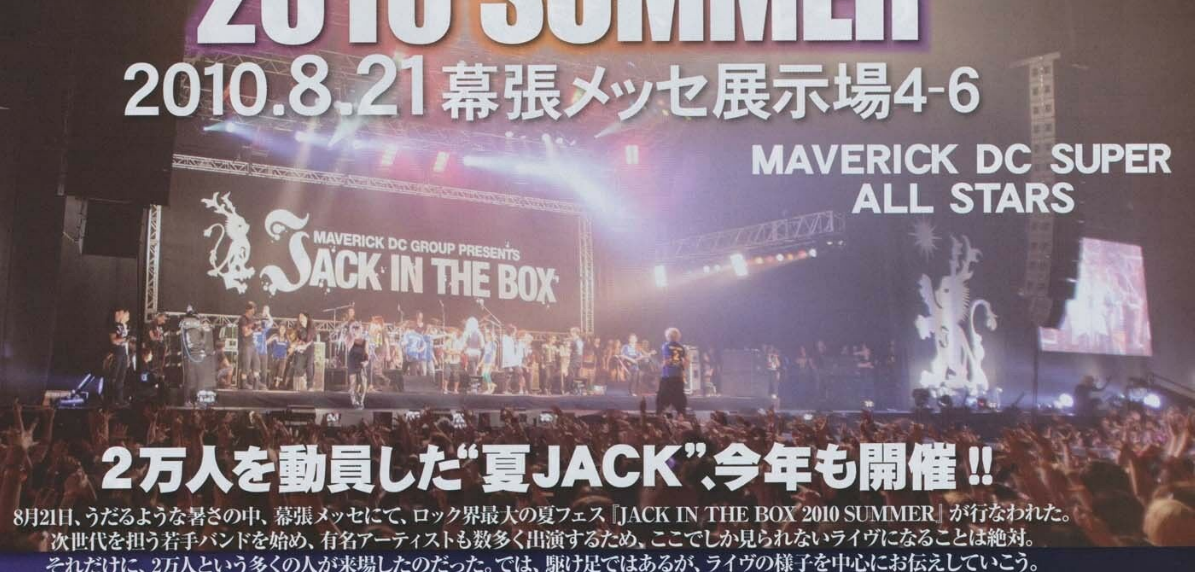
そして、肝心の本編はというと、オープニングの「a:FANTASIA」から、ワンマンさながらの迫力で展開。圧倒的な存在感でフロアを熱狂の渦に巻き込んだ。〝久々にエリアに帰ってきました！〟笑顔のＹＯＭＩ。柩は〝いいですね、ホームって感じします〟と懐かしそうに辺りを見渡す。すると、咲人が〝最低限のルールは守りつつ、残ったからにはまだまだいけるだろ！〟と、フロアを挑発していく。満杯のフロアは大歓声で応えたそのとき、ＹＯＭＩが〝もっとバカになっていこうぜ〟と告げ「東京傷年」へ。ＲＵＫＡとＮｉ～ｙａの織り成す鉄壁のリズムの下、皆が自由に動いていった。ライヴハウスに相応しく、暴れナンバーを立て続けに披露すると、ラストは「ジャイアニズム惨」。ここでは、テンションがマックスになったＹＯＭＩが、フロアに勢いよくダイブするという嬉しいハプニングもあったのだった。

こうして幕を閉じた２０１０年の『おつかれサマー』。タイトルが示すとおり、夏の疲れを吹っ飛ばす、最高のライヴとなった。

蝴蝶网 hudie.com

JACK IN THE BOX 2010 SUMMER

2010.8.21 幕張メッセ展示場4-6



MAVERICK DC SUPER ALL STARS

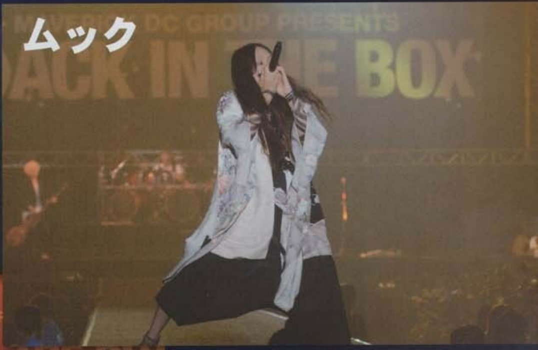
2万人を動員した"夏JACK"、今年も開催!!

8月21日、うだるような暑さの中、幕張メッセにて、ロック界最大の夏フェス『JACK IN THE BOX 2010 SUMMER』が行なわれた。次世代を担う若手バンドを始め、有名アーティストも数多く出演するため、ここでしか見られないライヴになることは絶対。それだけに、2万人という多くの人が来場したのだった。では、駆け足ではあるが、ライヴの様子を中心にお伝えしていこう。誌面からフェスの熱さが伝われば幸いだ。

Photography : YUKI KUROYANAGI, Sumie,YUUKI KAWAMOTO
Report : ERI MIZUTANI

シド

ムック



11時。本編がスタート。会場の熱気を上げるべく、カラスが勢いよく登場。昨年のステージではカバー曲を中心に演奏していったのだが、今年は違う。オリジナル曲「LASTICA」でオーディエンスを盛り上げると、まさかの新曲「free」も披露。逹瑯の妖艶な出で立ちとは対照的に爽やかに聴かせるこの曲は、この秋のマストとなることとうけ合い。美月とヒロトの華やかなパフォーマンス然り、dunchとケンゾの息の合ったところも、この広い会場によく映えていた。

続いてはLM.C。説明するまでもないが、彼らは本物のライヴバンドだ。ここでこうきてほしいというオーディエンスの欲求を、見事に再現してくれるのだから。「GHOST†HEART」で幕を開けた今日のライヴ、とことん楽しもうという姿勢がビシバシと伝わってくる。mayaとAijiの絶妙なコンビネーションはもちろん、2人の音をより鉄壁にするメンバーの姿にも目を奪われた。ラストで演奏された「☆Rock the LM.C☆」は最高の出来。ライヴの面白さを熟知しているからこそ、ここまでハッピーな空間を提供することが出来るのだろう。

ゾロは、以前からのポップなイメージはそのままに、数々のライヴを重ねたことで男らしさとも取れるダイナミックさが曲の随所に表れていた。相変わらず個性的なパフォーマンスで楽しませてくれる龍寺を筆頭に、タイゾ、たつひ、裕哉も、このフェスを全身で楽しんでいるのが感じられる。最新シングル曲「HOUSE・OF・MADPEAK」では、お得意のダンスミュージックを滲ませながらも、ロックバンドとしての成長を感じさせる1曲に仕上げていた。大舞台でも決してひるまないその姿勢、これからも貫いていってほしい。

AliceNineは、ワンマン・ライヴさながらの迫力で会場を魅了した。まずは、サビでAジャンプが繰り出される「RAINBOWS」を披露すると、最新シングル曲「閃光」へ。まだ発売前ということもあって、初めて耳にする人もいたようだが、真正面から光が指すようなその楽曲に、会場の誰もが聴き惚れていた。安定したドラミング、艶っぽいベース、ギターのドラマティックな音色も魅力的だが、それらに囲まれた将の歌声はいつになく伸びやかで、それを見て、来年1月6日に行なわれる日本武道館でのワンマンにますますの期待がかかった。

常に変化し続けるギルガメッシュ。もちろん、この日も進化している様子を見せ付けてくれた。4ピースということもあり、広い会場では他のバンドに比べ音負けしてしまうかとも思ったのだが、そんなことは杞憂に終わった。この4人には、誰にも負けない熱さがある。それは、何にも代えがたい武器だ。オープニングの「COLOR」から「STAY AWAY」

ギルガメッシュ

蝴蝶网
hudie.com

LM.C

AliceNine

いたら、お目にかかりたいものだ。

20分の休憩を挟んだ後は、事前告知一切なし、シークレットバンドの登場だ。現れたのは何と、凛として時雨。これは、観客はもとより、出演アーティストが喜んだのではないだろうか。

凛として時雨同様、アーティストに支持されるバンドといえば、DEAD END、44MAGNUM、LOUDNESSもそうだろう。その存在感と演奏力は見るものを圧倒する。ライヴの面白さとはこういうものなのだというのを改めて教えられた気がする。それだけに、普段、若手バンドの楽曲を多く聴くファンは衝撃を受けたことと思うし、ジャパニーズロックにもこんなにカッコいいものがあるのか、と、実感したはずだ。

さすがの貫禄を見せてくれたのは河村隆一。会場を包み込むような優しい雰囲気と透き通るような声は絶対的なモノ。特に、「Glass」や「Love is…」など、誰もが口ずさめる楽曲を披露してくれたのも嬉しい限り。とにかく、最初から最後まで、何をしてもキマってしまうだけに、うっとりと見惚れる女性ファンが多くいたことも特筆すべきところ。

シドは、まさかの展開で我々を驚かせた。耳に手をあてオーディエンスの熱を確かめたマオが口にしたのは「空の便箋、空への手紙」。予想外の選曲にどよめきを隠せない会場。それもそのはず、シドはシングル「cosmetic」のリリースを9月29日に控えている。それだけに、この日もシングル曲の初お披露目か、もしくは最新シングル曲「レイン」が演奏されると思っていた。しかし、彼らが選んだのは……〝この前セットリストを作ったら壊したくなっちゃって。なので、今日は『憐愛-レンアイ-』(1stアルバム)の曲しかやりません。知らない人は新曲として楽しんで!〟。マオの大胆発言に会場の喜びは爆発。中には感激のあまり泣き出す人まで。ファンにとって嬉しいこと、それはこうして昔の曲をさらりと演奏してしまう器の大きさ。予告どおり、1stアルバムからの曲ばかり演奏した彼らには、はちきれんばかりの拍手が贈られた。

kyoは本日登場する出演バンドをバックに従えてステージを進めていった。豪華メンバーが揃ったのだが、中でもムックの面々を引き連れて演奏された「LA VIE EN ROSE」は、大きな見せ場となっていた。

紅一点、ベッキー♪#は、愛くるしい表情でオーディエンスの心を奪った。ヒマワリのような大きな笑顔で花道を駆け巡るかと思えば、強い瞳を向け、しっとりした表情で歌い上げる。タレント・ベッキーではなく、女性シンガー・ベッキー♪#を存分に味わえたステージとなった。

acid android は一瞬にして見る者を惹き付けていった。どの曲も、yukihiroの感受性がこれでもか

JACK IN THE BOX 2010 SUMMER

蝴蝶网
hudie.com

というぐらいに詰まっており、息を飲むステージングを展開してくれた。恐ろしいまでに音圧を感じられるライヴとなった今夜のライヴ、同時に、彼のポテンシャルの高さに感服。

　ＴＥＴＳＵＹＡのステージングは圧倒的に楽しかった。五線譜から飛び出してきそうなほど瑞々しい楽曲を盛り立てていたのは、妥協のないパフォーマンスと見事な音楽観があってこそ。最後の最後までオーディエンスの心を捉えて離さないライヴ展開、若手バンドは大いに勉強になったことだろう。

　穏やかな人柄故、女性ファンはもちろん、男性ファンも多い、Ｋｅｎ。彼のライヴが始まるや否や、フロア前方にはたくさんのファンが集まった。のほほんとした雰囲気もマイクを持てば一変、色気のある歌い方で会場に魅力を振りまく。その振り幅の広さはさすがと言えよう。

　続いては、今年頭に復活を果たしたばかりのｓａｄｓ。余談だが、この日、会場にはカラオケコーナーが設けられていて、そこにはｓａｄｓの曲を歌うファンが多く集まっていたのだが、やはり本家本元には到底及ばず。そこで多くの人が歌っていた「SANDY」、本日はラストで演奏されたのだが、清春が歌うと感涙もの。エロティック、かつダンディな歌声は誰にも真似できないのだ。

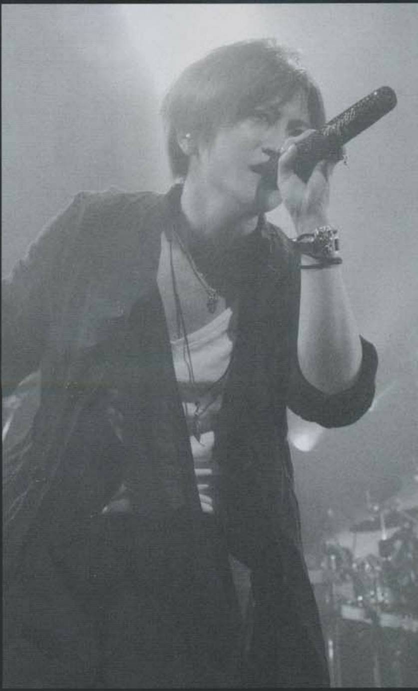
　存在感といえば、ＶＡＭＰＳも然り。彼らの音楽は感性がほとばしっている。こんなこと思い付くものなのだろうかということをいとも簡単にやってのけてしまう。天は二物を与えずと言ったものだが、ＨＹＤＥとＫ.Ａ.Ｚに至っては、一体いくつの才能が備わっているのだろう。曲が進むにつれ、そんなことを思った。

　トリを務めたのはムック。フェス開始時、カラスとして登場した逹瑯はショートヘアだったのだが、ここではいつものロングヘアに。いくらウィッグとはいえ、バンドによって自らの風貌を一新してしまうあたり、音楽に賭ける想いが半端ないということが分かる。まずは「ファズ」で会場を揺らす。全身を駆け抜けるビート、見事なまでの一体感…鳥肌が立たないはずがない。そこから「咆哮」「フォーリングダウン」を演奏すると、誰もが彼らのパフォーマンスに酔いしれた。そして、ラストは「蘭鋳」。ザクザクと斬り込んでくる音の渦に血液の流れが早くなるのを感じた。やりきった、そんな表情でステージを去った彼らは、ホンモノのロックバンドと言えるだろう。

　…と、当然これで終わるはずもなく。大ラスには、〝MAVERICK DC SUPER ALL STARS〟による夢の共演が。こうして、長時間に渡るフェスは最高の形でもって締め括られたのである。なおこの夜には、12月27日・日本武道館にて行なわれる恒例〝冬ＪＡＣＫ〟の

Lc5

【set list】1.DIRTY STAR　2.Lc5 ～ love&crash ～　3.COLD SEA °
4.Loveless　5.TELL ME!!　6.DEEP IMPACT　7.Story



SCUBER DIVE 2010
～渋谷が大変～　2010.8.2 SHIBUYA O-EAST

蝴蝶网
hudie.com

異常気象となった2010年夏。そんな盛夏をさらに熱くする恒例イベント"SCUBER DIVE 2010 ～渋谷が大変～"が、今年も渋谷O-EASTを中心に6会場で開催された。出演8アーティストが火花を散らしたO-EASTの模様を徹底レポート。

Photography:MIWA OHYA
Report:TOMONORI NAGASAWA,ERI MIZUTANI

凛

【set list】1.Sterilization　2.Metamorphose　3.FREEDOM
4.Fake Dance　5.As If Forever Exists.　6. 凛　EC1.Foolish

adie

st】1.Grieving the dead soul　2. 心眼　3. 迷彩
ス　5.ever　6.brain core　7. 陽炎

摩天楼オペラ

【set list】1.ANOMIE　2.M[illegible]er Scope　3.[illegible]パラノイ[illegible]　4.[illegible]気楼
5. 瑠璃色で描く虹　6. 悲哀[illegible]ンコリー　7.honey drop

蝴蝶网
hudie.com

OG inTheパラレルワールドオーケストラ

st】1. ハルシオンキャンディ　2. 参千世界 - 夜と音 -
ハレーション　4.StyleLover　5. 電脳花壇　6.WONDER×WONDER

Dolly

【set list】1. レイトカーニバル　2.PLAY　3.Alice in Dizzypit　4. 紫陽花
5.JULIET　6.GOTHIC PARTY　7. オレンジ　8. クロゼットレター

【SCUBER DIVE 2010】のために用意された会場の中でも、いちばん広い空間を備えているのが、渋谷O-EAST。もちろんここに出てくるバンドたちは、今現在のヴィジュアル界の最前線を彩る連中ばかり。

この日のO-EASTのトップを飾ったのは、アンティック-珈琲店-のみくがヴォーカルを務めるLc5。冒頭を飾った楽曲では、研ぎ澄まされたエッジ鋭い音楽を、同じくクールな歌声を通し、届けてきた。

〝いけんのか渋谷〜!　今日は祭りだ!〟。mikuの声を合図に飛び出したヘヴィネスでハードエッジな「DIRTY STAR」をキッカケに、会場の熱気は一気にヒートアップ。さすが百戦錬磨なメンバーたちだけあって、安定感を持った演奏はもちろん、体感的な衝動、胸を切なく揺さぶる哀愁味、感情を昂らせながら共に口ずさみたくなる歌など、1曲ごと多様に作品の表情を変えながら、観客たちへ興奮のシャワーを浴びせかけていた。もちろん、終盤に描き出した感情掻きむしる熱狂的な曲の連打で、まさに興奮のるつぼに!

壮麗ながら過激/華劇な姿勢も見せるゴシック・シンフォニア、摩天楼オペラが二番手に登場。

冒頭から、荘厳な音の絨毯を広げつつ、その上で突き刺すよう激烈な音の弾丸を放っていった摩天楼オペラの面々。どの楽曲でもキーボードがシンフォニックな味つけをしているとはいえ、彼らが演奏の軸に据えているのは、疾走感/躍動性あふれる楽曲たち。ドラムやベース、ギターが弾き出すのは、まさにメタリックな音のウネリ。ヴォーカルも、徹底した攻めの姿勢で臨んでゆく。

途中には、心にジンと染みる「瑠璃色で描く虹」も披露しつつも、徹底して感情を煽動してゆく鋼鉄のロックオペラを描き続けていった摩天楼オペラ。メロディックさも魅力の彼らだが、ライヴでは、その剛圧な音の塊に身を預けてこそ、頭を空っぽに熱狂していけるのも間違いない。

まさに、今のSadie人気をそのまま指し示すステージと場内の熱狂だった。彼らのライヴ前には、客席の後ろまで観

heidi.

【set list】1. 泡沫　2. 恍惚　3. ツタツタ　4.∞ループ　5. 予感　6. おまえさん　7.シンクロ　8. センチメンタル

12012

【set list】1.JUST THE WAY YOU ARE... 2.vomit　3. サイクロン　4.GOSSAMER　5. 配られたカードで勝負するしかないのさ、それがどういう意味であれ…　6.CONFESSION

蝴蝶网
hudie.com

ていた。

そこはすでに、歯止めの効かない暴走の場。加速度を上げながら昂ぶってゆく感情を、止めることなど出来やしない。鋼の鉄槌の如く、一音一音が身体を心地好く貫いていく。満員の観客の誰もが身体を大きく屈伸し、上下へ頭を思いきり振りながら、ステージから溢れ出す音の洪水へ立ち向かっていく。感情を嬉しいくらいにくすぐるメロディックな表情も時折覗かせながら、Sadieのステージの軸を成しているのは、破壊力に満ちた、鋼のような音の塊。解き放された音を一度たりとも止めることなく、暴走した列車に乗り込んだ観客たちを、絶叫と興奮渦巻くカオスの中へ巻き込んでいったSadie。興奮の痺れが取れねぇよ。

急遽出演キャンセルとなっていたbogiemanの代役として登場したのが、DOG inTheパラレルワールドオーケストラ。カラフルでポップな曲たちを、躍動的な演奏に乗せ、会場中を派手やかな空間へ彩ってゆく様は、さすがだ。この日は、最新シングル「青空ハレーション」をいち早く披露するなど、激しめの楽曲を多数用意。観客たちを左右に駆けさせたり、ヘドバンの嵐に導きながら、お祭り騒ぎへ興じていった。

(文=長澤智典)

ここからは後半戦。そのトップを切ったのは、世界からも注目されているバンド、Dolly。配信シングルという、現代社会ならではの手法を使って楽曲をリリースしただけに、海外ファンからの支持も熱い。ちょうどこの日も外国人オーディエンスがちらほらと見られたのだが、彼らのステージになると、前へと動いていたのが印象的だった。2ndフル・アルバム『CAPSULE』収録曲の「レイトカーニバル」で幕を開けると、その場はすぐにDollyの持つ独特な雰囲気へと早変わり。ゴシックテイスト溢れる衣裳からは想像もできないほどのロックミュージックにフロアは大興奮。「GOTHIC PARTY」や「クロゼットレター」などで会場を沸かすと、たくさんの歓声を背にステージを後にした。

サッカーのワールドカップがあったことは記憶に新しいが、サッカー好きの宮脇渉が現地まで足を運んでいたことはご

を見て初めて12012のステージを拝見したという人もいたようだ。そんな彼らは、サマー・ツアー【SEVEN-Footsteps to steal up on-】の真っ最中。もちろん、この日のライヴも、ニュー・アルバム『SEVEN』を中心としたセットリストで魅せてくれた。楽器陣の鋼のような強靭な演奏力もさることながら、海外での生活を経験し、人間力を養った宮脇のパフォーマンスには感心させられた。表現者として、また一段上を行ったと言っていいだろう。

メジャー・デビューを果たしたheidi.は、丁寧な演奏に目を奪われた。イベント・ライヴでのテッパン曲「泡沫」を披露するや否や、フロア後方にいた観客までもが歓声を上げながらステージ近くまで寄っていく。この楽曲がいかに彼らに根付いているかが文かった瞬間でもあった。heidi.の魅力、それは、ロックバンドにも関わらず、丁寧な演奏を繰り広げるところだ。真心を込めて楽器を鳴らす姿には、みな胸を打たれたことだろう。だからこそ、「∞ループ」や「予感」といった、メジャー・デビュー後に発表した曲もすんなりと観客に受け入れられるのだ。ラストの「センチメンタル」が終わると、マイクレスで〝ありがとう!〟と叫んだ義彦。フロアからはお返しの歓声がいつまでもこだましていた。

ラストは凛。ヴィジュアル・シーンに最も相応しい出で立ちの彼ら。この春に全貌が解禁されたばかりなのだが、すでに動員力はかなりのもの。始まる前から期待度の高さを伺わせた。そして、耳をつんざくほどの爆音SEが響いた後、一瞬にしてデジタリックな音が会場を包む。するとその瞬間、RIKUとMIZUKIが同時にお立ち台に上がり、踊りながら観客を煽り始めたではないか。まさかのパフォーマンスに観客は興奮。「Sterilization」でのヒトコマだったのだが、2人の動きに導かれるようにして身体を揺らしていく観客の反応の良さには驚いた。その後も、KISAKIがドラを鳴らしながら暴れまくるなど、とにかくインパクトのあるパフォーマンスが続く。視覚的にも楽しめる、最高のエンターテイナーであることを、凛はこのイベントで証明した。

(文=水谷エリ)

SHOCK WAVE アポロ vol.41

Live at 高田馬場AREA 2010.8.18

毎月18日に高田馬場AREAを舞台に開催中の「SHOCK WAVEアポロ」。8月は、夏休み期間ということもあって、バンド数もいつもよりちょっと多め。この日出演したのは、リバティーン/ZEST/Cla vi us/D'eiz/ALiBi/TOON-FACTORY/東京ミカエル。/BUNNEIESの計8バンド。さっそく、夏スペシャルなこの日の模様を、お伝えしよう。

Photography:MASAKAZU KOBAYASHI（SHOXX）
Report:TOMONORI NAGASAWA

ZEST

HANTOM
RAZE DOLL
ALES
alize
ge

リバティーン

1.ラピスラズリ
2.妄想ストリップ
3.「FLASH BACK」
4.now

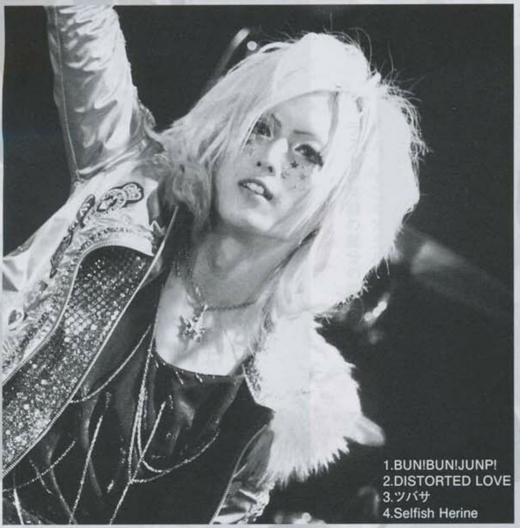
D'eiz

1.Butterfly
2.Desert Me
3.Lag
4.LESS
5.Fruid Candy

Cla vi us

1.赤裸々果実
2.未来、時々雨
3.生命線
4.マスカラ

蝴蝶网
hudie.com



以上にヴォーカルの歌声が、しっかり耳や目に届いてきた。滑舌良い歌い手ではないが、〝想いを届けたい〟気持ちを前に出している姿勢に、まずは共感。トップを飾ったリバティーン。正直、まだ荒々しさが先に目立つバンドだが、むしろ今は、その粗削りさを魅力に、ワイルド性へ磨きをかけてもらいたい。彼らが【オリジナル】を見つけたときこそ、本当の意味でのスタートラインだろうからね。

冒頭から、客席にいた人たちが、手を振りかざし、その場で思いきり高く飛び跳ね出した。観客たちに体感的な楽しさを与えながら。でも、気持ちの内側へしっかり歌を届けてゆくZEST。表現力豊かなヴォーカルがバンドの芯を支えているからこそ、緩急どんな表情を描いても、しっかり魅せる絵に仕上げてくれる。だから、ライヴを観ながら嬉しい安心感を覚えられるわけだ。カラフルでメロディックな表情とハードさをミックスした「TALES」など、激しく楽しくアゲてゆく姿勢に観客達も無我夢中だった。

いきなりハード&ジャジーな、エッジ鋭いクールな歌「赤裸々果実」を奏でながら、観客たちにせまってきたClavius。続いて披露したのが、ハードロマンな「未来、時々雨」。とんがった攻撃的なスタイルを軸に据えながら、その魅力をスパイスに、多彩な音楽性とミックスアップさせてゆく姿勢が、彼らなりのオリジナリティ。後半は「生命線」など、煽りの姿勢を中心にしたステージへとシフト。圧倒的なパワー感を持つ音のウネリの中へ、観客達を巻き込んでいた。

流れてきたSEは、心痛むニュースをコラージュした音声。演奏は、一切照明の無い中でスタート。心の中に籠もった慟哭な痛い感情を、そのままヘヴィ&ダウナー/ラウド&ダークな音の衝撃として響かせてきたD'eiz。演奏している姿が一切見えないからこそ、逆にヘヴィ/スクリームな音に込めた感情がリアルに胸に突き刺さってゆく。照明に照らされ、メンバーの姿が露になった時点で、その感動はさらに大きくなっていった。まだ個性が確立されているわけではないが、安定した演奏力や演出面を観ていると、ホントALiBiは、【笑顔】を与えてくれるバンドだ。短い時間の中、いかに会場中を幸せな色に染めていくかのみを考えている。ヘヴィな表情を通し観客たちを煽るときも、演者側が根っからのパーティ気質だからこそ、煽りさえ幸せな色に変えてゆく。この日は、カラフルで常夏モード炸裂した夏全開アゲアゲ曲を連発。陽の当たらない会場に、ギラギラとした猛暑な太陽を差し込ませる様は、さすが。その年中常夏なハッピー気分導く力こそ、彼らの絶対的な持ち味だ。

冒頭から「イノセント」を通し、会場中を妖しく艶めいたパーティな空気へ変えていったTOON-FACTORY。タオルを振りまわし、熱狂の絵を作りあげたヘヴィ&ダンサブルな「Winding road」から、バラードの「Sarcastic story」など、自分たちの活かし方を熟知しているからこそ、どの曲からも明瞭に伝えたい顔が見えてくる。彼等は今から、大きな躍進の時期を迎えそうだ。

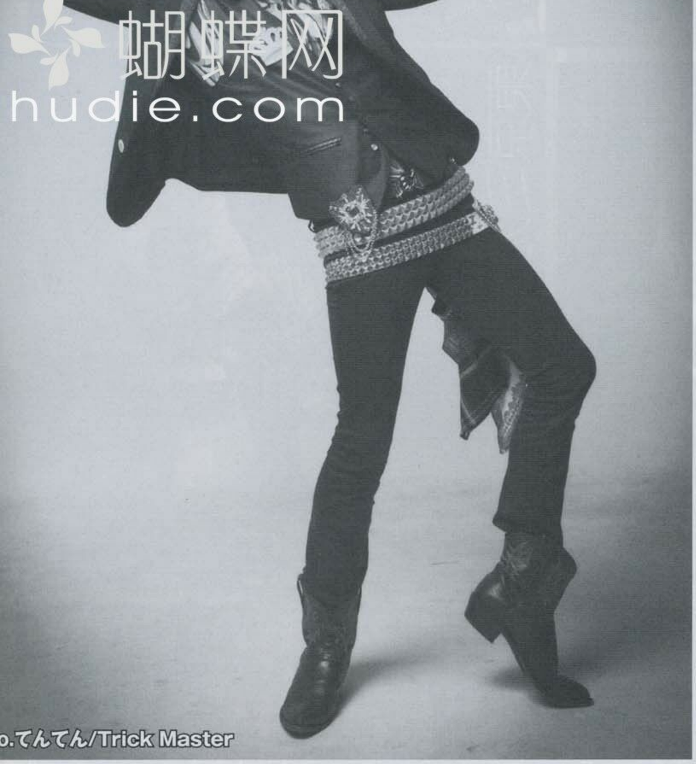
〝歌〟を聞き手の心に届けることを心情としている東京ミカエル。だが、この日のイベントでは、「東京カメレオン」「Mr.Selfish」と、あえてライヴ空間へ熱狂を描きだす楽曲を立て続けに持ってきた。どんなイベントでも、自分たちの【想いを届ける】姿勢を崩さない彼らだけに、あえてアグレッシブに攻めてきた姿が、とても新鮮に映ってきた。後半には、キラキラとした明るく開放的なポップナンバーを据えてはいたが。中盤で披露した新曲では、かなり内面的な切ない感情を描写。その変わり目の時期を目撃出来たのは貴重だったのかも。

最後を飾ったBUNNEIES。安定感と癖の強いバンドが続[illegible]あと、[illegible]きなり大トリでの登場。て[illegible]ンド自体は、そんなプレッシャーなど微塵も感じさせることなく、勢いにノ[illegible]演奏をブチ噛ましながら、会場中を熱狂渦巻くヘドバンの嵐の中へ導いてい[illegible]ンド自体結成して間もないせいか、煽りで熱狂を作りたがってしまうの[illegible]成長過程の一つと前向きに観る。[illegible]各煽りは長けているが、今後、可能性を秘めているだけに、楽曲の質と演奏力の向上を期待したい。

蝴蝶网
hudie.com

SHOXX MODE

SHOXXが厳選してお届けする最新情報!!


蝴蝶网
hudie.com

o.てんてん/Trick Master

SHOXX VOICE!!

ケミカルピクチャーズ

世界を撃った男 case5.ピースメーカー

5月から、5ヶ月連続でリリースに挑んできた「世界を撃った男」シリーズが、9月29日にリリースされる「世界を撃った男 Case5ピースメーカー」で締めくくられる。5ヶ月という歳月を費やしたシリーズモノの最終章とあり、期待は高まるばかり。これまでの4作品でも、様々なケミカルピクチャーズの姿を見せてくれた彼らが最終章に選んだ曲たちとは？――

Interview:NAOKO TAKEICHI

――いよいよ最終章までできましたが。かなり色が違うよね。

てんてん：うん。4枚並べてみるとたしかにこの1枚も、かなり個性的ですよね。でも、もしかしたら、この最後の1枚が、一番自分たちの軸に近いのかなって思いますけどね。

――そうなんだ。やっぱり最初に聴いた『世界を撃った男 Case1 トカレフ』『世界を撃った男 Case2 ベレッタ』のイメージがケミカルの音っていう印象が強くなってるんだけどね。

子雲：1枚目2枚目は一番ヴィジュアル系色が強かったんじゃないかな?

Joe：うん。そこを意識して作ったたって感じでもあったしね。

――そうは思わなかったよ。逆に、すごく硬派なロックだなって思ったし。

てんてん：マジっすか⁉ やっぱちょっとの間ヴィジュアル系シーンから遠のいてたんで、ちょっと一昔前の感覚になってんのかも（笑）。でも、カッコイイと思ってくれてたならいいです（笑）。

――今シリーズでは毎回、「世界を撃った男のテーマ」が1曲目にきていたけど、今回はラストに入るんだね？ それはどうして？

てんてん：今回の「世界を撃った男のテーマ-I love suG my life-」は、いつもライヴで最後、履けていくときにかけてる曲でもあるんですよ。それもあって、最終章のラストもそれでしめくくろうかなってことだったんです。

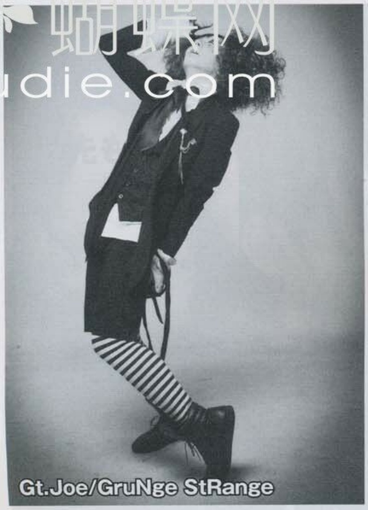
――でも、はけていくときに用いる楽曲としては、かなりイケイケな感じじゃない？ すごく激しくて男っぽい曲だよね。

てんてん：そう。しんみりじゃなく、また一緒に騒ごうなって感じの曲なんです。

――なるほどね。それに、毎回ヴォーカルを変えてのボーナストラックも存在していたでしょ。今回のボーナストラックは少し深い意味を感じたんだけど。

てんてん：そうなんです。このアルバムをレコーディングしてたとき、いろんなことが重なったんです。自分的にも……不幸っていうか、なんて言ったらいいか

蝴蝶网
hudie.com


Gt.Joe/GruNge StRange

Ba.Jimi/Cosmic boy

Dr.子雲/Rhythm Geek

めたんです。実は、この曲は、とある人に捧げた歌なんです。このバンドを始めてからずっと歌い続けてきた大切な曲でもあるんですけど、その人もすごく好きでいてくれたこの曲を、その人に縁のある人を出来るだけ集めて、合唱して、その人に捧げたんです。いつもボーナストラックはちょっとふざけた感じのオマケ曲だったんですが、今回はどうしてもこの曲を入れたかったんで――。

――そうだったんだね……。きっとその想いは届いているはずだよ。今回は一番メジャー感のある曲たちの集まりかなって思うんだけど、今回はどんなコンセプトで？

てんてん：実は、今回の収録曲は、いままでにあった曲なんですよ。古くからある曲で、1曲目の「Walking Ashland」なんて、子雲さんが加入する前からある曲なんですよ。『世界を撃った男 Case1 トカレフ』では名刺代わりになるような1枚、『世界を撃った男 Case2 ベレッタ』では、こんな激しいのも出来るよっていう提示でもあって、『世界を撃った男 Case3火縄銃』では、歌モノ中心で聞きやすい感じにして、『世界を撃った男 Case4デリンジャー』からは、自分たちらしさを打ち出していこうかなって感じで、5枚目の『世界を撃った男 Case5ピースメーカー』では本当に自分

Joe：5枚並べてみても、やっぱり『～Case5ピースメーカー』が一番ウチらしいって感じますね。

Jimi：さっきてんてんも言ってたんですけど、今回最後の曲をいつもライヴのラストでやってる曲にしたこともあって、1枚目から5枚目まで通して、ひとつのライヴを見てもらっているような感覚になってるんじゃないかなって思うんですよね。『～Case1 トカレフ』の最初の曲も、ライヴの始まりに流している曲だったんで。それも含め、5枚が全部完成した今、全部通して聴いてもらいたいなって思いますね。

子雲：1枚目だけ持ってるとか、3枚だけ持ってるとかってんじゃなく、全部を通して聴いてもらわないと意味がないっていう感じにしたかったんですよね。

――漫画の単行本的なね。

子雲：そうそう。3巻抜けちゃうと話が見えなくなっちゃう、みたいな。

――そうだね。ところで、今回は曲中での展開が面白い構成だったりするよね。1曲目の「Walking Ashland」はちょっとロカビリーなノリを押出す部分もあり、サビが和製グラムっぽい感じがしたし。

Joe：この曲はまさに、なんとなくあるフレーズをスタジオでみんなでかきならして、こうやったらカッコいくない？ これは？ みたいな感じでジャムって出

混ざり合ってるんだと思いますね（笑）。そんな作り方もウチらっぽいですね。

Jimi：最初に音を出したときに、自然とこの流れが出てきたし、ピアノやオルガンがベースと絡んでいくのがすごく楽しかったし、歌メロも、てんてんが最初に歌ってくれたときから、すごく好きなメロだったんで、こうして音源化出来たことがすごく嬉しいですね。

てんてん：リズムにはすごくこだわってる1枚になったなって思いますね。

子雲：この曲はずっとハネてるんですけど、一瞬跳ねてないところがあって。その部分が究極に難しかったですね。でも、すごくリズム遊び出来た曲だったなって思いますね。

てんてん：歌詞は、生き様的なことを歌ってますね。自分の中の葛藤を歌っているんじゃないかなって。

Joe：歌い手のパーソナルな部分がすごく現れてると思いますね。「溺れる魚」は、キラーチューンが欲しいねって作った曲でした。Aメロも5回くらい出て来るんですけど、全部アプローチが違いますからね。そこもトリッキーだし、ずっと走ってる感じの疾走感がすごく気持ちいい曲でもありますね。間奏のギターソロも個人的にすごく気に入ってます。

――うん。すごくアダルトな感じになって、ラストの英詩の部分の絡みにもうま

Jimi：イントロからベースを押出しているんですが、いろんなところでいろんな遊びが出来たし、サビでみんなで叫んでるところも楽しく出来ましたね。

子雲：ライヴではかなり気持ちいいんですけど、かなり大変な曲なんですよ。展開ももちろん、とにかく忙しい。

――すごくエモなドラムだよね。ヴォーカルにもいろんな表情があるしね。

てんてん：それ嬉しいっす。すっごい歌い込んだんですよ、この曲も。1曲録るのに、8時間もかかったんです。まさにいろんな表情を出したくて。ニュアンスを大事にして歌いましたね。この歌詞は結構苦戦しましたね。この世界って、すごく悩んでる人が多いと思うんですけど、そんな悩める人に歌った歌なんです。井の中に居て世界を見つめようとしていたって世界は広がらないから、井の中の蛙でいずに、そこから飛出して行こうよっていう歌詞になってます。

――「素晴ラシキ忌々シサ」は？

てんてん：この曲はとにかく古い曲ですね。まだJoeさんと一緒にバンド組む組まないって言ってる頃に作った曲で。

Joe：まさに俺はこの曲を聴いて、てんてんと一緒にバンドやろうって思ったきっかけでもあったんで、個人的にはすごく思い出深い曲なんですよね。

てんてん：この曲の歌詞が一番背中を押

仮タイトルが「一舟」だったんです。航海にみたてて書いてある歌詞なんです。

――途中でレゲエのリズムが入ってくるのも面白いしね。突き抜けた明るさがある曲だなって。

Jimi：はい。僕もこの曲を聴いて、すごくいい曲だなって思ったんですよね。やっててもすごく気持ちいいんです。本当にやってる自分も背中を押してもらえるような曲ですね。

子雲：この曲ね、てんてんがほとんど録り終えてからテンポをもっと速くして変えたいって言い出して、ほぼ最初から録りなおしたっていう、すごいエピソードがあった曲なんですよ（笑）。でも、そんなてんてんの妥協したくない気持ちも解ったんで、頑張って録り直したんです。

てんてん：Joeさんに叱られるかなと思ったんですけど、妥協したくない気持ちを伝えたら、〝いいですよ。いいモノ作りましょう〟って言ってくれて。俺、泣きそうになったっすもん。

――最終章に相応しい1枚になったね。

てんてん：本当に。すごく満足してますね。あ。で、最後になっちゃったんですけど、9月17日のワンマンライヴから、新しいギターのルイが参加することになったんで、よろしくお願いします。また来月にでも、ちゃんと紹介出来る場所が出来ればいいなって思ってます。

ギャロ

東京破廉恥大サーカス-新世界-

SHOXX VOICE!!

作「ALICE IN WORLD'S END」では、セックス・ピストルズやブライアン・セッツアーに影響を受けたというメンバーのルーツを随所に感じるギャロ流ィジュアルロックを届けてくれた彼ら。10月20日、そんな彼らから新たな音が届けられる。『東京破廉恥大サーカス-新世界-』と名付けられたミニアルバは、複雑な構成を持つも、ギャロ色を色濃く感じる魅力作。独特な世界観の中に秘めたこだわりを、ジョジョとルルとヒカルに解説してもらいました。

Interview:NAOKO TAKEICHI

──今回は全体的に構成が複雑だね。前作「東京シンデレラ」が普通の絵画のタッチだとしたら、今回はピカソ的な独特さを感じるというか。

ジョジョ：あぁ、そうかも。今回の世界観のテーマは『東京破廉恥大サーカス-新世界-』なんです。ギャロの歌詞のコンセプトは、ある扉を開けたら〝戦争〟があったり、ある扉を開けたら〝ブティック〟があったり、ある扉を開けたら〝首吊り台〟があったりっていう、なんでも出来るぞっていうところなんですけど、今回は、扉を開けたら『東京破廉恥大サーカス-新世界-』に行ってしまったという設定なんです。でも、みんなが想像するサーカスとはちょっと違って、各タイトルの裏にはちょっとドロッとした真実が隠されているんです。例えば、「道化師」は小さな女の子にイタズラする男の話だったり、「調教師」は娘との近親相姦を描いていたりね。

ヒカル：うん。「調教師」は僕の曲なんですが、これは一番エグイ歌詞が乗ってますね（笑）。基本、僕の曲の歌詞は禁断の愛の歌詞が多いんです。

ジョジョ：「男娼バレリーナ」っていう昔の曲も、禁断の愛の話なんで（笑）。

ヒカル：サビ後のギターフレーズが決め手かなと。サビの明るさからディープに落ちる感じがいいですよね。

ジョジョ：「曲芸師」はちょっとエッチな歌詞なんですが、嘘つきなヤツのことを歌っているんです。

ルル：この曲の原曲は僕なんですが、最初アメリカンなロックだったのに、そうとうギャロ色の強い曲になりましたね。スタジオでジャムって作ったんです。

ヒカル：ジャムって作っただけあって、全員の個性が炸裂しましたね。

ルル：曲がBメロから始まっていくっていうのも新しいんじゃないかな。

ジョジョ：「詐欺師」はギャロ（※黒い雄鶏という意味）だったり、ジョジョだったりっていうのをテーマに歌ってて、実はこの歌詞、「無題」と「黒い雄鶏」の歌詞とリンクさせてあるんです。ギャロの歌詞は、昔の曲の歌詞ともリンクさせているところも、面白さのひとつでもあると思うので、この曲ではそんなところも

すね。自分でもヤバいと思いましたもん、キテる歌詞書けちゃったって（どや顔）。あと、ラストの「星屑」は少しテーマから逸れる感じではあるんですが、実話だったりするんです。最愛の人に送った歌で…事実を歌詞にしたものなんです……。〝残酷な現実はとても恐ろしい悪夢のようです〟っていう歌詞は、ギャロにおいても、自分自身の人生においても、一番軸となる部分として考えてるところでもありますね。今回収録されている曲の共通のワードでもある、星と黒色で繋がってる曲でもありますね。

──ラストのギターがすごく綺麗だった。

ヒカル：あそこはまさに星屑をイメージして作り込んだ部分でしたね。

ルル：この曲はアルバムの中で一番最初に出来てた曲なんです。5月の無料ワンマンの前に作った曲で、その時のワンマンで初めて披露した曲でもあったんです。

ジョジョ：今回のアルバムでは全員が曲を書いてるんですけど、この曲はカエデくんが随分前に持ってきてくれてた曲でもあったんです。最初に聴いた時から、特別な1曲にしたいって思った曲でもあり、ずっと温めておいたんです。それで、ワンマン前に、今、形にしないと後悔するっていうことと重なって。それで形にしてワンマンで披露したんです。

──最初からサーカスをテーマに？

ジョジョ：いや。曲が上がってきたときに、そんな雰囲気を感じたんで、いつかやりたいと思って温めていたサーカスをテーマに持ってきたんです。

ヒカル：表題曲の「東京破廉恥大サーカス」は、ライヴを想定してアンディが作ってくれた曲なんですが、すごくサーカス感出てますよね。

──マイナーなパレード感がいいよね。

ヒカル：ですね。ギターの音色もサーカス感が出せるように努力しましたね。

ルル：サビの音数を敢えて減らしてみたりとか、試行錯誤した1曲でした。

ヒカル：この曲はライヴを想定して作ったこともあり、振り付けもあるんですよ。この曲では〝ジョジョ立ち〟が見れます！

ルル：「黒い雄鶏」でも、その〝ジョジョ立ち〟は見れるんですが、その進化バー

tp://www.9allo.com/

蝴蝶网 hudie.com

Arc

SHOXX VOICE!!

1秒先も君の傍で愛を贈れます様に

10月1日に、KISAKIプロデュースによるニューシングル『秒シミュレーション』をリリースするArc。何やら今回は、これまでの作品を振り返って、いろいろとねらって制作に挑んだとか。その仕上がりに、メンバーも手応えを感じているよう。10月には東京と大阪で主催イベントが、12月18日には心斎橋FANJ-twiceでワンマンと、活動予定も着々と決まっている。真剣に音楽に取り組みながら、遊び心も忘れない彼ら。その音楽にもそんな姿勢がにじみ出ている。

Interview:MIYUKI MURAYAMA

俊：次の展開とかも含めて、僕らがしたいことを考えて作った感じです。

KO〜JI：全員ねらい定めてましたね。

――これまでもそんなにねらってましたっけ？

一同：(笑)

俊：そこまで一点をみつめたわけじゃないんですけど、全体を見てた感じですね。例えば、今までもメロディアスで聴かせる曲はあったんですけど、「秒シミュレーション」みたいな、こういう明るい曲で聴かせるのはあんまりなかったので、そこはねらいましたね。

KO〜JI：今までCDを作ってきて、曲を聴いたときのパワー感みたいなのがほしかったんですよ。それで、自分達的にねらって、パワー感が今までより増したかなと思います。ヴォーカルに関してだと、ハモりとかを多めに入れたり、2曲ともラップも入れたり。ラップって、そのままぶつけられる言葉っていう気がするからパワー感が出るんですよね。

――サウンド面でねらったのは？

Yuki：一番は音作りですね。今までは自分の好きな音を出してたんですけど、それよりもバンドに合う音を目指しました。要らない低音も今までいっぱいあったんで、それは改善できたと思います。

Toshiya：「秒シミュレーション」では、サビで支えたかったんで、流れを止めず勢いを出すために、フレーズ的には簡単になってます。聴きやすく、素直に入ってこれるベースラインにしました。

――歌についてはいかがです？

KO〜JI：サビは僕たちの中でメロディアスにしようっていうのはずっとあるんで、それは今回も崩してないんですけど、それプラスパワー感がほしくて。ぐっとくるのもパワーだと思うし、「秒シミュレーション」はアレンジを考えるのが難しかったですね。

――仕上がりについては、ねらったとおりのものになりました？

Yuki：仕上がったときは感動でした。

Toshiya：僕も、ヴォーカルのアレンジとか知らないところもあったんで、仕上がってから聴いて、いい感じになってるなって思いました。

KO〜JI：ムチャクチャしちゃいましたね（苦笑）。遊びながら作りました。

俊：好き勝手にやっていった感じです。テンポ変えたりとか、途中でヒップホップのノリになったりとか、その辺もねらった部分なんですよ。ちょっと違うところを出したくて。

――そうなると、実際にプレイするのは難しい面もありますよね。

Toshiya：何やってもいいっていうほうが、僕は難しいんですよ。イメージも僕次第になるんで苦労しましたね。

Yuki：難しかったのは、後半の静かなサビに入ってるアコギのアルペジオですね。全然弾けなくて大変でした（苦笑）。

――歌も苦労しました？

KO〜JI：「シーfin the ヴォイス」は全然苦労しなかったですね。「秒シミュレーション」のとき途中で辛くて泣くんちゃうかなって思ったんですよ（苦笑）。「秒シミュレーション」でボツにしたのを「シーfin the ヴォイス」に入れたりしたらがっつり合わさったりしたんで、すんなり行きましたね。楽しかったです。

俊：「秒シミュレーション」が楽しくないみたいやん。

KO〜JI：でも、達成感があったのは「秒シミュレーション」なんですよ。

――この2曲にプラスαあるんですよね。

Yuki：ライヴテイクの曲が入ります。

――ライヴに関しては、10月の主催イベントで手作りスイーツが振舞われるとか。

KO〜JI：東京と大阪、2人ずつで作るんですけど、Toshiyaになったほうが最悪です。料理に探究心があるんで、変なもんとか入れていきます。

――探究心があったら美味しいものが出来そうですけど。

Toshiya：冒険するんでね（苦笑）。

――12月のワンマンの重大発表も気になります。これは来年に向けて？

KO〜JI：僕らの中では再来年ぐらいまで見据えてます。

――いつの間にこんな計画的なバンドになったんですか！？

一同：(笑)

KO〜JI：僕らもちょっと大人にならなあかんなと思って（照笑）。

Jack Rose

いつまでも君は僕だけを愛していますか?

10月14日に、Jack Rose待望のシングル盤「シークレットメール/RED KING」が発売になる。メロディックな"静"の表情を持った「シークレットメール」。感情を武者震いさせてゆく"動"な音楽性が魅力の「RED KING」。ぜひJack Roseの持つ両極/二面性を味わっていただきたい。この日は、目黒ライヴステーションを舞台に、Akiの誕生日も兼ねたワンマン・ライヴも実施。ぜひ、この会場で最高のアイテムを手にしてくれ!

Interview:TOMONORI NAGASAWA

――Jack Rose待望の新作シングル、『シークレットメール』が完成!

Aki:前アルバム『Heart Infection 02』から約1年ぶりになります。前作が、Jack Rose歴代作品の中でも最高の内容に仕上がりました。結果、それ以上の作品を作らねばというプレッシャーが生まれ、今回、どうしても満足のいく楽曲を仕上げられずに時間だけが過ぎて行きました。そんな中で、前の作品を越えるんじゃなく、今の俺たちを素直に表現してみようと意識を変え、純粋に楽曲制作へ向かったところ、出てきたのが『シークレットメール』でした。

Rei:Akiから届いたデモ音源を聴いた瞬間、サビ始まりで思いきり歌を活かしたキャッチーな曲調に、ビビッと来ました。それだけ"つかみ"を持った楽曲だったので、僕もみんなの心に強く響く歌詞を書きたいと思いました。そこで選んだ題材が、携帯電話のメールを元にした物語でした。今や携帯電話は、誰もが手にしているもの。同時に、男女の関係をもつれさせる要因でもあると思うんです。そんな携帯メールを通して、浮気など、別の恋路が発覚することをそこから自分の妄想を膨らませ、この歌詞を書き上げました。

――彼女の携帯メールを盗み見たら、そこには知らない男性との恋のやり取りが交わされていた。主人公の男性は、それが原因で、恋の悩みを抱えてしまいます。

Rei:♪君は僕だけを愛してますか?♪と問いかける内容にしたのも、こういう状況へ陥ったとき、あなたならどうしますか?と、聴いてくれる人たちへ問いかけたかったからなんです。ちなみに僕は、聞くに聞けずモヤモヤを抱え続けてしまう、いわゆる草食系男子タイプですね(笑)。2人は、メールの内容を相手に問い詰めてゆく肉食系タイプでした。

Shige:僕はモヤモヤとした感情を抱えるのが嫌なので、真正面からアレコレ追求しちゃいますね。

Aki:僕も、これどういうこと?と聞きつつ、でもそれ以上問い詰めたりはせず、流れに身を任せてく性格です。

Rei:メンバー内でもいろんな意見が出てくるように、聴いた人それぞれに、様々な捉え方が出てくる歌になったと思います。すでにストリートライヴでも演奏してるんですけど、ファンたちからのリアクションが、特に大きい楽曲なんですよ。それだけ、いろんな人の心に刺さってゆく歌になったんだなと思います。

――歌心を前面に押し出しつつ、演奏面では各自のソロも登場したりと、しっかりハードさも活かした楽曲になりました。

Aki:今回はメロディを際立たせた曲に仕上げつつ、ドラマティックでハードエッジなJack Roseらしさも、自然と表現できたと思います。そのパワー感こそが、Jack Roseの持ち味ですからね。

――激しさという面では、2曲目に登場した「RED KING」は、かなり音の衝動が炸裂した楽曲じゃない?

Aki:これは、いつもライヴの最後に演奏している曲。ステージでも煽りをやったりなど、熱狂のボルテージが上がったときに、より刺激を与えてゆくための曲です。Jack Roseのライヴに於ける盛り上がりの定番曲なんです。

Rei:僕は草食系な歌詞を書くことがほとんどなんですが、ちょうど人間関係でムカつくことが多かった時期だったせいか、"黙れ、消え失せろ"など、怒りや悔しさ、ムカついた感情をすべてこの歌詞へ詰め込み、思いきり激しく吐き出しています。

Shige:曲調も、とにかく激しいから、ライヴで一緒に暴れるには最適な、思いきりハードな曲になりました。

――このシングルの発売日である10月14日にJack Roseは、目黒ライヴステーションでワンマン・ライヴを行います。しかもこの日は、Akiさんの誕生日も兼ねたスペシャルな日!

Aki:このバンド、誕生日を祝ってもらう立場の人が、いろんなサプライズを要求されるんです。ファンの人たちはむしろ、"えっ、こういうことをやるの?"と思いきり楽しめると思いますから。

Rei:最近はストリートを通しファンになった方も増えていますけど。路上では表現出来ない曲たちもたっぷり披露しますし。何よりも警官に止められることなく存分に暴れられるので、ぜひ一緒に

hudie.com

ナイトメア
リリース&ライヴ情報

10年間の活動を集めた、ナイトメア・バイブルとも呼べるシングル・コレクション+α のベスト・アルバム『Historical～The highest NIGHTMARE～』が、10月20日にリリースされる事が決定！

●『Historical～The highest NIGHTMARE～』
2010年10月20日Release
【収録予定曲（*は新録曲）】
-Believe-*/Over*/HATE*/茜*/Varuna*/東京傷年*/シアン*/時分ノ花*/Яaven Loud speeeaker*/LivEVIL*/Fly me to the Zenith*/極東乱心天国*/the WORLD/アルミナ/レゾンデートル/このは/DIRTY/White Room/MELODY（original ver.）/Lost in Blue/NAKED LOVE/the LAST SHOW/Can you do it?/D線上のトラジェディ（未発表新曲）全24曲収録予定

●NIGHTMARE 10th ANNIVERSARY SPECIAL ACT VOL.3
Historical～The highest NIGHTMARE～
10/22三郷市文化会館大ホール、10/30水戸市民会館、11/1市川市文化会館大ホール、11/3栃木県教育会館大ホール、11/5中野サンプラザホール、11/10神戸国際会館こくさいホール、11/12静岡市民文化会館中ホール、11/13広島アステールプラザ大ホール、11/18ホクト文化ホール中ホール、11/19新潟市民芸術文化会館劇場、11/21金沢市文化会館、11/23八王子市民会館、11/26 [illegible]山市民文化センター中ホール、11/27さいたま市文化センター大ホール、12/3倉敷市芸文館、12/4京都会館第二ホール、12/17福岡市民会館大ホール、12/19中京大学文[illegible]市民会館[illegible]ホール、12/20大阪国際会議場メインホール、12/23仙台サンプラザホール

●NIGHTMARE 10th ANNIVERSARY SPECIAL ACT FINAL
Historical～The highest NIGHTMARE～ in Makuhari Messe
12/25幕張メッセ国際展示場

hudle.com

-OZ-
2ndアルバム発売決定!!

現在、"美と退廃"をテーマに、重くて激しいライヴを全国各地にて展開中の-OZ-だが、前作『VERSUS』より約1年ぶりとなる2ndフル・アルバム『Rouge』が、11月10日リリースされることが決定！ 発売記念ワンマン・ツアーも決定し、-OZ-の"territory（領域）"を拡大していくキーワード・アルバムになることは間違いなし！ 本誌次号では彼ら自身に迫ります！
■『Rouge』（ルージュ）
【初回限定盤】CD＋DVD（PV収録）/11曲収録/¥3,990（税込）/BLCR-0001～0002
【通常盤】CD/13曲収録/\3,150（税込）/BLCR-0003

ワンマン・ツアー"STANDING ONEMAN TOUR'10「A FACT OF LIFE」～Rouge＆Noir～"のスケジュールは下記の通り。
11月29日・新潟BLACK PIG、12月5日・仙台マカナ、8日・金沢VANVAN V4、10日・大阪CLAPPER、12日・名古屋OYS、23日・新潟RIVERST、28日・渋谷O-WEST。

the Riotts. ライオット
星の章　第三弾　リリース決定!!

シーンの激流に飲み込まれることなく、独自のスタンスで確実な活動をしているthe Riotts.が10月6日にミニアルバムをリリースするぞ。毎回違ったゲストヴォーカリストを迎えリリースをしてきた彼ら。メインコンポーザーの雪希が書き下ろした珠玉のチューンを是非アナタも体感してください。
【2nd Mini Album】
『星蓮花』※2000枚限定リリース!!
全国発売　2010.10.06 IN STORE!!

【限定生産盤】CD+DVD　4曲+α MUSIC CLIP
STKR-0105 ／¥2,625（tax in）発売元:Steaak Records. ／販売元:Steaak Records

【CD】収録曲
1. Alchemist notes～instrumental fragment of star～
2. 星の砂
3. アリア
4. SUPER☆DRIVER
+α
【DVD】「アリア」MUSIC CLIP

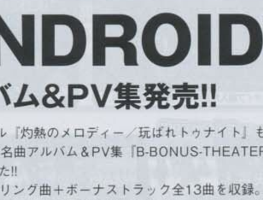
Blu-BiLLioN
期待の新バンド、始動!!

2010年2月、Seika（Dr/ex.bis）を中心に、"蒼く交わる無限∞のサウンド"をキャッチコピーに掲げた新バンド=Blu-BiLLioN（ブルービリオン）が結成された！
メンバーはSeikaのほか、ミケ（Vo/ex.the Riotts.）、龍耶（Gt/ex.Vogus Image）、m（Gt）、珀（Ba/ex.バビロン）、teru（Key）の6人。
すでに8月には名古屋ボトムラインで1stライヴも敢行し、10月20日には1stシング『Count Down』のリリースも決定!! 開設されているオフィシャルサイトでは楽曲も少だけ聴けるので、ぜひチェックしてみよう！
開放感溢れるサウンドと伸びやかなヴォーカルが印象的なBlu-BiLLioN、これからの活が期待大だ。
http://www.blu-billion.jp

Annie's Black
ファーストシングル「PLACE」発売！

ヴォーカリストSarino率いるAnnie's Blackの待望のファーストシングル「PLACE」が9月15日リリースされた。シングルといっても初回盤はなんと5曲収録。本作品は時に甘くささやき、時に激しくシャウトする、変幻自在"声の万華鏡"と言われたSarinoの珠玉のヴォイスが楽しめる入魂の作品。あわせて9月25日には渋谷チェルシーホテルにてワンマンギグも予定されている。この機会にAnnie's Blackを是非、お試しあれ!!
****
◆2010年9月15日（水）
Annie's Black
【初回限定盤】（5曲入）
M:01 [i]mage＃0925
M:02 Ambition
M:03 deep psyche
M:04 Cage
M:05 amid the despair
¥2,100（税込）/PCLP-003

【通常盤】（3曲入）
M:01 Ambition
M:02 deep psyche
M:03 Expand
¥1,575（税込）/PCLP-004
****
◆1st ONEMAN GIG
2010年9月25日（土）
渋谷チェルシーホテル
『Deep Impact』≪チケット≫
4/25（日）より一般発売
（問）渋谷チェルシーホテル/
TEL:03-3770-1567



SEX-ANDROID
B面名曲アルバム&PV集発売!!

7月28日に発売された初の両A面シングル『灼熱のメロディー／玩ばれトゥナイト』も評なSEX-ANDROIDだが、新作となるB面名曲アルバム＆PV集『B-BONUS-THEATER』が10月6日にリリースされることが決定した!!
CDには、これまでのシングルのカップリング曲＋ボーナストラック全13曲を収録。リース時にはアコースティックで収録された「ナレアイの園」はバンド・ヴァージョン新録。DVDには、これまで作られた全てのPV9曲を一挙収録。限定2000枚という、売切れ必至のコレクターズアイテムだ。
全国単独ツアーも決定。スケジュールは、10月30～31日・札幌メッセホール、11月日・仙台HOOK、6日・横浜ドラゴンクラブ、7日・本八幡（魔界）ルート14、20日・戸VARIT.、22日・広島並木ジャンクション、23日・博多DRUM Be-1、25日・岡山クレジーママ2ndキングダム、27日・ESAKA MUSE、28日・名古屋ハートランド。

an Edison PRESENTS **NEW WAVE #2**

★ 主催ライブのお知らせ

TOKYO 2010.10.02 sat
…/ダウナー / Kaya / UnsraW / Megaromania
ベルベット / amber gris /LuLu
【Guest】凛
SHIBUYA BOXX
OPEN-START/15:30-16:00 ADV. ¥3,500 DAY. ¥4,000 D別
…日(土) よりライカエジソン東京店、チケットぴあ、ローソンチケットにて発売
＊ライカエジソンは初日のみ電話予約が必要です

OSAKA 2010.10.08 fri
愛狂います。/ 己龍 / アヲイ / amber gris / ケミカルピクチャーズ
ベルベット / LuLu / お遊戯ゎが魔々団×【PaRADEiS】/ 鬼仮面
【Guest】凛 / Kαin
umeda AKASO
OPEN-START/15:00-15:30 ADV. ¥3,500 DAY. ¥4,000 D別
8月21日(土) よりライカエジソン大阪店、チケットぴあ、ローソンチケットにて発売
＊ライカエジソンは初日のみ電話予約が必要です

NAGOYA 2010.10.09 sat
愛狂います。/ 己龍 / amber gris / ケミカルピクチャーズ
ベルベット / LuLu / Lycaon / 鬼仮面
【Guest】凛 / Kαin
BOTTOM LINE
OPEN-START/15:00-15:30 ADV. ¥3,500 DAY. ¥4,000 D別
8月21日(土) よりライカエジソン名古屋店、チケットぴあ、ローソンチケットにて発売
＊ライカエジソンは初日のみ電話予約が必要です

…すべて税込です

…クイ。 イベントあり
…率的です。でも、法則です。
…回限定盤 ¥2,800/通常盤 ¥2,200
…リジナル特典:フォトカードセット

the GazettE
9/22 Maxi Single Red
Optical Impression ¥1,785/Auditory Impression ¥1,260

THE KIDDIE
Maxi Single
9/22 Calling 初回限定盤 ¥1,575 通常盤 ¥1,260

DuelJewel イベントあり
Mini Album
9/22 [ZERO] 初回限定盤 ¥2,625 通常盤 ¥2,415
★オリジナル特典:(初回)メッセージDVD&サイン入り生写真 (通常)直筆サイン入り生写真

Tu[ism]
Maxi Single
9/22 I still... ¥1,890

…ベット イベントあり
…i Single 東京 Aタイプ ¥2,100 Bタイプ ¥1,890 Cタイプ ¥1,575
…(Aタイプ)メッセージDVD&フォト (Bタイプ)サイン入りフォトセット (Cタイプ)サイン入りフォト …カ、(A・Bタイプ)特典引換券&メイキングDVD応募券

ムック NO IMAGE
9/22 Maxi Single フォーリンダウン
初回限定盤 ¥1,680/通常盤 ¥1,050
10/6 Full Album カルマ
初回限定盤 ¥3,990/通常盤 ¥3,150

KYOKUTO GIRL FRIEND
Full Album ¥3,150
9/29 実録ハードコア+サイレンス
★オリジナル特典:スペシャルDVD

ケミカルピクチャーズ イベントあり
Maxi Single ¥2,100
9/29 世界を撃った男 case5 …

サディ…
9/29 Maxi Single … ¥1,890/… ¥1,575
11/3 Full Album 棘-toge-
…限定盤 ¥1,800/… ¥1,200

…
…i Single cosmetic
…限定盤A・B ¥1,700/通常盤 ¥1,250

ドレミ團 イベントあり
Full Album
9/29 レヱゾン 初回限定盤 ¥3,990 通常盤 ¥3,000
★オリジナル特典:(初回)メッセージDVD&フォト (通常)フォト5枚組

Metry
Maxi Single ¥1,500
9/29 君に会いに行くよ/ray not disappear,,,

リバティーン
Maxi Single ¥1,260
9/30 FLASH BACK

Angelo
10/6 Full Album Design
スペシャルパッケージ ¥7,500/初回限定盤 ¥3,800 通常盤 ¥3,150

…ugamesh
…i Single イノチノキ
…初回限定盤 ¥2,625/通常盤 ¥1,260

0801弐209336
Maxi Single ¥1,260
10/6 暴飲暴食のキミとバスルーム

仙台貨物
10/6 トゥアー2009腐況の風 ～仙台貨物FOREVER～
LIVE DVD ¥5,800 LIVE CD ¥3,000
★封入特典:トレカ

SEX-ANDROID
Full Album ¥3,150
10/6 B-BONUS-THEATER

heidi.
10/6 Full Album 閃光メロウ
初回限定盤A・B ¥3,675/通常盤 ¥3,150
★封入特典:トレカ

…RRY
…m クライシスモメント
…初回限定盤 ¥1,890/通常盤 ¥1,260

rice
10/6 Full Album Neil ¥3,500

Lycaon イベントあり
10/6 Maxi Single EROS ¥2,100

Re:dis イベントあり
Maxi Single ¥1,600
10/6 Rock your spirit.

ワン★スター イベントあり
Maxi Single ¥1,600
10/6 MIRACLE MUSIC SHOWTIME

…heパラレルワールドオーケストラ イベントあり
…gle …OCKET★ROCKET
…限定盤 ¥1,890/通常盤 ¥1,250
…典:(初回)コメントDVD&フォト (通常)フォト4枚組

ナイトメア
Full Album ¥3,500
10/20 10th Anniversary ～The highest NIGHTMARE～

nil delete heads イベントあり
Mini Album
10/20 InvisiblΣ ¥2,100

ALiBi イベントあり
Maxi Single
10/27 SUMMER PARTY ¥500

カラス
10/27 Maxi Single free
初回限定盤 ¥1,800/通常盤 ¥1,200

… イベントあり
…i Single
…PE:A・B ¥1,890 TYPE:C ¥1,575
…3タイプ購入特典応募ハガキA、応募券B、C

PlasticTree
LIVE DVD
10/27 タイトル未定 ¥10,000

Versailles NO IMAGE
Maxi Single
10/27 DESTINY-The Lovers-
初回限定盤A ¥2,500/初回限定盤 ¥1,500/通常盤 ¥1,200
★オリジナル特典:(初回A)コメントDVD (初回B)個人写真5枚組 (通常)集合写真

-OZ- イベントあり
Full Album ★メーカー特典:アーティストフォト
11/10 Rouge 初回限定盤 ¥3,990 通常盤 ¥3,150
12/1 Best Album BEST ¥2,800

BLADE イベントあり
10月27日 Maxi Single
ETERNAL SOUL ¥1,050

オウプニングアクト
10月27日 Maxi Single
音押～おとおし～ ¥1,260

…ke an Edison.com
…(水) …決定！
…はホームページまで！
…lly …16日(日)PM1:00～ トーク&握手会
…nie's Black …3日(水)PM1:30～ お楽しみ会
…iBi …3日(水)PM5:00～ …ト&サイン&撮影会

★Like an Edison.com ラフォーレ原宿店イベント情報
リバティーン 10月2日(土)PM5:00～ 1時間店員 10月10日(日)PM4:00～ トーク&握手会
Lycaon 10月24日(日)PM3:00～ トーク&5ショット撮影会
DOG inThe パラレルワールドオーケストラ 11月3日(水)PM3:00～ トーク&5ショットチェキ撮影会
イロクイ。 11月13日(土)PM4:00～ トーク&握手会 ★カメラタイムあり

ライカエジソン WEBショップ Like an Edison.com
ライカエジソン通販改革！ さらに便利になりました！
ライカエジソンのWEBショップがオープンしました！
これまでの電話受付、携帯サイト受付に加えパソコンからのご注文も出来るようになりました！
どんどん便利になっていくライカエジソン通販を是非ご利用下さい！詳しくは「ライカエジソン」で検索！！
PC>http://www.like-an-edison.com/
通信販売専用ダイヤル
0120-624-999
もしくはライカエジソン東京店(03-3369-3119)まで！
お問合せはお電話で！ 全国一律 送料400円！！
＊代金引換の場合は手数料が別途300円です。
通信販売をご利用で、名古屋/大阪のイベントへご参加希望のお客様へ
通信販売でもイベント参加可能です(但し枚数制限がございます) ※一部対象外のイベントがございます。詳しくは通販センターまでお問合せ下さい。
通信販売は東京店で受付しております(名古屋店/大阪店では通信販売を行っておりません)
尚、イベント参加希望のお客様の通信販売の受付は現金書留のみとなります。

ライカエジソン東京店
〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-15-14 坂本ビル1F/2F
☎(1F)03-3369-3119/(2F)03-3369-3708

ライカエジソン名古屋店
〒460-0011
愛知県名古屋市中区大須2-1-15 伏見ヨックスビル2F
☎052-229-8211

ライカエジソン大阪店
〒542-0086
大阪府大阪市中央区西心斎橋1-6-8 トムズハウスビルディング2F
☎06-6252-6262

Like an Edison.com ラフォーレ原宿店
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前1-11-6 ラフォーレ原宿B1F
☎03-3746-6002

蝴蝶网 hudie.com

Like an Edison Release Information

★ 主催ライブのお知ら

Like an Edison PRESENTS **愛狂います。R指定 SP+LIT TOUR 2010**

OSAKA 2010.10.26 tue	NAGOYA 2010.11.01 mon	TOKYO 2010.11.11 t
愛狂います。/ R 指定 / AUBE	愛狂います。/ R 指定 / AUBE カル・ヴァリ / ベルベット / xTRiPx	愛狂います。/ R 指定 / AUBE
OSAKA MUSE	**ell.FITS ALL**	**SHIBUYA O-WEST**
OPEN-START/16:30-17:00 ADV. ¥3,000 DAY. ¥3,500 D別	OPEN-START/16:30-17:00 ADV. ¥3,000 DAY. ¥3,500 D別	OPEN-START/17:00-17:30 ADV. ¥3,000 DAY. ¥3,500 D
9月5日(土) よりライカエジソン大阪店、チケットぴあ、ローソンチケットにて発売 ＊ライカエジソンは初日のみ電話予約が必要です	9月5日(土) よりライカエジソン名古屋店、チケットぴあ、ローソンチケットにて発売 ＊ライカエジソンは初日のみ電話予約が必要です	9月5日(土) よりライカエジソン東京店、チケットぴあ、ローソンチケットに ＊ライカエジソンは初日のみ電話予約が必

■ライカエジソンディストリビューション 今月の大プッシュアイテム！

★イベントあり
Lycaon
10/6 Maxi Single **EROS** ¥2,100

SEX-ANDROID
Full Album ¥3,150
10/6 **B-BONUS-THEATER**

-OZ-
★イベントあり
Full Album
11/10 **Rouge**
★メーカー特典：アーティストフォト
初回限定盤 ¥3,990／通常盤 ¥3,150
12/1 Best Album **BEST** ¥2,800

ALiBi
Maxi Single
★イベントあり
10/27 **SUMMER PARTY** ¥500

リバティーン
Maxi Single
9/30 **FLASH BACK**
¥1,260

0801弐209336
Maxi Single
10/6 **暴飲暴食のキミとバスルーム**
¥1,260

Re:dis
★イベントあり
Maxi Single
10/6 **Rock*your spirit.**
¥1,600

ワン★スター
★イベントあり
Maxi Single
10/6 **MIRACLE MUSIC SHOWTIME**
¥1,600

nil delete head
Mini Album
10/20 **InvisiblΣ**
¥2,

★東京店イベント情報(♣:カメラタイム有り)

DuelJewel	9/23(木)	PM6:00～ トーク&握手会
HERO	9/23(木)	【1部】PM2:00～ トーク&握手会 【2部】PM3:30～ トーク&撮影会
Ap(r)il	9/25(木)	PM4:00～ トーク&握手&6ショット撮影会
ベルベット	9/25(土)	PM6:00～ トーク&握手&サイン会
Annie's Black	9/26(日)	PM3:00～ トーク&サイン会(SARINO+ゲストあり)
リバティーン	10/ 2(土)	PM3:00～ 1時間店員
愛狂います。	10/ 2(土)	PM5:00～ 『エキゾチック。&ドラマチック。愛狂います。と過ごす「スポーツの秋」』編&握手会
ドレミ團	10/ 3(日)	PM2:00～ トーク&握手&サイン会
spiv states	10/ 3(日)	PM5:00～ メンバーコスプレ&"豪華"景品が当たるSPSTクイズ&サイン&握手会
Lycaon	10/ 6(水)	PM6:00～ 1時間店員
DOG intheパラレルワールドオーケストラ	10/20(水)	PM5:00～ 1時間店員
DOG intheパラレルワールドオーケストラ	10/23(土)	PM1:00～ トーク&握手会♣
nil delete heads	10/23(土)	時間未定 1時間店員
Lycaon	10/24(日)	PM5:00～ アコースティックライブ&握手&サイン会
イロクイ。	10/31(日)	PM4:00～ トーク&握手会♣
己龍	11/ 3(水)	PM3:00～ 一色日和プレゼンツ トーク&握手&サイン会
ケミカルピクチャーズ	11/ 6(土)	PM4:00～ トーク&握手&サイン会
ALiBi	11/ 7(日)	PM1:00～ トーク&サイン&撮影会
Re:dis	11/13(土)	PM6:00～ 握手&サイン会
ワン★スター	11/13(土)	PM6:30～ 握手&サイン会
BLADE	11/14(日)	時間未定 1時間店員
-OZ-	11/21(月)	PM3:00～ トーク&握手&サイン会 ＊対象商品『ROUGE』
-OZ-	11/21(月)	PM4:30～ 2ショット&6ショット撮影会 ＊対象商品『BEST』

★名古屋店イベント情報(♣:カメラタイム有り)

Ap(r)il	9/21(火)	PM4:00～ 1時間店員
愛狂います。	9/25(土)	PM1:00～ 『エキゾチック。&ドラマチック。愛狂います。と過ごす「読書の秋」』編&握手会
平成維新	9/26(日)	PM12:00～ 6ショット撮影会
Lycaon	10/ 9(土)	時間未定 1時間店員
ベルベット	10/10(日)	PM2:00～ トーク&握手&サイン会
分島花音	10/10(日)	ライブ終演後 サイン&握手会 ＊会場：名古屋ell.FITS ALL
DuelJewel	10/11(月)	PM12:00～ トーク&握手会
ドレミ團	10/24(日)	PM3:00～ トーク&握手&サイン会
DOG intheパラレルワールドオーケストラ	10/24(日)	PM6:00～ トーク&5ショットチェキ撮影会
Re:dis	10/30(土)	PM2:00～ トーク&握手&サイン会
ワン★スター	10/30(土)	PM2:00～ トーク&握手&サイン会
己龍	10/30(土)	PM6:00～ 遠海准司プレゼンツ「准司にでら！おまかせ～絶対にスベらない人達～」トーク&握手&サイン会
BLADE	11/ 6(土)	時間未定 1時間店員
nil delete heads	11/ 6(土)	時間未定 1時間店員
Lycaon	11/ 6(土)	PM4:00～ アコースティックライブ&握手&サイン会
イロクイ。	11/ 6(土)	PM7:00～ トーク&握手会♣
-OZ-	12/11(土)	PM6:00～ トーク&握手&サイン会 ＊対象商品『ROUGE』
-OZ-	12/11(土)	PM7:30～ 2ショット&6ショット撮影会 ＊対象商品『BEST』

★大阪店イベント情報(♣:カメラタイム有り)

愛狂います。	9/23(木)	PM1:00～ 『エキゾチック。&ドラマチック。愛狂います。と過ごす「食欲の
平成維新	9/27(月)	PM6:00～ 6ショット撮影会
ベルベット	10/ 6(土)	PM6:00～ トーク&握手&サイン会
Lycaon	10/10(日)	時間未定 1時間店員
DuelJewel	10/10(日)	PM5:00～ トーク&握手会
分島花音	10/11(月)	ライブ終演後 サイン&握手会 ＊会場：大阪Shangri-la
DOG intheパラレルワールドオーケストラ	10/24(日)	PM1:00～ トーク&5ショットチェキ撮
己龍	10/29(月)	PM6:00～ 酒井参輝プレゼンツ トーク&握手&サイン会
ド[illegible]	10/30(火)	PM6:00～ トーク&握手&サイン会
イ[illegible]	11/ 2(火)	[illegible]
[illegible]	11/ 5[illegible]	[illegible]
Lycaon	11/ 5[illegible]	[illegible]～ アコースティックライブ&握手&サイン会
BLADE	11/ 7[illegible]	[illegible]
nil delete heads	11/ 7[illegible]	時間未定 1時間店員
Re:dis	11/28[illegible]	[illegible]～ 握手&サイン会
ワン★スター	11/28(日)	PM3:30～ 握手&サイン会
-OZ-	12/ [illegible](木)	[illegible]～ トーク&握手&サイン会 ＊[illegible]『ROUGE』
-OZ-	12/ [illegible](木)	PM7:30～ 2ショット&6ショット撮影会 ＊対象商品『BEST

hudie.com

EXPECT RUSH

エクスペクト・ラッシュ
期待の注目バンドをピックアップ!

リバティーン

Vallquar-ワルキューレ-

リバティーン

【メンバー】こう（Vo）/kazu（Gt）/Shin（Ba）/rei（Dr）
【結成日】2009年5月
【主な活動場所】都内
【アイテム】1st single「FLASH BACK」（2010年9月30日リリース）
【問い合わせ】http://www.libertine-web.com/.

Vallquar-ワルキューレ-

【メンバー】ひかり（Vo）蜊栖-ryth-（Gt）美琴-mikoto-（Gt）戒兎-kaito-（Ba）些世-chise-（Dr）
【結成日】2009年5月、ひかり、戒兎、蜊栖を中心に始動。
【主な活動】全国
【アイテム】2009年7月28日1st Maxi Single『Genesis of Mythology』（入手不可）
2009年11月1日1st Mini Album『Splendor』
2009年12月22日2nd Maxi Single『Criminal Evil』（入手不可）
2010年1月25日3rd Maxi single『dependence』
2010年2月25日4th Maxi single『withdrawal』
2010年6月6日2nd Mini Album『concexvisage』
【問い合わせ】info@vallquar.com　〒651-0025神戸市中央区相生町4-3-4 グローバル神戸ビル8F ELE-MUSIC「Vallquar-ワルキューレ-」宛

蝴蝶网
hudie.com

EXPECT RUSH
エクスペクト・ラッシュ
期待の注目バンドをピックアップ!

リバティーン Libertine

“自由思考”の4人が、今、新風を巻き起こす!?

こう・kazu・shin・reiの4人からなるリバティーン。毎月18日に開催される本誌主催イベント『SHOCK WAVE アポロ』にも出演したことがあるので、観たことのある人も多いはず。“自由思考”というバンド名のとおり、とっても個性的な4人。そんなリバティーンのヒストリーについて、話を訊いてみました！9月30日にリリースされる1stシングルも要チェックですよ！

Interview:ERI MIZUTANI

こう

kazu

──リバティーンは、こうさんとshinさんが中心となって立ち上げたそうで。

こう：実は、僕とshinは小学生からの付き合いなんです（笑）。それから成長して、〝バンドやらない?〟って声をかけたのが始まりですね。

──そもそも、こうさんは何でバンドをやりたいって思ったの?

こう：先輩バンドのライヴを見てです。そこで、インスピレーションを受けて、自分もやりたいって思ったんですよ。けど、バンドを立ち上げたはいいけど、コンセプトすら決まっていなかったんですよね……。

shin：スタートはすごく軽いノリだったんです。〝いいね、やろうか!〟っていうぐらいだったので。なので、本当にイチから立ち上げたって感じです。

──そこからほどなくして、kazuさんとreiさんが加わり。

shin：reiくんは、共通の知人から紹介してもらったんです。

rei：僕も二つ返事で入りました。そのときもまだバンドの方向性は具体的には決まっていなかったけど、まぁいいかって。

──最高です（笑）。

こう：すいません、僕ら、バンド名のとおり〝自由思考〟なんで（笑）。

kazu：僕は、自分がやっていたバンドが解散して今後どうしようって考えているときに、みんなに出会ったんですよね。実際に会ってみたらバンドの方向性も決まっていないし、正直不安ではあったんですけど、この人たちとなら何かできるって感じたんです。

──まさに直感。ちなみに、初ライヴのときって覚えている?

こう：4曲ぐらいやったのかな。きちんと動けないし、MCもろくに喋れないし、ボロボロでした。

shin：そこからなんです、きっちりと話し合ったのって。ちゃんとしないとバンドとして成立しないよって。

こう：先輩からもアドバイスをもらいつつ、細かなことを決めていきました。最初にやっておけよって話ですけどね（笑）。でも、それでみんな成長したと思います。reiくんは自分のドラムスタイルがすごく固まってきたし。

shin

rei

──責任感が出てきたのかな。

rei：意識的には変わっていないつもりなんですけど、こうして振り返ってみると、今までは遠慮していた部分があったのかなって。今は突き進んでいる感じがあるので、これからもっと良いドラムスタイルが見せられると思います。

shin：僕は、自分で言うのも何ですけど、真面目になってきたなと。

こう：昔は、遅刻多かったものね〜。

shin：ごめん！ごめん！でも、最近はそんなことないですよ。

──今日も10分前に到着していたしね。

shin：はい。何ていうか、バンドに対して本気モードになってきたんですよ。いくしかない!って。そう思うと、kazuくんは最初から真面目だったね。

rei：うちらのお手本っていうか。いつでも引っ張っていってくれるしね。

──頼れる存在だね。

kazu：意見したいなって思うときもありましたけどね（笑）。でも、バンドって自分だけじゃできないものだし、あまりうるさく言っても、ただのうるさい人って思われたら嫌だなって思ったから、みんなが気付くのを待っていたんです。ようやく、みんながやる気になってくれたので、あのときうるさく言わなくて良かったなって。

こう：（笑）。僕は、色々なライヴに足を運ぶようにして、自分のヴォーカルスタイルを勉強するようにしました。それにより、最近、少しずつですけど変わってきた実感があります。

──そこはバンド全体に言えることかも。

shin：やっぱり、見た目だけじゃなく、音がいいねって言われたいんですよ。

──そこは、1stシングルで確かめていただくとしましょうか。

shin：「FLASH BACK」「ラピスラズリ」、共に僕が作曲を手掛けたんですけど、誰々っぽいとか言われたくなくて曲を作っていきました。

こう：結果として、今、自分たちができる精一杯のものが、この1stシングル「FLASH BACK」だと思います。歌詞も、自分の想いを素直に書いてみたので、そこも見てもらいたいです。

──これからに期待していますよ。

こう：頑張ります！

（問）http://www.libertine-web.com/

蝴蝶网
hudie.com

Vallquar-ワルキューレ-

オゴシカルファンタジー"の
密

結成から1年半弱にも関わら
2枚のミニ・アルバムと、4枚の
グル盤をリリースし続けてき
allquar-ワルキューレ-（以下
lquar）。9月25日には、通算5枚
なるシングル作『Destiny to
ire』を発売する。まさに"これぞ
ヴィジュアル系スタイル"という
性を提示してゆくVallquarは、
り心の秘孔を刺激的に突いてく
中だ

Interview: TOMONORI NAGASAWA

蝴蝶网
hudie.com

――ゴシック／耽美／刹那／ハード…Vallquarの音楽性には、王道ヴィヴュアル・スタイルの美を感じます。

ひかり：僕や蜊栖がバンドを始めたきっかけが、LUNA SEAや黒夢、KISAKIさん率いたMatina関連のバンドたちなんです。クリーンなギター音が響き出したとたん、世界観が一気に広がってゆく、あの頃のバンドが持っていた輝きや魅力を、今の時代の中へ、ぼくらが描き出していこうという意志のもと、活動をしています。

――メンバー全員、あの時代の影響を受けているんですか？

蜊栖：その影響を強く受けているのは、僕とひかりの2人です。他のメンバーは、ヴィジュアル系じゃない世界から足を踏み入れた人たちばかり。バンドの中で一番ヴィジュアル系らしい音を奏でている美琴は、昔は全然違う畑だったんですよ。

美琴：僕の基本にあるのはJ-POPなんですけど。前にやっていたのがバリバリのパンク・バンドだったんです。今のVallquarには、そんな面影一切ないですけどね（笑）

蜊栖：パンクなのは、精神面くらい？

ひかり：みんな持っている要素が違うからこそ、往年のヴィジュアル・スタイルのツボを突きながらも、新しい要素も入っている音楽性になっていくんです。美琴の持っているJ-POPで培った繊細なコードワークというか、和音の重ね方など、絶妙な味を発揮していますからね。

美琴：個人的には、パンクなスピリットも、そこに重ね合わせています（笑）

戒兎：ドラマチックに展開していく曲構成にも、俺はすごい物語性を感じてるんです。

――Vallquarが掲げているコンセプトが、「ネオゴシカルファンタジー」。

ひかり：クラシカル／ゴシックの要素を元にしながら、古き良きヴィジュアル系の良いところを残しつつ、僕ら独自の解釈も加えながら世界観を作っています。

――最新シングル『Destiny to deside』には、〝光と影〟2つの表情を描き出しました。

ひかり：本作のテーマが、〝運命〟について。deside（欲求）という言葉には、2つの意味を込めています。一つが、〝みずからの努力を持って運命を決めるという考え方〟。そしてもう一つが、〝自然の流れで決まってゆく〟ということ。結果的に、行き着く先は一緒という結論も導き出しているんですけど。『unfaithful sin』では、男性の視点のもと、〝どん底に落ちた俺はどうすればいいんだ？〟という挫折感を、開放的な楽曲に乗せて表現しています。「cent」には、女性視線を通し、優しさや切なさを前に出しつつも、ポジティブな感情を、ダークな音を通して表現。あえて、一つのテーマを、二面性を持った想いとして描き出しました。

些世：どっちも表題曲に成り得る楽曲であり、メロディアスな面を持ちながら、疾走性を持った楽曲／重量感あふれた表情と、バンドの持つ二面性を一気に吐き出せたのも、嬉しい手応えになりました。

戒兎：特に、激しさを持った「unfaithful sin」は、かなり攻撃的な演奏で攻められたので、やってて気持ち良かったなと思ってる。

蜊栖：戒兎はいっつも攻撃的な演奏やん！

――どの楽曲も、ドラマ性を持っています。だからこそ、1曲1曲物語に触れるような感覚で味わえるんでしょうね。

ひかり：聴いてる人たちが、その世界観へ一気に浸っていける曲作りは、いつも心がけています。だから1曲目に入れたSE「destiny to deside」も短めにし、2つのドラマへ誘う導入部にしていったわけなんです。

蜊栖：序章的な演奏でダダッと攻めながら、本編に期待させてくようなね。

――この号が発売になる頃には、全国ツアーの真っ最中。

ひかり：このシングル盤を手に、全国各地をまわり、10月22日に、大阪FANJ twiceを舞台に、ワンマン公演を行います。ここで、ツアーを通して得た成果を披露しながら、次へ繋がる面白い試みも出来ればなと計画しています。

――バンドが誕生して、まだ1年半弱にも関わらず、作品数もライブ本数にも、すさまじいものがありますよね。

ひかり：つねに刺激を得られる環境の中にいるからこそ、次々と新しい表情が湧き出てくる。それを形にしないと気が済まないんですよ。まだまだこれからも俺ら、新しい刺激を解き放ち続けますから！

次号 Vol.214 予告

(ぽっくんの主張:時限爆弾爆発30分前。ぽっくん危機一髪!!の巻)

10月21日全国一斉発売!

■殺人的なスケジュールの合間をぬってthe GazettEの巻頭撮影。その日の撮影取材はSHOXXも含めて3本。うちの順番は最後の3番目。現場に向かう電車の中で"みんな疲れてテンション下がってたらどーしよー"などと考えながらスタジオへ。

■現場に着くと、ちょうど1本目のアリーナ(音楽専科社の月刊誌です)の撮影が終わってこれからインタビューというところ。メンバーは見るからに快調そう。よかった、よかった。そしてお日様も西に傾き、カラスがお家に帰る頃。いよいよSHOXXの撮影スタート!! 撮影は順調に進行して行くのでした。

■実はこの日の撮影には20時30分に完全撤収というタイムリミットがあったのでした。なぜなら、メンバーは21時台のこだまに東京駅から乗ってその日のうちに次のツアー先に向かわなければいけなかったから。撮影は順調に進んではいたのですが、時は無情にも過ぎてゆく。ラストのカット前で、時計の針はすでに20時を指す。フォトグラファーの宮脇巨匠に変なプレッシャーをかけちゃいけないと思って平静を装ってはいましたが、時の時限爆弾を背負ったぼっくんは人知れず脇の下を汗でジットリ湿らせていました。

■20時40分撮影終了。予定の時間を少し過ぎてしまいましたが、爆弾は不発で済みました。メンバーとスタッフはダッシュで東京駅に移動。マネージャーさんの報告で無事に電車に乗れたとの事。噂によるとメンバーは東京駅のホームを走ったとか、走らなかったとか。

■ロックスターのイメージって優雅だけど、実はすごく時間に追われる職業だと思うの。the GazettEに限らず色々な場面で1分、1秒を争うようなタイトな現場を今まで沢山見てきているから。

■職業でロックバンドをやっていく(続けていく)のに音楽的な才能や人間的なチャームは当然必要だけど、ピンチになってもテーブルをひっくり返さないで、しっかり仕事を前に進めるタフな精神力がすごく必要になってくると思うの。the GazettEやナイトメアのような何年もシーンのトップを走り続けているバンドは音楽的な魅力だけじゃなくて、そういった部分も秀でているし、日々努力してると思うのです。ぽっくん(43歳)、山積みの課題から逃げ出さず、また明日からお日様にむかって歩き始めます。ペロン、ペロン、ペロン。

来月の表紙&巻頭特集は
SHOXX Vol.214

SuG

いよいよこの5人がSHOXXの表紙を飾ってくれます。
編集部も新しいリーダー誕生にワクワクしてます。お楽しみに!!

右記のバックナンバーを希望の方は、定価に送料(1冊=¥140、2冊=¥220、3冊以上は全て¥450)を加えて、切手代用または小為替で、〒104-8228 東京都中央区銀座6-2-3 Daiwa銀座アネックスビル5F音楽専科社経理部「SHOXXバックナンバーVol.○」(○の中に号数を入れる)係まで申し込んで下さい(ただし、付録ポスターが付いていない場合もございます。ご了承ください)。
また、近くの書店でVol.214(10月21日発売)を買いそびれないようにするには、書店へ予約しておくと便利です。

バック・ナンバーのご案内

Vol.206 10年4月号 ¥980

■Alice Nine巻頭&表紙12ページ特集■LM.C■The LEGENDARY SIX NINE■ナイトメア■シド■彩冷える■D■ヴィドール■12012■SuG■メガマソ■ドレミ團■ギルガメッシュ■Sadie■THE KIDDIE■ViViD■ゾロ■DuelJewel■HERO■boogieman

Vol.201 09年11月号 ¥980

■ナイトメ… 紙20ペー… the Gaz… pairsRay… ク-珈琲店… ■Plastic… ■Alice N… ■LM.C… ■heidi.… ヴィドール… ViViD■ソ… ロリヰタ… SCREW… NUMBER…

Vol.207 10年5月号 ¥980

■ナイトメア巻頭&表紙20ページ特集■The LEGENDARY SIX NINE■EXTRA-TERRITORIAL対談■カノン(アンティック-珈琲店-)■Plastic Tree■ムック■D■D'espairsRay■Versailles■Kagrra,■MIX Speaker's,Inc.■ドレミ團■ギルガメッシュ

Vol.202 09年12月号 ¥980

■the G… &表紙20… 集■RUK… ア)パーソ… 将(Alice… ソナル特集… シド■アン… 琲店-■Pl… ■仙台貨… D'espa… Kagrra,… ドール■… ガマソ■…

Vol.208 10年6月号 ¥980

■西川貴教×YOMI(ナイトメア)巻頭&表紙18ページ特集■the GazettE■有村竜太朗■heidi.■Sadie■THE KIDDIE■一志(Kagrra,)■Kra■ヴィドール■ギルガメッシュ■SCREW■ドレミ團■ViViD■TOON-FACTORY■boogieman■人格ラヂオ

Vol.203 10年1月号 ¥980

■アンティ… 巻頭&表… 大特集■… NERVE… 台貨物… ■シド■… ヴィドー… (D)■… (Versaill… ■ドレミ團…

Vol.209 10年7月号 ¥980

■彩冷える巻頭&表紙14ページ特集■ナイトメア■ムック■シド■有村竜太朗■Plastic Tree■LM.C■Alice Nine■Kagrra,■heidi.■ジュイ■D'espairsRay■D■Versailles■SCREW■零乃×怜我(ViViD)■seek

Vol.204 10年2月号 ¥980

■ナイトメ… 紙20ペ… Plastic… ム『ドナド… D'espair… ク■D■… ヴィドー… メッシュ… Wizard… 陽座■TH… ■メガマソ… オ■宇宙… KISAKI…

Vol.212 10年10月号 ¥980

■Alice Nine巻頭&表紙14ページ特集■the GazettE■シド■椛&咲人(ナイトメア)■Kagrra,■Lc5■葵 from 彩冷える■LM.C■ヴィドール■SuG■THE KIDDIE■ViViD■ギルガメッシュ■少女-ロリヰタ-23区■heidi.

Vol.211 10年9月号 ¥980

■the GazettE巻頭&表紙20ページ特集■YOMI×RUKA(ナイトメア)対談■シン(ViViD)■Plastic Tree■ムック■LM.C■Kra■D■Versailles■マコト(ドレミ團)■Sadie■ゾロ■ギルガメッシュ■DELUHI■Fatima■BugLug

Vol.210 10年8月号 ¥980

■ナイトメア巻頭&表紙20ページ特集■TRIBAL ARIVALL Vol.100レポート■Kagrra,■Kra■Lc5■THE KIDDIE■SuG■長谷川正×コースケ■Over the Edge@OSAKA■12012■boogieman■Mix Speakear's,Inc.■マコト×ユウ■ViViD

Vol.205 10年3月号 ¥980

■カラス… 20ペー… YOMI(ナ… The LE… SIX NIN… ■アンティ… ■ミヤ(… Plastic… ■Alice… ドール■… ルガメッシ… Versai… D'espai…

蝴蝶网 hudie.com

DVD
ッズ

買取大募集中

期間限定買取査定額大幅アップ 10.1-10.31
キャンペーン 20%UP
対象アーティストのアイテムは
査定額20%UP

ベルベット R指定 Versailles BORN 人格ラヂオ
DELUHI DEATHGAZE ゴールデンボンバー 摩天楼オペラ lynch.

hudie.com

貴重盤超高価買取中!!
更に詳しい買取表はウェブで!!

- 秋葉原少年団☆電脳ロメオ / PHYSALIS / CD+DVD / ¥2,000買取
- X-JAPAN / PERFECT BEST / 3CD / ¥2,600買取
- ゴールデンボンバー / 金縛ねんごろツアーファイナル初ワンマン / DVD / ¥4,800買取
- SHULA(シドVo.マオ在籍) / Shu-la-tic / CD / ¥10,000買取
- 人格ラヂオ / バンギャルラヂオシアタァ / DVD / ¥3,000買取
- DaizyStripper / ダンデライオン(1st) / CD+DVD / ¥2,000買取
- Dir en grey / BLITZ 5 DAYS / 5DVD / ¥7,000買取
- DELUHI / Surveillance / CD / ¥6,000買取
- Plastic Tree / WORLDTOUR 2006 〔chandelier〕 / BOOK / ¥3,000買取
- ベリィ/lynch.(Vo)在籍 / 白痴 / CD / ¥5,000買取
- lynch. / THE BURIED [初回限定盤] / CD+DVD / ¥2,400買取
- V.A. / 裏貴族 「日本耽美革命」のツアードキュメンタリーDVD / DVD / ¥15,000買取

アーティストグッズ買取大強化中!!
ツアーグッズ・ファンクラブグッズ・物販写真・ツアーTシャツ・コラボアクセサリー・写真集等
ガゼット・シド・PlasticTree・ナイトメア・DIR EN GREY・Gackt・雅等大歓迎!!

買取一覧表はHPでご確認いただけます!! 毎月2万点以上のヴィジュアル系の商品買取実績!!

配 買 取　宅配買取大募集中!!10点以上は送料無料!!

宅配買取用段ボールご用意致します
宅配買取をご希望の方に梱包用の段ボールと郵送用の伝票をご自宅まで無料でお送りいたします。

…ける品を …に梱包下さい。 STEP1
佐川急便で 送料着払いでお送り下さい。 STEP2
査定担当者が1点1点 お見積もりを致します。 STEP3
査定額をメール、もしくは 電話にてご連絡致します。 STEP4
了解いただけましたら、 指定口座へご入金となります。 STEP5

…用ダンボールお届けいたします!!買取/対象ブランドの詳細はWEBで!!

ご不要なCD/DVD/アーティストグッズ/お洋服等お買取させていただきます。

買取対象ブランドは下記HPをご覧下さい。
遠方/数量の多いお客様には宅配での買取をお勧めしております。段ボール等に梱包し、必要事項（氏名・住所・電話番号、メールアドレス・生年月日・銀行名 支店名・口座番号・口座名義人名（フリガナ・雑誌名）を記入した用紙と身分証のコピーを同封し、下記住所までご郵送下さい。
※宅配買取システムの詳細は弊社HPを必ず参照下さい。
※必ず佐川急便をご利用下さい。送料無料!!

宅配買取受付窓口・お問合せ先
160-0023 東京都新宿区西新宿7-16-12YSビル1F
クローゼットチャイルド TEL 03-3365-6316 webtakuhai@closet-child.com

…大!!ヴィジュアル系中古専門ウェブショップ

…イテム8000点以上
…一の取り扱い量!

クローゼットチャイルドのCD/レア盤
グッズ等が携帯電話&PCにて購入いただけます!!
http://www.closetchild-cd.jp/

…ロリータブランド古着オンラインショップ
…meme-Moitie / alice auaa / BPN / ALGONQUINS / Angelic Pretty
…RS SHINE BRIGHT / Emily Temple cute / MILK
…ータブランドのユーズドオンラインショップ!!入手困難な予約完売品/今期物
…00アイテム取り揃えたゴスロリ専門オンラインショップ!!
…/closetchild.ocnk.net

Vivienne Westwood 専門オンラインショップ
80年代の貴重なヴィンテージアイテム 入手困難なオーブライター等のレア物 人気のアクセサリー等の定番アイテム
のリーズナブルなユーズドアイテム、更に市場価格より最大7割引きの財布などの新作新品等を随時300点以上出品中!!
ヴィヴィアンマニア ビギナーまで満足いただける専門ショップです!!
http://www.rakuten.co.jp/ainahaina/

closet child

新宿店

原宿店

池袋店

横浜店

相模大野店

TEL 03-3365-6316　TEL 03-3403-4108　TEL 03-3983-5322　TEL 045-316-2166　TEL 0427-47-1840

http://www.brand-x.jp
凛
~the end of corruption world~
★11/10「Metamorphose[TYPE B]」CD¥1,890
VII-Sense
待望のNEWシングル！
発売中！ M-CDs¥2,000
オリジナル特典付！
インストアイベント開催！
詳細はWEBにて！
EXTRA-TERRITORIAL
2010.05.05 at SHIBUYA-AX
大好評発売中!! DVD¥4,410 大ベストセラーDVD！
本気で闘いあったロックイベントツアーDVDとして発売！
◆スペシャルオリジナル予約特典
・テリトークDVD！（LIVE会場物販特典として付けていたDVD）
・出演アーティストコンプリートアーティストカードセット7枚組
待望のNEWシングル！遂に発売！
★10/27「DESTINY-The Lovers-」[初回限定盤A]CD+LIVE DVD¥2,500
★10/27「DESTINY-The Lovers-」[初回限定盤B]CD+PV DVD¥1,800
★10/27「DESTINY-The Lovers-」[通常盤]CD¥1,500
オリジナル予約特典付！
Annie's Black
発売中【PLACE】
・[初回盤5曲]¥2,100
・[通常盤3曲]¥1,575
※オリ特付！
イベント開催決定！
詳細はWebにて！
spive states
発売中【フレーバー】
・[初回盤]¥1,890
・[通常盤]¥1,575
※オリ特付！
イベント開催決定！
詳細はWebにて！
大佑と黒の隠者達
▼「翻弄」¥1,260
▼「嫌」CD¥1,260
◆オリジナル特典：各種DVD付！
ヴァルナ
2ヶ月連続リリース！
★9/22「silent prayer」CD¥2,100
★10/20「Gothic「A」doll」CD¥1,575
◆インストアイベント開催決定！
◆オリジナル予約特典付！
rice
待望のNewアルバムリリース決定
10/6発売「Neil」¥3,500
オリジナル特典付！
インストアイベント開催決定！
詳細はWeb siteにて！
ALiBi
「SUMMER PARTY」
ベルベット
9/22「東京/TYPE A」¥2,100
9/22「東京/TYPE B」¥1,890
9/22「東京/TYPE C」¥1,575
オリジナル予約特典付
10/17イベント開催！
SCREW
待望のNEWアイテム発売決定！
☆11/17発売CD+DVD「DUALITY[初回盤]」¥3,675
☆11/17発売CD「DUALITY[通常盤]」¥3,675
インストアイベント開催決定！
オリジナル予約特典考案中。詳細はWeb Siteにて！
ケミカルピクチャーズ
5ヶ月連続リリース第5弾の発売が決定！
「世界を撃った男」
~case5ピースメーカー
▼9/29CD+VD¥2,100
オリジナル特典付！
イベント開催決定！
Blu-BiLLioN
【Count Down】
★10/20[初回限定盤]¥1,890
★10/20[通常盤]¥1,575
オリジナル予約特典等は当店Web siteにて！
期待のNEWバンド！
V-last.
「中毒性ガタnoise」
▼発売中！CD¥1,890
※オリジナル予約特典
9月26日イベント開催決定
詳細はWebにて！
DaizyStripper
なんとフルアルバム同時発売！
☆発売中「BIRTH」1stAlbumCD¥3,150
☆発売中「LOVE」2ndAlbumCD¥3,150
オリジナル予約特典！
heidi.
待望のNEWアルバムリリース決定！
★10/6発売「閃光メロウ[初回限定盤A]」¥3,675
★10/6発売「閃光メロウ[初回限定盤B]」¥3,675
★10/6発売「閃光メロウ」¥3,150
◆オリジナル予約特典考案中！
◆インストアイベント開催に向けて調整中！
Sadie
「クライモア」
▼9/29発売 CD+DVD[限定盤]¥1,890
▼9/29発売 CD[通常盤]¥1,575
3タイトル連続リリース第1弾♪
THE KIDDIE
「Calling」
▼9/22発売 CD+DVD[限定盤]¥1,575
▼9/22発売 CD[通常盤]¥1,260
絶賛の美メロが2ndシングルでも炸裂！
DuelJewel
【ZERO】
葵 from 彩冷える
ソロプロジェクト第2弾！
▼11/24 ON SALE
・初回盤¥1,500
・通常盤¥1,200
※オリジナル予約特典交渉中！
他、詳細はWeb siteにて！
the GazettE
待望のNEWアイテム発売決定！
2010/9/22発売
Red[Optical Impression]CD+DVD¥1,785
Red[Auditor Impression]CD¥1,260
※オリジナル予約特典
◆TOUR DATE入りPHOTO BOOK付！
MERRY 移籍第2弾リリース決定！
★10/6発売CD+VD¥1,890
「クライシスモメント[初回限定盤]」
★10/6発売CD¥1,260
「クライシスモメント[通常盤]」
※オリジナル予約特典考案中！
Lycaon
第2期【Lycaon】始動♪
「EROS」
★10/6発売CD¥2,100
オリジナル予約特典付！
※イベント開催！詳細はWebにて
ダウト
▼大好評発売中！
「サイケデリコ∞サイケデリコ」
★初回盤A CD+DVD ¥1,890
★初回盤B CD ¥1,890
★通常盤C CD ¥1,575
オリ特付！
▼インストアイベント開催決定！
・10月30日（土）・第1部 PM5:00～ 第2部 PM7:15～
※参加方法やオリジナル予約特典の詳細はweb siteにて！
◆◆◆送料改定のお知らせ◆◆◆
送料全国一律500円⇒400円
己龍
■待望のNEWシングル
【屡流[3 TYPE]リリース！】
▼10/27 ON SALE!!
★【初回限定A】CD+DVD¥1,890
★【初回限定B】CD+DVD¥1,890
★【通常盤】CD¥1,575
◆オリジナル予約特典付！
◆インストアイベント開催決定！
・11月28日(日)開催！
※詳細はWeb siteにて！
Brand X
摩天楼
メジャーデビュー
【Abyss】
現在、店内にて破格値コーナーを設置！
様々なアイテムが¥100、¥300、¥500、¥700と4つの価格帯にて大奉仕中！
お近くにお寄りの際は是非ご覧下さい！
★11/10 on sale！『Rouge』
★12/1 on sale！『BEST』
DOG inThePWO
連続発売決定！
★発売「青空晴レーション[初回盤]」¥1,890
★発売「青空晴レーション[通常盤]」¥1,260
★10/20「POCKET★ROCKET[初回盤]」¥1,890
★10/20「POCKET★ROCKET[通常盤]」¥1,260
※オリジナル予約特典等、webにて！
イロクイ。
待望の新作！
確率的です。でも、法則です。
9/22 DROP! M-CD+VD 2,800yen
9/22 DROP! CD 2,200yen
◆オリジナル予約特典付！
◆インストアイベント開催決定！
10月31日PM12:00～
BORN
連続リリース！
▼発売中「BLACK BORN MARKET」CD¥2,100 イベント9月3日開催！
▼9/15「BLACK THEORY MANIA」CD¥2,625 イベント10月3日開催！
▼10/13「BLACK DEAD MUZIC」CD¥2,625 イベント11月3日開催！
※各タイトルにオリ特付！
アンド
【2種類2type計4種同時発売】
★9/29「アネモネ[A-TYPE]」¥1,890
★9/29「アネモネ[B-TYPE]」¥1,575
★9/29「bluff[A-TYPE]」¥1,890
★9/29「bluff[B-TYPE]」¥1,575
※インストアイベント開催決定！
KYOKUTOU GIRL FRIEND
「実録ハードコア＋サイレンス」
◆9/29発売 LIVE CD¥3,150
オリジナル特典
Special DVD+Special CDの2枚組
イベント開催決定
10月2日（土）
TALK LIVE
&
6SHOT撮影会！
少女-ロリヰタ-23区
PICK UP ITEM
待望の新作ついにリリース決定！
lynch.
▼9/22発売「JUDGEMENT【初回盤】¥2,000
▼9/22発売「JUDGEMENT【通常盤】¥1,000
オリジナル予約特典等詳細はWebにて！
通信販売をご希望の方へ
①代金引換（着払い）
②先にご送金して頂く方法
入金確認後、1日～2日で商品をお届け致します。
ブランドエックス
http://www.brand-x.jp
〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-2-5 池袋サンシャインプラザB1F
TEL. 03-3980-6780 am11:30-pm8:30 年中無休
通信販売をご利用のお客様で来店イベントに参加ご希望の方は、必ずご予約時に当店スタッフまで「イベント参加希望」とお申し付け

ARTIST'S BOX

ミュージシャンが作るページ

葵 from 彩冷えるの ヒナタぼっこ

第54回

けば早いもので九月も後半。ここ数ヶ
なことがありました。
起こるからわからない。だから人生は
ろい。」と言う。
やっぱり辛いものは辛いし、悲しいも
しい。それらをポジティブに変換する
決して容易なことではない。バンドに
たこと、仲間の他界、家族の体調悪
れらを今年の夏の異常気象のせいにし
過ぎるからこんな嫌なことばかり起こ
よ!!」とか「夏の終わりと共に全部返
!!」なんて言えたならいいのに。でも
言ったって何も変わりはしない。

に「嫌なことがあった分だけ幸せは来
んて言葉に「そんな幸せなら要らない
なこともなくしてよ。」って言いたく

なそれぞれ人の数だけ色んな人生が
誰が一番幸せな人生だとか不幸な人生
ランク付けなんてできやしないけど、
生は結構平坦でなくて紆余曲線してる
思うんです。平坦が嫌いな僕が本当に
坦を望んでしまうほどの。

「嫌なことがあった分だけ幸せは来る」のではなく「嫌なことがあったら幸せを掴み取るためにもっと頑張る」んだと思う。それで幸せを一つ手にして、また不幸を一つ背負って、またそれを拭えるくらいの幸せを探して…その繰り返し。そうやって生きているのだと思います。

最近、気持ちをリフレッシュするために、部屋の大幅な模様替えをしました。ちょっと奮発して新しいカーペットとソファーも買いました。ベッドの位置も全く変えて違う景色になりました。

でも、なかなか心は色を変えません。心も簡単に着せ替えできたらいいのにね。今年は秋が来ないのでは？　と言われてるね。どうして夏がそんなに長居するんだろう。この夏は辛いことが多かったから早く秋に会って心のその部分をセピアにして欲しかったのに。

こんな立ち止まったままだとすぐに季節に置いてかれてしまう。時間って本当に流れるのが早い。僕がぼ～っと突っ立ってる間に地球はグルグル回る。これから寒い冬が来る。きっと季節は極端になる。暑過ぎる夏が長かったってことは極寒の冬も長居するのかもね。

きっともうすぐハロウィーン一色になり、その間にクリスマスが近づく。その後ろでお正月やバレンタインが待ってて、すぐまた春が来てまた夏が来る。去年の今頃、来年の自分を想像してこうなってるなんて想いもしなかった。これはみんなそうだよね。誰もが想像通りの未来へなんてなかなか辿り着けない。だからいいんだろうね。来年の今頃の僕はどうなってるんだろ？　君は来年の今頃どうなってると思う?? 僕は…どうなってるかな。予想を良い意味で裏切りたい。

春は出逢いの季節だと言うけれど、秋もそうだと思うんです。肌寒くなって人の温もりが恋しくなる季節。僕も新しい自分を見つけようと色んなことをしています。新しい自分に出逢いたくて。色んな仕事を経験して、それらを還元して自分を大きくしたいんです。

今年もあと三ヶ月。もう四分の三が終わった2010年。まだ今年を振り返るには早いか。あと三ヶ月突っ走ろうと思います。
「嫌なことがあったら幸せを掴み取るために頑張る」

もっともっと大きい幸せをこの手で掴んでみせる。そう思うよ。

あおい

TOON-FACTORY 雫の ××まにあ半島～一人旅

（××に「しず」とルビ）

第2回

すなぁ。

夏が過ぎ去るよー!!!!!

いなんです2010（秋）。

改め…

、…、お疲れ様でした。

本当意味があるツアーでした(ФшФ´)

全ヶ所

もう

最高な熱いLIVEで一生忘れないと思う。

プチ自己レポートをblogでもUPしたんだけど。カメラマンSZKだったさ(´▽`)
しかしこの夏は本当に体調がよくなかった…

痔にもなったんですよ（笑）。

もうね。

心にジーンと…

ソッコードーナツ型クッション着でした。

とか、ウィルス性結膜炎になって隔離ですよ!!!!!!
本当辛かった…（笑）。

普段ならないようなトラブルですわ!!!!!

ツアーファイナルの東京ですでに目が真っ赤で二日後には黒目以外全部真っ赤…

宇宙人に乗っ取られたような目ですよ!!!!!!

みんな気をつけて!!!!!

移るわよ!!!!

でも逃げないで！

もう治ってますから(▽;)（笑）。

ごめんよ。一人つっつこみ（笑）。
このコラムでは真面目にいこうね。

うん。

最近さらに音楽の楽しさを知った気がするんだ。

答えがないからいいんだな。とも思う。

オレが書く曲はオレっぽい

でも最近なんか古臭いなぁと

悩んでるんさ!!!!

時代の流れで流行りも変わるし、60年代の音楽がまた流行りだしたりするかもしれないし。

世の中LOOPしてるんかなぁ？

とか思う。
その時その時
形は違ったり、音がちがくても
60年代流行ってたスケールだったり

今まで聞いた何千って曲を吸収して今のオレだと思うから、これから死ぬまで音楽を聴いては出してのリサイクルエナジーだぬ(ФшФ´)

でも私は流行りに流されたくないざます。

自分は自分!!!!

一人一人みんな違うんだから

流されないで

道を歩いて行くことにするよ。

たまに後ろ振り返ってもいいかな?照

冬にFCワンマンも決定したんでみんな忘れられないX'masにしましょ(ФшФ´)

んじゃ。

ばいちゃこきーん(ФшФ´)/～
最近大和イモの磯辺揚げにハマってる
SZKより。

蝴蝶网 hudie.com

THE KIDDIE 佑聖

絶頂モンスターハイゲイン

第16回

やー！（･。･）

実に気持ちのいい毎日が続いているぜ。

なぜかって？　今この記事を書いているのは絶賛ツアー中なんだが、どこの会場も今まで以上に最高なライヴができているからさ。

初めて行くところなんてまさにワクワクドキドキだったけど、ファンのみなさんはとてもチームワークがいいようでTHE KIDDIEが好きっていう一点をまっすぐ見つめてくれてるんだなってのがスゲー伝わったぞ！

でねでね、今回全国各地で歴史に触れてみたくて、お城や、資料館とかに積極的に行くようにしたのさ。学生時代ちゃんと勉強しなかったからこれも礼儀かな？的な感じもありつつね★

そうしたら見事にハマっちゃったんだ！

とくにお城なんて男のロマンを感じさせるよね。

殿様気分になって城下町を眺めるみたいな！ほほーうよいながめじゃのーう。的な!?

だから今回思ったんだけど、修学旅行とか行ったけど当時まっっっっったく興味なかったものがこうやって大人になると見方が変わるんだろうなーって思ったよ。

濃いツアーだぜこんちきしょう！ 残すと
ファイナルSHIBUYA AXのみとなりまし

AXという城をとったるぞー‼ 天下統一。

さて先月の問題「寝る前に閉じるフタは
の答えは…マブタ‼

今月の問題‼

東照宮には「見ない、聞かない、言わな
の意味を持つ有名な猿がいますが、3匹の
で一番お洒落な猿はどれ？

じゃらば。

第四回 リョヲ丞

少女－ロリキター23区 THE コラム

「【進化】ということについて」

新ヴォーカル総史を迎え、ロリ⽥タが活動を開始してから3ヶ月‼

衝撃の初ライヴとなった6月9日渋谷O-EASTでの重大発表セッション、7月23日の初ワンマン、8月の7本のイベントライヴとミニアルバム『星帯次元区域ミネルヴァ』のリリース。始まってまだたったこれだけの活動に過ぎないけれど、とてもとても充実した毎日を過ごせているよ。

俺はこのSHOXXさんのコラムでは俺は毎回ポエムのような、散文詩のようなものを綴っていたので、『今回はリョヲ丞の文章、いつもとちょっと違うな』と感じている子もいるんじゃないだろうか。またこうしてライヴや曲でロリ⽥タを表現できるようになったこと、また作品で歌詞を書かせてもらえるようになったことで今までの俺のコラムで吐き出してきた表現衝動はそれらのアーティストとしての本来の表現の場で、余す事無く心からぶつけて生み出してゆきたいと今は思っています。

今回の「星帯次元区域ミネルヴァ」では「銀河ノ翼-GALACTIC WING-」「FLASH BURN」「ALICE in downward」「球体幾何学遊戯」「lost minerva」で詞を担当したけど、どの作品も前から書きたいと思っていたテーマについて形に出来て本当によかった。特に「銀河ノ翼-GALACTIC WING-」と「FLASH BURN」は【翼】というモチーフや、宇宙や近未来を作品の舞台に置いているということで、過去のコラムにその断片がちりばめてあったことに気づいてくれたら嬉しいなと思っています。

非現実で、耽美で、ハードで、ダークで、ファンタジックで、きらびやかで、切なくなる。そんな音楽が俺は今も昔もこれからも大好きなんだなあと作品を作っていて改めて再確認できました。同時に俺は常に新しいものに対する興味も欠かせないので、自分の中のモードやアップデートされた情報や技術を常に織り交ぜながら、大事なことを忘れずにこれからますますロリ⽥タの１ピースとして頑張っていきたい。

期待を裏切る形で変わってしまうことも、ずっと同じ場所にとどまって自らを守り続けることもなく、常にロリ⽥タらしく【進化】を続けてゆきたい。

アーティストにとっての、ひいては人間が生きていく上での【進化】というテーマについては「未完成サファイア」と言う曲を書いたことでその存在に気づいて、今も自分の人生を通じて日々考えたり発見したり時にはまだ迷ったりしています。

いつか必ずこの【進化】というテーマで曲を書きたいなあと思っているので期待していてください。

ロリ⽥タは絶賛ワンマンツアー中。10月も各地でワンマンやってるので、俺たちの今の【進化】の過程を観に来てください。絶対熱くて楽しい空間にしてみせるからな‼

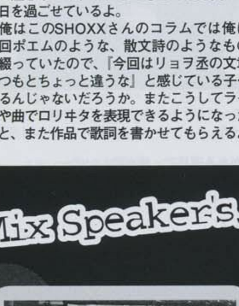
ほぼ初めてに近いくらい、コラムらしいコラムを書いた気がする‼

まあ、これからも超絶に深淵で耽美な言葉も追求してゆくのでお楽しみに。

Mix Speaker's, Inc.

seekの凡人水族園

第百二



「続・凡人水族園」が完成した。前作の「凡人水族園」に続き今作も一頁一頁思いの詰まった作品になった。

午前着にて我家に届いた大量の段ボール。眠い目を擦りながらガムテープを丁寧に剥がし一冊を手に取ってみた。刷り立てのインクの匂いがした。僕は匂いで記憶が蘇る事が多い。春の匂い、夏の匂い、秋の匂い、冬の匂い。実家の布団の匂い。ばあちゃんの匂い。部室の汗の匂い。デートで行った海の匂い。姫路Betaのスモークと煙草が交ざりあった匂い。機材車の男の匂い。東京の饐えた匂い。匂いは其の時の思い出まで引っ張り出してくれる。

今の時代。未知の可能性を秘めた「ネット」は瞬く間に多様化され既存のもの達を飲み込んでいく。既に僕も飲み込まれた生活を送っている。必要無き過去の産物はこれからも増えていくだろうし産物であった事すら知らない人達も増えていくだろう。「あの頃は良かった。」と酒を呑んでくだを巻く程僕も暇では無いので新たな可能性を未来に繋ぐべく今と闘っている。ただ困った事が一つある。今のPC、モバイルには匂いが無い。匂いが無くなってしまうと僕にとって記憶を辿る術が無くなってしまう。まさかPCやモバイルのプラスティックの匂いや発熱の焦げた匂いで過去を紐解きたくはない。

匂いでセンチメンタルになったり、匂いで不機嫌になったり、匂いでニヤニヤしていたりする。文字だけで見ると変態にしか見えないが。実際変態だったりすると思うんですが。やはり匂いは喜怒哀楽を結びつけるキーワードなのだ。表現者としての僕は出来るだけ皆
の記憶に残りたいと思っているし其の記憶の
手がかりに「続・凡人水族園」がなれば良い
のにと強く思っている。「本」という形式に
拘ったのにはそんな理由がある。僕自身これ
から先「続・凡人水族園」のインクの匂いを
嗅ぐとこの四年間の思い出が蘇ってくるはず
だ。匂いにはそんな力がある。段ボールいっ
ぱいに詰まったインクの匂いを独り占め出来
る幸せ。これも製作者の特権である。至福で
ある。天井まで山積みにされた在庫も。故に
届かぬ光さえも嬉しいくらいだ。願わくば明
るくなるに越した事は無いが。

今月はこの辺で。しいくでした。バイバイ

蝴蝶
heidi.
hudie.com

第17回：義彦

『ハイジのアルプス日記』

義彦です！

だ暑い季節ですね～！
、またビールをケースで買うように
しまった～♪笑

さを利用して痩せてやる！
思ってたんだけどな～♪笑

ラムを書きながら美味しいビールを頂
す！爆

えば最近、俺は韓流ドラマ「美男（イ
）ですね」にハマってます。

ギョンさん派？
もシヌさん派？
もジェルミさん派？

ん～俺はシヌさんかな～♪

あの優しさが俺にはツボでね～コミナムさん
とのやりとりで何度も切ない場面があったけ
ど、それでも口に出さないシヌさんて素敵♪
笑

ま～優し過ぎる男もどうかと思うけどね!?笑

とにかく面白いドラマなんで是非!!

TSUTAYAはお勧めコーナーとしてドンッと
置いてある所が多い気がするよ?!

カムサハムニダ～♪笑

…はいっ。

というわけで、

heidi.は来月10月6日にメジャー一発目とな
るニューアルバム『閃光メロウ』発売します!!

おめでとう♪♪笑

最高傑作の出来になりましたよ！ 本当に!!

そして、アルバムをひっさげてのワンマンツ
アーが始まります～
不安はないです！

音源とはまた別のライヴならではのheidi.も
見せられたらなと思ってます！

皆と楽しいツアーにしましょう。

そして来月、誕生日を迎える義彦はまた一段
と大人の魅力を魅せられることでしょう！笑

んじゃ、またね～♪おめでとう♪♪笑

ルガメッシュ CRAZY=CHAIN

第4回 ■Яyo■

どーも。
俺の番です。ドラムのЯyoです。はじ
て。Nice to meet you.
夜は涼しくなってきたね。昼はまだ暑
。もう夏も終わりかな？
になってほしいっす。夏は汗でベトベ
から嫌い。でも海は好き。
こんなで、ギルガメッシュは只今作曲
ございます。
、音楽大好きな俺でも作曲は大嫌い。
、引きこもるし、ずっと座ってるから
くなるし、日の光を浴びないから骨が
カになるし、頭使うし。
作曲ってとても大変なのよ!!
曲が出来上がった時の達成感は凄まじ
子供生んじゃった感じ。

その出来上がった曲達がCDと言う規格に
パッケージされて、皆の耳に届くんだ。う～
ん音楽は楽しい。
これからも沢山カッコイイ＋イイ曲を作って
いくよー!!! よろぴく!!!
で、話は変わりますが皆さん英語しゃべれま
すか??
ギルガメッシュはよく海外ツアーに行くもん
で、英語がとっても必要なんですよ。
でも、俺はお馬鹿ちゃんだからしゃべれませ
ん!!!!
単語も全然わかりませーん!!!
誰か教えて。。。
そんな俺も、英語しゃべりたい！　海外の皆
とコミュニケーションとりたい！英語ペラペ
ラなんだ!? カッコイイね！と思われたいがー

心で勉強はじめましたよ。
リスニングの勉強をしてるんだけど、ネイ
ティヴなスピードが早すぎてついていけない
んすよ。。。
誰かコツを教えてちょ。
でも、これに慣れないと日常の英会話なんて
話せない！と思い日々リスニングのトレーニ
ングをしております。
同時に中学生の頃の教材、高校の時の教材掘
り返してまた勉強しとります。
俺、通信制の高校に通いながらバンドやって
たから、ほとんど勉強してないお馬鹿ちゃん
なのです！
だから、1からやり直し!!
いつだったかな？ 英語の先生に「バンドで
海外に行くようになったらどうするの!? 英語
は世界共通語で絶対に必要なのよ!!!! だから
ちゃんと勉強しなさい!!!!」って言われたっけ
な。
まさかその頃海外に行くなんて思ってもいな
かったし笑。
柳沢先生!!!! ごめんなさい!!!! マジで後悔してま
す。。。海外行くようになっちゃいました笑!!!
あ～本気で外人の友達が欲しい。
てか、自分を英語しか通じない場所に葬り去
りたい。
ホームステイしたい。いや、外人になりたい笑。

嘘です。
はい！ ギルガメッシュは夏ツアーを終えて、
今度は秋ツアーだー！
食欲の秋!! だからいっぱい食べる!! 名産物を
沢山食べるーー!!
次はサトシーーーー!!
Bye-bye!!

夢のぐるぐね大回転 第30回

ーティストがつなぐ、リレー連載☆

(the Riotts.)『もし四次元ポケットを手に入れたら何をどう使いますか？　なるべく現実的に具体的に語ってください』

➡イヴ(ViViD)

ーむ。最近シドの明希さんとViViDの
すと真夜中に筋トレして某所を5kmく
ンニングしたんだけど、次の日じゃな
日後にものっそい筋肉痛になった心身
じいちゃんな、the Riotts.のベースの
おます。
ーナーのようなリレー連載コラム、
くんバトンありがとう！今はお互い
llesとthe Riotts.というバンドをしな

がら、デザイナーという違う側面でも共通点
のあるTERUくん、お互い前のバンド時代か
らよく対バンをしていて、そのころは「可愛
い顔して面白いバンドでギターを弾いている
人」ってイメージしか思っていなかったんだ
けど、実際交流があっていろいろ知っていく
と本当に彼はこよなくメタルを愛する熱いひ
とってことがわかりましたのう。あ、俺は本
当にこよなくヘタレです。むん。愛してくだ
さいまし(＿)

さてさて、今回のお題は『もし四次元ポケッ
トを手に入れたら何をどう使いますか？ な
るべく現実的に具体的に語ってください』と。

お題長っ！(笑)

ふむー四次元ポケットかぁ。
まぁベタなのは、タケコプターとどこでもド
アですかね。あ、でも「現実的に」考える訳ね。
ふむ…。現実的に考えると、タケコプターっ
てとっても頭蓋骨に負担が掛かりそうな形状
してるよね。なんせ自分の全体重を頭部で支
えるんだから…(･_･;
うん、残念ながら俺の5○キロの体重を耐え

られる程、俺の頭皮は強くないからなぁ。痩
せればいいのかしらん。まだハゲたくないか
らタケコプターは却下だな。
となるとどこでもドア…。これも現実的に考
察すると「不法侵入」という単語がちらつき
ますな。まずいまずい。犯罪者になりたくは
ないぜよ。
ふむむ…こう考えるとけっこう現実的に使用
し易いものは少ないのだぬん。
あ！調べてたらあった!!虫嫌いな俺に、かな
りぴったしなひみつ道具が。「驚音波発振式
ネズミ・ゴキブリ・南京虫・家ダニ・白アリ・
虫退治機（きょうおんぱはっしんしきネズミ
ゴキブリなんきんむしいえだにしろアリむし
たいじき）」ドラえもんのひみつ道具の中で
一番名前が長いとされるこの道具!!!そう君を
探していたんだよ、僕は。
うん。
うん…。

あぁこんどは逆に現実感ですぎというか、夢
がなさ過ぎる道具だなぁ…四次元ポケットか
らじゃなくても市販でありそうじゃないです
か超音波とかで害虫を駆除するのなんて。
あ一夢がなさすぎる！

うーん。

夢がある道具で、俺が欲しいの…。

うーん。

うーん…。

あ!!!!

おれ、DEATH NOTEが欲しい！

利己的な使い方、己の欲望のまま使うエゴイ
ズムな感じではなく、
社会生物学上、周囲の環境に適応しているも
のが生き残り適応していないものは淘汰され
る、という自然の流れをより潤滑にし 、そ
の過程でより生物が進化するようなよりよい
世界を、俺は世界の潤滑油になりたい!!

…とかほざいてると、なんか危ない人みたい
だからこれくらいにしとこう。ゲフン。
ま、最近のアーティスト写真がDEATH
NOTEのニアとかしっぽい、ってファンの子
から言われて気分のよろしいたらんてぃでし
たぞよ(ΦωΦ) そんな俺がデスノ的になって
る宣材写真な10月に出るミニアルバム「星
蓮花」もよろしくしちゃいたいじゃないの
(ΦωΦ)

と最後に番宣みたいなこともしつつ、次に回
すのは…コラムの最初でも登場した可愛い後
輩、ViViDのイヴたす!!
お題は…「イヴと筋肉と豆しば」について暑
く語ってもらおっと♪イヴ任せたっ♪んじゃ
まらみぃ(ΦωΦ)

D'espairsRay
マニアの覗き穴

第97ブレイク HIZUMI 編

夏は主にスライム状態のHIZUMIです。もう９月入ったのにこの暑さ…気温35℃とか温暖化にも程があるだろ〜に。(9月4日現在)

この前アメリカツアー行ってきたんだけど、「まあ夏だしパーカーとか長袖はいらんだろう」となめきってTシャツで到着したロサンゼルスはびっくりするくらい寒かった。メンバーみんなTシャツ、タンクぐらいしか持っていない始末…。奇跡的に物販でパーカーを作っていた為、それを貰ってメンバー４人で着てるという。どんだけ仲いいんだ！って。笑　でもあのパーカーのおかげでみんな風邪ひかずにすんだんだよな。ありがとう！ディスパーカー！

そんなこんながありつつ、毎度の事ながらロサンゼルスで１個ロストバゲージ。しかも機材とドロップ（幕）が入ってるやつ。ロスのライヴの日はそれがあって機材を探したり買いにいったりでてんやわんや。なんとか代わりの機材は手に入って、なんとかライヴを出来る状態になったけど、みんなココロに余裕が無かった日だったな〜。

ライヴ２カ所目はサンフランシスコ。この日はこの日である意味印象的というかなんと言うか、ライヴの途中で20分間の休憩を入れてくれとのライヴハウスからの要望があり、急遽２部構成に変更。本番始まって、熱気が凄くてトラブルも多かった。本番中に俺がビデオカメラまわしたの初めてじゃないかな？いろんな意味でサンフランシスコは是非リベンジしたいな。

次はシアトル。もちスタバ１号店に行ったよ。そこで初シアトルでうかれていたうちのマネージャーにいたずらしようと思って「俺の後にいる人リン○ンパークのチェスターですよ！」って言ったら､俺越しに見知らぬおっさんをめっちゃ写真とってて笑いこらえるの大変だった。笑　あとクラムチャウダーが今までの人生で喰った中で一番うまかったクラムチャウダーだったな。

ライヴの方はこの辺りからトラブルも無くなってライヴに集中できるようになった。スタッフの親御さんが来てくれて「凄く楽しい時間を過ごせたよ」って言ってくれたのが嬉しかったな。

んでシカゴ。ここはTOCの時にきてまたここでライブやりたいなって思ってた場所。町並みも好きだし、なんせ俺、昔バスケっ子だったからアイラブシカゴボ〜ズ（ブルズ）ですよ。ライヴは思ってた以上の反応で楽しかった。

次はトロント。ディスパーズレイカナダ初侵入成功！　初めて行く場所はなんか緊張する。知ってる人いるのかな？　とか。その不安を裏切るように待ってってくれる人がいてちょっと感動。ほとんどの曲が新曲だったから知らないと思ってたら歌ってくれたしすげーよホント。

最後はニューヨーク！　この日は戦友のエーシースレイドに会えるってことでウキウキしてた日。久しぶりのエーシーは相変わらずロックしてたが、最高に優しかった。笑　また一緒にやりたいな。うん。ライヴはクラブでやったんだけど明らかうち等を知らないであろうニューヨーカーがノッテてちょっとウケた。

今回のアメリカツアーはホント楽しか
〜。飯もハンバーガーでいけたし。笑

これが出る頃にはD'espairsRayは12年
突入してる訳だけど、もうすぐ干支が返
くるね。笑

ユーロツアーも楽しんでくるよ。日本
アーで会おう！

ではHIZUMIでした。

ドレミ團マコトの♪
月刊少年マコトピア

第79回 レエゾン の巻

夏も終わりましたねぇ。それにしても今年の夏は暑かったなあ。

ちなみにこれを書いている今日、京都で今年全国最高の39.9℃が記録されたとか…。

どうなってんだ９月！

そんな暑かった'10夏、イベントツアーで色んな所へ行きましたが、やっぱり色んなバンドさんと共演するのは刺激ももらえるし、楽屋も楽しいし、いいね！

しかし楽屋での話題は、専らTwitterについてだった気がするなぁ（笑）。

そんなツアーを経て、9.11の東京ワンマンは最高の時間を最高のみんなと過ごす事が出来、また「次」へ向かう事が出来たと思います。

そしてそして、来週待望の2ndフルアルバムリリース！

通算でいうと5枚め！　ベスト＆ミニALもいれると7枚目！

え‼　そ、そんなに出してんねや…。

ま、現メンバーでは初のアルバムなので今作も相当想いを込めてつくったわけですよ‼

自分で言うのも何ですがとにかくおすすめなのです！

きっと気に入ると思うので聴いてみてね！

ミュージシャンならみんなそうやと思うけど、自分にとって今までの作品は全て大切で、それを聴くと今でも、創った時の情景だったり気持ちだったりがこみ上げてくるのですが今回のアルバムは特にそれが大きいな。

少しでも想いが伝わると嬉しいです。

アルバムでたら久々の大きなワンマンツアーが待ってます、ここでまた一人でも多くの方との出会いを楽しみにしています。

ほな！

hudie.com

ヴィドールの
美doll?
微

第八十四体目
ラメたん の巻

皆さんこんにちは。

ヴィドールは9月18日の新木場コーストのライヴより活動休止という事で今まさに休止開始といった感じであります。

活動休止と聞くとやはりマイナスなイメージを受けるとは思いますが、そうではありません。

しかしマイナスな部分がないとは言えません
がプラスになって戻ってくる為の準備期
と思っていて下さい。

やはり長年バンド活動をしているとい
壁にぶつかりますが、その都度最善の選
取ってきました。
もちろん今回もそのつもりです。

またすぐ会えます！　その時まで楽し
待ってて下さいね♪

Moran Hitomiの

「瞳孔反射」 第30回 『好き、、、嫌い』

医者に行くのが好きだ」と言うと大抵
驚く。事実、これだけでは説明が抜け
ようなものだから、それは当然の反応
っと具体的な話をすれば、きっと読者
なにも理解してもらえるだろう。
者というと普通、虫歯の治療を思い浮
。キュイーーーーンという嫌な音、ゴ
と脳に響く振動、神経に触れ激痛が走
はという恐怖…そういうものが歯医者
的なイメージなのだろう。そんなのが
人なんているわけない。もしも「私好
けど何か？」という人がいるのなら、
はもう、どうしようもない位のドMだ。
たって変態だ。まぁそういう人、嫌い

じゃないけど。

違う、そういう話じゃなくて、俺が好きなのは定期健診に通う事なのだ。定期検診といっても、ただ虫歯を探すだけではない。歯科衛生士による虫歯予防施術というか、ようするに歯石の除去や、研磨剤によるクリーニング、歯磨きの指南などで、今３ヵ月に一度のペースで通っているのだが、それがすごく好きで…。施術後は、なんだかすごくスッキリした気分になれる。

エステやマッサージに行ってリフレッシュするのと似たような感じなんだと思ってもらえればわかるだろう。こういう事って「人にやってもらえるから気持ちいい」ものだと思うしね。それに俺には歯医者特有の利点というものがある。

それは会話をしなくて良いという所。これは大きい。俺は大の人見知りで、見知らぬ相手と会話をするのが苦痛でしょうがない。特に俺がどういう職業の人間かを知らない人との会話は最悪だ。その点、歯医者というのは口の中をいじられるのだから、会話なんてしようがない。だからこそリラックス出来るというものだ。

ではその逆パターンも紹介しよう。俺の苦手なもの、それは美容室に通うことだ。本当に本当に、毎回行くのが憂鬱でしかたない。

上にも書いた通り、一番の理由は「会話」だ。しかも美容室での会話ほど、どうでもいいなぁと思う会話は他にあまり例を見ない。まず初対面の美容師さんによく言われる事なんだけど、「かっこいいですね、モテるでしょう」どーーでもいーーーーー‼

これね、自慢とかに聞こえるかも知れないけど、本当に嫌なんだよ。そう思ってもらえる事は嬉しいんだけど、それを言われても困るというか。なんて返せばいいのかに困るんだ。おそらく、こういった場合は謙遜して「そんなことないですよ」と言うのが一般的だろう。すると必ずこう返ってくる「いやいや、そんなことないでしょ～」どーーでもいーーーー‼　じゃあ「ええ、そうですね、俺は結構モテますね」とでも言えと⁇

それともう一つ嫌なのが「お仕事って、何してるんですか？」って聞かれる事。これも困る。「職業」をミュージシャンですと答えていいのはメジャーのレコード会社と契約を結んでいるか、芸能事務所に所属し、給料を毎月一定額以上貰っている人だけなんじゃないかとも思うし、もしミュージシャンですと答えると、色々と突っ込んで聞いてくる人が多い。例を上げると、「どんな系ですか？」「どこで歌ってるんですか？」「CD出てるんですか？」「なんてバンドですか？」頼むからほっといてくれ…。

別にこれらの質問に全て正直に答えたっていい。

どんな系ですか？

「あんまりキラキラしてない感じのヴィジュアル系です。かと言ってダークで重い系でもないですね。」

どこで歌ってるんですか？

「高田馬場AREAを中心に、もっと大きな箱や、全国のライヴハウスでも歌ってます。」

CD出してるんですか？

「前のバンドからカウントすれば、けっこう出してます」

なんてバンドですか？

「Moranです。現在フリーズ中、まぁ活動休止中って感じです。」

こんなん言われても、困るでしょ⁇　会話が弾むわけもないし、第一これで普通に通じるようならこっちが警戒しちゃうよ…。

そして極めつけ、話がわからなくなってくると、向こうが言う事「へぇ、すごいですね。じゃあモテるでしょ？」どーーーでもいーーーーーーーー‼

それともうひとつ言いたい事がある。シャンプーの時には尚更話しかけないでくれ。あの顔の上に乗せてる紙切れが、俺がしゃべるとズレるんだ。それをさりげなくサッと元に戻されると、なんかこっちが申し訳ない気持ちになるんだよ…。

こういう話をすると、「だったらお店と担当をしっかり決めて、同じ人の所に通えばいいじゃん」と言われるのだが、ほぼ毎回、初回で嫌な思いをするから、結局あそこにはもう行きたくないなぁ…となってしまうのだ。余計な会話はせず、話すのは髪に関する事だけで、和気あいあいとした雰囲気は一切なく、美容師は最高の髪型を作るの為に、髪の毛とガチンコで対話しているような雰囲気の店、あったら誰か教えてください。

SHOCK WAVE アポロ Vol.43

010年10月18日(月)高田馬場AREA

★★★★★★★★★★★★★★★★出演★★★★★★★★★★★★★★★★★★

ネマストリップ/ギャロ/S.Q.F/Dying message/
えんそく/ANOTHER DIMENSION/ReivieR

毎月18日は、本誌イベント『SHOCK WAVE アポロ』の日♪
毎回、多彩な顔ぶれのバンドが競演！　10月のアポロもお見逃し無く♪

ケットは
賛発売中♪
詳細は、

音楽専科社 HP
[http://www.ongakusenkasha.co.jp/]
携帯サイト：音楽せんか？
[http://mobile.ongakusenkasha.com/]

(問)高田馬場AREA ☎03-3361-1069

蝴蝶网
hudie.com

うしろの正面
—ただしづら—

第135回
by 長谷川 正
/Plastic Tree

皆様こんちくわ。9月に入りちょっとは涼しくなるかと思いきや、相変わらず暑い日が続いてます…夏も決して嫌いではないのですが、早く秋の気配を感じたい今日この頃です。さて、われわれの三回目となる武道館公演「テント②」もおかげさまで無事に終了しました！　しばらくは余韻から抜けきれない日々を送っていましたが、現在気持ちも新たに曲作りを進めております。グッと来る楽曲をお届け出来るように引き続き頑張ります！　さて…今月は間もなく値上がりを控えているタバコの話でも。皆さんの中にも喫煙される方がおられるかとは思いますが、僕はややヘヴィスモーカー的な傾向があるため、タバコはもはや日用品といっても過言ではない存在です。しかしながら最近では喫煙場所もだいぶ限られて来ている事もあって、長時間タバコを吸えない環境下でも比較的平気になって来ました…そんなこんなで値上がりもする事だし、これを機に禁煙しようかとも考えもしましたが…たぶん無理でしょう（笑）。健康の事を考えると正直「？」と思わざるを得ないタバコという存在ですが、今や喫煙習慣から抜け出す事はなかなか難しいように思うのです…まあ、せめて本数を減らすとかですかね（笑）。ちなみに自宅で曲を作ったり、スタジオでレコーディングする際には喫煙頻度がかなり上がってしまいます…という事は、今まさにその時期を迎えている事になります。一工程終わるごとにタバコに手を伸ばしてしまうのは悪い癖だなあ…と思いつつ、気が付くと一服している有様です…。ともあれ、お酒もタバコも、度が過ぎず楽しむように、大人のたしなみとして気を付けたいと思います（笑）。そうこうしている間に、久しぶりのツアーも近づいて来ました！　今回は「月世界旅行」という事で、今までにも増して非日常な感覚を味わえるようなライヴが出来たらいいなあ…と勝手に考えています（笑）。それまでに機材のパワーアップも図りたいなあ…一体どこをどうするのか？は、どうぞお楽しみに！

さて、この本が出る頃には多少残暑も落ち着いているかもしれませんが、どうか皆様体調を崩さないようにして下さいね。またライヴで会えるのを楽しみにしてます！　という事で、今月もマリモーランドよりお届けしました…それではさよーなりー！

麺は固め!!
第148回　by 竹入隆行

自分がもっと若い時なんかは、凄い凄い大人やと思ってた
いざその年齢になってみると、音楽を目指し、憧れた時とな
変わってない事に気がつきます。
全国、ツアーを廻らせていただいていると様々なミュージシ
にお会いします…。
自分がそれこそガキの頃に憧れていたミュージシャンとの共演
凄い不思議な気分になるのですが、今の自分のように先輩方
にも変わってないと思ってはるかもしれません。
それでもこっちは嬉しく、光栄な気持ちでいっぱいで…
よく考えたら「カリスマの時よく見に来てました！」なんて
てくれる若い対バンさんもそんな事思ってくれてたのかな…？
自分がまだかけだしのつもりやから（笑）思ってもみなかっ
すが…（笑）

それとは真逆になるのですが、高校生のコピーバンドと対バ
せてもらう事もあります（笑）
へたくそで、見てるこっちがちょっと恥ずかしくなるような
もとてもとても一生懸命で…以前は「なんでこんな人らと…
んて調子こいた事を少し思ったりしましたが、今は自分た
音楽を始めた頃の情熱を思い出して、胸が熱くなったりして
に逆に勉強させて貰っている気にさえなります。
少し矛盾しているかもですが…。
そんな様々な出会いが、ずっとずっと唄を唄い、全国を廻ら
頂いている事に誇りと感謝が
日に日に増して行きます。
人々との出会いが、自分を成
長してくれているのは確かで
す。

そして今日も旅です！

押忍！

http://www.guruguru.co.jp

GURUGURU 検索

http://www.guruguru.co.jp/

9月22日発売
the GazettE
Red
Optical Impression 初回限定盤 1,785円
Auditory Impression 通常盤 1,260円
＜GURUGURU特典＞
ポスター
+W購入で特製パンフレット

10月6日発売
Lycaon
EROS
初回限定盤 2,100円
＜GURUGURU特典＞
イベント整理券
(11/22 15:00
マルチスペースエフ)

10月27日発
己龍
屡流
TYPE A 初回限定盤
TYPE B 初回限定盤
TYPE C 通常盤
＜GURUGURU特
2種購入でイベン
(11/7 18:00
マルチスペースエ
+3種購入でコメン

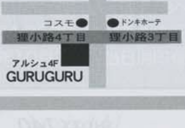
9月29日発売
Sadie
クライモア
初回限定盤 1,900円
通常盤 1,200円

11月3日発売
棘 -toge-
初回限定盤 1,800円
通常盤 1,200円

10月27日発売
Plastic Tree
Ch.P
初回限定生産 10,000円
封入特典：激レア！
Plastic Tree オリジナル
Tシャツ
＜GURUGURU特典＞
交渉中！

11月10日発
Alice Nine
Stargazer:
初回限定盤A
初回限定盤B
通常盤
＜GURUGURU特
交渉中！

GURU GURU
有限会社 グル・グル
札幌市中央区南3条西4丁目アルシュ4F
TEL 011-251-4480
e-mail▸order@guruguru.co.jp
FAX 011-251-4481
OPEN10:30-CLOSE20:00

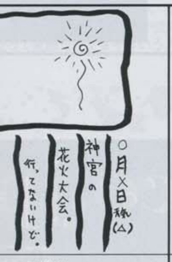


全国通販OK
代引きOK
即日発送

Radio-UZU- 「渦」 ON A
毎週火曜23:00 FMアップル 76.5
インターネットでも生中継します！
http://www.channel-apple2.com/streaming_app
Kagrra,白水と女雅の道産子牧場
ヴィドールの真夜中の美人館 放送
バックナンバーはこちら
http://www.guruguru.co.jp/other/radio

ission in ぽっくん
ッション イン

猛暑だった 2010 年の夏。沢山の思い出と共に、今年の夏もさようなら。そんな、こんなでッションは、この時期、恒例の「ミッション in ぽっくん 夏の思い出絵日記」です。ミューにとって稼ぎ時の 8 月。夏の喜怒哀楽を思いっきり絵日記にしてもらいました。そして、しぶりにミヤ画伯も登場。みなさん、のけぞる準備はできてますか！



maya
(LM.C)

SATOち
(ムック)

YUKKE
(ムック)

ミヤ
(ムック)

達瑯
(ムック)

ナオ
(heidi.)

義彦
(heidi.)

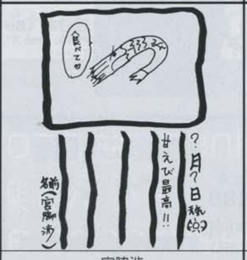
ラメ
(ヴィドール)

ギル
(ヴィドール)

Aiji
(LM.C)

須賀勇介
(12012)

酒井洋明
(12012)



宮脇渉
(12012)

桐
(heidi.)

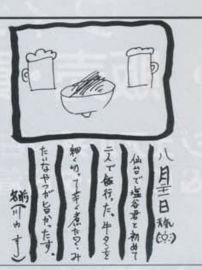
コースケ
(heidi.)

hudie.com

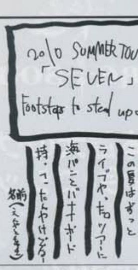
AYA
(Mix Speakear' s,Inc.)

MIKI
(Mix Speakear' s,Inc.)

YUKI
(Mix Speakear' s,Inc.)



川内亨
(12012)



塩谷朋之
(12012)

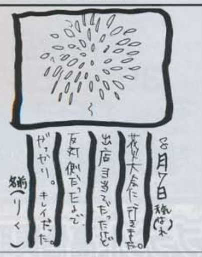
KEN
(ドレミ團)

マコト
(ドレミ團)

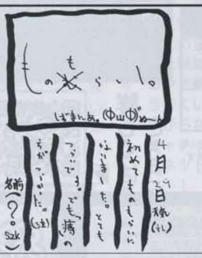
S
(Mix Speakear' s,Inc.)

seek
(Mix Speakear' s,Inc.)

keiji
(Mix Speakear' s,Inc.)

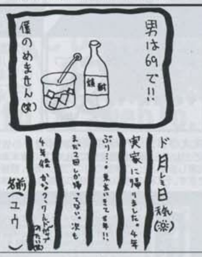


RIKU
(凛)



雫
(TOON-FACTORY)

零華
(ドレミ團)

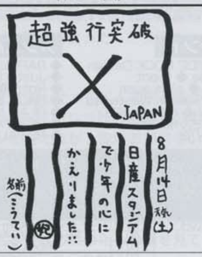


ユウ
(ドレミ團)

龍
(ドレミ團)

ゆーり
(イロクイ。)

REIYA
(凛)



KISAKI
(凛)

KANATA
(凛)

MIZUKI
(凛)

なつき
(イロクイ。)

リツ
(イロクイ。)

しゅうた
(イロクイ。)

はづき
(イロクイ。)

★応募の決まり★

このアーティスト直筆の回答書をプレゼントしちゃいま～す。欲しい人は143ページの左下にある応募券を官製はがきに貼って、あなたの住所、氏名、年齢と希望アーティスト名を書いて 〒104-8228 東京都中央区銀座6-2-3Daiwa銀座アネックス5F音楽専科社「ぼっくんくれっ！」係まで応募してください。締め切りは2010年10月21日（当日消印有効）です。

RE-SOUND

蝴蝶 ヴィジュアル系専門店 販売・買取 ピュアサウンド

hudie.com

本最大のヴィジュアル系中古SHOP。品揃えは西日本一！1フロアに5万点の品揃え！
今、ゴシック&ロリータ古着コーナー拡大中！大阪と言えばピュアサウンドです。

ンナップ■CD/DVD/VHS/テープ/FC会報/ツアーパンフ/ヴィジュアル系雑誌・書籍/アーティストグッズ/ゴシック&ロリータ古着
しアーティスト■ the GazettE/THE KIDDIE/ベルベット/lynch. /シド/アンド/Sadie/Lycaon

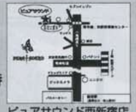
取強化キャンペーン

間
1▶11/20着まで

下記の買取強化アーティスト
メンズ高価買取ブランド
高価買取ブランドの商品1点以上で
全体の査定金額が
20%UP！
(※状態が悪いものは対象外となります。)

★西新宿店だけの特別企画★

西新宿店ではグッズ・書籍の買取も大歓迎!!
独自の買取リストもぜひご覧下さい！
もちろんCD/DVDもお待ちしております!!
詳しくは下記アドレスをご覧下さい。▼▼▼



ピュアサウンド西新宿店
東京都新宿区西新宿7-16-14 ミクラビル1F
03-6304-0360

http://www.visualkaitori.net/visual/index1.html

ゴスロリ専門サイト

~maiden clothing~
http://www.maidenclothing.net

モバイル版
遂にOPEN!!
▶▶▶

楽・洋楽etc)■DVD(ミュージック・映画・アニメetc)■音楽雑誌■ツアーグッズ各種■FC会報■ゴスロリ服（その他V系古着）

送買取なら絶対ピュアサウンド!!

でも**無料!**着払いでお送り下さい。送料代金は、**当店が負担します!**

商品の送付
売り頂く商品
分証明書のコピー
(転免許書・保険証・パスポートのいずれか1点)
取依頼書
権者同意書（18歳未満の方のみ）
ず同封の上お送り下さい。

②査定
当店到着後すぐに
専門スタッフが1点ずつ
丁寧に査定。

③結果
査定結果を
メール or 電話
にてお知らせします。
査定にご納得頂けない商品はキャンセル可能です。

④お支払い
お客様からの承諾を頂き次第
ご指定の口座にお振込♪
お振込の際には、査定金額より
送金手数料400円を引かせて頂きます。

店頭にて持ち込みでの
買取も行っております。

その場で専門スタッフが査定。
即現金にてお支払い★
※身分証明書をご持参下さい。
※18歳未満の方は親権者同意書が必要となります。

詳しくはこちら▶

ついて】ピュアサウンドホームページにてプリントアウト出来ます。手書きの依頼書でも結構です。以下の点を記載した用紙を同封して下さい。
機関情報、氏名、住所、連絡先、メールアドレス］【親権者同意書について】18歳未満の方のみ。ピュアサウンドホームページにてプリントアウト出来ます。
でも結構です。「CD・DVDを売ることに同意します。」と、ご家族の方にご記入頂き、親権者氏名、本人氏名、住所、連絡先を記載した用紙を同封して下さい。
商品返送について】即日ご返送させて頂きます。その際の送料はお客様のご負担となります。ご了承下さいませ。

ゴスロリ古着専門店 OPEN SALE 開催!

店内全品
30%～50%
OFF!

場所：旧ピュアサウンドアメリカ村店4F
(※詳しくはHPにて告知させて頂きます。)

販の極意!

の帯は捨てたらアカン!!
品（付属品が完備）が

ないようなレア商品を売
説明を書いたメモがあれ
!!

ゴシック&ロリータ古着取り扱いブランド

◆ ATELIER-PIERROT ◆ ATELIER BOZ ◆ ACID JAZZ MEN ◆ alice auaa ◆ ALGONQUINS ◆ Angelic Pretty ◆ Innocent World ◆ Victorian Maiden ◆ VISIBLE ◆ Vivienne Westwood ◆ Vivienne Westwood MAN ◆ Vivienne Westwood RED LABEL ◆ A+Lidei ◆ h.NAOTO ◆ h.NAOTO(Hn+DIE) ◆ h.NAOTO(Sixh.) ◆ h.NAOTO(H.naoto Freak School) ◆ h.NAOTO(h.ANARCHY) ◆ h.NAOTO(H.ANARCHYISM for PLUS) ◆ h.NAOTO(H.ANARCHYISM from LONDON) ◆ h.NAOTO(Sixh.) ◆ h.NAOTO(Hn+DIE) ◆ h.NAOTO(h.NAOTO Blood) ◆ h.NAOTO(H.jelly Honey) ◆ h.NAOTO(GRAMM) ◆ h.NAOTO(FRILL) ◆ h.NAOTO(SEVEN) ◆ h.NAOTO(CHANNEL H) ◆ h.NAOTO(rockers H baby) ◆ EXCENTRIQUE ◆ Emily Temple Cute ◆ Ozz On ◆ OZZ CROCE ◆ Carina et Arlequin ◆ CANDY STRIPPER ◆ Qutie Frash ◆ Comet ◆ gouk ◆ Jane Marple ◆ ZT+PUNX ◆ Jean Paul GAULTIER ◆ Juliette et Justine ◆ SUPER LOVERS ◆ SEX POT ReVeNGe ◆ SEXY DYNAMITE ◆ SEXY DYNAMITE CHOICE ◆ SEXY DYNAMITE LONDON ◆ CHOCO CHIP COOKIE ◆ T.KUNITOMO ◆ DEORART ◆ DeliaH ◆ Dangerous nude ◆ no future ◆ Heart.E ◆ BANANA FISH ◆ HIDE ROCK ◆ HYSTERIC GLAMOUR ◆ PEACE NOW ◆ BLACK PEACE NOW ◆ BLACK PEACE NOW(FOR MEN) ◆ PUTUMAYO ◆ HELL CAT PUNKS ◆ BABY, THE STARS SHINE BRIGHT ◆ BABY, THE STARS SHINE BRIGHT ALICE and the PIRATES ◆ MARBLE ◆ MAD Girl ◆ MAD PUNKS ◆ MAXICIMAM(MA) ◆ MAM ◆ MIHO MATSUDA ◆ MILK ◆ MILKBOY ◆ Mary Magdalene ◆ metamorphose ◆ Moi-meme-Moitie ◆ UNION JACK ◆ LAPIN AGILL ◆ LISTEN FLAVOR ◆ ROMANTIC NEUROSIS ◆ WORLD WIDE LOVE ! ◆ Q-pot ◆ MALKOMALKA ◆ STIGMATA ◆ GADGET CROW ◆ monomania ◆ JESUS DIAMANTE

高価買取ブランド
◆ QutieFrash ◆ HIDE ROCK Design
◆ Moi-meme-Moitie ◆ Q-pot
◆ MALKOMALKA ◆ alice auaa
◆ STIGMATA ◆ Vivienne Westwood
◆ GADGET CROW ◆ monomania
◆ MILK(デザインの古い物は除く)
◆ JESUS DIAMANTE

メンズ高価買取ブランド
◆ BAFFALO BOBS ◆ NO ID.
◆ Justin Davis ◆ DEAL DESIGN
◆ Roen ◆ VANQUISH
◆ BACK BONE ◆ h.naoto Sixh.
◆ GLAD NEWS ◆ FUGA
◆ VICE FAIRY ◆ monomania
◆ ROYALORDER ◆ discord

メンズブランド高価買取中!

下記の商品1点以上で
全体査定金額が
20%UP!!

◇BAFFALO BOBS ◇NO ID. ◇Justin Davis ◇FUGA ◇DEAL DESIGN ◇Roen ◇VANQUISH ◇discord ◇BACK BONE ◇h.naoto Sixh. ◇GLAD NEWS ◇VICE FAIRY ◇monomania ◇ROYALORDER

取強化ィスト ▶▶▶ 秋葉原少年団電脳ロメオ /ADAPTER。/emmuree/exist†trace/ヴァルナ /ViViD/KYOKUTOU GIRL FRIEND/cocklobin/THE.GOLDEN SPIDER ゴールデンボンバー / 砂月 /Jessica/SINCREA/ 人格ラヂオ /Sel' m/DEATHGAZE/DELUHI/「東京指定」/xTRiPx/9GOATS BLACK OUT NightingeiL/ν[NEW]/ フィオーレ / ベルベット /BORN/Merry Go Round/Lycaon/lynch.

ルデンボンバー	CD	ゴールデン・アワー 通常盤	¥900
	CD	ごめんね、愛してる	¥300
	CD	～Bressiere～、～Pressure～ 初回盤A、	各 ¥2,000
	CD	～Bressiere～、～Pressure～ 初回盤B、	各 ¥700
	CD	～Bressiere～、～Pressure～ 通常盤、	各 ¥1,100
	CD	咲いて咲いて切り裂いて 会場盤	¥400
	CD	剃り残した夏	¥1,200
	CD	抱きしめてｼｭﾊﾞﾙﾂ	¥300
	CD	トラウマキャバ嬢*元カレ殺ス	¥300
	CD	ホテルラブ*いつもと同じ夜	¥300
	CD	女々しくて CD+DVD	¥600
	CD	女々しくて CDのみ	¥300
	CD	もうバンドマンに恋なんてしない 初回限定盤	¥400
	CD	[illegible]	¥4,000
	DVD	感動ドキュメント！いつまでも続く大不況！働かせたきゃくフルメイクシンガーへホームレスビジュアル系～ 特典DVD-R	¥4 000
Jessica	CD	ULTIMA VII	¥1,200
人格ラヂオ	CD	証拠 初回盤	¥2,000
	CD	バンギャル症候群	¥2,000
	CD	回路 1st Press	¥800
	DVD	バンギャルラヂオシアタァ	¥2,500
SINCREA	CD	ATLAS	¥2,000
	CD	HELIANTHUS	¥1,500
	CD	PANDORA 初回限定盤 A	¥1,600
Sel' m	CD	ARROWS	¥600
	CD	brilliant force	¥1,200
	CD	DIVE	¥800
	CD	dyed vacancy	¥500
	CD	resistance	¥500
	CD	アンソロジー (ANTHOLOGY)	¥1,000
EATHGAZE	CD	294036224052	¥1 500
	CD	AWAKE-evoke the urge-	¥800
	CD	BLOOD	¥500
	CD	DOWNER	¥800
	CD	genocidal freaks death code=[2F0U0C6K1E2R1 1 0] -Limited edition-	¥3,500
	CD	THE CONTINUATION	¥1,600
	CD	腐敗と腐生	¥1,400
	DVD	BLOODY ALL LOVERS	¥1,500
	DVD	Drug Overdose Death-Welcome DOWNER-	¥3,000
DELUHI	CD	Departure	¥400
	CD	Frontier	¥400
	CD	Orion once again	¥1,000

DELUHI	CD	Orion once again -2nd プレス-	¥500
	CD	Recall (2009Re-Recording Ver.)	¥1,000
	CD	REVOLVER BLAST	¥700
	CD	Surveillance	¥6,000
	CD	The farthest	¥400
	CD	Two Hurt	¥400
	CD	Two Hurt -FOOL' S MATE EDITION-	¥2,400
	CD	ヴィジュパスリット	¥300
	CD	ジャガンナータ	¥600
	CD	マハーデーヴァ	¥300
	CD	ユグドアライブ -Yggdalive- 初回盤	¥1,800
	DVD	FLASH:B[L]ACK	¥1,200
「東京指定」	CD	DJ PLAYER	¥700
	CD	One way～星に願いを～ feat.LUXAM	¥700
xTRiPx	CD	[-Re:evolutioN-]	¥600
	CD	【Astrovibes】	¥300
	CD	【double】	¥400
	CD	Blue well the Air	¥400
	CD	Digital' a Nature	¥700
	CD	Innovation[re]isM	¥900
	CD	raspberry on the Lips	¥400
	CD	Red drug stranger	¥400
	CD	sadistic purple lies	¥400
	CD	siesta	¥1,200
	CD	snow white butterfly	¥400
	CD	snow white butterfly 九州限定盤	¥1,000
	CD	トウメイ。	¥1,000
	CD	ハルイロプラスチック	¥400
	DVD	特別ライブ映像「Hate」	¥1,000
	CD	[re：birth is the stripe]	¥400
NightingeiL	CD	孤鳥の彼女・・・	¥400
	CD	吊り下げの恋	¥1,200
	CD	失敗の僕 成功の君	¥1,500
	CD	赤い目	¥400
9GOATS BLACK OUT	CD	Black rain 通常盤	¥1,400
	CD	Black rain 通販・会場限定盤	¥1,400
	CD	devils in bedside 通販・会場限定盤	¥1,300
	CD	devils in bedside 流通盤	¥1,300
	CD	Sleeping Beauty 会場・通販限定盤	¥1,000
	CD	Sleeping Beauty 通常盤	¥400
	CD	TANATOS	¥1,400

9GOATS BLACK OUT	CD	TANATOS 限定盤	¥2,200
ν[NEW]	CD	LIMIT	¥2,000
	CD	NEνER LAND 初回限定盤	¥1,200
	CD	PULSE*New World	¥600
ベルベット	CD	03*08	¥2,200
	CD	東京 TYPE：A[初回限定盤]	¥800
	CD	東京 TYPE：B[初回限定盤]	¥600
	CD	悩殺スパンコォル・バグ	¥400
	CD	罠	¥1,000
	CD	六畳一間ノ陽り唄	¥400
BORN	CD	-Abnormal Head Machine-	¥1,200
	CD	BLACK BORN MARKET	¥1,000
	CD	BLACK THEORY MANIA	¥1,200
	CD	felony TYPE A -BOLDNESS SESSION-	¥800
	CD	felony-TYPE B -DECADANCE SESSION	¥500
	CD	Vermin' s cry	¥2,000
Merry Go Round	CD	.[dot]	¥800
	CD	♯69	¥600
	CD	merry goround is dead	¥3,000
	CD	REDDISH COLLECTORS NO DEAD ARTIST	¥1,500
	CD	S	¥500
	CD	君は蜜よりも甘く	¥1,800
	CD	幻覚@波	¥1,800
Lycaon	CD	A Box In Beautiful	¥500
	CD	Ambrozia	¥1,000
	CD	Cordyceps sinensis	¥500
	CD	DECLARATION OF WAR	¥500
	CD	RED RUM	¥1,000
	CD	Royal Order 初回限定盤	¥1,600
	CD	Sad*Sick:ness	¥1,000
	CD	a greatful shit	¥1,500
	CD	Adore 初回限定盤	¥1,200
	CD	Ambivalent Ideal 初回限定盤	¥1,000
	CD	enemy 初回プレス	¥2,000
	CD	greedy dead souls	¥3,500
	CD	JUDGEMENT 初回限定盤	¥1,000
	CD	SHADOWS 初回限定盤 (CD+DVD)	¥2,500
	CD	THE AVOIDED SUN 初回盤	¥1,500
	CD	THE BURIED 初回限定盤	¥2,500
	CD	underneath the skin	¥4,000
	DVD	『THE SHADOW IMPULSE』FINAL 2009.09.06 at AKASAKA BLITZ	¥2,800

re sound Amerikamura ピュアサウンド

〒542-0086
大阪市中央区西心斎橋 2-10-34 サンエースビル 5F
☎06-6214-2549
▲こちらの宛先まで「佐川急便着払い」にてお送り下さい!!▲

佐川急便QR

■買い取り価格などはピュアサウンドホームページへ■ http://www.puresound.co.jp 携帯版 http://psound.jp

イラスト：AKEMI OHSH

大島暁美のロックンロール日記

×月×日

X JAPAN日産スタジアム一日目。覚悟はしていたけれど、すごい人！　そして、すごい暑さ！　でも、開演時間はあまり押さなかったし、曲間もそれほどなくて、さくさくスムーズに進んだライヴだった。YOSHIKIは、何十回もマイクで「We are (X)！」を叫び続けていて、後半は声がガラガラ。昨年、頸椎椎間板ヘルニアの手術をしてから初めてのライヴだったので、このライヴができたこと自体が本当に嬉しかったのだと思う。Toshiも声が出なくて活動を休止した後、初のライヴだったし、文字通り、「超強行突破　七転八起」なステージだった。

わたしは、某ミュージシャンと一緒にアリーナでライヴを見ていたのだけど、ずーっと頭上をカメラが行ったり来たりした。そしたら、アンコールの時、彼の携帯に、知り合いから「WOWWOWの放送に××くんが映っていて、ネットに写真が載ってる」というメールが来た。客席を映す生放送の画面から彼の部分だけを切り取って、わざわざアップした人がいた模様。ん～、ネットって怖いね。てか、そんなことやってる時間があるのなら、ちゃんとライヴを見てほしい（笑）。

終演後、東京に戻ってゴハンを食べるSUGIZOと合流。かなりレアなライヴの感想を聞かせてもらいつつ、彼は食事をしたら早く家に帰ってギターを弾きたいという。この日のステージではPATAとのギター・バトルがあり（二日目はHEATHも加わり、弦楽器隊バトル）、自分的に納得のいかない部分があったので、練習したいのだそう。あのステージを終えた後に、家に帰って練習したいって、SUGIさま、ホントにすごいにゃん。

×月×日

X JAPAN日産スタジアム二日目。この日は取材だったので、開演まで涼しいプレスルームにいて、席もアリーナの記者席。でも、やっぱりすっごく暑かったよ～！　この日は、ライヴ終了後にYOSHIKIの囲み取材があるというので、ダブル・アンコールの「ENDLESS RAIN」は楽屋のモニターで見て、プレスルームで待機。ドラム・ソロもあったので（1日目はなかった）、きっと始まるまでにかなり時間がかかるだろうと思っていたら、終演後30分くらいでYOSHIKIが登場した。とてもにこやかで、あの激しいステージをやった直後とは思えない。コンサートに来ていたルース駐日アメリカ大使とのツー・ショットで、茶目っ気たっぷりに「客席でXジャンプをしてたらしいです」と裏話を暴露してた。それから、終わったばかりのコンサートや7人のX JAPANの感想、念願のアメリカ・ツアーの発表などがあり、YOSHIKIは前日よりもさらにガラガラな声ながら、力強く抱負等を語ってくれた。

その後は、会場内で開かれたアフター・ショー・パーティへ。メンバーも全員参加で、この席でもYOSHIKIはアメリカ・ツアーを絶対に成功させると決意を語っていた。アフター・ショー・パーティもその後に行われた打ち上げも、X JAPANらしい国際色豊かでゴージャスな雰囲気だったよ。まずはアメリカ・ツアー7か所、暴れん坊将軍の精神で頑張って来て欲しいなっ！

×月×日

Alice Nineの取材。ちょうど彼らは夏のツアー中だったので時間がとれず、他誌の撮影の合間にスタジオ内のカフェでインタビューをするという寄生虫攻撃をすることになった。撮影が終わったメンバーを、マネージャーさんが一人ずつカフェに連れてきてくれて、まるで個人面談のような取材だったよ。

最初にインタビューしたヒロトくんと、数日前の品川ステラホールのライヴについて雑談をしたのだが、「イントロのミストーンが惜しかった」といったら、「え、どの曲ですか？」と尋ねる。曲タイトルをド忘れしてしまったので、「家に帰って取材メモを見てみるよ」といったのだが、よほど気になったらしく、取材中「どの曲なのかなぁ」とつぶやく声が、何回も録音されてた。取材の前に、気になることをいってしまい、悪かったなぁと反省。

将くんは椅子に座った途端、いきなり「ありがとうございました」というの！「これから取材を始めようとしてるのに、何で締めちゃってるの？」とビックリしたら、「あ、すいません。遠いところまで来てくれて、ありがとうございましたっていおうとして、ちょっと省略しちゃったんです」だって。あ～、よかった。強制終了の「ありがとうございました」じゃなくて、ホっと胸をなでおろしたよ！てか、取材場所、代官山だったんですけど（笑）。

この日は待ち時間が長そうだから、空いた時間に原稿を書こうと思って、パソコンを持っていったのね。でも、接続がうまくいかなくて、ネットになかなかつながらない。そこで、達人Naoさま登場。チャチャっと何かやって、あっという間にネットを開通させてくれた。素晴らしい～！　ところが帰る時にパソコンを終了しようとしたら、なぜか終わってくれないの。仕方ないので他誌の撮影をやってるスタジオにパソコン持参でお邪魔して、Nao氏に助けを求めた。「マジッすか？」といいながら、達人がパソコンをチャチャっと触ったら、あら不思議、あっという間に終了することができた。さすがNaoさま！　……でも、パソコンが終わらなくなるなんて、どんな魔法を使ったんだろうね……（笑）。

×月×日

7月15日に亡くなった大佑くんお別れ会が、ZEPP TOKYOで行われた。照りつける日差しの中、大勢の関係者とファンの方たちが、彼にお別れをいうために集まった。

今はなくなってしまった某雑誌のインタビューで、「昔、すごく貧乏だった頃、道端に生えてる雑草を炒めて、食べたことがある。意外に、美味しいんですよ」といった後、ビックリしたわたしの顔を見て、無邪気に笑ってた笑顔が、忘れられない。

どうぞやすらかに。合掌。

×月×日

VersaillesのCCレモンホール・ライヴ。最近、短かったKAMIJOくんのヘアスタイルが、初期のオスカル風になってる！　本人は「初心にかえってみました」といってたけど、ホントに漫画から抜け出してきたみたいなルックスで、カッコよかったよ～！

×月×日

HOT WAVE公開収録のゲストに、SuGが来てくれた。前回、ゲスト出演してくれた時、shinpeiくんのことを「ippeiくん」と呼んでしまった大ボケなわたしだが、メンバーにとてもウケてしまい、今回の台本にもそれにまつわるネタが書いてある。「イヤだな～。できればスルーしたいな、このネタ」と見て見ぬふりをしていたのだが、本番の時、武瑠くんがごく自然な流れで「なぁ、ippei」って、話をshinpeiくんにフッたの。それを受けて何の疑いもなく「ホントは、どうなの？　ippeiくん」といってしまったわたし……。その瞬間、武瑠くんは、「やったぁ！」といういたずらっ子のように嬉しそうな表情。あ～、武瑠くんの罠にまんまとひっかかってしまった（涙）。

収録が終わった後、武瑠くんに「ちょっと穴をてみたら、面白いほどスコーンと落ちてくれまし と、笑われることしきり。Chiyuくんにも、「あまでストレートに落ちてくれると、こっちがビッしちゃいますよ」といわれてしまったよ。しょん……。

Biju漫画を描いてくれる人大募集！　詳しくは、http://amebl <http://ameblo.jp/gogobijutan/> gogobijutan/へ。

hudie.com

☆8月から公開収録に加えて、HOT WAVE LIV 始まってるよ！　10月のラインナップは、以下り。

【出演】摩天楼オペラ、KYOKUTOU GIRL FRI Administrator
【日時、会場】10月23日（土）
高田馬場ESPホール　club 1ne2wo（オールスディング）
【時間、料金】開場17:00/開演17:30
料金:前売券 ¥3,300（消費税込み）/当日券¥3,（消費税込み）
・公開収録
今月も、素敵なゲストを迎える予定。詳細は、ムページを見てね！
http://www.tvs-music.com/

☆VIJU☆LOVE☆NIGHT

10月から毎週第一日曜日に、ヴィジュアル系楽を楽しんでもらうクラヴ・イベントが開催さよ！　題して、「VIJU☆LOVE☆NIGHT」。かは、もちろん、新旧のヴィジュアル系オンリー！スプレ、リクエスト大歓迎。ゲストやプレゼントタンプ・ラリーも、予定してるよ～！　そして！の日は本誌編集長ポックンも、スペシャルDJと登場予定なのだ！
10月3日（日）open17:00 close23:00
渋谷SECO（渋谷駅から徒歩8分）
http://secobar.jp/
料金;2.300円+500円（ワンドリンク）/with イヤー 1.800円+500円（ワンドリンク）このジ左下の半券も、フライヤーのかわりになるよ。に来てね！

イガグリ千葉

イン入り千葉着用コスプレセットを1名様
サイン入りフォトを2名様に
物にはサインが入ります。

2 Plastic Tree

「テント②」のスタッフパスを1名様に

WORLD プレコン
恒例スペシャル企画

今年の夏は、本当に暑くて溶けちゃうかと思いました…。外は暑いし、会社の中は冷房ガンガンで冷凍庫の様だし、体調管理がこの夏の課題でしたね。なんとか、夏風邪をひくこともなく、夏を乗り切れ、ホッと一安心のぺろちゃんです。
さて、この号が発売される頃、ぺろちゃんはちょっと遅めの夏休みを取り、ふら〜っと海外へ飛び立っていたりいなかったり♪ そんなわけで、今月の画伯さんは、ぺろちゃんが大好きな犬神凶子嬢ですの〜♪

ムック

ン入りフォトを1名様に
物にはサインが入ります。

3 ViViD

サイン入りポスターを 名様に

4 the GazettE

オリジナルフォトを3名様に

10 heidi.

サイン入りフォトを４名様に（誰のが欲しいか書いてネ）
※現物にはサインが入ります。

hudie.com

8 ν [NEU]

タオルを1名様に

6 ギル×ラメ（ヴィドー

サイン入りチェキを各１名様に

11 Versailles

渋谷C.C.Lemonホールで降ったハート型に
サインを入れて3名様に

9 BugLug

サイン入りポスターを1名様に

7 TOON-FACTORY

P96～97に掲載されている、ポラにサインを入れて
（誰のが欲しいか書いてネ）
※現物にはサインが入ります。

イラスト：犬神凶子（犬神サーカス団）

プレコンWORLDアンケート用紙　VOL.213

住所	〒　　　　TEL　（　　）				
氏名	フリガナ	年齢		男・女	

★A. よかった記事の番号を良かった順に３つあげてください。

1	2	3

理由

★B. 好きなアーティスト・バンドは？
（　　　　）（　　　　）（　　　　）

★C. 最近気になっているアーティスト・バンドは？
（　　　　）（　　　　）（　　　　）

★D. 今月号に対する意見・不満・または希望企画を聞かせて下さい。

★E. 希望プレゼントの番号（P144～145）　　　番

アンケートのお願い

●アンケートに答えて、用紙を切り取り、はがきに貼って送ってね。コピー不
●宛先は〒104-8228　銀座６－２－３　Ｄａｉｗａ銀座アネックス5
音楽専科社　SHOXX 編集部　プレコン WORLD 係まで。
●締め切り：2010年10月21日当日消印有効
当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

◆今月の記事一覧（アンケート）

①the GazettE　②シド　③Plastic Tree　④ナイトメア　⑤Kagrra,　⑥AliceNine
⑧SuG　⑨イガグリ千葉（仙台貨物）　⑩heidi.　⑪ViViD　⑫ギルガメッシュ　⑬ギル&
ドール）　⑭ドレミ團　⑮THE KIDDIE　⑯Versailles　⑰AYABIE　⑱Mix Speake
⑲12012　⑳lynch.　㉑Sadie　㉒DOG inTheパラレルワールド　㉓アンド　㉔
FACTORY　㉕凛　㉖X JAPAN　㉗犬神サーカス団　㉘摩天楼オペラ　㉙イロクイ。
㉛おつかれサマー2010　㉜JACK IN THE BOX　㉝SCUBER DIVE 2010～渋谷
㉞SHOCK WAVEアポロ　㉟ケミカルピクチャーズ　㊱ギャロ　㊲Arc　㊳Jack Rose
ティーン　㊵Vallquar-ワルキューレ-　㊶杉本善徳（Waive）　㊷BORN　㊸DuelJewel
㊺spiv states　㊻ν〔NEU〕　㊼Lycaon　㊽amber gris　㊾早耳情報　㊿アーティ
51 Mission in ぼっくん　52 ロックンロール日記　53 ムック

――追加公演の恵比寿と、渋谷AXでのライヴを見ましたが、かなり雰囲気が違いましたよね。その間に何か心境の変化があったんですか。

「恵比寿のライヴの前に俺らはリハーサルもあったし、一番ピリピリした瞬間を越えて、ステージに立ってたんですね。でも、ファンはリハが無いので、その瞬間が最初なわけで。その温度差のことを考えられてなかったんで、リキッドルームはものすごい緊張感の中始まって、それにステージ上が耐えられなくなり、散らかった内容になったと思うんです（苦笑）。その後のミーティングで、これは発信者側としてやるべきライヴではなかったよねという話になって、ちゃんと意志を疎通させるために、本音で話したんです。それから大阪をやったんですけど、僕は大阪のライヴは、解散が決まってからのWaiveから考えるといいライヴができたと思っていて。それを終わって渋谷に帰ってきたときは、どこか慣れたところがステージにあったと思うから、リキッドルームとAXしか見てない人は全然違ったと思いますね」

――AXのセットリストは解散ライヴと同じでしたけど、解散ライヴがオーバーラップしたとかということはないですか。

「あんまり俺はないかも」

――あのときステージに立ってる気持ちは、どういうものでした？

「そんなに俺考えてないからね。今となってはWaiveが一番やりたいことってわけじゃないから。これが最後だみたいなステージ上での刹那的な思想は、11月29日でもないと思うんやけどな。だって、あくまで再演であり、終わりは2005年にあったんだもの。そのときで我々に関する時間が止まっている人を否定する気はないけど、今を俺は生きているし、一緒に進んでいる仲間もいますからね。進んでいるんです。」

――止まっている人たちの時間を進ませられればいいなとは思いませんか？

「それはめちゃめちゃ思う。だから、郷愁っていうのとは違うんですね。たとえそれが三たび来る終わりであっても、進ませるつもりでやってるから。終わっちゃうねみたいなことを、皆でジトジトと[illegible]合ってる感じじゃないから。べつにこだわりの再演でもないし、終わりを思い出すでもないし、そういう感情は俺の中では全くなかったし、たぶんこの先もないんです」

――進ませられたみたいな実感は得られましたか。

「あんまりないかな（苦笑）。ソロでステージの真ん中に立つようになって、今回また端っこで、どこまで俺がこの空間をコントロールしていいか悩んでしまう瞬間があったのは事実で、止まってるものを進ませるのも、本当に俺の役目なのか思考がグラグラと揺れてしまった。進んでくれてたらいいなとはもちろん思うけど、俺のあのときのあの行動が絶対進ませましたよみたいなはちょっとない」

――でも、11月の5本のライヴは善徳さんの手で仕切られるものなんですよね。

「俺が仕切りたいですって話をした以上、俺が思ってることをやるべきだと今は思ってますね。それでもね、今は人の声が届きやすい時代じゃないですか。アナログな頃とは違って、ファンメール、ブログ、ツイッターなどのネット文化で色々な意見が凄いスピード感で伝わって来るし、意見の方向性も様々だから、本音を出して、それを貫くのって勇気がいる時代だと思うんですよね」

――それは時間の経過と共に、意外な変化が関係してきましたね。

「そういう問題じゃなく俺に変化があったのかもしれないですけど（笑）でも、過去に縛られたままの力に俺が引っ張られたところがあったかもしれないし。とにかく非常に難しかったんです。客席が敵なのか味方なのかさえわからなくなった瞬間もたくさんあったし」

――11月のライヴでは、こうしようっていう考えがあるんですか。

「こういうの言うと文句言いたがる人が生まれるんですが、俺、Waiveが好きな人って、本当は皆俺を好きじゃないとおかしいと思うんです。だって、Waiveの存在を好きな人にとって、起源である俺は、感謝こそされても恨まれる筋合いはない存在だと思うから。だから、もっと堂々としてやるべきかなって。そういう態度でやれば、俺単位で見たときに正しいものになると思うんです。まずは自分単位を正しくしないと、このバンドとして成立しないだろってスタンスでいかないと少なくとも当時のソレと違ってしまう。逆に言えば、そうやることで、当時のソレっぽいものは一歩近付くんじゃないかな？と。」

集合体との軌跡。個への布石。

Waive 杉本善徳

Personal Interview

時間が止まっている人を否定する気はないけど、
俺は今を生きている。

7月9日、渋谷AXのステージで、Waive再演を延長することを告げたリーダー・杉本善徳。決して再演に前向きでなかった彼が、自らの手で行う再演は如何なるものになるのか。
彼自身、まだその核心を握ってはいないようだが、11月に行われる5本のライヴを通して、ファンに何かを与えたい気持ちはゆるぎない。
11月に行われる5本のツアーには、必ずや足を運んで、彼が私たちに見せてくれる最後のWaiveの姿を胸に刻みたい。

Interview:MIYUKI MURAYAMA

――それがやりたかったものなんですか。

「やるんだったらね。でも、それをやりたくて再演しようって俺が言い出したわけじゃないからね。やるなら、そうやらないと、っぽくないよねって思うだけですよ」

――すごく消極的に聞こえるんですけど。

「だから、7月で終わらなかったのかと」

――AXでは、自分の手でWaiveの幕を下ろすんだ、みたいな前向きな考えがあるように聞こえましたが。それは、やりたくないことではないですよね。

「この間のライヴで終わるよりはいいと思ってますよね」

――解散ライヴを何回もやるような状態になってでも、自分なりに幕を下ろすんだっていうことではないんですかね。

「これは理想にすぎないですけど、11月のライヴを決めたのが、7月4日の大阪公演とAXのライヴの間だったんだから『7月9日のAXで終わりじゃなくなりました』って発表すればよかったのに、AXの終演後に発表っていうルールを主催側に作られたから、解散を何度もやるみたいになったんですよ。だから、そのやり方に俺は反対していたし、二度と御免だと思ったので自分で梶をとろうと思ったんです」

――11月にまたライヴをやる話は、どういう形で決まったんですか。

「もともとやってくれとは言われてたんですけど、保留状態になっていて、リキッドルームやった時点で、こんなに他人の意志の狭間みたいなこと感じなきゃ駄目ならもうやりたくないって俺が言ったので、頓挫しかけていました。しかし、実は大阪公演だけセットリストを俺が組んだんですが、それによって自分が内容に関わることがWaiveにとってどれだけ大切かを感じ、同時に、再演がしっくり来ないのは自分で仕切ってないからかな、と感じたんです。で、もう数本やらせてよって話になったんですよ。それでAXの前日ぐらいに、会場と日程をスタッフに出させました」

――善徳さんとしては、どういう形で終わらせたいのか見えてるんですか。

「Waiveを再演して、それがそのときだけのもので、夢のようなものだったとしても、それを見たくて何千人っていう子が集まってくれることは大事にしたいとは思うんです。俺は生々しい人間だから、やってて自分らしくないなって思うし、終わってからも賛否両論あるし、いろんなこと言われてこっちとしてもだるいけど、ひとりでも喜んでる子がいるんだったらやってもいい部分は存在するって思うんです。そう思うからこそ、もう一回やるんですけど。一応、夢を見ていたい人の感覚を汲み取ってあげたい気持ちもあるしね。でも、汲み取るけど、いつまでもその夢を見てないでね、物語はソコで止まってるんじゃないっていうのが俺の感覚だから。止まってる奴ら全員、今回のが終わったら進もうよって。Waiveを忘れろ、嫌いになれっていう意味ではなく、好きな気持ちのままで一緒に。例えば解散でCDを聴けなくなった人が聴けるようになったとか、そういう変化があってほしいなっていう気持ちはあります」

――11月29日は、夢を見せながらも、これが最後だという現実を見せるものになるわけですね。

「それはそうなっちゃうんじゃないですか。これが最後だねってわざわざ言って、皆でジメジメなるのはイヤだし、じゃ〜ね〜みたいなんでいいんじゃないかなって気はしますけど。そのほうが気持ちいいと思うねんけどな。イヤなんかな。全然わからんねんな。皆、どんなん見たいんですかね。わかんないもんな、誰が何を求めてるのかなんて。俺、案外そこまで自己中じゃないし、人が求めてることから自分がひらめいたことにしかエンタテインメントはないと思ってるんで、お客さんが言ってることって絶対大事だと思うんですよ。それを否定するんだとしても、言われないと否定できないから。求められてることがわかれば、変わることがあると思うんですけどね。ただ、全然わからんもんな」

――せっかくなんで、納得のいく形で終わらせてほしいですけどね。

「俺らはともかく、見てくれる人が何かつかんでくれたらいいと思うんですけど。ハッピーになるライヴは無茶な話なんです。それで終わりってことがイヤな奴もいるんだから。でも、気持ちが伝わって、何かが掴めればなとは思います。それだけなんです。それが難しいから悩むんですけどね」

蝴蝶网
hudie.com

——ミニ・アルバム3ヶ月連続リリースの最後を飾る『BLACK DEAD MUZIC』が10月13日にリリースされます。

猟牙：3ヶ月連続リリースは、BORNの間口を広めることを意識した1枚目、マニアックな面をアピールした2枚目という流れで来て。今回は、メンバーがデモを持ってきた時点で、ストレートな曲が多かったんです。前の2枚は凝ったことを採り入れた曲が多かったんですけど、3枚目は一周してシンプルになった印象があって。だから今回は3枚の中では、いちばんロック色の濃い仕上がりになりました。

——ストレートさが爽快感につながっていますよね。歌詞の面で大きなテーマなどは、ありましたか？

猟牙：連続リリースの締め括りですけど、自分の中には、ここからが新しい始まりのような感覚もあるんです。『BLACK DEAD MUZIC』の曲を聴いて、まだまだBORNはいろんなことにチャレンジできるなと思って。そういうところから、自分に対しても、リスナーに対しても応援するような歌詞が自然と出てきました。“立ち上がれ！”的なことを歌っている「鴉」とかは、特にそうですね。「BUZZ」は、社会に馴染めなくて憂いに満ちてる人間を描いてて。自分自身にそういう面があるので、そこに焦点を当てて書きました。「white harmony」の歌詞は、自分の実体験が元になっています。架空のラヴ・ストーリーではなくて自分のリアルな心情を書いたし、こういう体験をする人は多いと思うので。共感してもらえるんじゃないかなと。

——同感です。みなさん、プレイ面に関してはいかがでした？

K：今回は、自然体で臨んだ印象が強いですね。難しいことをやろうといった意識はなくて、純粋に楽曲が呼んでいるギターを弾きました。今回の楽曲は、それがいちばんフィットしたので。難しかったのは、「[B.D.M]」のギター・ソロくらいかな。

KIFUMI：ベースの面で印象に残っているのは、「BUZZ」です。この曲は、最初にスタジオで合わせた時に、とりあ

はしないでおこうと思って。シンプルでいながら、この曲に必要なグルーヴが上手く出せて気に入っています。

Ray：俺も思い入れの強い曲を1曲挙げるとすると「BUZZ」ですね。最後のアルペジオに結構悩みました。あのパートは縦ノリで、すごく勢いがあるじゃないですか。そういうアグレッシヴな中に切ない音が入ってくると、グッとくるかなと思って。うまく自分の持ち味を活かせて満足しています。

TOMO：俺の中で印象が強いのは、「[B.D.M]」ですね。Kからデモを聴かせてもらう前に、リズム・パターンやテンポを口頭で聞いていたんです。特に問題ないなと思っていたんですけど、実際にデモを聴かせてもらったら、明らかにテンポが速くて(笑)。俺に聴かせる前に、テンポを上げたんだよな？

K：……うん(笑)。

TOMO：でも、カッコいいから、やるしかねぇなと(笑)。挑戦した結果、いいところに落とし込めたと思います。

猟牙：歌に関しては、今回は楽曲がストレートだったので、俺も小賢しいことはしないでおこうと思って。今回の3枚の中では、いちばんオトナな歌になったかなと思っています。

一同：ええっ!?

K：オトナまでは、いかないな(笑)。

猟牙：そうか(笑)。今回は、比較的ストレートな曲が多いじゃないですか。その中で自分らしさをどう出すか…ということで結構悩んだんです。バックがストレートなので、最終的な色づけに関してはヴォーカルにかかってくる比重が大きいので。でも、最終的にスンナリ出てきたメロディを採用することが多かったですね。いつもは、こねくり回すんですけど、今回は楽曲が呼んでいるメロディがいちばん合うなと思って。

——とはいえ、今回も多重人格系のヴォーカルを披露していますし、キャラの変わり方の素早さに圧倒されました。

猟牙：俺は、喜怒哀楽が激しいので、録りの時も、その場その場で感情の赴くままに歌っただけです。

——さすがです。3作連続リリースを経

連続3作リリース、ついに完遂!!
『BLACK DEAD MUZIC』リリース!!
とにかく、攻め続けることがBORNのスタイル

3ヶ月連続リリースの完結作、『BLACK DEAD MUZIC』を10月13日にリリースするBORN。3作を通して、現時点のBORNが持つ様々な面を見せて来た彼らだが、今回の『BLACK DEAD MUZIC』は、プルにバンドの特徴を伝える、ロック色の強い作品に仕上がったという。今回の3作で手に入れた武器は、11月7日・渋谷O-WESTで行なわれるワンマン・ライヴで表現するとのこと。BORNの最新のサウンドとステージを体感してほしい!!

Interview:TAKAYUKI MURAKAMI

います。最初は、無理なんじゃないかと思いましたから。今は、もっと面白いことをやりたい気持ちが強いですね。現時点で提示できるベストのものを3枚で出しつつ、すでに次のことを考えられるのはいいことだなと思って。すごく刺激を受けたレコーディングだったなと、改めて感じています。

KIFUMI：全曲で100%を出し切ったので、後悔はしていないです。でも、録ったテイクを家で聴いて、反省点や違うアプローチのアイディアとかが今でも続々と出てきてて。そういうところで、レコーディングが終わってから現段階に至るまで、音楽家として成長できたかなと思っています。

Ray：始まる前は不安になる要素もあったんですけど、いざ始まってみると、もう楽しいことしかなくて。レコーディング中は、早く自分のパートを録りたくて仕方なかったですね。次はKが録るよと言ってるのに、“じゃあ、俺が録ってきていいですか”みたいな(笑)。そういうレコーディングでした。あとは、やっぱり『BLACK THEORY MANIA』の「NEO SCREAM」でラップをしたことが印象に残っています(笑)。

KIFUMI：そういえば、Rayがいちばん美声だったという(笑)。すごくいい声で、ビックリしました

——えっ？ Rayさんは、普通に喋ってる声も美声じゃないですか？

KIFUMI：いや、普段のキャラが、それを忘れさせているんです(笑)。

一同：(爆笑)

TOMO：今回の3作は、鯛焼きみたいなものというか、頭から食べても尻尾から食べてもBORNを味わえるようになってて。それに、2枚目から入った人も3枚目から入った人も、全部を聴きたくなる力を持った作品になっています！ どこからでもいいので、食べてみてください！(笑)

猟牙：3枚作って、とにかくBORNは攻め続けることがスタイルだなと感じています。今回のプロダクトでは、いろんな曲調に挑戦しましたけど、やりたいことはまだまだたくさんあるので。どんどん攻めていくと

増していくという意味ではなくて、ポップなものや繊細なものも含めて、いろんなスタイルの楽曲を、貪欲に形にしていきたいと思っています。

——11月7日に、渋谷O-WESTで行なわれるワンマン・ライヴ「-NATIONAL BLACK PRODIGY-」も楽しみです。

K：このライヴに関しては、3枚のアルバムを完璧に再現してやろう…という感覚はなくて、久しぶりのワンマンでもあるし、BORNの全てを詰め込んだライヴにしたいです。3枚の世界観を表現するためのワンマンというよりは、この3枚で新たに手に入れた武器を使って最新のBORNを表現したいなと。凄まじいものにしたいとは思っているので、期待してててください！

KIFUMI：俺も3枚のミニ・アルバムの発表会をやる気はなくて。ずっと、この5人で培ってきた経験に、アルバム3枚を作ることで得たスキルが加わったBORNの姿を見せたいです。このライヴで初めてBORNに接する人も多いだろうけど、変にかしこまったりする気もなくて。俺らはいつもどおりのライヴをするし、来てくれる人たちに“アルバムを聴き込んでから来い！”とか言うつもりもない。それこそ、音源を一切聴かずに来てくれても構いません。BORNは、そういう人も虜にしてしまうような魅力を持ったバンドなので。まずは、ライヴに足を運んでほしいです。

TOMO：俺も、特に今回の3枚を重視する気はないですね。今までの楽曲たちも、俺らの見せ方も常に成長しているので。O-WESTでは、BORNの全てを味わってほしいと思っています。

Ray：ワンマンは、その時点の100%が出せればいいかなと思っています。俺ら自身がいいと思えるライヴをすれば、来てくれた人たちを巻き込めることは確実なので。特別なことはしないで、自分たちらしいライヴをしたいです。

猟牙：O-WESTのライヴは、“今どき、こんなに過激なヤツらがいたんだ”と思わせるライヴにします。その一言に尽きますね。俺らは、これからもアグレッシヴに突き進んでいきたいので、そういうBORNの意志が明確に伝わるライヴに

蝴蝶网
hudie.com

K (Gt)

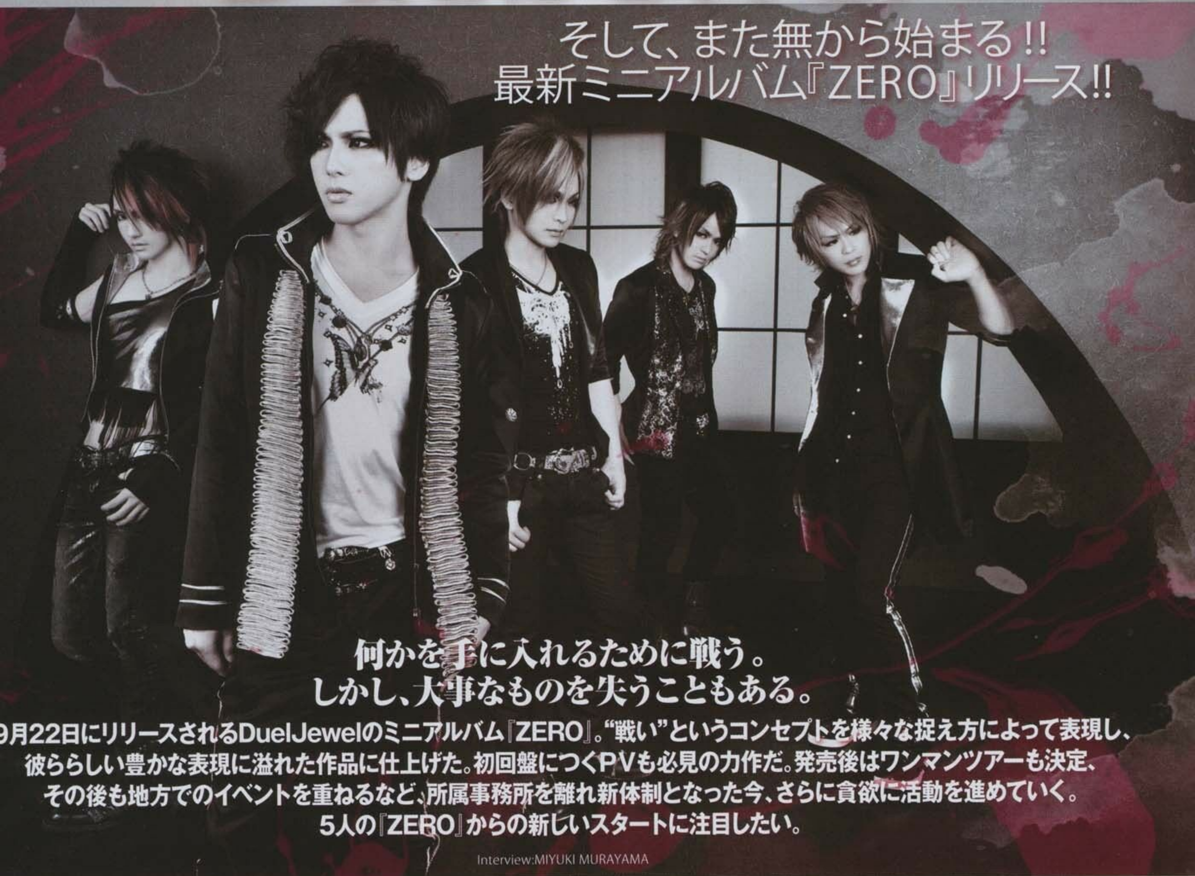
猟牙 (Vo)

Ray (Gt)

KIFUMI (Ba)

TO

DuelJewel



そして、また無から始まる!!
最新ミニアルバム『ZERO』リリース!!

何かを手に入れるために戦う。
しかし、大事なものを失うこともある。

9月22日にリリースされるDuelJewelのミニアルバム『ZERO』。"戦い"というコンセプトを様々な捉え方によって表現し、彼らららしい豊かな表現に溢れた作品に仕上げた。初回盤につくPVも必見の力作だ。発売後はワンマンツアーも決定、その後も地方でのイベントを重ねるなど、所属事務所を離れ新体制となった今、さらに貪欲に活動を進めていく。5人の『ZERO』からの新しいスタートに注目したい。

Interview:MIYUKI MURAYAMA

——今回のミニアルバムは、コンセプトとして"戦い"を掲げてるんですよね。

隼人：選曲の時点で、戦いとか攻撃的なイメージの曲があがってきてたんで、僕らもちょうどそういう時期だったし、"戦い"をテーマに一貫してやってみようと。

Shun：戦いって言っても、各々受け取り方は違ってたと思うんですけどね。

——ただ激しいだけではないですし。

Shun：それはうちの鉄則だと思いますね。音楽をやりたいんで。ただ暴力的なものだけをやってもしょうがないし。

——まず1曲目「Bastard」が一番わかりやすく攻撃的な曲ではありますが。

Shun：疾走感命で、あんまり難しいことはよそうと思って。けど、ばる君の太鼓なんかは逆にどっしりしてるところは注目してほしいですね。

ばる：僕は意識したつもりはなかったんですけど、そう言われますね。

——歌詞は、ストレートに"戦い"がテーマです。

隼人：わかりやすく、自分が書きたいことを最初に書きました。何かを手に入れるために戦うんですけど、取り返しのつかないぐらい大事なものを失うこともあるって言いたかったんです。だから歌うときも、戦わなければいけない悲しさとか寂しさも出しました。

——「朧月」は和の雰囲気が印象的です。

Shun：でも、和のエッセンスは後つけだったんです。単純に、サビでハーフテンポで、開けるようなカッコいい曲を作りたいなと思って作ってたんです。

——PVでもそこで光景がガラッと変わりますね。

ばる：映像でパッと開ける感じをどう出そうか、監督と話したり、祐弥とかも参考資料を持ってきたりして、すごい上手くハマったなと思います。

祐弥：サビでバーンって開ける感じをどういう風に表現したらいいか考えて、バーンっていう感じを出すために、皆バーン!って動いてます。

一同：(笑)

——歌詞にも和のイメージがあって。

隼人：「Bastard」で現代の戦いをテーマにしたんで、他の曲では各々のストーリーとか主人公を考えて、各々の立場でんですけど、戦わなきゃいけないっていう、そういう美しさを書きたいと思って。

——「楓」と「Code:Liberate」がNatsukiさんの曲ですね。

Natsuki：「楓」は歌謡曲っぽい間にクラシックを挟むのが面白くて、「月光」がハマりました。

Shun：そのベートーベンの上にバッハがいるんですけど(笑)。

——「Code:Liberate」は、デジタルっぽいサウンドが特徴的ですね。

Natsuki：これは激しい曲が書きたいなって思って。手拍子したり、こぶしあげたり、ライヴの風景を考えました。

——そして最後がバラード「Lost」です。

Shun：完全に僕の趣味で作りました。うちっぽいバラードと差別化を図るために、アコギを前面に出してます。

隼人：これは「楓」のアンサーソングになっていて。「楓」の主人公は女性で、そこに出てくる男性の気持ちを書きました。

——「戦い」をいろんな形で捉えた作品になりましたね。

隼人：考えようによっちゃあ、初めてのがっちりしたコンセプトアルバムですね。

——発売後にはワンマンツアーも決まっています。

ばる：なぜここに来てゼロなのか感じ取ってほしいし、僕らにとって重要なターニングポイントになるツアーじゃないかと思ってるんで、その辺を見て下さい。

——その後もイベントが詰まってますね。

Shun：四国は初上陸なんで、今から うどんが楽しみです(笑)。

Natsuki：食い倒れツアーです

——祐弥さんからもツアーに向けて一言。

祐弥：え〜と、え〜と、これからツアー行くんで、待ってて下さい!

Shun：それだけかよ。

一同：(笑)

隼人：新体制になって、まず自分達がやりたいことを詰め込んだので、メンバーの気持ちがこの『ZERO』に集約されてると思います。各地でひとつのライヴを作り上げるのを楽しみに待っていて下さい。

Natsuki：さすがだな。

祐弥：それ、俺が言ったことにしといて

蝴蝶网 hudie.com

Romancing Ka.Ma

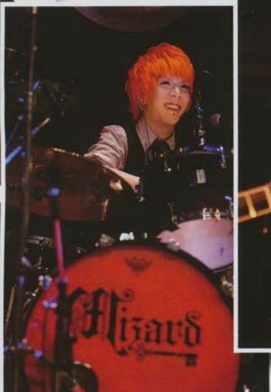
蝴蝶网
hudie.com

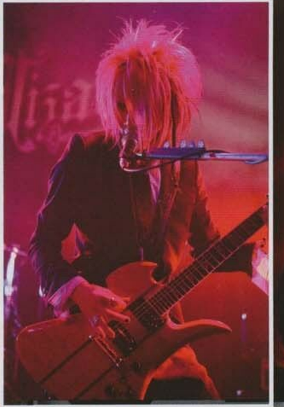
Live at 渋谷O-WEST 2010.8.14

8月14日、Shibuya O-WEST。5年間に渡り活動を続けてきた、現メンバー5人でのWizardが終止符を打った。バンドを抜け、新たな道を進む者(HIRO·咲綺·悠～はるか～)。バンドに残り、Wizardの名を未来に刻もうとする者(kaito·ますみ)。さまざまな想いが交差する中行われた、5人のラストライヴの模様を、みなさまにもお伝えしよう。

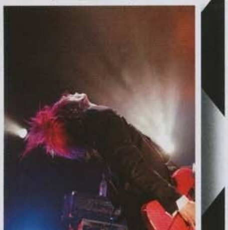
Wizard

Photography:HIROE YAMAUCHI (PROGRESS-M)
Report:MIDORI SAITO





【セットリスト】1.独裁 2.resistance ance 4.回り道 5.帰らぬ背中 6.Vo り雨 8.LOVE HUNTER 9.BORDER 10.雪崩レ般若 11.FateShipsEveR ★dragstar 13.lovelybaby 14.くち 15.カクテル 16.華一匁 17.ドレンチ ル 18.Sadistrip 19.双界録 20.R-LA 21.マテリア 22.FRIENDS
EN～オカマのヨーコ～EN1.トラップ EN2.DRIVE DREAMER EN3.ピュア EN4.星に願いを…



爆剤に「独裁」がスタートすると、メンバーに想いを伝えるべく、必死に手を広げるファンの熱気が5人を包んだ。

〝とりあえず楽しもう!〟そんなkaitoの言葉を受け止めながらも、バラードが続くと、やはり徐々にラストライヴの重みが心を圧迫していく。フロントのメンバー同士が肩を組みじゃれ合う姿。それを見守る悠の微笑み。その全てが、ファンにはいつも以上に輝いて見えたはず。そして遂には、「雪崩レ般若」で声を震わせたkaitoにつられ、すすり泣く声さえ漏れだした。それぞれが、1曲1曲の中にWizardとの日々を想い描き、噛みしめている様子が痛いほどに伝わる。それでも、自分達の築いてきた成長の証を印そうと、メンバー達はパワフルなライヴを展開。5年間で培った息の合ったパフォーマンスを見せ、会場を湧かせた。

だが、いつも通りのテンションでアンコールまで駆け抜けた5人も、ラストナンバー「星に願いを…」を演奏しきると、滲み出す涙を堪えきれずにうつむいた。

〝強いて脱退の理由を挙げるなら、今の5人の限界まで僕らはやったってこと。本当は、僕は今日でステージに立つのを最後にしようと思ってた。でも、また自信を持てる時が来たらステージに戻ってこようって思えました〟(HIRO)

〝いつもニコニコしてドラムを叩いてるって言われるけど、それはみんなが笑顔をくれるからです。ありがとう〟(悠)

〝本当にごめんなさい。ただ、音楽を続けて頑張ればまたみんなの笑顔を見れるかな…とか、いろいろ勉強して力をつけて帰ってきたいと今は考えてます〟(咲綺)

〝本当は俺も辞めようかなって思ったけど、やりたかったんだよね。思ったよりWizardが人生になってたの! みんながいつ戻ってくるかわからないけど、また会えたらいいなって思う〟(ますみ)

〝始まってしまったものは必ず終わってしまう。でも、永遠に近いものを信じて僕らは共に歩いてきました。今までありがとうございました!〟(kaito)

そう、泣きじゃくりながら語った5人の背中を押すように、いつまでも温かな拍手が鳴り響いていた。

(問)東京都新宿区横寺町32 TR神楽坂Bld.
☎03-3268-8803(平日12～18時) http://w-i-z.com/

蝴蝶网
hudie.com

-savor the flavor-

Live at 下北沢ERA 2010.08.28

spiv states

五感で味わうフレーバー!!

ファースト・ワンマンライヴ完全レポート!!

RIによるspiv statesが、8月28日、下北沢ERAで初ワンマンとなる『savor the flavor』を行った。そこには、彼らならではの熱く楽しいロックと、彼らならではの明るくキラキラした世界が広がっていた。月17日には2ndマキシ『グライダー』をリリースし、12月4日には新宿Nine Spicesで2ndワンマンも控えている。強力な個性を武器にした彼らが、新しいシーンを切り開いていくのか。こうご期待!

Report:MIYUKI MURAYAMA Photography:EMI NAITOH

「ようこそ」

会場限定シングル『3匹のMUSIC』でお馴染み不可思議な関西弁のキャラクター"キャンディー"が話すナレーションが、開演前の会場に流れ出した。そこから、spiv statesの世界へと一気に引き込まれていく。それはきっと毒々しいほどカラフルな夢の国。

SEと手拍子が広がるステージに、JUNが文字通り飛び込んできた。1曲目は「VIVA SONIC」。明るい弾けるようなロックにたくさんのこぶしが振り上げられる。IORIも表情を輝かせながら、そんなオーディエンスの様子を見つめている。二人からは、楽しみつつも、この1stワンマンにかける意気込みが伝わってくるよう。気持ちのいい緊張感だ。JUNがギターを置いて、ハンドマイクで「MICROBE」を歌い始めた。すっかりヴォーカリストとしてのたたずまいもサマになり、その歌唱力も一気に増してきているようで、ステージには安心感が漂う。安定した歌声は、しっかりとメロディーと言葉を伝え、彼らの音楽の魅力を表現していた。「ぶんぶん丸、ひとつよろしく!」と始まったのは、「SPRITE」。その言葉に応え、タオルを振り回すオーディエンス。ノリやすさ、わかりやすさも、彼らの音楽の魅力のひとつ。歌の合間に、JUNは言葉を巧みに操り、会場全体を上手く盛り上げ、オーディエンスを乗せていく。そこには、フロントマンとしての可能性がまだまだ秘められているように感じられた。

JUNが気さくに話しかけると、会場は和み、オーディエンスからは笑みがこぼれる。「跳ぼうぜ!」と始まった「POWER CAPSULE」は、澄み切った空間を感じさせるノビノビとした歌とギターで、ゆったり広々とした世界を作り上げた。続けて、2ndマキシ『グライダー』をプレイ。IORIはずっと笑顔を浮かべ、キラキラ光るステージをさらに輝くものにする。表情豊かな歌で曲の世界観を作り上げた「TOKAGE」では、ヘドバンの激しいノリも見せ、「MUSIC」ではお祭りのように皆で騒ぎ、一緒にジャンプ。曲ごとに色を変えつつも、そのめまぐるしさ、色鮮やかさは、彼らならでは。

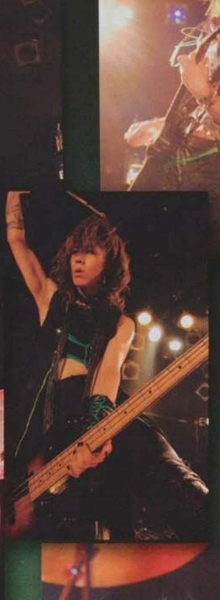
つ確実に熱くなる会場へ、リズミカルなベースが印象的で、ポップな「KIDS FACTORY」が始まり、そこへシャッフルのリズムで畳みかけて、VIVAコールへ。JUNの叫ぶ「VIVA!」の声に合わせて、「VIVA!」で応えるオーディエンス。ますます盛り上がる会場へ、スピードを急上昇させて「S.O.S」が続く。そこで「ゲームやるよ」と始まったのは、なぜか青汁、もしくはせんぶり茶を飲む罰ゲーム。IORIもせんぶり茶を飲むはめになり、「苦いぜ」と一言。会場内はアットホームな一体感に包まれ、皆で馬鹿騒ぎする雰囲気でいっぱいになった。そしてそのままの勢いで、こぶしを振り上げる熱いロックの「ワウワウ(仮タイトル)」、フロアがヘドバンで揺れる頭でいっぱいになった「FAZZY-MAN」と続き、最後は「MISS WORLD」。オーディエンスに語りかけるような台詞から曲が始まると、曲の世界へと誘って、最後まで丁寧な歌を聴かせた。JUNは、歌でも喋りにおいても、初ワンマンとは思えない安定感を見せ、しっかりとライヴを引っ張っていった。そしてIORIは、ギターがほぼ彼自身のみになったこともあって、確実なプレイで主張し、ギタリストとしての存在感を示した。これまた彼にとっては初体験だったのかもしれないが、そうとは思わせない自信溢れた様子で、結果spiv statesとして、大成功と言えるライヴになったことだろう。

アンコールでは、二人の浴衣姿も披露、さらに「学園天国」のカバーも飛び出し、大サービス。その中でも、「フレーバー」に込められた、音楽をすることの喜びや楽しさは、彼ら自身の音楽に乗ってひしひしと伝わってきた。最後の「spiv states」をプレイし終わると、お手を拝借と手拍子で、元気いっぱいにライヴは締めくくられた。

最後まで楽しそうに歌い続けたJUNと、実は腰を痛めていたにも関わらず、それを一切感じさせることなくステージを務め上げたIORI。二人とも満足そうであったが、同時にまだまだ出来るという自信に溢れてもいた。これからの活動に向けて、いよいよ本格的に走り始め

みんなで限界点を超えて行こう！
νワンマンライヴ速報!!

2010 2nd oneman tour［wave of the future］
Live at 原宿アストロホール2010年9月4日



【SET LIST】
M1.existence"oblivio
M2.エコー
M3.アマオト
M4.GoSick
M5.ゆびさき
M6.壊れた夜、並べた嘘
M7.想
M8.neu-track001
M9.in my secret...
M10.e.y.e
M11.-wave-
M12.ReaL ×××
M13.ピンクマーブル
M14.LIMIT
M15.スプラッシュ！
—encore.1—
En1.PULSE
En2.スクールアタックガールc
En3.New World
—encore.2—
En4.START

今日を皆と過ごせて本当によかった!!

9月4日、原宿アストロホールで2ndワンマンツアー『wave of the future』のファイナルを迎えたν。バンドとしての成長はやはりステージにはっきりと表れるもので、この日ステージにいた5人からは、心から楽しんでいる様子と同時に、その音楽をしっかりとファンに届け、ライヴ空間を作り出している頼もしい姿がうかがえた。次のワンマンは、4月3日渋谷CLUB QUATTRO。この勢いのまま成長を続け、その日を迎えてもらいたい。

Report:MIYUKI MURAYAMA

が、メンバーの口から飛び出すほど、熱い盛り上がりを見せたこの日のワンマン。会場は常にファンの大きな歓声がいっぱいに広がり、メンバーは笑顔を浮かべながら精一杯のプレイでそれに応えていた。前回のO-WESTでのワンマンでも、彼らの成長ぶりは明らかだったが、それからまた彼らはしっかりと歩みを進めていたようだ。

ソールドアウトした会場に、気合いに満ちた表情でメンバーが登場し、迫力いっぱいの「existence "oblivion"」でライヴがスタートした途端、会場のテンションが一気に上がる。それに負けないほど、みつは険しい表情で、このライヴにかける意気込みと真剣さをあらわにしていた。それから、フロント4人が同じ動きを見せた「エコー」、一糸乱れぬ決めでまとまりを見せつけた「アマオト」と、メンバーは気合いを如実にプレイやステージングに表しながら、ライヴを進めていく。「最高の夜にしようぜ！」みつが力強く呼びかけると、そのまま勢いよく「GoSick」が始まる。ラップや優しいサビのメロディーを歌うみつの表現力が光ると共に、余裕さえ感じられる。続く「ゆびさき」では切ない想いをたっぷりと届け、そのまま「壊れた夜、並べた嘘」へ。楽器隊のサウンドはドラマチックに世界を作り上げ、そこへ朗々としたみつの歌声が響く。さらに、ピアノの切ない調べと共に「想」が始まる。淡々と想いを秘めるような歌は、サビでゆったりと広がるサウンドと共に、感情が溢れ出していく。全身から振り絞るように声を出すみつ。楽器隊の4人はプレイに集中し、曲に対する深い想いが会場を埋め尽くすようだった。

たっぷりと聴かせた後は、「neu-track001」から、再びノリよく走り出し、それまでじっと聴き入っていたオーディエンスも元気よく跳ね、右へ左へモッシュで大騒ぎ。デジタルを多用したサウンドが何と言っても魅力の彼らだが、ライヴでは人間味溢れる熱い空気と、それを楽しむ感情が、まさにLIVE（ナマ）の空間を作り出す。そしてそこには5人の個性溢れるキャラも加わり、彼らならで

そのまま一気に終盤戦へとな[illegible]タオルを振り回し、ステージ近く[illegible]ディエンスが詰めかけた「R[illegible]華遊のラップと手拍子で、皆で一緒に盛り上がった「ピンクマーブル」。そ[illegible]前らの限界を見せてくれ！」と[illegible]「LIMIT」では、タイトルどおり、その場にいた全員が各々の限界まで全[illegible]かっていく。そこに広がったのは[illegible]熱い一体感。そして心地よい疲労感も加わる。ライヴならではの感覚を全[illegible]が共有する中、本編最後に送られたの[illegible]スプラッシュ！」。気持ちよさそ[illegible]ビと歌うみつは、元気いっぱい想[illegible]を飛ばすように、笑顔と視線をふりまいていた。幸せそうな笑顔がステージとフロアに溢れ、最高の夜になったことをその表情が物語っていた。

それから、楽しさを抑えきれないといった表情のまま、元気いっぱいアンコールに現れたメンバー。名古屋で出し切って声が出なくなったタクミは、「声変わり（笑）」と話して笑いを誘い、大きな羽をつけて実写版ティンカーベルと化した華遊は、「超幸せ」と、にやけっぱなしで顔をフニャフニャにさせた。そして、「ニューをやっていて一番いいライヴ」という言葉がヒィロの口から飛び出すと、Яe:Iも「感無量です」と言葉がみつからないほどに感激した様子。そのまま、「今日を皆と過ごせて本当によかった」と、熱い想いを語った。そしてみつは、「男限定ライヴをやりたい」と一言。男性ファンが力強く応える姿に、これからのニューの新しい可能性を目にしたような気がした。

4月3日、渋谷クラブクアトロでのライヴ告知の後、2回目のアンコールでこの日最後に届けられたのは「START」。最後の最後まで熱い眼差しでフロアをみつめるみつ。その表情は真剣そのものだ。スピード感いっぱいに全力疾走し、再びここからスタートを切った彼ら。ありがとうと繰り返し告げながら、ニューであることの喜びを噛みしめているようだった。この日の感激が、これからの歩みを支え、彼らをもっともっと前に進めていくことだろう。

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

Lycaon 極上の『EROS』

伝えたいことは全て詰め込んだので すごく愛着のある曲です。

新ベーシストに緋遊を迎え、第二期に突入したLycaon。このメンバーになって初となるシングル「EROS」が10月6日にリリースされる。今回のインタヴューでは、作品についての概要と、リリース後に行なわれる主催公演イベント（こちらは何と、チケット代が千円！）と、初のワンマンツアーについて語ってもらった。エロスを味わいたい人は、ぜひ会場に足を運んでくれ！

Interview：ERI MIZUTANI

――第二期に突入しましたね。

悠希：はい。ベースに緋遊くんが加入してからコンセプトも一新、現在はロックバンドに相応しく、荒っぽいステージングを展開しています。

サトシ：まだまだですけど、今は怖いものはありません！

――初のシングルもリリースされますが、タイトルがまた過激で。

リト：「EROS」というタイトルとおり、エロスな部分はもちろん、ロックなところがかなり出ているので、今までのリカオンとは違った感じに聴こえるかもしれません。でも、その分、1人1人の個性がはっきりと出てきたかなって。

――輝きが増しましたね。

悠希：第二期になってバンドの色を全面に押し出したいと考えたとき、自分の持っている良いところをもっと前に出していこうって思ったんです。それで、見た目もそうですけど、音もきらびやかなものになったんですよね。

サトシ：新作は、僕が基盤となる曲を持っていったんですけど、みんなで作り上げた作品になったと言えます。

――SEから始まるところが良くて。

リト：「EROS」という曲が次に入ることはわかっていたので、いかにこの曲に繋げることができるかっていうのを意識してSEは作りましたね。喘ぎ声とかも入っているんですけど（笑）、雰囲気のあるバンドサウンドが出せたと思います。

サトシ：このSEがあるからこその「EROS」なんですよね。ちなみに、「EROS」は僕が作ったんですけど、これは初めての挑戦でもありました。大人な感じの曲にしたかったので曲に大きな波を付けていないんです。一定の波の中でいかにサビを引き立てるか、そこを意識して作りました。

緋遊：これ、サー坊の家に何時間もこもってベースの音を考えていったんですよ。楽曲とうまく絡めていくにはどうしたらいいか、ということをかなり考えていたんですね。それなのに、サー坊ときたら、後ろで眠そうにしているという。

悠希：（笑）。歌詞はかなりエロくなったかな。なので、歌い方に関してもエロさを出していったんですけど、割りと自然と歌えましたね。

リト：聴いているとこっちが恥ずかしくなってしまいますけど（笑）。

――「PINK MILK WITH DRUGS MY DRINK」も「EROS」に負けないぐらいアダルティ。

リト：エロティックだけど、ライヴで楽しめる曲ですね。〝エロ激しい〟じゃないですけど、魅せるバンドである以上、こういった曲は必要かなと。

サトシ：既にライヴで披露しているんですけど、お客さんの反応も良いんですよ。

リト：みんなが楽しいって言ってくれるのが、僕にとって1番嬉しいことなので、本当に作って良かったです。

――「Mary」はサトシさんの曲ですね。

サトシ：前の2曲は完全に新しいアプローチなんですけど、この曲は今までのリカオンの要素も入れつつ、新しくしていったという曲ですね。それぞれの個性を思い切り出したかったので、みんなには好きにやってもらいました。

緋遊：これは案外すんなりいきましたね。とりあえず、サビがかなりキャッチーなので、そこを活かせるようにしたいと思って弾いていきました。

悠希：この曲だけ、歌も歌詞もタッチが違うんです。第二期に向け、自分の気持ちを乗せてみようかなと。なので、エロスというテーマからは外れてしまうかもしれないんですけど、伝えたいことは詰め込めたので、すごく愛着のある曲です。

――この作品がリリースされた後には、ロープライスな主催イベントと、初のワンマンツアーが決定しています。現時点での意気込みを聞かせてもらえますか？

サトシ：じゃあ、僕は、毎回違った顔でギターソロを弾きます！

緋遊：すごいな（笑）。そうですね、第二期リカオンはエロさを追求して新しい世界観を見せていこうと思っているので、俺が、グチョグチョになるぐらいの絶頂まで連れていってあげます。

リト：ライヴでのアプローチはかなり変わってくると思うので、見せ方はもちろん、MCにも楽しみにしていてほしいですね。

悠希：期待していて下さい！僕は、自分の生まれ故郷の岐阜でのワンマンが楽しみですね。実家から近いんで、自転車で入りしようかなと企んでいます（笑）。

オトナの知らない世界で——amber gris

蝴蝶网 hudie.com

amber grisの1stミニ・アルバム『チャイルド・フォレスト』は、素晴らしい作品である。曲を聴き終わった後、40秒の静寂が辺りを包む。その余韻に浸るもよし、自分なりの回答を得るもよし、集中してその時間を楽しんでもらいたい、とメンバーは言う。百聞は一見にしかず、ぜひとも、その耳でこの音を確かめてほしい。深すぎる世界が、ここにはある——。

Interview:ERI

——まずは、作品に込めた想いを聞かせて下さい。

手鞠：『チャイルド・フォレスト』、すなわち、〝誰にも踏み入れることの出来ない聖域〟。そこは、子供たちだけが知っている秘密の隠れ家という感覚でもあるし、脳内にあるその人だけの世界という意味でもあります。大人が知らない隔離された場所という意味を込めて、このタイトルを付けました。

——それだけに、曲の並び順には気を遣ったのでは？

手鞠：そのとおりで。今回の作品で特にこだわったところは、曲の並び順だったんです。これだけ素晴らしい曲が出来たので、どの流れを持ってきたら作品を活かせるのだろうということを第一に考え、並び替えていきました。最終的には、この並びに対し、敢えて名前を付けるとしたら…というところから作品タイトルが

kaname：1曲目の「悲しみ暮れる黄金丘陵（コートドール）」と2曲目の「over flow girl's sick」は僕が作ったんですけど、一度、〝amber grisらしさとは何だろうか〟という考えを取り払ってから作っていったんです。そうして枠組みを払うことで新しい部分が見えてきた曲でもありますね。

悠真：両方とも、今までにないパターンの曲調だよね。amber grisって、フワッとした音楽性が前に出ているバンドだと思うんです。けれども、この2曲に関しては、ロックな感じというか、amber grisが表現する、男らしい部分がすごく出ているんですよ。

殊：いわゆる、攻めの部分ってやつだね。

——そこが面白いですよね。きっと、以前なら、世界観重視の曲を並べていたかもしれないですし。

wayne：そうですね。あと、前と違う点というと、自分のことになってしまうんですけど、全曲を通して単音弾きをしているんです。俺、曲を作る時はコード進行から作っていくんですよ。それは単純に、コードを弾くのが好きだから。でも、ここに収録されている新しい曲は、ほとんどコードを弾いていないんです。コード感を出すのに、2人して和音を弾く必要はないという考えからで。だったら、1人1人が思い描いているイメージどおりのメロディを散りばめられたほうがいいかなって。

——そこは曲作りに大きく影響してきそうですね。

wayne：「Amazing world」では、夢で見た景色を曲にしたんですけど、そういった意識が自然と出たかなと。ちなみにこの曲は、夜、平原に佇む自分が流星群を眺めていた…というところから広げていって。

殊：そういう発想が自然と出来るのって羨ましいよ。

wayne：(笑)「snoozy and roll」も俺が作った曲なんですけど、これはバンドで初めて合わせた曲で。

——どうりで、雰囲気が違うなと。

kaname：正直、入れるかどうしよ

次に向けての楽しみが感じられる作品

新曲が増えていく中、初期の楽曲を入れることに意味があるかなと。そうでないと『チャイルド・フォレスト』は成立しないと思ったので。

——なるほど。その前の「海風と雨と最後の手紙」は手鞠さん作曲ですね。

手鞠：僕、作る際に鍵盤を駆使して作っていくんですけど、そうすると他の楽器では再現するのが難しくなってくる部分が出てきてしまうんですよね。でも、そんな僕のわがままを、ギター陣は見事に表現してくれたと思います。

悠真：ギター陣、泣きのフレーズというより、泣きながらのフレーズになっていたからね（笑）。

wayne：そして、ラストの「深緑のローレライ」は、「snoozy and roll」同様、感覚の違う曲だと思います。この曲も、夢を見たところから始まるんですよね。幼い頃、遊びに行った海辺で偶然にも台風に遭遇してしまうんです。泳いでいる最中だったので平衡感覚を失ってしまったんですけど、ふと目を開けてみたら、水面に降り注ぐ日の光と、波に打ち上げられた砂の景色が眩くて。そんなイメージを音にしてみました。その音を聴いてどう思うかは、人によって違うと思うんですけど。

悠真：デモに「溺れる曲」と書いてあったんです。なのでドラムは、そこに入っている音を元に、波のようなリズムを作り出していったんです。

殊：僕は、海の底をイメージしましたね。なので、太くて深い音を表現したんです。

手鞠：歌の面では、表現がどうこうというよりも、別の人間が歌っているかのような歌い方を部分部分でしているので、そこを注意して聴いてもらいたいですね。まぁ、それは全曲に言えることですが。きっと、ライヴだと違った表情になると思うので、聴き比べるのも面白いかな。

——そこは、10月17日に高田馬場エリアで行なわれる1stワンマン『失意の森の少女』で確かめたいと思います。

手鞠：それまでに、曲を育てていければいいなと思いますね。あとは、自分たちがこうだと思うものを貫いていきます。

20数年。異端児の軌跡を辿り、咀嚼し、新たな血とする。

2008年に劇的な復活を遂げ、現在は本格的に海外での活動をスタートさせているX JAPAN。8月31日に香港で記者会見を行い、再始動と海外ツアーを発表したLUNA SEA。さらに、年末に初めての東京ドーム公演を控えているガゼット、シド、幕張メッセでのライヴを発表したナイトメア……等々、最近、新旧のヴィジュアル系バンドのめざましい活躍が、注目を集めている。そんな中、スーパー・コンピレーション・アルバム『原点』が、10月6日にリリースされることになった。タイトル通り、ヴィジュアル系の原点となるバンドをズラリと揃えた豪華なラインナップのアルバムである。現在、活躍しているヴィジュアル系バンドのメンバーが、「影響を受けた」「大好きだった」と公言しているバンドの音が一気に聞けるのだから、ファンにとっては非常に嬉しい1枚だ。中には名前は聞いたことがあるけれど、なかなか音を耳にする機会がなかった……というバンドもいるかもしれない。是非、じっくりと聞いて、ヴィジュアル系の歴史や魅力を再確認してもらいたい。

収録曲は、全15バンド15曲。どの曲も今聞いてもまったく色褪せていない、輝きを放っている名曲ばかりである。

1．gravity／LUNA SEA

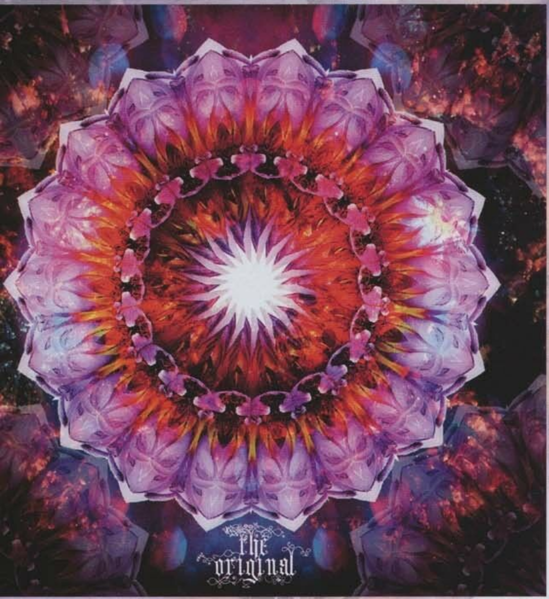
現在活躍しているバンドに多大な影響を与え、フォロワーの多さでも群を抜くモンスター・バンド。数多くのヒット曲の中からこのアルバムに収録されているのは、終幕の年2000年3月にリリースされたINORAN原曲のミディアム・バラードである。この印象的なサビのメロディは、聞いた人の記憶の中に必ず残っているはず。

2．唄／BUCK-TICK

1987年デビューと、実はX JAPANよりも2年早くデビューしている彼ら。現在までメンバー・チェンジもなく、活動し続けているその姿勢は、多くのミュージシャンからリスペクトされている。この曲は95年にリリースされたシングルで、骨太なロックながら、音処理等細部に渡り彼らの斬新なチャレンジを感じることができる。耽美派の元祖ともいわれ、カリスマ的な人気を誇っている。

3．Zi:Kill／HERO

V系オムニバスアルバム 『原点～ここからみんな始まった～』 ドロップアウト！



【収録楽曲】
- LUNA SEA / gravity
- BUCK-TICK / 唄
- Zi:Kill / HERO
- SHAZNA / Melty Love
- La'cryma Christi / 未来航路
- D-SHADE / ENDLESS LOVE
- Lastier / SkY
- PIERROT / ラストレター
- Plastic Tree / スライド.
- ROUAGE / 白い闇
- Laputa / meet again
- CASCADE / コングラッチェ
- PENICILLIN / ロマンス
- SIAM SHADE / 1/3の純情な感情
- MALICE MIZER / 月下の夜想曲

2010年10月6日発売

10月6日に、ヴィジュアル系の歴史を網羅したといっても過言ではないオムニバス・アルバム『原点』が、リリースされる。ヴィジュアル系バンドがヒット曲を連発していた90年代後半～2000年代前半を中心に、15バンド15曲が収録されている。いったいどんなバンドのどんな曲が、入っているのだろう？ このアルバムを聞く前の手引きとして、気になる収録バンドと楽曲をひも解いてみよう。

TEXT: AKEMI OHSHIMA

UNA SEA、GLAYなどのそうそうたるバンドが所属していた）。「ポジパン」というジャンルを広めたバンドとしても、知られている。この曲は91年に、メジャー2作目として発表された。2回の武道館公演を成功させた後、94年に解散。

4．Melty Love／SHAZNA

ヴィジュアル系の申し子ともいえる彼ら。キュートに女装したIZAM（Vo）を中心に、軽快なポップロックのヒット曲を連発。黒系が多かったヴィジュアル系シーンに、カラフルな新風を送り込んだ。メジャー・デビュー・シングルのこの曲は、80万枚の大ヒットを記録。

5．未来航路／La'cryma Christi

90年代後半に盛り上がりを見せた第二期ヴィジュアル系ブームの中心的存在のバンド。TAKAの高音ヴォイスとテクニカルな演奏が人気を集め、FANATIC◇CRISIS、SHAZNA、MALICE MIZERと共に、ヴィジュアル四天王と呼ばれていた。この曲は98年に発売された大ヒット曲。

6．ENDLESS LOVE／D-SHADE

広島出身の4人組。スピード感のあるロックを得意とし、ポストGLAYと呼ばれていた。この曲は98年にリリースされた3枚目のシングルで、複数のタイアップがつき、彼ら最大のヒットとなった。

7．SkY／Lastier

新潟出身の4人組。98年にこの曲で、メジャー・デビュー。ヴォーカル石山竜一の抜群の歌唱力とメロディアスな楽曲が注目を集めるが、2001年に解散。

8．ラストレター／PIERROT

ヴィジュアル四天王の後（2000年代前半）、シーンを牽引した代表的なバンド。99年、メジャーデビュー半年後に武道館公演を行うという当時の最短記録を持っている。この曲は99年に発表された4枚目のシングルで、切ない歌詞とメロディがファンの心をつかんだ。

9．スライド．／Plastic Tree

93年から活動を開始し、ドラマーのメンバーチェンジをしながら、現在まで息長く活動している彼ら。浮遊感漂う独特の音楽性で、近年は年一回の武道館公演

た7枚目のシングルで、彼らの代表曲。

10．白い闇／ROUAGE

「名古屋系」と呼ばれた名古屋出身バンドの代表格。黒い服とメロディアスかつ激しい音楽性で、人気を集めた。この曲は、97年にリリースされた3枚目のシングルで、KAZUSHI（Vo）の艶のある歌が印象的。

11．meet again／Laputa

名古屋出身の4人組。いかにもヴィジュアル系らしいドラマティックな楽曲を得意としていた。この曲は、97年にリリースされたシングル。

12．コングラッチェ／CASCADE

一風変わったキッチュなヴォーカルと、テクノサウンドをロックに導入したスタイルが注目を集めた。この曲は2000年にリリースされた11枚目のシングル。2002年に解散するが、2009年に復活し、現在も活動中。

13．ロマンス／PENICILLIN

インディーズで絶大な人気を誇った後、96年にメジャー・デビュー。華麗なルックスで「もっともヴィジュアル系らしいバンド」といわれるが、笑いの要素も多く、そのギャップもまた人気の要因だった。この曲は、98年に90万枚の売り上げを記録した大ヒット曲。2007年にベーシストのGISHOが脱退したが、現在は3人で活動している。

14．1／3の純情な感情／SIAM SHADE

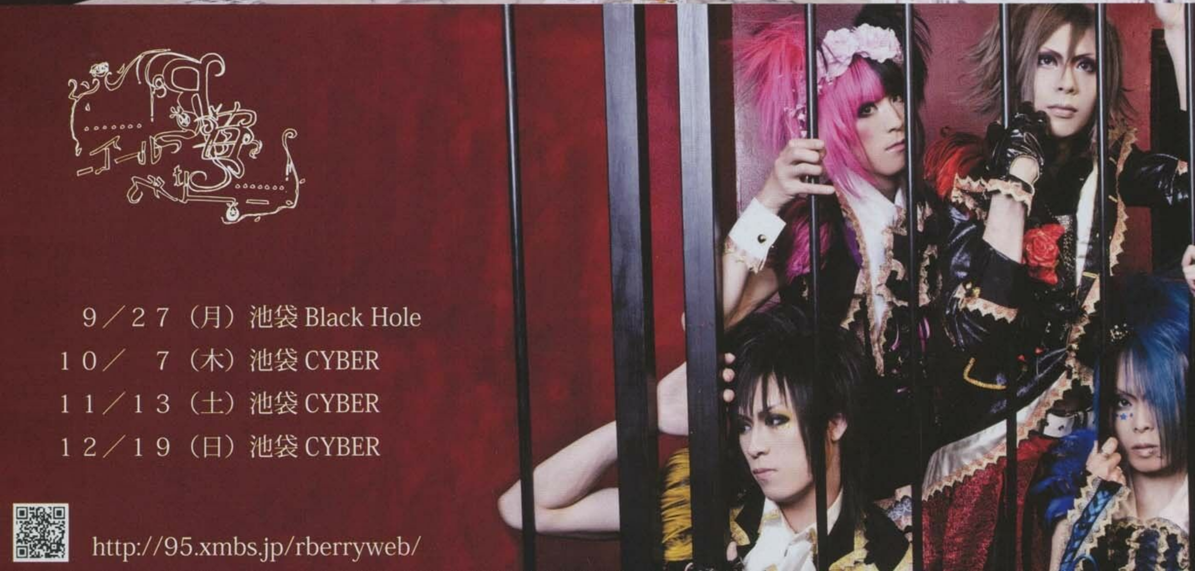
93年に正式結成。当初は出身が同じだったことから、LUNA SEAの弟バンドのようにいわれていたが、ツイン・ヴォーカルというスタイルとソリッドな音楽性で、じわじわと人気を拡大。97年に発表したこの曲の大ヒットにより、メジャー・アーティストの仲間入りを果たした。2002年に武道館ライヴで解散。

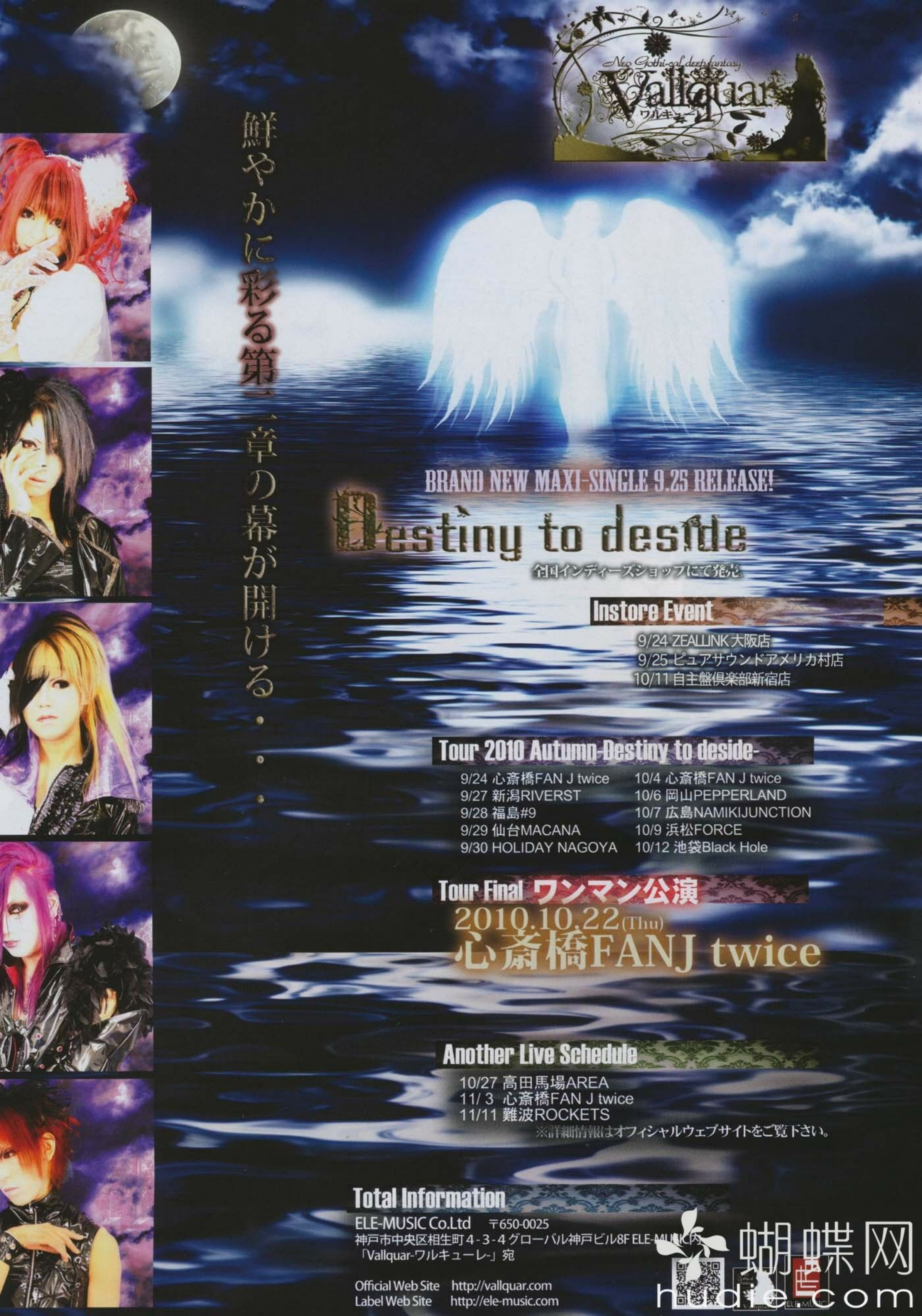
15．月下の夜想曲／MALICE MIZER

究極のヴィジュアル系といわれた超個性的なアート集団。完璧に作りこんだヴィジュアル、クラシックからノイズまでとりこんだ多彩な音楽性、ステージで全員が楽器を持たずに踊るという衝撃的なパフォーマンスで、一躍注目の的となる。この曲は98年にリリースされたシン

evo'L 蝴蝶网
hudie.com
１０／１３（水） 渋谷 O-EAST
１１／ ６（土） 神楽坂 EXPLOSION

White Palette
１１／ ２（火・祝前日） 池袋 RUIDO K3　ワンマン
O.A : BLOUD ／ Trifolium
１２／１８（土） 渋谷 CRAWL　ワンマン


９／２７（月）池袋 Black Hole
１０／ ７（木）池袋 CYBER
１１／１３（土）池袋 CYBER
１２／１９（日）池袋 CYBER
http://95.xmbs.jp/rberryweb/


Neo Gothi-cal deep fantasy
Vallquar
ワルキューレ
鮮やかに彩る第二章の幕が開ける・・・
BRAND NEW MAXI-SINGLE 9.25 RELEASE!
Destiny to deside
全国インディーズショップにて発売。
Instore Event
9/24 ZEALLINK大阪店
9/25 ピュアサウンドアメリカ村店
10/11 自主盤倶楽部新宿店
Tour 2010 Autumn-Destiny to deside-
9/24 心斎橋FAN J twice
9/27 新潟RIVERST
9/28 福島#9
9/29 仙台MACANA
9/30 HOLIDAY NAGOYA
10/4 心斎橋FAN J twice
10/6 岡山PEPPERLAND
10/7 広島NAMIKIJUNCTION
10/9 浜松FORCE
10/12 池袋Black Hole
Tour Final ワンマン公演
2010.10.22(Thu)
心斎橋FANJ twice
Another Live Schedule
10/27 高田馬場AREA
11/3 心斎橋FAN J twice
11/11 難波ROCKETS
※詳細情報はオフィシャルウェブサイトをご覧下さい。
Total Information
ELE-MUSIC Co.Ltd 〒650-0025
神戸市中央区相生町4-3-4グローバル神戸ビル8F ELE-MUSIC内
「Vallquar-ワルキューレ-」宛
Official Web Site http://vallquar.com
Label Web Site http://ele-music.com
蝴蝶网
hudie.com

3rd Album『Heart Infection 02』収録曲の着うた配信開始。PCでの視聴も可能です。
着うた
配信中！
蝴蝶网
hudie.com
週末は渋谷の路上ライブで
Jack Roseと楽しもうぜ!!
Jack Rose
2010.10.14
Jack Rose Aki Birthday ONEMAN LIVE
THE LIVE STATION
open 18:30 start 19:00 前売り ¥2,800 当日 ¥3,300 (Drink代別) チケット www.jackrose.net
東京を中心に、Re:i (Vo)・Shige (Gt)・Aki (
で活動中のヴィジュアル系ハードロックバンド。
メロディをデジタルとハードなサウンドで融合させ
曲をメインに様々な音楽性がある。ストリートライ
鍛え上げられたライヴパフォーマンスは必見である
シークレットメール
NEW SINGLE DLJR-1009 ¥500 TAX IN
10.14 発売決定
『シークレットメール』
01. シークレットメール / 02. RED KING
NOW ON SALE
Heart Infection 02
3rd Album
『Heart Infection 02』
DOJR-1008
¥2,000 TAX IN
6th Maxi Single
『TRY-angle』
DOJR-1007
¥1,500 TAX IN
2nd Album
『Heart Infection 01』
JRCR-1005
¥2,000 TAX IN
5th Maxi Single
『ネバーランド』
DOJR-1006
¥800 TAX IN
全国主要CD販売店、及びインディース取扱店、Amazonにてお買い求めになれます。お問い合わせ：bazooka-Music 〒160-0022 東京都新宿区新宿2-1-15ふるたかビルB1 TEL 03-3353-7208 発売元：bazooka-Music 販売元：ダイキサウンド株式会社
今なら無料でサンプルCDプレゼント中！ 詳しくはオフィシャルホームページで！ www.jackrose.net/

little HEARTS. ON LINE STORE !!

little HEARTS. 通信販売開始★

little HEARTS. の HP からご注文下さい。http://littlehearts.jp

◆掲載の商品は全て通信販売でお買い求め頂けます。

◆インストアイベントの参加チケットや特典もお付け致します。

little HEARTS.

...e HEARTS. 2nd Anniversary Special Event Live

MY little HEARTS.

Special Edition Vol.2

9.19 SUN Zepp Sendai

OPEN/16:00 START/17:00 【チケット料金】前売 1F オールスタンディング・2F 指定席：¥4,800（消費税込み）ドリンク代別途

...5 SAT 渋谷 C.C.Lemonホール

OPEN/16:00 START/17:00 【チケット料金】前売 全席指定：¥4,800（消費税込み） ディスクガレージ 03-5436-9600

当日 全席指定：¥5,800（消費税込み）

NIGHTMARE

MERRY

[Lc5]

Sadie

DELUHI

THE KIDDIE

SKULL

ナイトメア

2010.10.20

10th anniversary album

「Historical ~The highest NIGHTMARE~」

【CD2枚組】価格：¥3,500

【収録予定曲】全24曲収録予定

仙台貨物

2010.10.06 ALBUM

NEW LIVE DVD & LIVE CD

「トゥアー 2009 腐況の巣～仙台貨物 FOREVER～」

【DVD】¥5,800【CD】¥3,000

教えて!! ...ンギャルちゃん事情

...!リトルハーツのお客様に

...ーしちゃいます (^o^)/

玲良ちゃん、スッピーちゃん

...っちゃった CD

...rossa『Varbarossa』

...rossa『Varbarossa』

...『SHINING WORLD』

...『サイケデリコ∞サイケデリコ』

...ワクした出来事・・・

...Stripper の live。

...48 のインストアのチェキ撮影会。

...今!! ウォークマンで何聴いてる!?

...Stripper『decade』／【ス】己龍『朔宵』

...ハーツ付近の暇つぶしスポット

...US7F

...、スッピーちゃん的おすすめ 3 バンド

...Stripper・the GazettE・ダウト

玲良ちゃん、スッピーちゃん

ありがとうございました♪

来月号はあなたかもー(ﾟoﾟ)

INSTORE EVENT REPORT

SKULL

～『「陽炎」「蒼炎」』、『Nancy』購入対象イベント～

8/13 17:00よりSKULLトーク＆握手＆サイン会＋プレゼント抽選会を開催しました!!

司会はKoutaさんです!トークでは恒例の、お客様からの質問コーナーでは、

「何フェチですか??」の質問に、皆さん「うなじ」や「お尻」等々(笑)・・・

そしてプレゼント抽選会では、ピアスやアイマスクと言った各メンバーからのプレゼント

、最後に!特賞プレゼントとして、「陽炎」「蒼炎」の巨大パネルもプレゼント!!

当選されたお客様おめでとうございます!!

握手＆サイン会も大盛り上がりでした★

SKULLの皆さん、「MY little HEARTS. Special Edition Vol.2」にも出演が決定

皆様、ぜひチェックしてみて下さいね♪

THE KIDDIE 2010.9.22 SINGLE『Calling』

初回限定盤【CD+DVD】

¥1,575

CD：1.Calling 2.PAIN

DVD:『Calling』MUSIC CLIP

通常盤【CD】

¥1,260

CD：1.Calling

2.PAIN

3.泡とサイダー

...ORE EVENT

...)14:00 【PENICILLIN】トークイベント

...)15:00 【rice】アコースティックライブ＆トーク＆握手会

...)17:30 【Dolly】トーク＆握手会

...)15:00 【ダウト】トーク＆握手＆プレゼント抽選会

...)18:00 【HERO】トーク＆サイン＆撮影会

...)15:00 【イロクイ。】トーク＆握手＆30秒写真撮り放題

...)18:00 【ドレミ團】トーク＆握手＆サイン会

...)18:0... 【DuelJewel】トーク＆握手＆ゲーム大会

...)14:0... 【ベル...】...＆サイン会

...【...-ANDROID】...＆握手＆サイン会

...)18:0... 【己龍】...＆握手＆撮影会

...)15:3... 【Lycaon】トーク＆握手＆サイン

little HEARTS.

little HEARTS. 携帯サイトでも

インストアイベント情報や

STAFF ブログがご覧頂けます！

アクセス方法■JR仙台駅より徒歩15分■地下鉄広瀬通駅西4出口より徒歩1分

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网 hudie.com

little HEARTS.
ビジュアルミュージック＆ファッション＆コミュニティスペース【リトルハーツ】
http://littlehearts.jp
〒980 8546 宮城県仙台市青葉区一番町3-
仙台フォーラス7 F
営業時間 OPEN 10:00 / CLOSE 20:30
TEL 022-264-8003 ※年中無休

9/22 イロクイ。

MINI ALBUM
『確率的です。でも、法則です。』
初回盤 ¥2,800/ 通常盤 ¥2,200
イベント

9/29 Sadie

SINGLE
『クライモア』
限定盤 ¥1,890/ 初回盤 ¥1,575
オリジナル特典考案中 !!

10/6 rice

ALBUM
『Neil』
¥3,500

9/22 ヴァルナ
SINGLE
『silent prayer』
¥1,575

9/22 DuelJewel
MINI ALBUM『[ZERO]』
初回盤 ¥2,625/ 通常盤 ¥2,415
初回盤：コメントDVD+アーティストフォト集合
通常盤：アーティストフォト個人SET
イベント

9/22 THE KIDDIE
SINGLE
『Calling』
初回盤 ¥1,575
通常盤 ¥1,260
オリジナル特典考案中 !!

9/22 lynch.
SINGLE
『JUDGEMENT』
初回盤 ¥2,000/ 通常盤 ¥1,000
初回盤：コメントDVD/ 通常盤：アーティストフォト

9/22 the Gaz
SINGLE
『Red』
初回盤 ¥1,785
通常盤 ¥1,260
オリジナル特

9/22 ベルベット
SINGLE『東京』
A-TYPE¥2,100/B-TYPE¥1,890/C-TYPE¥1,575
A-TYPE：コメントDVD+アーティストカード集合
+アーティストカードランダム1枚(個人5枚)
B-TYPE：アーティストカードランダム2枚(個人5枚)
C-TYPE：アーティストカードランダム2枚(個人5枚)
イベント

9/22 Tu [ism]
SINGLE
『I stilt...』
¥1,890
アーティストフォト

9/29 WHITEBLACK
LIVE DVD
『VISUAL SCREAM Vol.6
WHITEBLACK
LAST TOUR
「-Full explosion voice-Film」』
¥3,990
アーティストフォト

9/29 ケミカルピクチャーズ
SINGLE
『世界を撃った男 case5 ピースメーカー』¥2,100
コメントDVD+アーティストフォト

9/29 Mix Speake
SINGLE
『Midnight Queen』
¥1,260

10/6 0801 弐 209336
SINGLE
『暴飲暴食のキミとパズルルーム』
¥1,260
アーティストフォト

10/6 ワン★スター
SINGLE
『MIRACLE MUSIC SHOWTIME』
初回限定盤 ¥1,600

10/6 Lycaon
イベント
SINGLE
『EROS』
¥2,100

10/6 Re:dis
SINGLE
『Rock your spirit.』
¥1,600

10/6 ギルガメッ
SINGLE
『イノチノキ』
初回盤 ¥2,625
通常盤 ¥1,260

10/6 Royz
SINGLE
『AREA』
¥1,260
アーティストフォト

10/6 SEX-ANDROID
ALBUM
『B-BONUS-THEATER』
¥3,150
イベント

10/6 heidi.
ALBUM
『閃光メロウ』
初回 A¥3,675
初回 B¥3,675
通常盤 ¥3,150

10/6 仙台貨物
ALBUM
NEW LIVE DVD & LIVE CD
「トゥアー2009 腐況の風～仙台貨物 FOREVER～」
【DVD】¥5,800【CD】¥3,000

10/20 ナイトメ
10th anniversary album
『Historical～The highest NI

10/20 the fool
FULL ALBUM
『[[Crazy frogs around the world]]』
初回盤 ¥3,500/ 通常盤 ¥3,000
サイン入りアーティストフォト

10/20 ギャロ
MINI ALBUM
『東京破廉恥大サーカス - 新世界 -』
¥2,000

10/20 DoG in The パラレルワールド オーケストラ
SINGLE
『POCKET★ROCKET』
初回盤 ¥1,890
通常盤 ¥1,260
初回盤：コメントDVD+アーティストフォト集合
通常盤：アーティストフォト個人4枚SET

10/27 ALiBi
SINGLE
『SUMMER PARTY』
¥500
コメントDVD+アーティストフォト

11/10 -OZ-
FULL ALBUM
『Rouge』
初回盤 ¥3,990
通常盤 ¥3,150

11/10 凛
SINGLE『Metamorphose』
TYPE-A¥2,100/TYPE-B¥1,890
TYPE-A：コメントDVD+アーティストフォト集合
TYPE-B：アーティストフォト個人SET

11/10 Called≠Plan
SINGLE
『「Radical,Cherry Boy&Girl」』
TYPE-A：¥1,575
TYPE-B：¥1,575

11/10 Alice Nine
Alice Nine
SINGLE『Stargazer』
初回限定 A：初回限定 B 各 ¥1,890
通常盤 ¥1,260

11/24 Kra
ALBUM
『GURICO』
初回盤 ¥3,990/ 通常盤 ¥3,150

11/24 葵 from 彩
SINGLE
『タイトル未定』
初回限定 A¥1,500
初回限定 B¥1,200
通常盤 ¥1,200

AND Seven missions Official announcement in 2010

Mission.6

9.29（水）New Single

「bluff」「アネモネ」2タイトル同時リリース！

「bluff」

★ A TYPE（EAR-015A）¥1,890（Tax in）【CD】1.bluff　2.Beretta[six-fourteen]【DVD】「bluff」PV＋OFF SHOT
★ B TYPE（EAR-015B）¥1,575（Tax in）【CD】1.bluff　2.Beretta[six-fourteen] 3.GUT

「アネモネ」

★ A TYPE（EAR-016A）¥1,890（Tax in）【CD】1. アネモネ　2.NERVE【DVD】「アネモネ」PV＋OFF SHOT
★ B TYPE（EAR-016B）¥1,575（Tax in）【CD】1. アネモネ　2.NERVE 3. 恋スル@ GIRL

★初回出荷特典：AGENTバトルカード　【CD info】ONG DISTRIBUTION（☎03-5784-9662）

「bluff」「アネモネ」発売記念 IN STORE EVENT

■10月18日(月) 仙台 HMV 一番町店　■10月21日(木) 郡山 三野屋　■10月23日(土) 池袋ブランドX
■10月24日(日) 新宿 ZEAL LINK　■10月28日(木) 大阪 ZEAL LINK　■11月1日(月) 博多 SKULL ROSE
■11月5日(金) 名古屋 HMV 栄　■11月13日(土) 新宿 自主盤倶楽部　■11月14日(日) 渋谷 ZEAL LINK

Mission.7

六大都市単独公演巡業任務「炎上地獄轟」

■10.19（火）仙台 HOOK
OPEN18:00　START18:30【問】キョードー東北（☎ 022-217-7788）

■10.20（水）郡山 #9
OPEN18:00　START18:30【問】キョードー東北（☎ 022-217-7788）

■10.29（金）大阪 FANJ-twice
OPEN18:00　START18:30【問】キョードーインフォメーション（☎ 06-7732-8888）

■10.31（日）博多 DRUM SON
OPEN17:00　START17:30【問】ビーアイシー（☎ 092-713-6085）

■11.04（日）名古屋 ell. FITS ALL
OPEN18:00　START18:30【問】サンデーフォークプロモーション（☎ 052-320-9100）

－TOUR FINAL－

11.21（日）渋谷O-EAST
OPEN17:15　START18:00
【問】DISK GARAGE
（☎ 03-5436-9600/ 平日 12-19 時）

※ 前売りチケットをご購入の上、ご入場されたお客様にアンド未発表音源「上等宣言」プレゼント!!

●チケットぴあ（P コード：111-196）●ローソンチケット（L コード：72068）
● e+（http://eplus.jp）●渋谷 ZEAL LINK 店頭（☎ 03-5784-9666）

【チケット】全国一斉発売中！
Standing ¥3,150（Tax in）[DRINK 代別] ※ O-EAST は Standing ¥3,675（Tax in）[DRINK 代別]

LIVE Schedule

■9月23日（木）高崎 Club FLEEZ ■9月25日（土）高田馬場 AREA
■9月26日（日）HEAVEN'S ROCK さいたま新都市 VJ-3 ■12月8日（水）鹿児島 SR HALL
■12月9日（木）熊本 DRUM Be-9 V2 ■12月11日（土）博多 DRUM SON

ECCENTRIC AGENT 本部
【http://and-eccentricagent.com】
OFFICIAL MY SPACE
【http://myspace.com/andweb】

music.jp
「bluff」「アネモネ」先行着うた配信中!!
9月29日（水）より着うたフル、ムービー配信開始!!

蝴蝶网 hudie.com

アンド

-ECCENTRIC AGENT-

蝴蝶网
hudie.com

NIGHTMARE

蝴蝶网
hudie.com

10th anniversary album
HISTØRICAL
～The highest NIGHTMARE～

2010.10.20[wed] Release!!

【CD2枚組】 VPCC-84168 ¥3,500.-(tax in)

【収録予定曲】

【 •-Believe- * •Over * •HATE * •茜 * •Varuna * •東京傷年 * •シアン * •時分ノ花 * •Яaven Loud speeeaker * •livEVIL * •Fly me to the Zenith * •極東乱心天国 * •the WORLD •アルミナ •レゾンデートル •このは •DIRTY •White Room •MELODY(original ver.) •Lost in Blue•NAKED LOVE •the LAST SHOW •Can you do it? •D線上のトラジェディ（未発表新曲） ※「*」は新録曲 】

NIGHTMARE 10th ANNIVERSARY SPECIAL ACT Vol.3 HISTØRICAL ～The highest NIGHTMARE～

10.22(fri) 三郷市文化会館 大ホール
OPEN 18:00 START 18:30 info. ディスクガレージ 03-5436-9600

10.30(sat) 水戸市民会館
OPEN 16:30 START 17:00 info. ディスクガレージ 03-5436-9600

11.1(mon) 市川市文化会館 大ホール
OPEN 18:00 START 18:30 info. ディスクガレージ 03-5436-9600

11.3(wed) 栃木県教育会館 大ホール
OPEN 17:00 START 17:30 info. ディスクガレージ 03-5436-9600

11.5(fri) 中野サンプラザホール
OPEN 17:30 START 18:30 info. ディスクガレージ 03-5436-9600

11.10(wed) 神戸国際会館こくさいホール
OPEN 17:30 START 18:30 info. キョードーインフォメーション 06-7732-8888

11.12(fri) 静岡市民文化会館 中ホール
OPEN 18:00 START 18:30 info. サンデーフォークプロモーション(静岡) 054-284-9999

11.13(sat) 広島アステールプラザ 大ホール
OPEN 16:30 START 17:00 info. キャンディープロモーション 082-249-8334

11.18(thu) ホクト文化ホール 中ホール
OPEN 18:00 START 18:30 info. キョードー北陸チケットセンター 025-245-5100

11.19(fri) 新潟市民芸術文化会館劇場
OPEN 18:00 START 18:30 info. キョードー北陸チケットセンター 025-245-5100

11.21(sun) 金沢市文化ホール
OPEN 16:30 START 17:00 info. キョードー北陸チケットセンター 025-245-5100

11.23(tue) 八王子市民会館
OPEN 17:00 START 17:30 info. ディスクガレージ 03-5436-9600

11.26(fri) 郡山市民文化センター 中ホール
OPEN 18:00 START 18:30 info. キョードー東北 022-217-7788

11.27(sat) さいたま市文化センター 大ホール
OPEN 17:00 START 17:30 info. ディスクガレージ 03-5436-9600

12.3(fri) 倉敷市芸文館
OPEN 18:00 START 18:30 info. キャンディープロモーション(岡山) 086-221-8151

12.4(sat) 京都会館 第二ホール
OPEN 17:00 START 17:30 info. キョードーインフォメーション 06-7732-8888

12.17(fri) 福岡市民会館 大ホール
OPEN 18:00 START 18:30 info. キョードー西日本 092-714-0159

12.19(sun) 中京大学文化市民会館 オーロラホール
OPEN 16:00 START 17:00 info. サンデーフォークプロモーション 052-320-9100

12.20(mon) 大阪国際会議場 メインホール
OPEN 17:30 START 18:30 info. キョードーインフォメーション 06-7732-8888

12.23(thu) 仙台サンプラザホール
OPEN 17:00 START 17:30 info. キョードー東北 022-217-7788

【チケット料金】全席指定：¥5,500(tax in) ※3歳以上有料、3歳未満入場不可 【一般発売日】9月4日(土) 【枚数制限】お1人様4枚まで。

NIGHTMARE 10th ANNIVERSARY SPECIAL ACT FINAL
HISTØRICAL
～The highest NIGHTMARE～ in Makuhari Messe

OPEN 16:00 START 17:00 info.ディスクガレージ 03-5436-9600

2010.12.25(sat)
幕張メッセ国際展示場

【チケット料金】スタンディング：¥6,300(tax in) ブロック指定・整理番号付き ※3歳以上有料、3歳未満入場不可【一般発売日】11月13日(土)
★チケット先行予約受付開始!【受付URL】http://eplus.jp/xx-nmare/【受付期間】9月21日(火)21:00～9月30日(木)23:00 ※お1人様4枚まで

Nightmare Official website [http://www.nightmare-web.com/] Nightmare Official mobilesite [http://m.nightmare-web.com/] http://www.vap.co.jp/ vap

Printed in Japan
雑誌04537-11
特別定価 1,250円
本体 1,190円
株式会社 プロスト
凸版印刷株式会社
4910045371101
01190

蝴蝶网
hudie.com

MUCC BOOK

ムックブック

蝴蝶网
hudie.com

ムック 逃れられない『輪』の中で――

メビウスの輪のように終わりと始まりは常に表裏一体で、その流れの中に在る輪廻転生の営みは古の頃より今に繋がれ、そしてこれからも未来永劫に続いてゆく。ムックが10月6日に発表するアルバムのタイトルは、その名も"業"を意味する『カルマ』。時にたゆたい、そして時には流れに逆らいながら、彼らは今回もあらたな真理をそこに見出したようだ。自業自得とは、よく言ったものである。

Photography:SHIGERU TOYAMA (starmine)
Hair & Make-up:DAISUKE"BOB"TANAKA (JET SPEEDeR)
Styling:YOSHIAKI TAKAMI
Design:ASAKA YAMAMOTO (glitter glow)
Interview:YUKI SUGIE

――今回のアルバム『カルマ』は、前作『球体』がハードロック色の強い作風だったのに対し、より広い視野をもって作られた作品、という印象が強いように感じます。

ミヤ：結果、〝そう〟なりました。今回は出て来てた曲自体がいろいろだったし、そこからアルバムに入れる曲を選んでく段階でも、何となくそういう方向になっていってたんで。

――ひとつには、前作『球体』から1年7ヶ月のブランクがあったということも、影響しているのかもしれませんね。

達瑯：改めて1年7ヶ月って考えると、そんなに?ってなっちゃうけど、ずーっとツアー廻ったり、イベント出たり、シングル出したりで、何だかんだ動き続けてはいたんで、そこまで（時間が）空いたっていう感覚は、自分たち自身だとあんまりないんっすけどね（笑）。

――それだけに、これまでの期間に無意識下で蓄積されてきたものも、今作中には音として入っているのではないかなと。あるいは、意識的に〝次のアルバムではこんなことをやってみたい〟と考えていたことも、あったのではないです?

達瑯：今回、俺が曲を持ってく時によく考えてたのは、アルバムの中心にこんな曲を持って来て…みたいなことじゃなくって、アルバムの一部にこういう雰囲気の曲があったらちょっと良いんじゃないかな?っていうことだったんですよ。だから、アルバムの全体像っていう部分では俺もこうしたい、みたいなのは特になかったかなぁ。

――なるほど。達瑯くんが今作中で書き下ろしているのは、「零色」、「A.」、そして「随落」の3曲ですが、その中でも「随落」は、特に際立った存在になっているように聴こえます。そもそも、これだけほとんどが英語詞で出来た曲というもの自体、大変珍しいですものね。

達瑯：これはね、歌詞を目立たせたくない曲だったんです。サウンド全体で聴かせたい曲にしたいなって思ってて、どっちかって言うとインストに近い感覚の雰囲気重視な曲にしたかったから、サビのメロディなんかもわざとぼやかしたし、詞もほぼ英語にして言葉が聴き手の頭に直接入らないようにしてみました。

ミヤ：曲調としては斬新というより、それこそ昔のムックがやってそうな感じもあるんだけど、そこに英詞が乗った時の斬新さがある曲になりましたね。音的に言うと、久しぶりにこういう方向からのアプローチを、あの頃より大人になった自分たちがやってる、っていう感じ。

――そのアダルティで粋な味わいは、YUKKEくんのベースワークによるところも大きいのでは?

YUKKE：はい。この曲はアップライト・ベースが合うと思ったんで、ゆったりした音で弾いていきました。今までは、アップライトを攻めな姿勢で使うことのほうが多かったんですけど、こういう使い方もやっぱり楽器の特性が活きるなぁ、って思いました。

――SATOちくんのドラムにも、ここでは渋い大人っぽさが漂っていて、他の曲でのプレイとは一味違いますよね。

SATOち：いや、そんなことないですよ。曲は大人でも、僕の技術はまだ子供だなって、今回これで改めて思い知らされちゃいました（苦笑）。

――確かにこういう曲はごまかしがきかない分、難しそうですけれど。

SATOち：いわゆる、レガート（連続する音を滑らかに聴かせる演奏法）がホンットに難しくて、最初はカマ（クリック）を使ってやってたんですけど全然ダメで。だったらフリーでやってみるか?ってなって、そこでやっとカタチになったっていう状態でした。まぁ、そこからはノークリックでみんなでやった分、それはそれで面白かったんですけどね。

――そんな生々しさに徹した曲がある一方で、今作には「アイアムコンピューター」というタイトルの楽曲も収録されています。ただし、この曲は最新形のデジタル・サウンドとは明らかに一線を画していて、どこかチープな音が詰まっているところが興味深いですね。

ミヤ：あれ、電子音っぽく聴こえるのは全部生なんですよ。アタマにシンセが入ってるとこ以外は、全部ギターとベースとドラムで出してます。〝コンピューター〟っていうタイトルにしてるからこそ、敢えて生にしたかったんです。

――逆説的な手法をとったわけですね。

YUKKE：ベースもこれは普通のベースじゃなくて、アコースティック・ベースを使ってるんですよ。でも、プレイ的にはタイトル通りじゃないですけど（笑）、自分がコンピューターになったつもりでカッチリ弾いてます。

――ドラムの音も、相当スクエアかつシャープな響きになっていますね。

SATOち：この曲に限らず、「ケミカルパレードブルーデイ」とかにしても、今回4つ打ちの曲は全パワーで踏んで叩く!っていうのが、個人的にひとつのテーマだったんです。力が入りすぎると、だんだん音がブレていきやすいっていう面はあるんですが、この曲はそうならないように気をつけました。

達瑯：歌もね、これはホント淡々と歌ってますよ。ガーっと感情的に歌わないほうが、意

蝴蝶网

蝴蝶网
hudie.com

hudie.com

外とエモに聴こえることってありますから。

YUKKE：こういう淡々とした空気って、なんかちょっと不気味で怖いじゃないですか。でも、どういうわけかその中には可愛さみたいなものも漂ってる気がして、そのイメージからいくと、この世界って絵本としても描けそうな気がするんですよね。

──それ、面白そうですね。

ミヤ：要はこれって、化け物なんですよ。生まれた頃は、得体は知れないけど可愛かったはずの生き物が、大きくなってくにつれて手に負えない大変な生き物に変わってっちゃって、最後は世界を食い尽くしちゃう…みたいな。

──その化け物とは、きっと人間の慢心と貪欲さの象徴なのでしょうね。

ミヤ：よく、100年後はマスクがないと生きてけない世界になるとか、そういう話がありますよね？ 自分たちの子供とか孫の世代になった時、地球がどうなってるかなんて分かんないわけですよ。ただ、人間が人間である以上、結局しょうがないんだろうなって思うし、これはそういう事実を歌った曲なんです。

──シニカルさの漂う詞という意味では、ミヤくん作曲の「ライオン」もまた辛辣な内容になっていますよね。

ミヤ：この曲は、『球体』を作り終わって、わりとすぐぐらいに出来たんっすよね。方向性としては、Helmet（90年代前半に活躍した米のヘヴィロック・バンド）みたいな、一昔前のラップコアとかが出て来たばっかりの頃の音を意識して作ってて、詞に関しては当時書いてた仮歌詞っていうのがあったんですけど、今回それを改めて見てみたら、昔とはまた別のところで、なぜか今の気持ちにハマったんです。

──当時と今で、言葉に対する解釈、あるいはその根底に存在する価値観に変化が起きたわけですね。

ミヤ：何て言うか……人って、簡単に死ぬじゃないですか。やっぱそういうことって、普段はなかなか想像できないし、してもいないんですよね。頭のどっかではちゃんと分かってるはずなのに、都合よくそれを忘れてるから、ある日突然に身近な人が死んじゃっても、なかなかすぐには信じられないっていう。そういう現実と、この詞が自分の中で今回は重なっちゃったんです。

──そのお話は、もしや今回のアルバム・タイトル『カルマ』とも繋がりますか。

ミヤ：あぁ、繋がるかもしれない。具体的に、自分の中でそこを繋げて考えてはなかったですけど。〝カルマ〟っていう言葉は、アルバム・タイトルを決める時に思いついた言葉で、意味を調べたら、ちょうど探してたものに当てはまったんです。

──このアルバムには既発シングル曲である「フリージア」も入っていますが、あれも死生観の滲んだものだったではないですか。それを思うと、〝カルマ=業〟という言葉がこのタイミングで出て来たという事実は、何だか感慨深いです。

ミヤ：そういう想いは、このアルバムが出来てみて俺も感じましたね。より強くなった、って言ったほうがいいのかな。

──ただ、この「ライオン」という楽曲に関して言えば、そういう深い意味合いを持った詞をしっとりとではなく、むしろラウドな音で聴かせ切っているところがまた特徴的で、この音像からは今後展開されてゆくのであろう、ライヴの光景も、やすやすと想像することが出来ます。

達瑯：うん、それは歌っててもおんなじでしたよ。実際、俺だけじゃなくみんなも限りなくライヴな感じでレコーディングもやってた

自分たちは、ただ前に向かって生きてくしかない

し、全体としては凄いムックらしい曲になってますからね。

──ムックらしい、と言えば。達瑯くんが作曲している「A.」も、まさにそこに該当する仕上がりですよね。こちらの場合はヘヴィな方向にではなく、メロウでメランコリックな旋律がとても印象的で、いわゆる〝達瑯節〟を感じます。

達瑯：これは、ぬるーい曲にしたかったんですよ。明るくもなく、暗くもない、その曖昧な温度感が欲しくって、頭の中には広い空に雲が延々と流れてるような、そんな情景も浮かんでました。簡単に言っちゃうと、〝何でもない〟曲（笑）。

──故に、ここには普遍性というものが存在しているのではないでしょうか。

達瑯：日常を切り取った、みたいなね。

ミヤ：何かに立ち向かってる時のモードじゃなくて、逆に立ち止まってる時の感覚とか感情を、フォークっぽい雰囲気で表してるタイプの曲だと思います。

──他の曲では出力全開なSATOちくんも、この曲では抑えを利かせたプレイを聴かせてくれていますよね。

SATOち：俺にとっては、この曲って凄いハッキリしたイメージがあったんですよね。普段は〝俺はバラードなんて作らねぇぜ！〟って言ってたワルのミュージシャンが、自分のバンドの解散ライヴで、最後に〝これが俺のバラードだ！〟って言ってやる曲、っていう感じで叩いてました。

達瑯：何その、こまけー設定！

──妄想の域に近くないですか（笑）。

ミヤ：いやでも、ソレすげー分かる（笑）。

YUKKE：俺も分かります。

SATOち：でしょ、でしょ？ そこまで完璧にイメージ出来てたせいか、俺これ叩いててすげー悲しかったんですよ。〝あぁ、これで解散かー〟って。

達瑯：あはは！ ひとりで勝手に、架空のバンドの解散ライヴやってる気になってたんだ（笑）。まぁでも、確かにこの曲にはある種の〝やるせなさ〟はあるよね。

──ちなみに、「A.」とはつまり答えを意味するタイトルですよね。一方で、今作中での達瑯くんは「ポラリス」の中でも、1曲の中に問題提起とそれに対する解答を織り込んでいます。ここにも、ドラマがありますね。

達瑯：「ポラリス」の詞はね、ド頭のAメロと、最後のAメロをリンクさせて遊びました。YUKKEが曲を作って来た時から、メロに空白部分があったんでそれを使ったんですよ。

──YUKKEくんは、この「ポラリス」を作った時、どんな心境だったか覚えていますか？

YUKKE：この曲を作る前に、たまたまライヴで久しぶりに「雨のオーケストラ」をやったんですよ。その時、今改めてああいうオーケストラを入れた曲をやってみたいな、と思って作ったのがこれでした。

──この曲は、そのオーケストラを入れたアレンジの完成度が非常に高いです。特に、あのフルート的な管楽器の音は聴く者の郷愁を誘います。

YUKKE：あれはコーラングレとか、イングリッシュ・ホルンって呼ばれてる楽器ですね。

ミヤ：この曲は、汽車が走ってるようなイメージが強かったんですよ。どうやっても電車じゃなくて汽車だろうっていう感じで、ギター・ソロのハウリングも、実は汽車の警笛の音をイメージしてるんです。

──さすがですね、素晴らしい。

ミヤ：背景もまず都会ではなくて、高台にある現代なんだけど、取り残されてるような田舎の街、みたいな。だから、アレンジもちょっ

蝴蝶网

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网 hudie.com

と昔っぽい感じを大事にしてて、もっと具体的に言うと、NHKでやってる『小さな旅』っていう番組のテーマ曲（ルパン三世のテーマで知られる大作曲家・大野雄二氏作曲）みたいにしたかったんです。俺、あれ大っ好きなんですよ。

――あの曲も、まさに郷愁を刺激される名曲ですものね。

ミヤ：ああいう、どこか懐かしいアレンジをしてみて、今回は改めてYUKKEの曲にはオーケストラが合うなって、思いましたね。

SATOち：それは俺も思った！

YUKKE：いやー、思ってた以上に良い曲になって良かったです（笑）。

――さて。順不同にはなりますが、達瑯くん作の「零色」についても、ここで少し解説をしていただけると嬉しいです。

達瑯：「零色」は、アルバムのちょうどこのくらいの位置に入ることを想定して作ってた曲ですね。インスト「フォーリングダウン Chemical Parade」で始まって、「フォーリングダウン Organic Edition」でテンション上げつつ、良い感じになって来たとこでこの曲が始まるんだけど、おっイイ感じ！と思って来たとこで終わっちゃって、〝えっ？ もうちょっと聴きたいのにー〟っていう、その感じが欲しかったんです（笑）。

――腹8分目的な線ですね（笑）。

達瑯：そうそう。ここから、次に上手いこと橋渡しするような役割の曲ですね。

――そして、その次というのが「ケミカルパレードブルーディ」という曲になるわけですが、こちらはどんなコンセプトの元に作った楽曲でしたか。

ミヤ：たぶん、この曲は元々いちばん最初にあった〝次のアルバム〟のヴィジョンに最も近かったですね。ムックらしいところと、そうじゃないところをミックスさせまくって、化学的な変化をそこに起こしたかったというか。そういう意味では、今回のアルバムって最初から数曲を聴いた時には、〝今回のムックはホント無理！〟とか、〝あたしの好きだったムックは変わってしまった…!?〟くらいに思われても（笑）、それはそれで全然いいんですよ。

――おー、余裕の発言ですねぇ。

ミヤ：だからそこは、後半のほうに行くに従って〝あれ？ やっぱり！〟ってなってくれれば、別にそれで良いです。

――そんな中にあって、今作の中でも個性的な色合いの仕上がりになっているのが、ファンクロック・チューン「サーカス」です。作曲者であるSATOちくんとしては、やはりこれはダンサブルなものにしたかったのでしょうか。

SATOち：前から、派手に管楽器を入れた曲を作ってみたかったんです。ただ、最初はもっと明るい感じにしようかな？とも思ってたんですけど、途中から明るいとこは管楽器だけに任せて、他のパートは少しダークなトーンも出してく感じになったんで、その対比が面白い感じになりました。

――「サーカス」は、歌詞もヒネりが利いていますね。

ミヤ：サーカスというか、見せ物小屋というかね。そういうものをモチーフにして、これは書いていきました。

達瑯：Aメロ～Bメロではっちゃけてるんだけど、サビでグッと違ったオトナっぽい表情が出て来てる曲ですね、これは。と同時に、おそらくライヴでやった時にはまた違った一面も出て来るんじゃないかなぁ。

YUKKE：これもホント、ライヴが凄い楽しみな曲です。

――それから、書き下ろし曲としては今作中の最後となる「羽」ですが、こちらは純然たるバラードとして、強い存在感を放っている曲だと感じます。

ミヤ：基本、わりと全体的にダンス要素が散りばめられているアルバムだからこそ、ここでは自分たちの原点となる部分を入れておきたかったんですよ。だから、シンプルなフォークソングを作りました。

――ここから「約束」、そして「フリージア」にかけての流れは秀逸の一言です。『カルマ』の名に相応しく、深い部分で物思わせられる展開ですね。

ミヤ：誰かと死に別れたり、悲しいことが起きたり、それは生きてればいくらでも繰り返し起こってくもんじゃないですか。それに慣れることも出来ないし、自分たちはただ前に向かって生きてくしかない。その時々に出て来た音楽がこのアルバムそのものだし、この業とか輪廻から抜け出すことは一生出来ないんでしょうけど、それでも自分たちが表現し続けてくことには変わらない、っていうことも、今回は改めて感じましたね。

――このアルバムを経て、ここから始まるツアー［MUCC Tour 2010"Chemical Parade"］では、そんなムックの業にも近い真髄をきっと生で感じられることでしょう。

ミヤ：このアルバムを出すことで、やっとまた新しい方向に進み出せそうです。

達瑯：久しぶりの野音から始まって、今回は今までやったことないとこなんかでもけっこうやるしね。

YUKKE：野音にしたって、『朽ち木の灯』以来だっけ。

達瑯：『カルマ』はこれだけいろんなものが詰まった作品になったんで、これをまたライヴでやってくのは凄い楽しみっす。どんなことになるかなぁ？

SATOち：今までより、さらに荒々しい空間になってくとしか思えない（笑）。